

令和3年度使用

# 教科用図書選定資料

中学校用

令和2年6月

大阪府教育委員会

本資料は、令和3年度から使用する中学校教科用図書について、種目ごとに調査研究を行い、選定資料として、「学習指導要領」とともに【資料1】・【資料2】を示しています。

- ・【資料1】は、「1目標・内容の取扱い」「2人権の取扱い」「3内容の程度」「4組織・配列」「5創意工夫」「6補充的な学習・発展的な学習」の項目別に学習指導要領に基づき定めた観点について、各教科用図書の特長・長所等を記載しています。
- ・【資料2】は、学習指導要領に示されている各教科の目標等を踏まえ、各種目の特性に応じた教科用図書の特色が明らかになるよう客観的な数値データ等を記載しています。

— 目 次 —

	学習指導要領	【資料1】	【資料2】
総 則	総 1～9		
国 語	国 1～8	国 9～20	国21～22
書 写		書 1～8	書 9～11
社会（地理的分野）	地 1～6	地 7～16	地17～18
社会（歴史的分野）	歴 1～8	歴 9～24	歴25～26
社会（公民的分野）	公 1～6	公 7～17	公18～21
地 図		図 1～7	図 8～9
数 学	数 1～9	数10～22	数23
理 科	理 1～14	理15～25	理26～28
音 楽（一 般）	音 1～6	音 7～13	音14～15
音 楽（器楽合奏）		器 1～7	器 8
美 術	美 1～5	美 6～14	美15～16
保健体育	保 1～11	保12～19	保20
技術・家庭（技術分野）	技 1～5	技 6～12	技13～15
技術・家庭（家庭分野）	家 1～5	家 6～12	家13～14
英 語	英 1～7	英 8～20	英21～22
道 徳	道 1～3	道 4～13	道14～15

# 総 則

学習指導要領（総則）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～9



## 前文

教育は、教育基本法第1条に定めるとおり、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期すという目的のもと、同法第2条に掲げる次の目標を達成するよう行われなければならない。

- 1 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。
- 2 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 3 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 4 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 5 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にししながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

学習指導要領とは、こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである。学習指導要領が果たす役割の一つは、公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また、各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、生徒や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から生徒や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育及び小学校教育の基礎の上に、高等学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、生徒の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに中学校学習指導要領を定める。

## 第1章 総 則

### 第1 中学校教育の基本と教育課程の役割

- 1 各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、生徒の人間として調和のとれた育成を目指し、生徒の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成するものとし、これらに掲げる目標を達成するよう教育を行うものとする。
- 2 学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、第3の1に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、次の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、生徒に生きる力を育むことを目指すものとする。
  - (1) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、生徒の発達の段階を考慮して、生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること。
  - (2) 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めること。

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という。）を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、生徒の発達の段階を考慮して、適切な指導を行うこと。

道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とすること。

道徳教育を進めるに当たっては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもち、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、個性豊かな文化の創造を図るとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者として、公共の精神を尊び、社会及び国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し未来を拓く主体性のある日本人の育成に資することとなるよう特に留意すること。
  - (3) 学校における体育・健康に関する指導を、生徒の発達の段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めること。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、保健体育科、技術・家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮すること。
- 3 2の(1)から(3)までに掲げる事項の実現を図り、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創

り手となることが期待される生徒に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、学校教育全体並びに各教科、道徳科、総合的な学習の時間及び特別活動（以下「各教科等」という。ただし、第2の3の(2)のア及びウにおいて、特別活動については学級活動（学校給食に係るものを除く。）に限る。）の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るものとする。その際、生徒の発達の段階や特性等を踏まえつつ、次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

- (1) 知識及び技能が習得されるようにすること。
- (2) 思考力、判断力、表現力等を育成すること。
- (3) 学びに向かう力、人間性等を涵養すること。

- 4 各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

## 第2 教育課程の編成

### 1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第4章総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

### 2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

- (1) 各学校においては、生徒の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。
- (2) 各学校においては、生徒や学校、地域の実態及び生徒の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

### 3 教育課程の編成における共通的事項

#### (1) 内容等の取扱い

ア 第2章以下に示す各教科、道徳科及び特別活動の内容に関する事項は、特に示す場合を除き、いずれの学校においても取り扱わなければならない。

イ 学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。また、第2章以下に示す内容の取扱いのうち内容の範囲や程度等を示す事項は、全ての生徒に対して指導するものとする内容の範囲や程度等を示したものであり、学校において特に必要がある場合には、この事項にかかわらず加えて指導することができる。ただし、これらの場合には、第2章以下に示す各教科、道徳科及び特別活動の目標や内容の趣旨を逸脱したり、生徒の負担過重となったりすることのないようにしなければならない。

ウ 第2章以下に示す各教科、道徳科及び特別活動の内容に掲げる事項の順序は、特に

示す場合を除き、指導の順序を示すものではないので、学校においては、その取扱いについて適切な工夫を加えるものとする。

エ 学校において2以上の学年の生徒で編制する学級について特に必要がある場合には各教科の目標の達成に支障のない範囲内で、各教科の目標及び内容について学年別の順序によらないことができる。

オ 各学校においては、生徒や学校、地域の実態を考慮して、生徒の特性等に応じた多様な学習活動が行えるよう、第2章に示す各教科や、特に必要な教科を、選択教科として開設し生徒に履修させることができる。その場合にあっては、全ての生徒に指導すべき内容との関連を図りつつ、選択教科の授業時数及び内容を適切に定め選択教科の指導計画を作成し、生徒の負担過重となることのないようにしなければならない。また、特に必要な教科の名称、目標、内容などについては、各学校が適切に定めるものとする。

カ 道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の内容は、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容とし、その実施に当たっては、第6に示す道徳教育に関する配慮事項を踏まえるものとする。

## (2) 授業時数等の取扱い

ア 各教科等の授業は、年間35週以上にわたって行うよう計画し、週当たりの授業時数が生徒の負担過重にならないようにするものとする。ただし、各教科等や学習活動の特質に応じ効果的な場合には、夏季、冬季、学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合を含め、これらの授業を特定の期間に行うことができる。

イ 特別活動の授業のうち、生徒会活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。

ウ 各学校の時間割については、次の事項を踏まえ適切に編成するものとする。

(ア) 各教科等のそれぞれの授業の1単位時間は、各学校において、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、生徒の発達の段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定めること。

(イ) 各教科等の特質に応じ、10分から15分程度の短い時間を活用して特定の教科等の指導を行う場合において、当該教科等を担当する教師が、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した中で、その指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているときは、その時間を当該教科等の年間授業時数に含めることができること。

(ウ) 給食、休憩などの時間については、各学校において工夫を加え、適切に定めること。

(エ) 各学校において、生徒や学校、地域の実態、各教科等や学習活動の特質等に応じて、創意工夫を生かした時間割を弾力的に編成できること。

エ 総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。

## (3) 指導計画の作成等に当たっての配慮事項

各学校においては、次の事項に配慮しながら、学校の創意工夫を生かし、全体として、調和のとれた具体的な指導計画を作成するものとする。

ア 各教科等の指導内容については、(1)のアを踏まえつつ、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、そのまとめ方や重点の置き方に適切な工夫を加え、第3の1に示す主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して資質・能力を育む効果的な指導ができるようにすること。



イ 各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること。

#### 4 学校段階間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階間の接続を図るものとする。

- (1) 小学校学習指導要領を踏まえ、小学校教育までの学習の成果が中学校教育に円滑に接続され、義務教育段階の終わりまでに育成することを旨とする資質・能力を、生徒が確実に身に付けることができるよう工夫すること。特に、義務教育学校、小学校連携型中学校及び小学校併設型中学校においては、義務教育9年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程を編成すること。
- (2) 高等学校学習指導要領を踏まえ、高等学校教育及びその後の教育との円滑な接続を図られるよう工夫すること。特に、中等教育学校、連携型中学校及び併設型中学校においては、中等教育6年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程を編成すること。

### 第3 教育課程の実施と学習評価

#### 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 第1の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。  
特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を發揮させたりして、学習の対象となる物事を捉え思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し、生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。
- (2) 第2の2の(1)に示す言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特質に応じて、生徒の言語活動を充実すること。あわせて、(7)に示すとおり読書活動を充実すること。
- (3) 第2の2の(1)に示す情報活用能力の育成を図るため、各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること。また、各種の統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること。
- (4) 生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。
- (5) 生徒が生命の有限性や自然の大切さ、主体的に挑戦してみることや多様な他者と協働することの重要性などを実感しながら理解することができるよう、各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携しつつ体系的・継続的に実施できるよう工夫すること。
- (6) 生徒が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、生徒の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。
- (7) 学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、生徒の自主的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること。また、地域の図書館や博物館、美術館、劇場、音楽堂等の施設の活

用を積極的に図り、資料を活用した情報の収集や鑑賞等の学習活動を充実すること。

## 2 学習評価の充実

学習評価の実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
- (2) 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて生徒の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。

## 第4 生徒の発達の支援

### 1 生徒の発達を支える指導の充実

教育課程の編成及び実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 学習や生活の基盤として、教師と生徒との信頼関係及び生徒相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。また、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の生徒の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方により、生徒の発達を支援すること。
- (2) 生徒が、自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができるよう、生徒理解を深め、学習指導と関連付けながら、生徒指導の充実を図ること。
- (3) 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。
- (4) 生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、生徒や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。その際、第3の1の(3)に示す情報手段や教材・教具の活用を図ること。

### 2 特別な配慮を必要とする生徒への指導

#### (1) 障害のある生徒などへの指導

ア 障害のある生徒などについては、特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の生徒の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

イ 特別支援学級において実施する特別の教育課程については、次のとおり編成するものとする。

(ア) 障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るため、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動を取り入れること。

(イ) 生徒の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、各教科の目標や内容を下学年の教

科の目標や内容に替えたり、各教科を、知的障害者である生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして、実態に応じた教育課程を編成すること。

ウ 障害のある生徒に対して、通級による指導を行い、特別の教育課程を編成する場合には、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。その際、効果的な指導が行われるよう、各教科等と通級による指導との関連を図るなど、教師間の連携に努めるものとする。

エ 障害のある生徒などについては、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で生徒への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、各教科等の指導に当たって、個々の生徒の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。特に、特別支援学級に在籍する生徒や通級による指導を受ける生徒については、個々の生徒の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用するものとする。

(2) 海外から帰国した生徒などの学校生活への適応や、日本語の習得に困難のある生徒に対する日本語指導

ア 海外から帰国した生徒などについては、学校生活への適応を図るとともに、外国における生活経験を生かすなどの適切な指導を行うものとする。

イ 日本語の習得に困難のある生徒については、個々の生徒の実態に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。特に、通級による日本語指導については、教師間の連携に努め、指導についての計画を個別に作成することなどにより、効果的な指導に努めるものとする。

(3) 不登校生徒への配慮

ア 不登校生徒については、保護者や関係機関と連携を図り、心理や福祉の専門家の助言又は援助を得ながら、社会的自立を目指す観点から、個々の生徒の実態に応じた情報の提供その他の必要な支援を行うものとする。

イ 相当の期間中学校を欠席し引き続き欠席すると認められる生徒を対象として、文部科学大臣が認める特別の教育課程を編成する場合には、生徒の実態に配慮した教育課程を編成するとともに、個別学習やグループ別学習など指導方法や指導体制の工夫改善に努めるものとする。

(4) 学齢を経過した者への配慮

ア 夜間その他の特別の時間に授業を行う課程において学齢を経過した者を対象として特別の教育課程を編成する場合には、学齢を経過した者の年齢、経験又は勤労状況その他の実情を踏まえ、中学校教育の目的及び目標並びに第2章以下に示す各教科等の目標に照らして、中学校教育を通じて育成を目指す資質・能力を身に付けることができるようにするものとする。

イ 学齢を経過した者を教育する場合には、個別学習やグループ別学習など指導方法や指導体制の工夫改善に努めるものとする。

## 第5 学校運営上の留意事項

### 1 教育課程の改善と学校評価、教育課程外の活動との連携等

ア 各学校においては、校長の方針の下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行うよう努めるものとする。また、各学校が行う学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメント

と関連付けながら実施するよう留意するものとする。

- イ 教育課程の編成及び実施に当たっては、学校保健計画、学校安全計画、食に関する指導の全体計画、いじめの防止等のための対策に関する基本的な方針など、各分野における学校の全体計画等と関連付けながら、効果的な指導が行われるように留意するものとする。
- ウ 教育課程外の学校教育活動と教育課程の関連が図られるように留意するものとする。特に、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化、科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等、学校教育が目指す資質・能力の育成に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするものとする。

## 2 家庭や地域社会との連携及び協働と学校間の連携

教育課程の編成及び実施に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- ア 学校がその目的を達成するため、学校や地域の実態等に応じ、教育活動の実施に必要な人的又は物的な体制を家庭や地域の人々の協力を得ながら整えるなど、家庭や地域社会との連携及び協働を深めること。また、高齢者や異年齢の子供など、地域における世代を越えた交流の機会を設けること。
- イ 他の中学校や、幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、高等学校、特別支援学校などとの間の連携や交流を図るとともに、障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習の機会を設け、共に尊重し合いながら協働して生活していく態度を育むようにすること。

## 第6 道徳教育に関する配慮事項

道徳教育を進めるに当たっては、道徳教育の特質を踏まえ、前項までに示す事項に加え、次の事項に配慮するものとする。

- 1 各学校においては、第1の2の(2)に示す道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の全体計画を作成し、校長の方針の下に、道徳教育の推進を主に担当する教師（以下「道徳教育推進教師」という。）を中心に、全教師が協力して道徳教育を展開すること。なお、道徳教育の全体計画の作成に当たっては、生徒や学校、地域の実態を考慮して、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容との関連を踏まえた各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示すこと。
- 2 各学校においては、生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。その際、小学校における道徳教育の指導内容を更に発展させ、自立心や自律性を高め、規律ある生活をする事、生命を尊重する心や自らの弱さを克服して気高く生きようとする心を育てること、法やきまりの意義に関する理解を深めること、自らの将来の生き方を考え主体的に社会の形成に参画する意欲と態度を養うこと、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重すること、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けることに留意すること。
- 3 学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、職場体験活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。また、道徳教育の指導内容が、生徒の日常生活に生かされるようにすること。その際、いじめの防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意すること。

- 4 学校の道徳教育の全体計画や道徳教育に関する諸活動などの情報を積極的に公表したり、道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。



# 国 語

学習指導要領（国語）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～8  
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9～20  
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21～22

発行者の 番号・略号	書 名	著 者 者	資料中 の表記
2 東 書	新しい国語	相澤 秀夫 野矢 茂樹 ほか 76 名	東 書
15 三省堂	現代の国語	中 刈 正 堯 ほか 36 名	三省堂
17 教 出	伝え合う言葉 中学国語	児玉 忠 植山 俊宏 丹藤 博文 ほか 45 名	教 出
38 光 村	国語	甲斐 睦朗 高木 まさき ほか 28 名	光 村





## 第2章 各教科

### 第1節 国語

#### 第1 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

#### 第2 各学年の目標及び内容

##### [第1学年]

##### 1 目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにするようにする。
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

##### 2 内容

##### [知識及び技能]

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。
  - イ 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うこと。
  - ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
  - エ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。
  - オ 比喻、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。
- (2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。
  - イ 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。
- (3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。

- イ 古典には様々な種類の作品があることを知ること。
- ウ 共通語と方言の果たす役割について理解すること。
- エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。
  - (ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。
  - (イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。
- オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。

[思考力、判断力、表現力等]

#### A 話すこと・聞くこと

- (1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
  - イ 自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えること。
  - ウ 相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。
  - エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。
  - オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。
  - イ 互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。

#### B 書くこと

- (1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。
  - イ 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。
  - ウ 根拠を明確にししながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。
  - エ 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること。
  - オ 根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
- ア 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。
  - イ 行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く活動。
  - ウ 詩を創作したり随筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く活動。

#### C 読むこと

- (1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握すること。
- イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。
- ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び

- 付けたりして、内容を解釈すること。
- エ 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること。
- オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。
- (2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。
  - ア 説明や記録などの文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする活動。
  - イ 小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動。
  - ウ 学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする活動。

## [第2学年]

### 1 目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や共感したり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

### 2 内容

#### [知識及び技能]

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くこと。
  - イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。
  - ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。
  - エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
  - オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。
  - カ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと。
- (2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。
  - イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。
- (3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。
  - イ 現代語訳や注語などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすること。
  - ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。
    - (ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。
    - (イ) 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。
  - エ 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

(1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。

イ 自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫すること。

ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。

エ 論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする活動。

イ それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする活動。

B 書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること。

イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫すること。

ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

エ 読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えること。

オ 表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く活動。

イ 社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動。

ウ 短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く活動。

C 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。

イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること。

ウ 文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈すること。

エ 観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。

オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする活動。

- イ 詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。
- ウ 本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする活動。

### [第3学年]

#### 1 目標

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

#### 2 内容

##### [知識及び技能]

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。
  - イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
  - ウ 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。
  - エ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。
- (2) 話や文章に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。
  - イ 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。
- (3) 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。
  - イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。
  - ウ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解すること。
  - エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。
    - (ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。
    - オ 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解すること。

##### [思考力、判断力、表現力等]

#### A 話すこと・聞くこと

- (1) 話すこと・聞くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。
  - イ 自分の立場や考えを明確にし、相手を説得できるように論理の展開などを考えて、話の構成を工夫すること。
  - ウ 場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。
  - エ 話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考え

を広げたり深めたりすること。

オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする活動。

イ 互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動。

## B 書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすること。

イ 文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫すること。

ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。

エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。

オ 論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く活動。

イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動。

## C 読むこと

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えること。

イ 文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えること。

ウ 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価すること。

エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。

(2) (1)に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ア 論説や報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする活動。

イ 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする活動。

ウ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動。

## 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

(2) 第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年の前後の学年で取り上げることもできること。

(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高める

よう工夫すること。

- (4) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間15～25単位時間程度、第3学年では年間10～20単位時間程度を配当すること。その際、音声言語のための教材を積極的に活用するなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
  - (5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間30～40単位時間程度、第3学年では年間20～30単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動を重視すること。
  - (6) 第2の第1学年及び第3学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ、第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、様々な文章を読んで、自分の表現に役立てられるようにするとともに、他教科等における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
  - (7) 言語能力の向上を図る観点から、外国語科など他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにすること。
  - (8) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
  - (9) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、国語科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 〔知識及び技能〕に示す事項については、次のとおり取り扱うこと。
    - ア 日常の言語活動を振り返ることなどを通して、生徒が、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識できるよう指導を工夫すること。
    - イ 漢字の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。
      - (ア) 他教科等の学習において必要となる漢字については、当該教科等と関連付けて指導するなど、その確実な定着が図られるよう工夫すること。
    - ウ 書写の指導については、第2の内容に定めるほか、次のとおり取り扱うこと。
      - (ア) 文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てるよう配慮すること。
      - (イ) 硬筆を使用する書写の指導は各学年で行うこと。
      - (ウ) 毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導すること。
      - (エ) 書写の指導に配当する授業時数は、第1学年及び第2学年では年間20単位時間程度、第3学年では年間10単位時間程度とすること。
  - (2) 第2の内容の指導に当たっては、生徒がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
  - (3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを、目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。
- 3 教材については、次の事項に留意するものとする。
- (1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度を育成することをねらいとし、生徒の発達の段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
  - (2) 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。

- ア 国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。
  - イ 伝え合う力、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにするのに役立つこと。
  - ウ 公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。
  - エ 科学的、論理的に物事を捉え考察し、視野を広げるのに役立つこと。
  - オ 人生について考えを深め、豊かな人間性を養い、たくましく生きる意志を育てるのに役立つこと。
  - カ 人間、社会、自然などについての考えを深めるのに役立つこと。
  - キ 我が国の伝統と文化に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
  - ク 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を養うのに役立つこと。
- (3) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の教材については、各学年で説明的な文章や文学的な文章などの文章の種類を調和的に取り扱うこと。また、説明的な文章については、適宜、図表や写真などを含むものを取り上げること。
- (4) 我が国の言語文化に親しむことができるよう、近代以降の代表的な作家の作品を、いずれかの学年で取り上げること。
- (5) 古典に関する教材については、古典の原文に加え、古典の現代語訳、古典について解説した文章などを取り上げること。



項目	観点
1 目標・内容 の取扱い	<p>国語科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うことについて</li> <li>○ 人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことについて</li> <li>○ 言葉がもつ価値を認識し、言語感覚を豊かにし、言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図ることについて</li> </ul>
2 人権の 取扱い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ 国際理解や国際協調について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材に対する興味・関心、文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> <li>○ 古典や言葉の働きなどの言語文化に関する事項について</li> </ul>
4 組織・配列	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ 単元構成について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> </ul>
5 創意工夫	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動場面の設定や多様な学習活動の組み合わせについて</li> <li>○ 学校図書館や情報機器を活用することについて</li> </ul>
6 補充的な 学習・ 発展的な 学習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、自分の考えを深めたり伝えたりして、社会生活に生かすよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料やコラムなど</li> <li>○ 読書に親しみ、進んで学習や生活に生かすことについて</li> </ul>

【資料1 国語】

項 目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>国語科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うことについて</li> <li>○ 人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うことについて</li> <li>○ 言葉がもつ価値を認識し、言語感覚を豊かにし、言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図ることについて</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会生活に必要な国語の知識及び技能について各教材を通じて適切な内容が取り扱われている。特に、情報の扱い方については「学びの扉」や「学びを支える言葉の力」などにおいて取り扱われており、全体を通じて学べるようになっている。</li> <li>○ 「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっている。</li> <li>○ 言葉がもつ価値を認識し、言語感覚を豊かにし、言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図ることができるよう、適切な内容が取りあげられている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会生活に必要な国語の知識及び技能について各教材を通じて適切な内容が取り扱われている。特に、情報の扱い方については各学年で大単元として設定された「情報を関係づける」や各教材の後の「思考の方法」などにおいて取り扱われており、全体を通じて学べるようになっている。</li> <li>○ 「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっている。</li> <li>○ 言葉がもつ価値を認識し、言語感覚を豊かにし、言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図ることができるよう、適切な内容が取りあげられている。</li> </ul>

教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会生活に必要な国語の知識及び技能について各教材を通じて適切な内容が取り扱われている。特に、情報の扱い方については各学年で複数の箇所に設定された「メディアと表現」の単元や、「学びナビ」などにおいて取り扱われており、全体を通じて学べるようになっている。</li> <li>○ 「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっている。</li> <li>○ 言葉がもつ価値を認識し、言語感覚を豊かにし、言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図ることができるよう、適切な内容が取りあげられている。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会生活に必要な国語の知識及び技能について各教材を通じて適切な内容が取り扱われている。特に、情報の扱い方については「情報社会を生きる」「思考のレッスン」「情報整理のレッスン」などにおいて取り扱われており、全体を通じて学べるようになっている。</li> <li>○ 「話す・聞く」「書く」「読む」の各言語活動において、人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う内容となっている。</li> <li>○ 言葉がもつ価値を認識し、言語感覚を豊かにし、言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図ることができるよう、適切な内容が取りあげられている。</li> </ul>

【資料1 国語】

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ 国際理解や国際協調について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、戦争や平和、自然環境問題、防災・安全、多様性、キャリア教育などSDGsとも関連させて、教材が取りあげられている。</li> <li>○ 国際理解や国際協調について、適切に扱われている。例えば、3年「恩返し of 井戸を掘る」などの教材が取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字のレイアウトや図等の配色などに配慮されている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、戦争や平和、自然環境問題、防災・安全、多様性、キャリア教育などSDGsとも関連させて、教材が取りあげられている。</li> <li>○ 国際理解や国際協調について、適切に扱われている。例えば、3年「希望」などの教材が取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字のレイアウトや図等の配色などに配慮されている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、戦争や平和、自然環境問題、防災・安全、多様性、キャリア教育などSDGsとも関連させて、教材が各学年で単元を設けて取りあげられている。</li> <li>○ 国際理解や国際協調について、適切に扱われている。例えば、2年「紙の建築」などの教材が取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字のレイアウトや図等の配色などに配慮されている。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、戦争や平和、自然環境問題、防災・安全、多様性、キャリア教育などSDGsとも関連させて、教材が取りあげられている。</li> <li>○ 国際理解や国際協調について、適切に扱われている。例えば、3年「エルサルバドルの少女 ヘスース」などの教材が取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいよう、フォントや文字のレイアウトや図等の配色などに配慮されている。</li> </ul>

項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材に対する興味・関心、文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> <li>○ 古典や言葉の働きなどの言語文化に関する事項について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒にとって、興味・関心のある題材で、適切な文章の記述と分量になっている。 例えば1年生では、登場人物が生徒と同世代の物語文がはじめに取りあげられている。また説明文では、動物の生態やニュースの見方などの題材が取りあげられている。 3年生では、「何のために『働く』のか」において、生き方や働き方について考える題材が取りあげられている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階に応じたものになっている。</li> <li>○ 言語文化に関して、「漢字」「語彙」「文法」など、発達段階に応じた内容で適切に配置されている。 古典についても、発達段階に応じて理解しやすいよう配慮されている。1年生では、「御伽草子」の「浦島太郎」の話を導入とし、「伊曾保物語」「竹取物語」「矛盾」が扱われている。2年生では、「枕草子」「徒然草」「平家物語」「漢詩」が扱われている。「枕草子」「徒然草」の冒頭部分は原文の横に現代語の意味が示されている。「平家物語」の冒頭部分は原文と現代語訳が示されている。 3年生では、「万葉・古今・新古今」「おくのほそ道」「論語」が扱われている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒にとって、興味・関心のある題材で、適切な文章の記述と分量になっている。 例えば1年生では、空想的な題材の物語文がはじめに取りあげられている。また、説明文では、動物の生態、住居などの題材が取りあげられている。 3年生では、「『文殊の知恵』の時代」において、現代社会で必要とされる力について示し、これからの生き方について考える題材が取りあげられている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階に応じたものになっている。</li> <li>○ 言語文化に関して、「漢字」「語彙」「文法」など、発達段階に応じた内容で適切に配置されている。 古典についても、発達段階に応じて理解しやすいよう配慮されている。1年生では、解説「月を思う心」を導入とし、「竹取物語」「矛盾」が扱われている。2年生では、「枕草子」「徒然草」「平家物語」「漢詩」が扱われている。「枕草子」「徒然草」「平家物語」の冒頭部分は原文と現代語訳が示されている。3年生では、「万葉・古今・新古今」「おくのほそ道」「論語」が扱われている。</li> </ul>

【資料1 国語】

<p>教 出</p>	<p>○ 生徒にとって、興味・関心のある題材で、適切な文章の記述と分量になっている。          例えば1年生では、登場人物が生徒と同世代の物語文がはじめに取りあげられている。また、説明文では人間の脳、森林の働きなどの題材が取りあげられている。          3年生では、「バースデイ・ガール」など、生きることを考える題材が取りあげられている。</p> <p>○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階に応じたものになっている。</p> <p>○ 言語文化に関して、「漢字」「語彙」「文法」など、発達段階に応じた内容で適切に配置されている。          古典についても、発達段階に応じて理解しやすいよう配慮されている。1年生では、「桃太郎」や「浦島太郎」の話を導入とし、「竹取物語」「矛盾」が扱われている。資料編では小倉百人一首が全て記載されている。2年生では、「平家物語」「枕草子」「徒然草」「論語」が扱われている。「平家物語」「枕草子」「徒然草」の冒頭部分は原文と現代語訳が示されている。3年生では、「おくのほそ道」「万葉・古今・新古今」「漢詩」が扱われている。</p>
<p>光 村</p>	<p>○ 生徒にとって、興味・関心のある題材で、適切な文章の記述と分量になっている。          例えば1年生では、登場人物が生徒と同世代の物語文がはじめに取りあげられている。また、説明文では野菜、鳥の生態などの題材が取りあげられている。          3年生では、「三年間の歩みを振り返ろう～冊子にまとめて、発表会をする～」で「これまで」を振り返るとともに「これから」の生き方について語り合う題材が取りあげられている。</p> <p>○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階に応じたものになっている。</p> <p>○ 言語文化に関して、「漢字」「語彙」「文法」など、発達段階に応じた内容で適切に配置されている。          古典についても、発達段階に応じて理解しやすいよう配慮されている。1年生では、「いろは歌」「竹取物語」「矛盾」が扱われている。2年生では、「枕草子」「平家物語」「徒然草」「漢詩」が扱われている。「枕草子」「平家物語」「徒然草」の冒頭部分は原文と現代語訳が示されている。3年生では、「論語」「万葉・古今・新古今」「おくのほそ道」が扱われている。</p>

項目	観 点
4 組織・配列	各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。 ○ 単元配列について ○ 単元構成について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について

発行者	事 項
東 書	教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。  ○ 各学年の目標や内容を踏まえて、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習できるよう、適切に単元が配列されている。 3年「絶滅の意味」は理科の学習内容と関連付けられていたり、各学年で「他教科で学ぶ漢字」のコーナーが設けられるなど、教科等横断的な視点も含めて配列されている。  ○ 単元構成については、「てびき」や「たすけ」で生徒が内容を整理し、読み深め、自分の考えを深め、学びの振り返りができるよう、学習の過程を示している。  ○ 文章の内容を補うような表・図・イラストなどの資料が効果的に使われている。 単元ごとの扉のページには、教材や季節に合わせた写真と詩歌が掲載されている。 また、3学年とも、絵巻物や地図など時代背景を理解する助けとなるカラー版の折り込みが、古典の単元に設けられている。
三省堂	教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。  ○ 各学年の目標や内容を踏まえて、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習できるよう、適切に単元が配列されている。 2年「人間は他の星に住むことができるのか」は理科の学習内容と関連付けられていたり、1年「音声のしくみとはたらき」は外国語科の学習内容と関連付けられているなど、教科等横断的な視点も含めて配列されている。  ○ 単元構成については、「学びの道しるべ」で生徒が内容を整理し、読み深め、自分の考えを深め、学びの振り返りができるよう、学習の過程を示している。  ○ 文章の内容を補うような表・図・イラストなどの資料が効果的に使われている。 単元ごとの扉のページには、教材や季節に合わせたカラーの挿絵が掲載されている。 また、3学年とも、絵巻物や地図など時代背景を理解する助けとなるカラー版の折り込みが、古典の単元に設けられている。

【資料1 国語】

<p>教 出</p>	<p>教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学年の目標や内容を踏まえて、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習できるよう、適切に単元が配列されている。 全学年「持続可能な未来を創るために」では、複数の教科等で総合的に取り扱うことのできる内容が取りあげられていたり、1年「日本語の音声」は、外国語科の学習内容と関連付けられているなど、教科等横断的な視点も含めて配列されている。</li> <li>○ 単元構成については、「みちしるべ」で生徒が内容をつかみ、読み深め、自分の考えを伝えあうという学習の過程を示している。</li> <li>○ 文章の内容を補うような表・図・イラストなどの資料が効果的に使われている。 単元ごとの扉のページには、その単元で登場する印象的なフレーズが示されている。 また、3学年とも、SDGsについて扱った「持続可能な未来を創るために」の単元において、写真やイラストを活用し、各教材がどの目標と関連しているかを示している。</li> </ul>
<p>光 村</p>	<p>教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学年の目標や内容を踏まえて、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習できるよう、適切に単元が配列されている。 2年「クマゼミ増加の原因を探る」は理科の学習内容と関連付けられていたり、2年「翻訳作品を読み比べよう」は外国語科の学習内容と関連付けられているなど、教科等横断的な視点も含めて配列されている。</li> <li>○ 単元構成については、「見通しをもつ」「捉える」「読み深める」「考えをもつ」「振り返る」という学習の過程を示している。</li> <li>○ 文章の内容を補うような表・図・イラストなどの資料が効果的に使われている。 単元ごとの扉のページには、季節に合わせたカラーの写真が掲載されている。 また、3学年ともに、「思考の地図」と題した折り込みが設けられ、課題を解決したり、考えを深めたりするための方法が図や挿絵を交えて示されている。</li> </ul>



項目	観 点
5 創意工夫	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 活動場面の設定や多様な学習活動の組み合わせについて</li> <li>○ 学校図書館や情報機器を活用することについて</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。 例えば、3年「絶滅の意味」では、構成や表現の仕方を学び、続いて「編集して伝えよう」で新聞制作・発表をするために情報を収集し、編集会議を開いて検討・制作する活動が取り扱われている。</li> <li>○ 学校図書館や情報機器を活用することについて適切に取りあげられている。 例えば、3年「読書会を開こう」では、話し合う本を読み、読んだ本についての感想を交換するといった学校図書館を活用した活動ができるよう工夫されている。 また、2年「調べて一枚レポートにまとめよう」や3年「将来の目標や計画を立てよう」などで、本や資料、インターネットなどを使って調べ、表現するといった学校図書館や情報機器を利用する活動ができるよう工夫されている。</li> </ul>
三省堂	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。 例えば、3年「批判的に読む」では、文章を読む観点を学習した後、評論文「間の文化」を読み、その後図表や資料を使い条件に応じて文章を書く活動、交流を通して考えを深める活動、学びを振り返る活動が取り扱われている。</li> <li>○ 学校図書館や情報機器を活用することについて適切に取りあげられている。 例えば、3年「ブックトーク」では、テーマにそって数冊の本を選び、聞き手が興味をもってくれるように紹介するといった学校図書館を活用した活動ができるよう工夫されている。 また、全学年の「複数の情報を関連づけて考えをまとめる」や2年「プレゼンテーション」などで、本や資料、インターネットなどを使って調べ、表現するといった学校図書館や情報機器を利用する活動ができるよう工夫されている。</li> </ul>

【資料1 国語】

<p>教 出</p>	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <p>○ 多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。</p> <p>    例えば、3年「A Iは哲学できるか」では、具体例を基に説明文を書く活動が設定されており、論理の展開や構成を考えながら、考えの形成・記述・推敲した後共有するという活動が取り扱われている。</p> <p>○ 学校図書館や情報機器を活用することについて適切に取りあげられている。</p> <p>    例えば、3年「ビブリオバトルで本の世界を広げよう」では、おもしろいと思う本を持ち寄って、本の魅力をお互いに語り合うといった学校図書館を活用した活動ができるよう工夫されている。</p> <p>    また、2年「観点を明確にして伝える」や3年「構成を考えて主張をまとめる」などで、本や資料、インターネットなどを使って調べ、表現するといった学校図書館や情報機器を利用する活動ができるよう工夫されている。</p>
<p>光 村</p>	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <p>○ 多様な学習活動を効果的に行うことができるように、言語活動の場面が設定されている。</p> <p>    例えば、3年「作られた『物語を超えて』」では、具体と抽象の関係について学び、それらを活用して根拠となる情報を集め説得力のある構成を考え、スピーチを行う活動が取り扱われている。</p> <p>○ 学校図書館や情報機器を活用することについて適切に取りあげられている。</p> <p>    例えば、3年「読書を楽しむ」の「ブックトークをしよう」では、テーマを決めて本を集め、紹介するための話の構成をグループで考えるといった学校図書館を活用した活動ができるよう工夫されている。</p> <p>    また、2年「多様な方法で情報を集めよう」や3年「説得力のある構成を考えよう」などで、本や資料、インターネットなどを使って調べ、表現するといった学校図書館や情報機器を利用する活動ができるよう工夫されている。</p>

項目	観 点
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、自分の考えを深めたり伝えたりして、社会生活に生かすよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料やコラムなど</li> <li>○ 読書に親しみ、進んで学習や生活に生かすことについて</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭の「学習の進め方・教科書の使い方」で、教科書の構成や、身に付けたい力が示されている。また、「学びを支える言葉の力」や「文法解説」などで、学習した内容について考えを深めたり、社会生活に生かしたりするよう配慮されている。 なお、「Dマーク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</li> <li>○ 「戦争・平和」「福祉・共生」「考え方・生き方」をはじめとして様々なテーマ別に多様な本が「本で世界を広げよう」や「本の世界を楽しもう」で紹介されている。また、教材ごとに、「読書案内」で作者や教材のテーマに関連した本が紹介されるなど、読書に親しみ、進んで学習や生活に生かすことについて配慮されている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭の「確かな言葉の力をつけるために」で、教科書の構成や、身に付けたい力が示されている。また、「読み方を学ぼう」のコーナーや、「社会生活に生かす」などで、学習した内容について考えを深めたり、社会生活に生かしたりするよう配慮されている。 なお、「二次元コード」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</li> <li>○ 「生き方」「心」「言葉」「自然科学」「平和」「文化」をはじめとして様々なテーマ別に多様な本が「読書の広場 小さな図書館」で紹介されている。また、教材ごとに、「私の本棚」で作者や教材のテーマに関連した本が紹介されるなど、読書に親しみ、進んで学習や生活に生かすことについて配慮されている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭の「言葉の地図」で、教科書の構成や、身に付けたい力が示されている。また、「言葉とは何か」「言葉の楽しみ」「日本語の特徴」と題する言葉テーマにしたコラムや「言葉の自習室」などで、学習した内容について考えを深めたり、社会生活に生かしたりするよう配慮されている。 なお、「まなびリンク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</li> <li>○ 「表現／対話／思想」「自然／環境／科学」をはじめとして様々なテーマ別に多様な本が単元ごとに「広がる本の世界」で紹介されるなど、読書に親しみ、進んで学習や生活に生かすことについて配慮されている。</li> </ul>

【資料1 国語】

光 村	<p>○ 巻頭の「学習の見通しをもとう」「この教科書で学習するみなさんへ」で、教科書の構成や、身に付けたい力が示されている。また、「文法を生かす」や「学習を広げる」などで、学習した内容について考えを深めたり、社会生活に生かしたりするよう配慮されている。</p> <p>なお、「二次元コード」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p> <p>○ 「中学校生活」「ファンタジー」「生き物・自然」「友達」「言葉」をはじめとして様々なテーマ別に多様な本が「本の世界を広げよう」で紹介されている。また、教材ごとに、「広がる読書」で作者や教材のテーマに関連した本が紹介され、読書に親しみ、進んで学習や生活に生かすことについて配慮されている。</p>
-----	---

## ○ 総ページ数

	東書	三省堂	教出	光村
1年	342	358	354	340
2年	346	358	366	336
3年	354	342	354	324

## ○ 領域別の取り扱い箇所数及びページ数

	東書		三省堂		教出		光村	
	箇所数	ページ数	箇所数	ページ数	箇所数	ページ数	箇所数	ページ数
話すこと・聞くこと	16	59	15	62	19	59	21	55
書くこと	27	84	19	81	23	96	32	117
読むこと（文学的文章等）	31	206	31	225	27	262	34	200
読むこと（説明的文章等）	17	130	27	156	23	175	17	110
読むこと（古典）	12	71	17	86	13	68	13	74
言語（文法、語句、漢字等）	41	77	52	84	48	82	50	97
計	144	627	161	694	153	742	167	653

※おもな領域、事項でカウントし、3学年分の合計とした。（付録、資料編等を除く）

## ○ 付録、資料編等のページ数

	東書	三省堂	教出	光村
付録、資料編等	346	393	261	314

## ○ 図書館・情報機器活用を取り扱っている箇所数

	東書	三省堂	教出	光村
図書館活用	8	8	3	8
情報機器活用	9	10	6	9

【資料2 国語】

○ 紹介図書を取り扱っている箇所数

	東 書	三省堂	教 出	光 村
紹介図書（冊数）	302	270	271	245

○ 古典現代語訳・解説付き、近代文学作品（小説）を取り扱っている箇所数

	東 書	三省堂	教 出	光 村
古典現代語訳・解説付き	19	13	12	12
近代文学（小説）	5	4	5	4

○ 掲載している、主な古典文学作品

	東 書	三省堂	教 出	光 村
万葉集	○	○	○	○
古今和歌集	○	○	○	○
新古今和歌集	○	○	○	○
竹取物語	○	○	○	○
枕草子	○	○	○	○
徒然草	○	○	○	○
平家物語	○	○	○	○
おくのほそ道	○	○	○	○
漢詩	○	○	○	○
論語 (史記、漢書、後漢書他含む)	○	○	○	○
古典芸能 (歌舞伎、狂言、古典落語等)	○	○	○	○
そのほかの掲載作品	伊曾保物語 御伽草子	古事記 川柳・狂歌	誹風柳多留	いろは歌

※「そのほかの掲載作品」は、付録、資料編等を除く。

# 書 写

資料 1 . . . . . 1～8  
 資料 2 . . . . . 9～11

発行者の 番号・略号	書 名	著 者 者	資料中 の表記
2 東 書	新しい書写	平形 精逸 ほかに20名	東 書
15 三省堂	現代の書写	中刈 正堯 ほかに7名	三省堂
17 教 出	中学書写	角井 博 加藤 祐司 長野 秀章 ほかに20名	教 出
38 光 村	中学書写	宮澤 正明 ほかに13名	光 村





項目	観点
1 目標・内容 の取扱い	<p>国語科の目標を達成するために、書写に関する事項について、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられているか。</li> <li>○ 毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう取り扱われているか。</li> </ul>
2 人権の 取扱い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文字を効果的に書くことについて</li> <li>○ 日常生活や学習活動に役立つ活動の充実について</li> </ul>
4 組織・配列	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ 単元構成について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>
5 創意工夫	<p>書写に関する事項について工夫がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「楷書」「行書」について</li> <li>○ 目的や必要に応じて「楷書」「行書」を選ぶことについて</li> <li>○ 「文字文化」「多様な表現」について</li> </ul>
6 補充的な 学習・ 発展的な 学習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、学習や社会生活に役立てたりすることができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料やコラムなど</li> </ul>

【資料1 書写】

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>国語科の目標を達成するために、書写に関する事項について、適切な内容が取りあげられているか。</p> <p>○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられているか。</p> <p>○ 毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう取り扱われているか。</p>

発行者	事 項
東 書	<p>○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられている。例えば、1年では「楷書」「楷書と仮名」について基本点画を踏まえて書くこと、「行書」について点画の変化や連続を理解して書くこと、2年では「行書」と「行書に調和する仮名」について行書と仮名を交えて書くこと、3年では身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことが取りあげられている。</p> <p>○ 毛筆で学習する教材について、「見つけよう」で硬筆文字から書き方のポイントを学び、毛筆で学習したことを「生かそう」等で同じねらいをもった別の硬筆文字で学べるようになっている。</p>
三省堂	<p>○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられている。例えば、1年では「楷書」「楷書と仮名」について基本点画を踏まえて書くこと、「行書」について点画の変化や連続を理解して書くこと、2年では「行書」と「行書に調和する仮名」について行書と仮名を交えて書くこと、3年では身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことが取りあげられている。</p> <p>○ 毛筆で学習する教材について「書き方を学ぼう」で書き方のポイントを学び、毛筆で学習したことを「書いて身につけよう」で同じねらいをもった別の硬筆文字で学べるようになっている。</p>
教 出	<p>○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられている。例えば、1年では「楷書」「楷書と仮名」について基本点画を踏まえて書くこと、「行書」について点画の変化や連続を理解して書くこと、2年では「行書」と「行書に調和する仮名」について行書と仮名を交えて書くこと、3年では身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことが取りあげられている。</p> <p>○ 毛筆で学習する教材について、硬筆による「試し書き」と「考えよう」で書き方のポイントを学び、毛筆で学習したことを「生かそう」等で同じねらいをもった別の硬筆文字で学べるようになっている。</p>
光 村	<p>○ 各学年で適切な指導内容が取りあげられている。例えば、1年では「楷書」「楷書と仮名」について基本点画を踏まえて書くこと、「行書」について点画の変化や連続を理解して書くこと、2年では「行書」と「行書に調和する仮名」について行書と仮名を交えて書くこと、3年では身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くことが取りあげられている。</p> <p>○ 毛筆で学習する教材について、「考えよう」で書き方のポイントを学び、毛筆で学習したことを「生かそう」および硬筆練習帳「書写ブック」で同じねらいをもった別の硬筆文字で学べるようになっている。</p>

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>

【資料1 書写】

項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文字を効果的に書くことについて</li> <li>○ 日常生活や学習活動に役立つ活動の充実について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文字を効果的に書くことについて、発達段階を考慮した内容になっている。例えば、2年では場面や目的に応じた書体等を選択して書く活動、3年では身の回りの文字の目的に応じた工夫、手書き文字の特徴が取りあげられている。</li> <li>○ 「生活に広げよう」で、案内の手紙や本のポップ、パンフレットなど日常生活や学習活動に役立つ活動が取りあげられている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文字を効果的に書くことについて、発達段階を考慮した内容になっている。例えば、2年では場面や目的に応じた書体等を選択して書く活動、3年では身の回りの文字の特徴、文字に関わる仕事から文字の魅力が取りあげられている。</li> <li>○ 「やってみよう」で、グループ新聞や情報誌、名言集など日常生活や学習活動に役立つ活動が取りあげられている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文字を効果的に書くことについて、発達段階を考慮した内容になっている。例えば、2年では場面や目的に応じた書体等を選択して書く活動、3年では身の回りの多様な表現をとおして、文字の表現効果について取りあげられている。</li> <li>○ 「学校生活に生かして書く」等で、ポスターや案内状、メッセージカードなど日常生活や学習活動に役立つ活動が取りあげられている。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文字を効果的に書くことについて、発達段階を考慮した内容になっている。例えば、2年では場面や目的に応じた書体等を選択して書く活動、3年では身の回りのさまざまな文字、文字の特徴と使い分けについて取りあげられている。</li> <li>○ 「学校生活」等で、目標やノート、壁新聞など日常生活や学習活動に役立つ活動が取りあげられている。</li> </ul>

項目	観 点
4 組織・配列	各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。 ○ 単元配列について ○ 単元構成について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について

発行者	事 項
東 書	○ 各学年の目標や内容を踏まえて、系統的に単元が配列されている。また、他教科と関連させた学習活動が示されている。  ○ 「見つけよう」「確かめよう」で書き方のポイントを学び、「生かそう」「振り返って話そう」「生活に広げよう」で、学習を振り返り、学んだことを日常生活に生かす構成となっている。また「書写のかぎ」で学ぶポイントが示されている。  ○ 毛筆の教材では、基本的に見開き左ページに手本が示され、右ページに学習の進め方にそって、ポイントが配置されている。
三省堂	○ 各学年の目標や内容を踏まえて、系統的に単元が配列されている。また、他教科と関連させた学習活動が示されている。  ○ 「目標を確かめよう」「書き方を学ぼう」「見つけよう・考えよう」「毛筆で書こう」で書き方のポイントを学び、「学習を振り返ろう」「書いて身につけよう」「自分の言葉でまとめよう」で学習を振り返り、学んだことを日常生活に生かす構成となっている。また「書き方を学ぼう」で学ぶポイントが示されている。  ○ 毛筆の教材では、基本的に見開き左ページに手本が示され、右ページに学習の進め方にそって、ポイントが配置されている。
教 出	○ 各学年の目標や内容を踏まえて、系統的に単元が配列されている。また、他教科と関連させた学習活動が示されている。  ○ 「目標」「考えよう」で書き方のポイントを学び、「生かそう」「振り返ろう」で、学習を振り返り、学んだことを日常生活に生かす構成となっている。また「考えよう」で学ぶポイントを記述する欄が示されている。  ○ 毛筆の教材では、基本的に見開き右ページに手本が示され、左ページに学習の進め方にそって、ポイントが配置されている。
光 村	○ 各学年の目標や内容を踏まえて、系統的に単元が配列されている。また、他教科と関連させた学習活動が示されている。  ○ 「①考えよう」「②確かめよう」で書き方のポイントを学び、「③生かそう」で学んだことを日常生活に生かす構成となっている。また「学習の窓」で学ぶポイントが示されている。  ○ 毛筆の教材では、基本的に見開きに1、もしくは2教材の手本が示され、手本の前ページに、学習の進め方にそって、ポイントが配置されている。

【資料1 書写】

項目	観 点
5 創意工夫	<p>書写に関する事項について工夫がなされているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「楷書」「行書」について</li> <li>○ 目的や必要に応じて「楷書」「行書」を選ぶことについて</li> <li>○ 「文字文化」「多様な表現」について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「楷書」については、基本の点画の書き方と筆使いを、朱筆等を用いてわかりやすく示している。「行書」については、導入で日常生活との関連付けを行い、書くポイントは、段階を経て学べるように工夫されている。</li> <li>○ 目的や必要に応じて「楷書」や「行書」を選ぶことについては、イラストを用いて、身近な場면을視覚的にわかりやすく示し、考えたり、話し合ったりする活動が設けられている。</li> <li>○ 「文字文化」については、文字の成り立ちや歴史的背景、社会における文字の役割や意義、表現と効果、用具・用材に関する内容を「文字のいずみ」に取りあげ、文字文化を継承・発展させる態度が養われるよう工夫されている。 「多様な表現」については、身の回りの文字、仕事の中の手書き文字などを取りあげ、文字への興味・関心をもてるように工夫されている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「楷書」については、基本の点画の書き方と筆使いを、朱筆等を用いてわかりやすく示している。「行書」については、導入で行書の特徴を取りあげ、書くポイントは、段階を経て学べるように工夫されている。</li> <li>○ 目的や必要に応じて「楷書」や「行書」を選ぶことについては、イラストを用いて、身近な場면을視覚的にわかりやすく示し、考えたり、話し合ったりする活動が設けられている。</li> <li>○ 「文字文化」については、文字の成り立ちや歴史的背景、社会における文字の役割や意義、表現と効果、用具・用材に関する内容を「学びを広げる」等に取りあげ、文字文化を継承・発展させる態度が養われるよう工夫されている。 「多様な表現」については、文字の変遷や文字に関わる仕事を取りあげる中で、さまざま文字を掲載し、文字への興味・関心をもてるように工夫されている。</li> </ul>

教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「楷書」については、基本の点画の書き方と筆使いを、朱筆等を用いてわかりやすく示している。「行書」については、導入で身の回りの行書を取りあげ、書くポイントは、段階を経て学べるように工夫されている。</li> <li>○ 目的や必要に応じて「楷書」や「行書」を選ぶことについては、写真を用いて、身近な場면을視覚的にわかりやすく示し、考えたり、話し合ったりする活動が設けられている。</li> <li>○ 「文字文化」については、文字の成り立ちや歴史的背景、社会における文字の役割や意義、表現と効果、用具・用材に関することを「コラム」に取りあげ、文字文化を継承・発展させる態度が養われるよう工夫されている。 「多様な表現」については、身の回りの文字や全国の城址の文字を掲載し、文字への興味・関心をもてるように工夫されている。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「楷書」については、基本の点画の書き方と筆使いを、朱筆等を用いてわかりやすく示している。「行書」については、導入で、書く速さを比べる活動を取りあげ、書くポイントは、段階を経て学べるように工夫されている。</li> <li>○ 目的や必要に応じて「楷書」や「行書」を選ぶことについては、イラストを用いて、身近な場면을視覚的にわかりやすく示し、考えたり、話し合ったりする活動が設けられている。</li> <li>○ 「文字文化」については、文字の成り立ちや歴史的背景、社会における文字の役割や意義、表現と効果、用具・用材に関することを「コラム」等に取りあげ、文字文化を継承・発展させる態度が養われるよう工夫されている。 「多様な表現」については、「全国文字マップ」でさまざまな文字を掲載し、文字への興味・関心をもてるように工夫されている。</li> </ul>

【資料1 書写】

項目	観 点
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、学習や社会生活に役立てたりすることができるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
東 書	<p>○ 「文字と絵」「古典をもとに」など、文字文化にまつわる「文字のいずみ」が掲載されている。また、巻末に「書写活用ブック」があり、手紙、願書など、さまざまな書式とともに、「常用漢字表」と「人名用漢字表」が楷書と行書で示されている。</p> <p>なお、リンクや「Dマーク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
三省堂	<p>○ 「文字の変遷」「書の古典」など、文字文化にまつわる「学びを広げる」が掲載されている。また、巻末に「資料編」があり、手紙、願書など、さまざまな書式とともに、「常用漢字表」が楷書と行書で示されている。</p> <p>なお、「二次元コード」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
教 出	<p>○ 「文字の変遷」「日本建築と『書』」など、文字文化にまつわる「コラム」が掲載されている。また、巻末に「書式の教室」があり、手紙、願書など、さまざまな書式と情報の整理方法とともに、「小学校で学習した漢字一覧表」と「中学校で学習する漢字一覧表」が楷書と行書で示されている。</p> <p>なお、「まなびリンク」のあるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
光 村	<p>○ 「文字の歴史を探る」「UD書体って何だろう」など、文字文化にまつわる「コラム」が掲載されている。また、巻末に「日常に役立つ書式」があり、手紙、願書などさまざまな書式とともに、「常用漢字表」「人名用漢字表」が楷書と行書で示されている。</p> <p>なお、「二次元コード」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>



## ○ 全体のページ数

	東書	三省堂	教出	光村
1年生部分	48	40	48	42
2年生部分	34	26	36	38
3年生部分	22	13	17	25
その他の部分	42	51	45	53
合計	146	130	146	158

## ○ 書写に関する事項について取りあげているページ数

	東書	三省堂	教出	光村	
1年	楷書	10	10	8	11
	楷書と仮名	7	8	12	6
	行書	10	12	14	14
2年	行書	6	8	6	13
	行書と仮名	9	6	13	9
	楷書と行書	4	2	2	2
3年	文字文化	4	2	4	4
	身の回りの多様な表現	4	2	4	4
	効果的に書くこと	7	4	2	4
その他	書写の基礎	2	5	7	5
	発展・資料等	61	51	57	69

## ○ 毛筆教材数(補充教材を含む。いろはうた、五十音、身の回りの題材は除く。)

	東書	三省堂	教出	光村	
1年	楷書	4	3	4	5
	行書	4	4	4	5
2年	楷書	1	2	0	2
	行書	7	5	6	6
3年	楷書	0	1	0	2
	行書	5	2	4	4
その他	楷書	0	6	4	0
	行書	0	6	7	0

【資料2 書写】

○ 小説・詩・俳句・短歌・漢字学習等、国語教科書との関連教材を扱ったページ数

	東書	三省堂	教出	光村
1年	3	7	7	6
2年	6	7	11	8
3年	4	1	2	4
その他	2	3	4	9
合計	15	18	24	27

○ 硬筆教材で、直接、教科書に書き込める欄を掲載しているページ数

		東書	三省堂	教出	光村
1年	楷書	11	8	7	11
	行書	7	5	5	6
2年	楷書	0	1	0	0
	行書	9	7	11	13
3年	楷書	0	0	0	1
	行書	1	0	3	5
その他	楷書	0	1	1	0
	行書	2	0	1	7

○ 硬筆の書き方の例示

	東書	三省堂	教出	光村
楷書に調和したひらがな(五十音表)	○	○	○	○
行書に調和したひらがな(五十音表)	○	○	○	○
楷書に調和したひらがな(いろは歌)				○
行書に調和したひらがな(いろは歌)		○		○
楷書に調和したカタカナ(五十音表)	○	○	○	○
行書に調和したカタカナ(五十音表)	○	○		○
算用数字		○		○
アルファベット(大文字)		○		○
アルファベット(小文字)		○		○
都道府県名一覧	○	○	○	○

○ 身の回りの題材(手紙・年賀状・色紙・のし袋・看板・ポスター等)を取りあげているページ数

	東書	三省堂	教出	光村
全学年	39	22	37	33

## ○ 取り扱っている筆記具

	東書	三省堂	教出	光村
大筆	○	○	○	○
小筆	○	○	○	○
鉛筆(シャープペンシル)	○	○	○	○
色鉛筆			○	○
フェルトペン	○	○	○	○
フェルトペン(太)	○	○	○	○
万年筆	○		○	
サインペン	○		○	
ボールペン	○	○	○	○
筆ペン	○	○	○	○
チョーク	○		○	
パソコン等の活用	○	○	○	○
筆記具一覧	○	○	○	○
合計	12	9	13	10

## ○ 大阪にかかわりのある教材数(人物・地名・文化等)

	東書	三省堂	教出	光村
全学年	4	4	5	5



## 社会（地理的分野）

学習指導要領（社会・地理的分野）・・・・・・・・・・ 1～6  
 資料 1・・・・・・・・・・ 7～16  
 資料 2・・・・・・・・・・ 17～18

発行者の 番号・略号	書 名	著 者 者	資料中 の表記
2 東 書	新しい社会 地理	矢ヶ崎 典隆 坂上 康俊 谷口 将紀 ほかに108名	東 書
17 教 出	中学社会 地理 地域にまなぶ	竹内 裕一 ほかに26名	教 出
46 帝 国	社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土	加賀美 雅弘 ほかに22名	帝 国
116 日 文	中学社会 地理的分野	水内 俊雄 ほかに67名	日 文



## 第2章 各教科

### 第2節 社会

#### 第1 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

#### 第2 各分野の目標及び内容

##### 〔地理的分野〕

##### 1 目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

##### 2 内容

##### A 世界と日本の地域構成

##### (1) 地域構成

次の①と②の地域構成を取り上げ、位置や分布などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① 世界の地域構成      ② 日本の地域構成

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 緯度と経度、大陸と海洋の分布、主な国々の名称と位置などを基に、世界の地域

構成を大観し理解すること。

- (イ) 我が国の国土の位置，世界各地との時差，領域の範囲や変化とその特色などを基に，日本の地域構成を大観し理解すること。
- イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
  - (ア) 世界の地域構成の特色を，大陸と海洋の分布や主な国の位置，緯度や経度などに着目して多面的・多角的に考察し，表現すること。
  - (イ) 日本の地域構成の特色を，周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置などに着目して多面的・多角的に考察し，表現すること。

## B 世界の様々な地域

### (1) 世界各地の人々の生活と環境

場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 次のような知識を身に付けること。
  - (ア) 人々の生活は，その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり，その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解すること。
  - (イ) 世界各地における人々の生活やその変容を基に，世界の人々の生活や環境の多様性を理解すること。その際，世界の主な宗教の分布についても理解すること。
- イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
  - (ア) 世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を，その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し，表現すること。

### (2) 世界の諸地域

次の①から⑥までの各州を取り上げ，空間的相互依存作用や地域などに着目して，主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して，以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① アジア                      ② ヨーロッパ                      ③ アフリカ
- ④ 北アメリカ                      ⑤ 南アメリカ                      ⑥ オセアニア

- ア 次のような知識を身に付けること。
  - (ア) 世界各地で顕在化している地球的課題は，それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて，現れ方が異なることを理解すること。
  - (イ) ①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に，各州の地域的特色を大観し理解すること。
- イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
  - (ア) ①から⑥までの世界の各州において，地域で見られる地球的課題の要因や影響を，州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して，それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し，表現すること。

## C 日本の様々な地域

### (1) 地域調査の手法

場所などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
  - (ア) 観察や野外調査，文献調査を行う際の視点や方法，地理的なまとめ方の基礎を理解すること。
  - (イ) 地形図や主題図の読図，目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けること。
- イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
  - (ア) 地域調査において，対象となる場所の特徴などに着目して，適切な主題や調査，



まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現すること。

## (2) 日本の地域的特色と地域区分

次の①から④までの項目を取り上げ、分布や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① 自然環境      ② 人口      ③ 資源・エネルギーと産業      ④ 交通・通信  
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解すること。

(イ) 少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解すること。

(ウ) 日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解すること。

(エ) 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解すること。

(オ) ①から④までの項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解すること。

(カ) 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) ①から④までの項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 日本の地域的特色を、①から④までの項目に基づく地域区分などに着目して、それらに関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

## (3) 日本の諸地域

次の①から⑤までの考察の仕方を基にして、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① 自然環境を中核とした考察の仕方  
② 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方  
③ 産業を中核とした考察の仕方  
④ 交通や通信を中核とした考察の仕方  
⑤ その他の事象を中核とした考察の仕方

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 幾つかに区分した日本のそれぞれの地域について、その地域的特色や地域の課題を理解すること。

(イ) ①から⑤までの考察の仕方に取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 日本の諸地域において、それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

## (4) 地域の在り方

空間的相互依存作用や地域などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 地域の実態や課題解決のための取組を理解すること。

(イ) 地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

### 3 内容の取扱い

(1) 内容のA、B及びCについては、この順序で取り扱うものとし、既習の学習成果を生かすこと。

(2) 内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

ア 世界や日本の場所や地域の特色には、一般的共通性と地方的特殊性があり、また、地域に見られる諸事象は、その地域の規模の違いによって現れ方が異なることに留意すること。

イ 地図の読図や作図、景観写真の読み取り、地域に関する情報の収集や処理などの地理的技能を身に付けるに当たっては、系統性に留意して計画的に指導すること。その際、教科用図書「地図」を十分に活用すること。

ウ 学習で取り上げる地域や国については、各項目間の調整を図り、一部の地域に偏ることのないようにすること。

エ 地域の特色や変化を捉えるに当たっては、歴史的分野との連携を踏まえ、歴史的背景に留意して地域的特色を追究するよう工夫するとともに、公民的分野との関連にも配慮すること。

オ 地域的特色を追究する過程で生物や地学的な事象などを取り上げる際には、地域的特色を捉える上で必要な範囲にとどめること。

(3) 内容のAについては、次のとおり取り扱うものとする。

ア (1)については、次のとおり取り扱うものとする。

(ア) 日本の地域構成を扱う際には、都道府県の名称と位置のほかには都道府県庁所在地名も取り上げること。

(イ) 「領域の範囲や変化とその特色」については、我が国の海洋国家としての特色を取り上げるとともに、竹島や北方領土が我が国の固有の領土であることなど、我が国の領域をめぐる問題も取り上げるようにすること。その際、尖閣諸島については我が国の固有の領土であり、領土問題は存在しないことも扱うこと。

(ウ) 地球儀や地図を積極的に活用し、学習全体を通して、大まかに世界地図や日本地図を描けるようにすること。

(4) 内容のBについては、次のとおり取り扱うものとする。

ア (1)については、世界各地の人々の生活の特色やその変容の理由と、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件との関係を考察するに当たって、衣食住の特色や、生活と宗教との関わりなどを取り上げるようにすること。

イ (2)については、次のとおり取り扱うものとする。

(ア) 州ごとに設ける主題については、各州に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる事象を取り上げるとともに、そこで特徴的に見られる地球的課題と関連付けて取り上げること。

(イ) 取り上げる地球的課題については、地域間の共通性に気付き、我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定するこ

- と。また、州ごとに異なるものとなるようにすること。
- (5) 内容のCについては、次のとおり取り扱うものとする。
- ア (1)については、次のとおり取り扱うものとする。
- (ア) 地域調査に当たっては、対象地域は学校周辺とし、主題は学校所在地の事情を踏まえて、防災、人口の偏在、産業の変容、交通の発達などの事象から適切に設定し、観察や調査を指導計画に位置付けて実施すること。なお、学習の効果を高めることができる場合には、内容のCの(3)の中の学校所在地を含む地域の学習や、Cの(4)と結び付けて扱うことができること。
- (イ) 様々な資料を的確に読み取ったり、地図を有効に活用して事象を説明したりするなどの作業的な学習活動を取り入れること。また、課題の追究に当たり、例えば、防災に関わり危険を予測したり、人口の偏在に関わり人口動態を推測したりする際には、縮尺の大きな地図や統計その他の資料を含む地理空間情報を適切に取り扱い、その活用の技能を高めるようにすること。
- イ (2)については、次のとおり取り扱うものとする。
- (ア) ①から④までで示した日本の地域的特色については、系統的に理解を深めるための基本的な事柄で構成すること。
- (イ) 地域区分に際しては、日本の地域的特色を見だしやすくなるようにそれぞれ適切な数で区分すること。
- ウ (3)については、次のとおり取り扱うものとする。
- (ア) 日本の諸地域については、国内を幾つかの地域に区分して取り上げることとし、その地域区分は、指導の観点や学校所在地の事情などを考慮して適切に決めること。
- (イ) 学習する地域ごとに①から⑤までの考察の仕方の一つを選択することとし、①から④までの考察の仕方は、少なくとも一度は取り扱うこと。また、⑤の考察の仕方は、様々な事象や事柄の中から、取り上げる地域に応じた適切なものを適宜設定すること。
- (ウ) 地域の考察に当たっては、そこに暮らす人々の生活・文化、地域の伝統や歴史的な背景、地域の持続可能な社会づくりを踏まえた視点に留意すること。
- エ (4)については、次のとおり取り扱うものとする。
- (ア) 取り上げる地域や課題については、各学校において具体的に地域の在り方を考察できるような、適切な規模の地域や適切な課題を取り上げること。
- (イ) 学習の効果を高めることができる場合には、内容のCの(1)の学習や、Cの(3)の中の学校所在地を含む地域の学習と結び付けて扱うことができること。
- (ウ) 考察、構想、表現する際には、学習対象の地域と類似の課題が見られる他の地域と比較したり、関連付けたりするなど、具体的に学習を進めること。
- (エ) 観察や調査の結果をまとめる際には、地図や諸資料を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させること。

[歴史的分野]

※本資料、社会（歴史的分野）の「歴1～歴8」に記載

[公民的分野]

※本資料、社会（歴史的分野）の「公1～公6」に記載

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、分野の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること。また、知識に偏り過ぎた指導にならないようにするため、基本的な事柄を厳選して指導内容を構成するとともに、各分野において、第2の内容の範囲や程度に十分配慮しつつ事柄を再構成するなどの工夫をして、基本的な内容が確実に身に付くよう指導すること。
  - (2) 小学校社会科の内容との関連及び各分野相互の有機的な関連を図るとともに、地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開するこの教科の基本的な構造に留意して、全体として教科の目標が達成できるようにする必要があること。
  - (3) 各分野の履修については、第1、第2学年を通じて地理的分野及び歴史的分野を並行して学習させることを原則とし、第3学年において歴史的分野及び公民的分野を学習させること。各分野に配当する授業時数は、地理的分野115 単位時間、歴史的分野135 単位時間、公民的分野100 単位時間とすること。これらの点に留意し、各学校で創意工夫して適切な指導計画を作成すること。
  - (4) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
  - (5) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、社会科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視すること。
  - (2) 情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に調べ分かって学習に取り組めるようにすること。その際、課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにするとともに、情報モラルの指導にも留意すること。
  - (3) 調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図るようにすること。その際、地図や年表を読んだり作成したり、現代社会の諸課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想するに当たっては、関連する新聞、読み物、統計その他の資料に平素から親しみ適切に活用したり、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにすること。
  - (4) 社会的事象については、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示するよう配慮し、多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、有益適切な教材に基づいて指導するとともに、特定の事柄を強調し過ぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げるものがないよう留意すること。
- 3 第2の内容の指導に当たっては、教育基本法第14条及び第15条の規定に基づき、適切に行うよう特に慎重に配慮して、政治及び宗教に関する教育を行うものとする。

項目	観点
1 目標・内容 の取扱い	<p>地理的分野の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の諸事象や地域的特色の理解や、地理に関する様々な情報を調べまとめる技能について</li> <li>○ 地理に関わる事象の意味や特色を、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりすることについて</li> <li>○ よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に追究、解決しようとする態度について</li> </ul>
2 人権の 取扱い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ 世界の多様な文化の尊重について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> </ul>
4 組織・配列	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ 単元構成について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>
5 創意工夫	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会との関わりを意識した課題解決的な学習展開について</li> <li>○ 関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動について</li> <li>○ 考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりする活動について</li> </ul>
6 補充的な 学習・ 発展的な 学習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わったりできるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料やコラムなど</li> </ul>

【資料1 地理】

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>地理的分野の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の諸事象や地域的特色の理解や、地理に関する様々な情報を調べまとめる技能について</li> <li>○ 地理に関わる事象の意味や特色を、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりすることについて</li> <li>○ よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に追究、解決しようとする態度について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元のまとめで、地図で位置関係を整理したり、語句を確認したり、学習内容を文章でまとめるなど、地域の諸事情や地域的特色についての理解を促し、地理に関する様々な情報を調べまとめるための適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「みんなでチャレンジ」コーナーで、主体的に調べたり協働的な活動ができるような問いにより、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりすることができるよう取り扱われている。</li> <li>○ 単元ごとに設けられた探究課題を解決する中で、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に追究、解決しようとする取り組みの内容となっている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元のまとめで、地図で位置関係を整理したり、語句を確認したり、学習内容を文章でまとめるなど、地域の諸事情や地域的特色についての理解を促し、地理に関する様々な情報を調べまとめるための適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 単元ごとに「意見を交換しよう」という項目が設けられており、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりすることができるよう取り扱われている。</li> <li>○ 単元ごとに、視点を変えて学習内容を捉えなおす「地域から世界を考えよう」「現代日本の課題を考えよう」が設けられており、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に追究、解決しようとする取り組みの内容となっている。</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元のまとめで、地図で位置関係を整理したり、語句を確認したり、学習内容を文章でまとめるなど、地域の諸事情や地域的特色についての理解を促し、地理に関する様々な情報を調べまとめるための適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「章（節）の学習を振り返ろう」で、整理・説明・考えるなどの3つのステップが設けられており、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりすることができるよう取り扱われている。</li> <li>○ コラム「未来に向けて」で、現代的な諸課題とその解決に向けて、環境・防災・共生の視点で解説されており、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に追究、解決しようとする取り組みの内容となっている。</li> </ul>

日 文	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 単元のまとめで、地図で位置関係を整理したり、語句を確認したり、学習内容を文章でまとめるなど、地域の諸事情や地域的特色についての理解を促し、地理に関する様々な情報を調べまとめるための適切な内容が取りあげられている。</li><li>○ 「チャレンジ地理」コーナーで、地理的事象について根拠を持って意見を考えられるようになっており、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりすることができるよう取り扱われている。</li><li>○ 単元中に複数設けられている「深めよう」コーナーで、学習課題の理解を深めるため、見方・考え方を働かせる問いが示されており、よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に追究、解決しようと取り組める内容となっている。</li></ul>
-----	--

【資料1 地理】

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ 世界の多様な文化の尊重について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章・写真・挿絵、図、資料などが人権尊重の観点から配慮されている。人権尊重に係る学習については、例えば、紛争と難民の発生について、ヨーロッパの単元とアフリカの単元で取り扱われている。</li> <li>○ 世界の多様な文化の尊重について、理解できるよう適切に取り扱われている。世界の諸地域ごとに「地理にアクセス」が設置され、地域の課題や文化について紹介されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって、使いやすくわかりやすいように、カラーユニバーサルデザインが採用されるとともにフォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章・写真・挿絵、図、資料などが人権尊重の観点から配慮されている。人権尊重に係る学習については、例えば、紛争と難民の発生について、宗教のページと、ヨーロッパの単元、アフリカの単元で取り扱われている。</li> <li>○ 世界の多様な文化の尊重について、理解できるよう適切に取り扱われている。世界の諸地域ごとに「地理の窓」が設置され、民族や歴史的背景について紹介されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって、使いやすくわかりやすいように、カラーユニバーサルデザインが採用されるとともにフォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章・写真・挿絵、図、資料などが人権尊重の観点から配慮されている。人権尊重に係る学習については、例えば、紛争と難民の発生について、アジアの単元とヨーロッパの単元で取り扱われている。</li> <li>○ 世界の多様な文化の尊重について、理解できるよう適切に取り扱われている。世界の諸地域ごとに「未来に向けて共生」が設置され、諸地域の多様な価値観や文化の共生をはかる人々の姿が紹介されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって、使いやすくわかりやすいように、カラーユニバーサルデザインが採用されるとともにフォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章・写真・挿絵、図、資料などが人権尊重の観点から配慮されている。人権尊重に係る学習については、例えば、紛争と難民の発生について、アジアの単元、ヨーロッパの単元、アフリカの単元で取り扱われている。</li> <li>○ 世界の多様な文化の尊重について、理解できるよう適切に取り扱われている。世界の諸地域ごとに「地理+α」で他国の尊重やさまざまな文化的背景を持つ人々の姿が紹介されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって、使いやすくわかりやすいように、カラーユニバーサルデザインが採用されるとともにフォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>



項目	観 点
3 内容の程度	生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。 ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について

発行者	事 項
東 書	○ 生徒の発達段階を考慮した記述内容や分量になっている。また、本文ページに用意されている「見方・考え方」コーナーやキャラクターの発言、地域の人々が登場し語りかけるコーナーなどが、思考の流れをつくるよう取り扱われている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、見やすく、比較しやすいよう配置され、生徒の興味・関心を引き出す内容になっている。
教 出	○ 生徒の発達段階を考慮した記述内容や分量になっている。また、本文の語句や内容に対する解説や、地域の人々が登場し語りかけるコーナーやキャラクターの発言、「LOOK」のコーナーなどが、思考の流れをつくるよう取り扱われている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、見やすく、比較しやすいよう配置され、生徒の興味・関心を引き出す内容になっている。
帝 国	○ 生徒の発達段階を考慮した記述内容や分量になっている。また、本文の語句や内容に対する解説や、地域の人々が登場し語りかけるコーナー、キャラクターの発言などが思考の流れをつくるよう取り扱われている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、見やすく、比較しやすいよう配置され、生徒の興味・関心を引き出す内容になっている。
日 文	○ 生徒の発達段階を考慮した記述内容や分量になっている。また、地域の人々が登場し語りかけるコーナーやキャラクターの発言などが思考の流れをつくるよう取り扱われている。 ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、見やすく、比較しやすいよう配置され、生徒の興味・関心を引き出す内容になっている。

【資料1 地理】

項目	観 点
4 組織・配列	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ 単元構成について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「世界と日本の地域構成」「世界の様々な地域」「日本の様々な地域」の順で学習する配列になっている。また、学習したことを生かすことができるように、地域の将来像を構想する「地域の在り方」が、日本の様々な地域の最後に配列されている。</li> <li>○ 「世界の諸地域」及び「日本の諸地域」では、課題を「つかむ」「追究する」「解決する」の単元構成を基本とし、「探究課題」を軸にした課題解決的な学習に取り組む構成になっている。</li> <li>○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページが配置されて、見開きごとに学習課題が明記されると共に、「チェック」と「トライ」により学習内容を確認し深めることができるよう工夫されている。また、他分野や他教科との関わりがある内容が、「分野関連マーク」と「教科関連マーク」で示され、「世界の諸地域」と「日本の諸地域」学習の導入では小学校の振り返りが取り扱われている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「世界と日本の地域構成」「世界の様々な地域」「日本の様々な地域」の順で学習する配列になっている。また、学習したことを生かすことができるように、地域の将来像を構想する「地域の在り方」が、日本の様々な地域の最後に配列されている。</li> <li>○ 「世界の諸地域」及び「日本の諸地域」では、課題を「見通す」「確認・表現する」「捉えなおす」「振り返る」の単元構成を基本とし、「世界の諸地域」では「地球的課題」を、「日本の諸地域」では「現代日本の課題」を軸にした課題解決的な学習に取り組む構成になっている。</li> <li>○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページが配置されて、見開きごとに学習課題が明記されると共に、「確認」と「表現」により学習内容を確認し深めることができるよう工夫されている。また、巻頭で小学校の学習を大きく振り返るページがあり、他分野との関わりがある内容が、見開きの右下の「関連」に示されている。</li> </ul>

帝 国	<p>○ 「世界と日本の地域構成」「世界の様々な地域」「日本の様々な地域」の順で学習する配列になっている。また、学習したことを生かすことができるように、地域の将来像を構想する「地域の在り方」が、日本の様々な地域の最後に配列されている。</p> <p>○ 「世界の諸地域」及び「日本の諸地域」では、課題を「問いで見通す」「確認・説明する」「振り返る」の単元構成を基本とし、章や節ごとの「問い」を軸にした課題解決的な学習に取り組む構成になっている。</p> <p>○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページが配置されて、見開きごとに学習課題が明記されると共に、「確認しよう」と「説明しよう」により学習内容を確認し深めることができるよう工夫されている。また、他分野や小学校の学習との関わりがある内容が、見開きの左下の「関連」に示されている。</p>
日 文	<p>○ 「世界と日本の地域構成」「世界の様々な地域」「日本の様々な地域」の順で学習する配列になっている。また、学習したことを生かすことができるように、地域の将来像を構想する「地域の在り方」が、日本の様々な地域の最後に配列されている。</p> <p>○ 「世界の諸地域」及び「日本の諸地域」では、「導入」「あらまし」「テーマの追究」「まとめ」の単元構成を基本とし、クイズによる導入後の「あらまし」のページで掲げられる「追究するテーマ」を軸にした課題解決的な学習に取り組む構成になっている。</p> <p>○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページが配置され、見開きごとに学習課題が明記されると共に、「確認」と「深めよう」により学習内容を確認し深めることができるよう工夫されている。また、他分野や小学校の学習と関わりがある内容が、見開き左下の「連携コーナー」に示されている。</p>

【資料1 地理】

項目	観 点
5 創意工夫	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会との関わりを意識した課題解決的な学習展開について</li> <li>○ 関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動について</li> <li>○ 考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりする活動について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な学習の中で、SDGsに関連付けて、主体的に現代の世界や日本の課題を読み解いたり追究したりする学習展開になるように工夫されている。</li> <li>○ 「スキルアップ」コーナーや「資料から発見！」で、資料の活用方法を確認しながら学習できるようになっており、単元の振り返りで扱われる「まとめの活動」を通して、情報を調べまとめる技能を身に付けられるように工夫されている。</li> <li>○ 「世界の諸地域」及び「日本の諸地域」の学習のまとめでは、調べ学習や対話的な学習に関わって資料が整理され、考察・判断したことを、根拠や立場をもとに論理的に説明するための課題やツールが示されるなど工夫されている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冒頭でSDGsについて取りあげ、それに関連付けて、主体的に現代の世界や日本の課題を読み解いたり追究したりする学習展開になるように工夫されている。</li> <li>○ 「地理の技」コーナーや「読み解こう」で、資料の活用方法を確認しながら学習できるようになっており、単元の振り返りで扱われる「表現しよう」を通して、自分の言葉でまとめて表現する活動など、情報を調べまとめる技能を身に付けられるように工夫されている。</li> <li>○ 「世界の諸地域」及び「日本の諸地域」の学習のまとめでは、それぞれの地域に関する読み物資料が掲載され、「学習のまとめと表現」で資料が整理され、考察・判断したことを根拠や立場をもとに論理的に説明するための課題が示されるなど工夫されている。</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冒頭でSDGsについて取りあげ、それに関連付けて、主体的に現代の世界や日本の課題を読み解いたり追究したりする学習展開になるように工夫されている。</li> <li>○ 「技能をみがく」コーナーや「資料活用」で、資料の活用方法を確認しながら学習できるようになっており、単元の振り返りで扱われる「『地理的な見方・考え方』を働かせて説明しよう」を通して、情報を調べまとめる技能を身に付けられるように工夫されている。</li> <li>○ 「世界の諸地域」及び「日本の諸地域」の学習のまとめでは、調べ学習や対話的な学習に関わって資料が整理され、考察・判断したことを、根拠や立場をもとに論理的に説明するための課題やツールが示されるなど工夫されている。</li> </ul>

日 文	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 「日本の諸地域」の学習のまとめとしてSDGsについて取りあげ、主体的に現代の世界や日本の課題を読み解いたり追究したりする学習展開になるよう工夫されている。</li><li>○ 「スキルUP」コーナーで、技能を6種類に整理し、系統立てて習得できるようになっており、単元の振り返りで扱われる「アクティビティ」や「チャレンジ地理」を通して、情報を調べまとめる技能を身に付けられるように工夫されている。</li><li>○ 「世界の諸地域」及び「日本の諸地域」の学習のまとめでは、調べ学習や対話的な学習に関わって資料が整理され、考察・判断したことを、根拠や立場をもとに論理的に説明するための課題やツールが示されるなど工夫されている。</li></ul>
-----	--

【資料1 地理】

項目	観 点
6 補足的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わったりできるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
東 書	<p>○ 「世界の諸地域」「日本の諸地域」では、章のまとめのページに、学習した用語を自分の言葉で説明しチェックするコーナーが設けられており、学習した内容を確実に習得できるようになっている。</p> <p>また、単元の学習で培った見方・考え方を働かせ、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わったりできる特設ページ「もっと地理」や、学習内容をより深く理解できるような、写真やイラストを交えたコラム「地理にアクセス」が設けられている。</p> <p>なお、「Dマーク」が用意され、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
教 出	<p>○ 「世界の諸地域」「日本の諸地域」では、節ごとのまとめのページに、学習した用語を自分の言葉で説明しチェックするコーナーが設けられており、学習した内容を確実に習得できるようになっている。</p> <p>また、単元で取り扱われている地域や内容に関連付けて、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わったりできる特設ページ「地域から世界を考えよう」「現代日本の課題を考えよう」や、学習内容から興味や関心を広げていくような、写真を交えたコラム「地理の窓」が設けられている。</p> <p>なお、「学びリンク」が用意され、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
帝 国	<p>○ 「世界の諸地域」「日本の諸地域」では、節ごとのまとめのページに、学習した用語を自分の言葉で説明しチェックするコーナーが設けられており、学習した内容を確実に習得できるようになっている。</p> <p>また、単元で取り扱われている地域や内容に関連付けて、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わったりできるコーナー「私たちとの関わり」や、SDGsを意識した特設ページ「地域の在り方を考える」、学習内容をより深く理解できるような、写真を交えたコラム「地理プラス」が設けられている。</p> <p>なお、「二次元コード」が用意され、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
日 文	<p>○ 「世界の諸地域」「日本の諸地域」では、節ごとのまとめのページに、学習した用語が、観点に沿って整理され取りあげられており、学習した内容を確実に習得できるようになっている。</p> <p>また、身近な話題を取りあげ、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わったりできる単元末の特設ページ「自由研究」や、学習内容をより深く理解できるような、写真を交えたコラム「地理+α」が設けられている。</p> <p>なお、「デジタルマーク」が用意され、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>

## ○ 構成内容のページ数と総ページ数に占める割合（％）

	東 書		教 出		帝 国		日 文	
	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合
世界と日本の地域構成	27	8.9%	19	6.2%	24	7.7%	22	7.4%
世界各地の人々の生活と環境	21	7.0%	19	6.2%	21	6.8%	20	6.7%
世界の諸地域	86	28.5%	82	26.6%	83	26.8%	75	25.2%
地域調査の方法	16	5.3%	14	4.5%	12	3.9%	20	6.7%
日本の地域的特色	27	8.9%	26	8.4%	28	9.0%	25	8.4%
日本の諸地域	87	28.8%	101	32.8%	115	37.1%	100	33.6%
地域の在り方	12	4.0%	8	2.6%	11	3.5%	11	3.7%
その他（目次・索引など）	26	8.6%	39	12.7%	16	5.2%	25	8.4%
計	302	100%	308	100%	310	100%	298	100%

## ○ 世界の諸地域学習で導入されている地球的課題の視点

州	東 書	教 出	帝 国	日 文
アジア	急速な都市の成長と変化	人口問題	都市・居住問題	人口や経済発展
ヨーロッパ	国どうしの統合による変化	環境問題	経済格差	国境を越えた統合
アフリカ	国際的な支援からの自立に向けて	人口・食料問題	食料問題	自立のための開発と国際協力
北アメリカ	多くの人々を引きつける地域	多民族の共存の問題	生産と消費の問題	世界に影響をあたえる産業
南アメリカ	開発の進展と環境問題	環境問題・都市問題	熱帯林の破壊	開発と環境保全
オセアニア	強まるアジアとの結び付き	多民族の共存の問題	多文化の共生	多文化が共生する社会

【資料2 地理】

○ 日本の地域的特色を捉えさせるために中核とした考察の仕方

地方区分	東 書	教 出	帝 国	日 文
九州	自然環境	自然環境	自然環境	自然環境
中国・四国	交通・通信	人口や都市・村落	交通・通信	人口や都市・村落
近畿	人口や都市・村落	歴史的背景	環境保全	歴史的背景
中部	産業	産業	産業	産業
関東	交通・通信	交通・通信	人口や都市・村落	交通・通信
東北	生活・文化	生活・文化	生活・文化	持続可能な社会づくり
北海道	自然環境	自然環境	自然環境	自然環境

○ 地域調査の方法と地域の在り方で取りあげた地域

	東 書	教 出	帝 国	日 文
地域調査の方法	高知県高知市	愛知県名古屋市	東京都練馬区	京都市伏見区
地域の在り方	宮崎県	東京都	京都府	京都市

○ 「世界と日本の地域構成」のページ数と資料の点数

	東 書	教 出	帝 国	日 文
写真資料	25	22	33	32
グラフ・表	3	5	2	1
地図	28	15	32	21
イラスト・絵・図	14	6	10	5
複合的資料	4	4	4	2
ページ数	27	18	24	22

○ その他 以下の内容が本文・図表等に表示されているページ数

	東 書	教 出	帝 国	日 文
日本の領域に係る内容について	5	5	5	5
自然災害や防災に係る内容について	20	22	16	31
大阪府の地名等について	28	27	30	38



## 社会（歴史的分野）

学習指導要領（社会・歴史的分野）・・・・・・・・・・・・・ 1～8  
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9～24  
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25～26

発行者の 番号・略号	書名	著作者	資料中 の表記
2 東書	新しい社会 歴史	坂上 康俊 矢ヶ崎 典隆 谷口 将紀 ほか108名	東書
17 教出	中学社会 歴史 未来をひらく	久留島 典子 ほか28名	教出
46 帝国	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き	黒田 日出男 ほか14名	帝国
81 山川	中学歴史 日本と世界	橋場 弦 桜井 英治 ほか21名	山川
116 日文	中学社会 歴史的分野	藤井 譲治 ほか59名	日文
227 育鵬社	[最新] 新しい日本の歴史	伊藤 隆 ほか27名	育鵬社
229 学び舎	ともに学ぶ人間の歴史	安井 俊夫 ほか26名	学び舎



## 第2章 各教科

### 第2節 社会

#### 第1 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

#### 第2 各分野の目標及び内容

##### 〔地理的分野〕

※本資料、社会（地理的分野）の「地1～地6」に記載

##### 〔歴史的分野〕

#### 1 目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

#### 2 内容

##### A 歴史との対話

#### (1) 私たちと歴史

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解すること。

(イ) 資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現すること。

## (2) 身近な地域の歴史

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現すること。

## B 近世までの日本とアジア

### (1) 古代までの日本

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 世界の古代文明や宗教のおこり

世界の古代文明や宗教のおこりを基に、世界の各地で文明が築かれたことを理解すること。

(イ) 日本列島における国家形成

日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、東アジアの文明の影響を受けながら我が国で国家が形成されていったことを理解すること。

(ウ) 律令国家の形成

律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解すること。

(エ) 古代の文化と東アジアとの関わり

仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 古代文明や宗教が起こった場所や環境、農耕の広まりや生産技術の発展、東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、アのアからエまでについて古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 古代までの日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

### (2) 中世の日本

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 武家政治の成立とユーラシアの交流

鎌倉幕府の成立，元寇（モンゴル帝国の襲来）などを基に，武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立し，その支配が広まったこと，元寇がユーラシアの変化の中で起こったことを理解すること。

(イ) 武家政治の展開と東アジアの動き

南北朝の争乱と室町幕府，日明貿易，琉球の国際的な役割などを基に，武家政治の展開とともに，東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解すること。

(ウ) 民衆の成長と新たな文化の形成

農業など諸産業の発達，畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立，武士や民衆などの多様な文化の形成，応仁の乱後の社会的な変動などを基に，民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 武士の政治への進出と展開，東アジアにおける交流，農業や商工業の発達などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，アの(ア)から(ウ)までについて中世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現すること。

(イ) 中世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現すること。

### (3) 近世の日本

課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 世界の動きと統一事業

ヨーロッパ人來航の背景とその影響，織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係，武将や豪商などの生活文化の展開などを基に，近世社会の基礎がつけられたことを理解すること。

(イ) 江戸幕府の成立と対外関係

江戸幕府の成立と大名統制，身分制と農村の様子，鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に，幕府と藩による支配が確立したことを理解すること。

(ウ) 産業の発達と町人文化

産業や交通の発達，教育の普及と文化の広がりなどを基に，町人文化が都市を中心に形成されたことや，各地方の生活文化が生まれたことを理解すること。

(エ) 幕府の政治の展開

社会の変動や欧米諸国の接近，幕府の政治改革，新しい学問・思想の動きなどを基に，幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 交易の広がりとその影響，統一政権の諸政策の目的，産業の発達と文化の担い手の変化，社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，アの(ア)から(エ)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現すること。

(イ) 近世の日本を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現すること。

## C 近現代の日本と世界

### (1) 近代の日本と世界

課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 欧米における近代社会の成立とアジア諸国の動き

欧米諸国における産業革命や市民革命，アジア諸国の動きなどを基に，欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解すること。

(イ) 明治維新と近代国家の形成

開国とその影響，富国強兵・殖産興業政策，文明開化の風潮などを基に，明治維新によって近代国家の基礎が整えられて，人々の生活が大きく変化したことを理解すること。

(ウ) 議会政治の始まりと国際社会との関わり

自由民権運動，大日本帝国憲法の制定，日清・日露戦争，条約改正などを基に，立憲制の国家が成立して議会政治が始まるとともに，我が国の国際的な地位が向上したことを理解すること。

(エ) 近代産業の発展と近代文化の形成

我が国の産業革命，この時期の国民生活の変化，学問・教育・科学・芸術の発展などを基に，我が国で近代産業が発展し，近代文化が形成されたことを理解すること。

(オ) 第一次世界大戦前後の国際情勢と大衆の出現

第一次世界大戦の背景とその影響，民族運動の高まりと国際協調の動き，我が国の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に，第一次世界大戦前後の国際情勢及び我が国の動きと，大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解すること。

(カ) 第二次世界大戦と人類への惨禍

経済の世界的な混乱と社会問題の発生，昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き，中国などアジア諸国との関係，欧米諸国の動き，戦時下の国民の生活などを基に，軍部の台頭から戦争までの経過と，大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 工業化の進展と政治や社会の変化，明治政府の諸改革の目的，議会政治や外交の展開，近代化がもたらした文化への影響，経済の変化の政治への影響，戦争に向かう時期の社会や生活の変化，世界の動きと我が国との関連などに着目して，事象を相互に関連付けるなどして，アの(ア)から(カ)までについて近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現すること。

(イ) 近代の日本と世界を大観して，時代の特色を多面的・多角的に考察し，表現すること。

## (2) 現代の日本と世界

課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導すること。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 日本の民主化と冷戦下の国際社会

冷戦，我が国の民主化と再建の過程，国際社会への復帰などを基に，第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解すること。

(イ) 日本の経済の発展とグローバル化する世界

高度経済成長，国際社会との関わり，冷戦の終結などを基に，我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し，国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 諸改革の展開と国際社会の変化，政治の展開と国民生活の変化などに着目して，事

象を相互に関連付けるなどして、アの(ア)及び(イ)について現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 現代の日本と世界を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(ウ) これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

### 3 内容の取扱い

(1) 内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

ア 生徒の発達の段階を考慮して、各時代の特色や時代の転換に係る基礎的・基本的な歴史に関わる事象を重点的に選んで指導内容を構成すること。

イ 調査や諸資料から歴史に関わる事象についての様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習を重視すること。その際、年表を活用した読み取りやまとめ、文献、図版などの多様な資料、地図などの活用を十分に行うこと。

ウ 歴史に関わる事象の意味・意義や特色、事象間の関連を説明したり、課題を設けて追究したり、意見交換したりするなどの学習を重視して、思考力、判断力、表現力等を養うとともに、学習内容の確かな理解と定着を図ること。

エ 各時代の文化については、代表的な事例を取り上げてその特色を考察させるようにすること。

オ 歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることを考察させるようにすること。その際、歴史に見られる文化や生活の多様性に気付かせること。

カ 国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産について、生徒の興味・関心を育てる指導に努めるとともに、それらの時代的背景や地域性などと関連付けて考察させるようにすること。その際、身近な地域の歴史上の人物と文化遺産を取り上げることに留意すること。

キ 歴史に関わる事象の指導に当たっては、地理的分野との連携を踏まえ、地理的条件にも着目して取り扱うよう工夫するとともに、公民的分野との関連にも配慮すること。

ク 日本人の生活や生活に根ざした文化については、政治の動き、社会の動き、各地域の地理的条件、身近な地域の歴史とも関連付けて指導したり、民俗学や考古学などの成果の活用や博物館、郷土資料館などの施設を見学・調査したりするなど具体的に学ぶことを通して理解させるように工夫すること。

(2) 内容のAについては、次のとおり取り扱うものとする。

ア (1)については、中学校の歴史学習の導入として実施することを原則とすること。小学校での学習を踏まえ、扱う内容や活動を工夫すること。「課題を追究したり解決したりする活動」については、内容のB以下の学習と関わらせて、歴史を追究するために、課題意識をもって学ぶことを促す適切な学習活動を設けるような工夫をすること。(1)のアの(ア)の「年代の表し方や時代区分」の学習については、導入における学習内容を基盤にし、内容のB以下の学習と関わらせて継続的・計画的に進めること。また、(1)のイの(ア)の「時期や年代、推移、現在の私たちとのつながり」については、内容のB以下の学習と関わらせて、事象相互の関連などにも留意し、それぞれの時代でこれらに着目して考察することが大切であることに気付かせること。

イ (2)については、内容のB以下の学習と関わらせて計画的に実施し、地域の特性に応じた時代を取り上げるようにするとともに、人々の生活や生活に根ざした伝統や文化に着目した取扱いを工夫すること。その際、博物館、郷土資料館などの地域の施設の活用や地域の人々の協力も考慮すること。

(3) 内容のBについては、次のとおり取り扱うものとする。

- ア (1)のアの(ア)の「世界の古代文明」については、人類の出現にも触れ、中国の文明をはじめとして諸文明の特徴を取り扱い、生活技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展などの共通する特徴に気付かせるようにすること。また、ギリシャ・ローマの文明について、政治制度など民主政治の来歴の観点から取り扱うこと。「宗教のおこり」については、仏教、キリスト教、イスラム教などを取り上げ、古代の文明とともに大きく捉えさせるようにすること。(1)のアの(イ)の「日本列島における国家形成」については、狩猟・採集を行っていた人々の生活が農耕の広まりとともに変化していったことに気付かせるようにすること。また、考古学などの成果を活用するとともに、古事記、日本書紀、風土記などにまとめられた神話・伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰やものの見方などに気付かせるよう留意すること。「大和朝廷（大和政権）による統一の様子と東アジアとの関わり」については、古墳の広まりにも触れるとともに、大陸から移住してきた人々の我が国の社会や文化に果たした役割にも気付かせるようにすること。(1)のアの(ウ)の「律令国家の確立に至るまでの過程」については、聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を、小学校での学習内容を活用して大きく捉えさせるようにすること。なお、「聖徳太子の政治」を取り上げる際には、聖徳太子が古事記や日本書紀においては「厩戸皇子」などと表記され、後に「聖徳太子」と称されるようになったことに触れること。
- イ (2)のアの(ア)の「ユーラシアの変化」については、モンゴル帝国の拡大によるユーラシアの結び付きについて気付かせること。(2)のアの(イ)の「琉球の国際的な役割」については、琉球の文化についても触れること。(2)のアの(ウ)の「武士や民衆などの多様な文化の形成」については、代表的な事例を取り上げてその特色を捉えさせるようにすること。その際、この時代の文化の中に現在に結び付くものが見られることに気付かせるようにすること。また、禅宗の文化的な影響についても触れること。「応仁の乱後の社会的な変動」については、戦国の動乱も取り扱うようにすること。
- ウ (3)のアの(ア)の「ヨーロッパ人來航の背景」については、新航路の開拓を中心に取り扱い、その背景となるアジアの交易の状況やムスリム商人などの役割と世界の結び付きに気付かせること。また、宗教改革についても触れること。「織田・豊臣による統一事業」については、検地・刀狩などの政策を取り扱うようにすること。(3)のアの(イ)の「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係」については、オランダ、中国との交易のほか、朝鮮との交流や琉球の役割、北方との交易をしていたアイヌについて取り扱うようにすること。その際、アイヌの文化についても触れること。「幕府と藩による支配」については、その支配の下に大きな戦乱のない時期を迎えたことなどに気付かせること。(3)のアの(ウ)の「産業や交通の発達」については、身近な地域の特徴を生かすようにすること。「各地方の生活文化」については、身近な地域の事例を取り上げるように配慮し、藩校や寺子屋などによる「教育の普及」や社会的な「文化の広がり」と関連させて、現在との結び付きに気付かせるようにすること。(3)のアの(エ)の「幕府の政治改革」については、百姓一揆などに結び付く農村の変化や商業の発達などへの対応という観点から、代表的な事例を取り上げるようにすること。
- (4) 内容のCについては、次のとおり取り扱うものとする。
- ア (1)のアの(ア)の「市民革命」については、政治体制の変化や人権思想の発達や広がり、現代の政治とのつながりなどと関連付けて、アメリカの独立、フランス革命などを扱うこと。「アジア諸国の動き」については、欧米諸国の進出に対するアジア諸国の対応と変容という観点から、代表的な事例を取り上げるようにすること。(1)のアの(イ)の「開国とその影響」については、(1)のアの(ア)の欧米諸国のアジア進出と関連付けて取り扱うようにすること。「富国強兵・殖産興業政策」については、この政策の下に新政府が行った、廃藩置県、学制・兵制・税制の改革、身分制度の廃止、領土の画定などを



取り扱うようにすること。その際、北方領土に触れるとともに、竹島、尖閣諸島の編入についても触れること。「明治維新」については、複雑な国際情勢の中で独立を保ち、近代国家を形成していった政府や人々の努力に気付かせるようにすること。(1)のアの(ウ)の「日清・日露戦争」については、この頃の大陸との関係を踏まえて取り扱うようにすること。「条約改正」については、当時の国内の社会状況や国際情勢との関わりを踏まえて、欧米諸国と対等な外交関係を樹立する過程の中から代表的な事例を取り上げるようにすること。「立憲制の国家が成立して議会政治が始まる」については、その歴史上の意義や現代の政治とのつながりに気付かせるようにすること。(1)のアの(エ)の「近代文化」については、伝統的な文化の上に欧米文化を受容して形成されたものであることに気付かせるようにすること。(1)のアの(オ)の「第一次世界大戦」については、世界に戦禍が広がった背景や、日本の参戦、ロシア革命なども取り上げて、世界の動きと我が国との関連を踏まえて取り扱うようにすること。「我が国の国民の政治的自覚の高まり」については、大正デモクラシーの時期の政党政治の発達、民主主義的な思想の普及、社会運動の展開を取り扱うようにすること。(1)のアの(カ)については、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気付かせるようにすること。

イ (2)のアの(ア)の「我が国の民主化と再建の過程」については、国民が苦難を乗り越えて新しい日本の建設に努力したことに気付かせるようにすること。その際、男女普通選挙の確立、日本国憲法の制定などを取り扱うこと。(2)のアの(イ)については、沖縄返還、日中国交正常化、石油危機などの節目となる歴史に関わる事象を取り扱うようにすること。また、民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応などを取り扱い、これまでの学習と関わらせて考察、構想させるようにすること。

[公民的分野]

※本資料、社会（公民的分野）の「公1～公6」に記載

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、分野の特質に応じた見方・考え方を働かせ、社会的事象の意味や意義などを考察し、概念などに関する知識を獲得したり、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること。また、知識に偏り過ぎた指導にならないようにするため、基本的な事柄を厳選して指導内容を構成するとともに、各分野において、第2の内容の範囲や程度に十分配慮しつつ事柄を再構成するなどの工夫をして、基本的な内容が確実に身に付くよう指導すること。
- (2) 小学校社会科の内容との関連及び各分野相互の有機的な関連を図るとともに、地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開するこの教科の基本的な構造に留意して、全体として教科の目標が達成できるようにする必要があること。
- (3) 各分野の履修については、第1、第2学年を通じて地理的分野及び歴史的分野を並行して学習させることを原則とし、第3学年において歴史的分野及び公民的分野を学習させること。各分野に相当する授業時数は、地理的分野115 単位時間、歴史的分野135 単位時間、公民的分野100 単位時間とすること。これらの点に留意し、各学校で創意工夫して適切な指導計画を作成すること。
- (4) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (5) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮し

ながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、社会科の特質に応じて適切な指導をすること。

- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視すること。
  - (2) 情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に調べ分かつようとして学習に取り組めるようにすること。その際、課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにするとともに、情報モラルの指導にも留意すること。
  - (3) 調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図るようにすること。その際、地図や年表を読んだり作成したり、現代社会の諸課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想するに当たっては、関連する新聞、読み物、統計その他の資料に平素から親しみ適切に活用したり、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにすること。
  - (4) 社会的事象については、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示するよう配慮し、多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、有益適切な教材に基づいて指導するとともに、特定の事柄を強調し過ぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げることをないよう留意すること。
- 3 第2の内容の指導に当たっては、教育基本法第14条及び第15条の規定に基づき、適切に行うよう特に慎重に配慮して、政治及び宗教に関する教育を行うものとする。

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>歴史的分野の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歴史の大きな流れについての理解や歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能について</li> <li>○ 歴史に関わる事象の意味や文化の特色などを、多面的・多角的に考察し、課題を把握したり、公正に判断し、説明や議論したりすることについて</li> <li>○ よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に追究、解決しようとする態度について</li> </ul>
2 人権の 取扱い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ 国際協調や国際平和について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> </ul>
4 組織・配列	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ 単元構成について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>
5 創意工夫	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会との関わりを意識した課題解決的な学習展開について</li> <li>○ 関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動について</li> <li>○ 考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりする活動について</li> </ul>
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わったりできるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料やコラムなど</li> </ul>

【資料1 歴史】

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>歴史的分野の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歴史の大きな流れについての理解や歴史に関する様々な情報を調べまとめる技能について</li> <li>○ 歴史に関わる事象の意味や文化の特色などを、多面的・多角的に考察し、課題を把握したり、公正に判断し、説明や議論したりすることについて</li> <li>○ よりよい社会の実現に向けて課題を主体的に追究、解決しようとする態度について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1章「歴史へのとびら」で、小学校で学習した歴史的人物や文化遺産のイラストを時代の流れに沿って示し、歴史の大きな流れをとらえられるようにするとともに、調査、考察、まとめ、発表の仕方について説明している。</li> <li>○ 見開き2ページの右下に「チェック」と「トライ」を設定し、学習した内容の確認をするとともに、歴史の見方・考え方はたらかせて説明するよう促している。 「みんなでチャレンジ」で、本文での学習内容を確実に理解し、話し合いなどの対話的な活動を通じて学習を深められるようにしている。</li> <li>○ 巻末の「歴史のまとめ」では、歴史の学習をふりかえり、持続可能な社会について構想することを通じて、よりよい社会の形成に主体的に参画する態度につながるようにしている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1章「歴史のとらえ方・調べ方」で、小学校で学習した歴史的人物や文化遺産の写真の写真を時代の流れに沿って「歴史すごろく」として示し、歴史の大きな流れをとらえられるようにするとともに、「歴史にアプローチ」で調査、考察、まとめの仕方について説明している。</li> <li>○ 見開き2ページの右下に「確認」と「表現」を設定し、学習した内容の歴史的背景を整理し、「学習課題」に対する自分の考えを説明するよう促している。 各章末の「学習のまとめと表現」で各時代の特色や歴史的事象についてまとめた上で、その時代の特色を自分なりの言葉で説明するようになっている。</li> <li>○ 巻末の「歴史学習の終わりに」では、持続可能な開発目標（SDGs）についてふれるとともに、持続可能な未来の実現に向けて、自分たちにできることについて考えられるようにしている。</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1部「歴史のとらえ方と調べ方」で、小学校で学習した歴史的人物や文化遺産のイラストを時代の流れに沿って示し、歴史の大きな流れをとらえられるようにするとともに、情報の集め方や地図・年表の作り方、調査の仕方、レポートのまとめ方、発表の仕方について説明している。</li> <li>○ 見開き2ページの右下に「確認しよう」と「説明しよう」を設定し、学習した内容の整理と、その時間の学習課題に対する自分の考えを説明するよう促している。 「多面的・多角的に考えてみよう」で、赤穂事件について、助命派・厳罰派のそれぞれの理由を考え、説明したり話し合ったりするようになっている。</li> <li>○ 巻末の「未来に向けて」では、社会的な課題の歴史的経緯を整理した上で、自分たちがどのような社会をめざすのかについて、未来へのメッセージを書くことで主体的に考えられるようにしている。</li> </ul>

山 川	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各章のはじめに、これから学習する時代の日本と世界の出来事を年表で示し、大きな流れをつかむようにしている。第1章「歴史との対話」で、身近な地域の歴史の調べ方やレポートのまとめ方、発表の仕方について説明している。</li> <li>○ 見開き2ページの右下に、「ステップアップ」を設定し、問いの形を取りながら、本時の学習をふまえてさらに深く考えたいことや、その後の歴史への影響について考えるよう促している。 「歴史を考えよう」で取りあげた歴史的資料や史跡などから課題を話し合い、考察しながら学ぶようにしている。</li> <li>○ 巻末の「まとめ」では、現在の世界がどこへ向かっているのか、解決すべき問題は何か、そしてその解決策を考えるように促し、よりよい社会の実現に向けて主体的に追究、解決しようとする態度につながるようにしている。</li> </ul>
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1編「私たちと歴史」で、小学校で学習した歴史的人物のイラストや文化遺産の写真を時間の流れに沿って示し、歴史の大きな流れをとらえられるようにするとともに、歴史を大きく変えた人物を調べることを通して、調べ学習のポイントや、対話の仕方、まとめ方について説明している。</li> <li>○ 見開き2ページの右下に、「確認」を設定し、歴史的事象の原因と結果について説明するよう促している。 「チャレンジ歴史」で、足尾鉍毒事件の学習の中で、事実を整理した上で自分の考えをまとめ、クラスのみなどと意見交換をするようにしている。</li> <li>○ 巻末の「歴史との対話を未来に活かす」では、現代社会における課題の解決に向けて、どのように考えていけばよいのかについて、災害や政治参加、世界平和の3つの課題例を紹介し、学習課題に対して段階を追って自分の考えを持つことができるようにしている。</li> </ul>
育 鵬 社	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 序章「歴史探検」で、小学校で学習した歴史的人物や資料について見開き2ページの年表にまとめる形で歴史の流れをふりかえるようにするとともに、「地域の歴史を調べてみよう①」で、調査の仕方、レポートのまとめ方、発表の仕方について説明している。</li> <li>○ 見開き2ページの右下に「学習のまとめ（鉛筆マーク）」を設定し、学習したことの整理をするとともに、学習課題に対する自分の考えを説明するよう促している。 「歴史のターニングポイント」で、「仏教を受け入れるか受け入れないか」をテーマに、それぞれの立場からの意見をまとめ話し合うようにしている。</li> <li>○ 巻末の「歴史学習のまとめ」では、歴史学習で学んだことをどのように生かしていくかについて自分の考えをまとめることを促し、主体的に課題を解決しようとする態度につながるようにしている。</li> </ul>

【資料1 歴史】

学び舎	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 巻末の年表で、日本の社会、政治、経済、文化、宗教の流れや関連する資料を掲載するとともに、同時代の世界の動きを見開きの形にして示している。「歴史を体験する」で地域の歴史について調べ方やまとめ方について説明している。</li><li>○ 各章のふりかえりでは、学習したことを年表や地図に整理するとともに、印象に残ったことなど自分の考えを理由とともに書き、説明するよう促している。「歴史を体験する」で、「『学問のすゝめ』をどう読むか」をテーマに、福沢諭吉の主張に賛成か反対かについて討論するようになっている。</li><li>○ 巻末の「学習のまとめ」では公害や戦争と平和について、歴史の学習で学んだことと現代とをつなげて意見交換をすることを促し、よりよい日本の社会と世界の実現に向けて主体的に課題を解決しようとする態度につながるようになっている。</li></ul>
-----	---

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ 国際協調や国際平和について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが人権尊重の観点において配慮されており、生徒が認識を深められるよう工夫されている。本文やコラムにおいて、人権課題を複数取りあげながら、人権について考えられるようにしている。</li> <li>○ 古代から現代にわたって他国との交流や平和についての歴史的事項や人物が取りあげられている。例えば、朝鮮通信使や杉原千畝、国連平和維持活動などが紹介されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすく分かりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが人権尊重の観点において配慮されており、生徒が認識を深められるよう工夫されている。本文やコラムにおいて、人権課題を多く取りあげながら、人権について考えられるようにしている。</li> <li>○ 古代から現代にわたって他国との交流や平和についての歴史的事項や人物が取りあげられている。例えば、朝鮮通信使や杉原千畝、国連平和維持活動などが紹介されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすく分かりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが人権尊重の観点において配慮されており、生徒が認識を深められるよう工夫されている。本文やコラムにおいて、人権課題を複数取りあげながら、人権について考えられるようにしている。</li> <li>○ 古代から現代にわたって他国との交流や平和についての歴史的事項や人物が取りあげられている。例えば、朝鮮通信使や杉原千畝、国連平和維持活動などが紹介されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすく分かりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>

【資料1 歴史】

山 川	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが人権尊重の観点において配慮されており、生徒が認識を深められるよう工夫されている。本文やコラムにおいて、人権課題を取りあげながら、人権について考えられるようにしている。</li> <li>○ 古代から現代にわたって他国との交流や平和についての歴史的事項が取りあげられている。例えば、朝鮮通信使や国連平和維持活動などが紹介されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすく分かりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが人権尊重の観点において配慮されており、生徒が認識を深められるよう工夫されている。本文やコラムにおいて、人権課題を多く取りあげながら、人権について考えられるようにしている。</li> <li>○ 古代から現代にわたって他国との交流や平和についての歴史的事項や人物が取りあげられている。例えば、朝鮮通信使や杉原千畝、国連平和維持活動などが紹介されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすく分かりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが人権尊重の観点において配慮されており、生徒が認識を深められるよう工夫されている。本文やコラムにおいて、人権課題を取りあげながら、人権について考えられるようにしている。</li> <li>○ 古代から現代にわたって他国との交流や平和についての歴史的事項や人物が取りあげられている。例えば、朝鮮通信使や杉原千畝、国連平和維持活動などが紹介されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすく分かりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
学び舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが人権尊重の観点において配慮されており、生徒が認識を深められるよう工夫されている。本文やコラムにおいて、人権課題を複数取りあげながら、人権について考えられるようにしている。</li> <li>○ 古代から現代にわたって他国との交流や平和についての歴史的事項が取りあげられている。例えば、朝鮮通信使や国連平和維持活動などが紹介されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすく分かりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>



項目	観 点
3 内容の程度	生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。 ○ 文章の記述や分量について ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について

発行者	事 項
東 書	○ 生徒の発達段階に応じた文の量と分かりやすい表現で記述されており、歴史的 事象の意味や意義、事象間のつながりが丁寧に説明されている。また、「基礎・ 基本のまとめ」や「まとめの活動」では、課題を解決していくためのヒントをキ ャクターの発言で示している。 重要語句については、本文上で太字にし、必要に応じて資料番号をつけ、同ペ ージの本文外で、その語句について補説している。  ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、歴史的な見方・考え方のポイントを示 すなど、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。
教 出	○ 生徒の発達段階に応じた文の量と分かりやすい表現で記述されており、歴史的 事象の意味や意義、事象間のつながりが丁寧に説明されている。また、資料を読 み解くヒントをキャラクターの発言で示している。 重要語句については、本文上で太字にし、必要に応じて資料番号をつけ、側注 や「解説」による説明を設けている。  ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、読み解く視点を問いの形で示すなど、 生徒の発達段階を考慮した内容となっている。
帝 国	○ 生徒の発達段階に応じた文の量と分かりやすい表現で記述されており、歴史的 事象の意味や意義、事象間のつながりが丁寧に説明されている。また、学習課題 の解決につながるポイントをキャラクターの発言で示している。 重要語句については、本文上で太字にし、必要に応じて「解説」のコーナーが 側注欄に設けられ、その語句について補説している。  ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、例えば「タイムトラベル」ではイラ ストの内容を本文ページの学習と関連させるなど、生徒の発達段階を考慮した内 容となっている。
山 川	○ 生徒の発達段階を考慮した文の量になっており、本文の文章は常体で記述され、 歴史的な事象の意味や意義、事象間のつながりが丁寧に説明されている。また、資 料を読みとるポイントに気づく発問を付している。 重要語句については、本文上で太字にし、側注に「用語解説」として、その語 句について補説している。  ○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、ポイントをおさえるための解説や発 問を付すなど、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。

【資料1 歴史】

<p>日 文</p>	<p>○ 生徒の発達段階に応じた文の量と分かりやすい表現で記述されており、歴史的 事象の意味や意義、事象間のつながりが丁寧に説明されている。また、資料を 読み解くヒントをキャラクターの発言で示している。 重要語句については、本文上で太字にし、必要に応じて「基本用語」のコー ナーが側注欄に設けられ、その語句について補説している。</p> <p>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、その読み取りから導き出した学習の めあてを示すなど、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</p>
<p>育鵬社</p>	<p>○ 生徒の発達段階に応じた文の量と分かりやすい表現で記述されており、歴史的 事象の意味や意義、事象間のつながりが丁寧に説明されている。また、資料を 読み解くヒントをキャラクターの発問で示している。 重要語句については、本文上で太字にし、同ページの本文外にその語句につ いて補説している。</p> <p>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、読み取りの視点を示すなど、生徒の 発達段階を考慮した内容となっている。</p>
<p>学び舎</p>	<p>○ 生徒の発達段階に応じた文の量と分かりやすい表現で記述されており、歴史的 事象の意味や意義、事象間のつながりが丁寧に説明されている。 重要語句については、必要に応じて側注欄にその語句について補説している。</p> <p>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容とな っている。</p>

項目	観 点
4 組織・配列	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ 単元構成について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「歴史へのとびら」「古代までの日本」「中世の日本」「近世の日本」「開国と近代日本の歩み」「二度の世界大戦と日本」「現代の日本と私たち」の順番で構成されている。各章はじめの「年表」で同時代の世界の様子が紹介され、世界の動きの中での日本をとらえられるよう工夫している。</li> <li>○ 単元全体を貫く「探究課題」を立てる「導入の活動」、「本文」、1単位時間ごとの「学習課題」を解決しながら進める「問いの追究」、「探究課題」を解決する「まとめの活動」という流れで単元が構成されている。</li> <li>○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページ配置がされている。また、「集める」「読み取る」「まとめる」というコーナーで、学習場面に応じた学び方が示されている。 他教科との関連については教科関連マーク、他分野との関りがある内容には「公民・地理・歴史マーク」が示されている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「歴史のとらえ方・調べ方」「原始・古代の日本と世界」「中世の日本と世界」「近世の日本と世界」「日本の近代化と国際社会」「二度の世界大戦と日本」「現代の日本と世界」の順番で構成されている。各章終わりの「学習のまとめと表現」で同時代の世界の様子が見開きで地図とともに紹介され、世界の動きの中での日本をとらえられるよう工夫している。</li> <li>○ 各章の学習を見通す「学習を始めよう」、「本文」、本編のページに設けられた「確認/表現」・「読み解こう」のコーナー、「歴史の技」「歴史の窓」などのコラム、各章終わりの「学習のまとめと表現」という流れで単元が構成されている。</li> <li>○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページ配置がされている。また、「歴史の技」での「○○を読み解こう」や「Q」において、学習場面に応じた学び方が示されている。 「歴史を探ろう」という特設ページの下段には、他分野との関連マークが設けられ、地理的分野、公民的分野との接続ができるよう、関連用語が提示されている。</li> </ul>

【資料1 歴史】

<p>帝 国</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第1部「歴史のとらえ方と調べ方」と、第2部「歴史の大きな流れと時代の移り変わり」「古代国家の成立と東アジア」「武家政権の成長と東アジア」「武家政権の展開と世界の動き」「近代国家の歩みと国際社会」「二度の世界大戦と日本」「現在に続く日本と世界」の順番で構成されている。「やってみよう」で同時代の世界の様子が見開きで地図とともに紹介され、世界の動きの中での日本をとらえられるよう工夫している。</li> <li>○ 時代の特色が一望できる「タイムトラベル」、章・節ごとの単元を貫く問い、歴史の流れがわかる本文、単元最後の「節の問いを振り返ろう」「章の問いを振り返ろう」という流れで単元が構成されている。</li> <li>○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページ配置がされている。また、「技能を磨く」において、学習場面に応じた学び方が示されている。 本文ページ下段には、「小学校・地理・公民との関連」コーナーが設けられ、地理的分野、公民的分野との接続ができるよう、関連用語が提示されている。</li> </ul>
<p>山 川</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「歴史との対話」「古代までの日本」「中世の日本」「近世の日本」「近代の日本と国際関係」「二つの世界大戦と日本」「現代の日本と世界」の順番で構成されている。各章の「〇〇世紀の世界」で同時代の世界の様子が見開きで地図とともに紹介され、世界の動きの中での日本をとらえられるよう工夫している。</li> <li>○ 時代の流れをつかむ「導入」、「本文」、課題を迫及する「ステップアップ」、各章末の「まとめ」によるふりかえりという流れで単元が構成されている。</li> <li>○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページ配置がされている。また、「歴史を考えよう」において、学習場面に応じた学び方が示されている。 地理的分野や公民的分野とのつながりを目的として、側注のコラムや歴史資料で関連事項を取りあげている。</li> </ul>
<p>日 文</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「私たちと歴史」「古代までの日本と世界」「中世の日本と世界」「近世の日本と世界」「近代の日本と世界」「現代の日本と世界」の順番で構成されている。各章はじめの「地図で見る世界の動き」で同時代の世界の様子が見開きで地図とともに紹介され、世界の動きの中での日本をとらえられるよう工夫している。</li> <li>○ 時代を見通す「導入」、「本文」、資料をもとに考える「チャレンジ歴史」、学習の幅を広げる「歴史を掘り下げる」、学習した時代の特色を考える「学習の整理と活用」という流れで単元が構成されている。</li> <li>○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページ配置がされている。また、「深めよう」において、学習場面に応じた学び方が示されている。 本文ページ脚注には、「連携コーナー」が設けられ、地理的分野、公民的分野に関わる事項を確認、活用することができるよう工夫されている。</li> </ul>

育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「序章」、第1部「原始と古代の日本」「中世の日本」「近世の日本」、第2部「近代の日本と世界」「二度の世界大戦と日本」「現代の日本と世界」の順番で構成されている。各章の「このころ世界は」で同時代の世界の様子が見開きで地図とともに紹介され、世界の動きの中での日本をとらえられるよう工夫している。</li> <li>○ 各章の導入「○○の世界へようこそ!」「本文」「歴史のターニングポイント」「私の歴史博物館をデザインしてみよう」「学習のまとめ」という流れで単元が構成されている。</li> <li>○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページ配置がされている。また、「歴史ズームイン」において、学習場面に応じた学び方が示されている。</li> </ul>
学び舎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「歴史への案内」「原始・古代」「中世」「近世」「近代」「二つの世界大戦」「現代」の順番で構成されている。各章のはじめで同時代の世界の様子が見開きで地図とともに紹介され、世界の動きの中での日本をとらえられるよう工夫している。</li> <li>○ 各章は「章の扉」「本文」「章をふりかえる」を流れとし、部末には「学習のまとめ」を配置するという形で単元が構成されている。</li> <li>○ 本文がページの中央、資料が周りというようにページ配置がされている。</li> </ul>

【資料1 歴史】

項目	観 点
5 創意工夫	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会との関わりを意識した課題解決的な学習展開について</li> <li>○ 関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動について</li> <li>○ 考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりする活動について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>全編にわたり、時代の特色について、「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」などに着目して、「多面的・多角的な考察」や「公正な判断」、「説明・議論」をすることについて工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他教科・他分野との関連を含めて、社会的事象や現代的諸課題について、より深く理解し、課題解決的な学習ができるよう工夫されている。例えば、第7章「現代の日本と私たち」では、持続可能な開発目標（SDGs）を取りあげ、現代的な諸課題をとらえ、その課題解決に向けた構想ができるよう学習展開が示されている。</li> <li>○ 「身近な地域の歴史を調べよう」では、歴史的な見方・考え方を働かせ、博物館や図書館に調べに行ったり、学芸員の方への取材の仕方、まとめ方等を説明している。また、「集める」「読み取る」「まとめる」のコーナーを設け、情報の収集や読み取ったことをまとめるよう促している。</li> <li>○ 「まとめの活動」では、その時代の風潮や時代の特色をふまえ、様々なチャート図を活用して情報を整理するとともに、生徒が自分なりの考えを持ち、根拠を持って説明・議論できるよう工夫されている。</li> </ul>
教 出	<p>全編にわたり、時代の特色について、「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」などに着目して、「多面的・多角的な考察」や「公正な判断」、「説明・議論」をすることについて工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他教科・他分野との関連を含めて、社会的事象や現代的諸課題について、より深く理解し、課題解決的な学習ができるよう工夫されている。例えば、「歴史学習の終わりに」では、それまでの歴史学習をふまえて、現代の課題を考察し、未来を構想する学習の中で、持続可能な開発目標（SDGs）の観点から考えるなど、課題解決的な学習展開が示されている。</li> <li>○ 巻頭の「歴史にアプローチ」や各本文見開き2ページ右下の「確認」「表現」で、関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動を示している。また、「歴史の技」のコーナーを設け、個人やグループでの活動を通じて、情報の収集や読み取ったことをまとめるよう促している。</li> <li>○ 「学習のまとめと表現」で、その時代の風潮や時代の特色をふまえ、生徒が自分なりの考えを持ち、根拠を持って説明・議論できるよう工夫されている。</li> </ul>

<p>帝 国</p>	<p>全編にわたり、時代の特色について、「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」などに着目して、「多面的・多角的な考察」や「公正な判断」、「説明・議論」をすることについて工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他教科・他分野との関連を含めて、社会的事象や現代的諸課題について、より深く理解し、課題解決的な学習ができるよう工夫されている。例えば、「未来に向けて」というコラムで持続可能な開発目標（SDGs）に関連する項目にSDGsマークが付され、社会的な課題として主体的・対話的に考えるよう学習展開が示されている。</li> <li>○ 第1部第2節「歴史の調べ方・まとめ方・発表のしかた」では、調査テーマの決め方、調査手順、必要な技能が系統立てて具体的に示されている。また、「技能をみがく」というコーナーを設け、情報の収集や読み取ったことをまとめるよう促している。</li> <li>○ 本文ページの見開き右下には、「確認しよう」「説明しよう」が設置され、本時の学習での習得事項を確認する作業課題や、学習内容を活用して思考することを促し、自分なりに判断・表現する問いを設けるなど工夫されている。</li> </ul>
<p>山 川</p>	<p>全編にわたり、時代の特色について、「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」などに着目して、「多面的・多角的な考察」や「公正な判断」、「説明・議論」をすることについて工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他教科・他分野との関連を含めて、社会的事象や現代的諸課題について、より深く理解し、課題解決的な学習ができるよう工夫されている。例えば、第7章「まとめ」では、それまでの学習をふまえて、現在の世界の解決すべき問題を考察し、その問題の具体的な解決策について考えるようにするなど、課題解決的な学習展開が示されている。</li> <li>○ 第1章「身近な地域を調べよう」や各章に設定されている「地域からのアプローチ」のコラムでは、各地の博物館や郷土資料館の取組みを紹介するとともに、地元の施設への見学・調査を示している。また、資料に発問を付すことで、情報の収集や読み取ったことをまとめるよう促している。</li> <li>○ 「歴史を考えよう」「地域からのアプローチ」では、課題や発問を付すことで、グループ活動を通して意見を交換したりする力を身に付けられるよう工夫されている。</li> </ul>

【資料1 歴史】

<p>日 文</p>	<p>全編にわたり、時代の特色について、「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」などに着目して、「多面的・多角的な考察」や「公正な判断」、「説明・議論」をすることについて工夫されている。</p> <p>○ 他教科・他分野との関連を含めて、社会的事象や現代的諸課題について、より深く理解し、課題解決的な学習ができるよう工夫されている。例えば、「先人に学ぶ」「チャレンジ歴史」「歴史との対話」を未来に活かす」では、課題解決に取り組んだ先人の姿から学び、持続可能な開発目標（SDGs）の実現に向けて考えることができるよう学習展開が示されている。</p> <p>○ 「資料活用コーナー」では、必要な情報の読み取りなどの技能を、「スキルUP」では、社会的事象等について調べ、まとめる活動が示されている。また、「収集する・読み取る・まとめる」の3つの段階に対応した事例を紹介し、情報の収集や読み取ったことをまとめるよう促している。</p> <p>○ 「チャレンジ歴史」では、資料をもとに、歴史について自分で考えたことをまとめ、意見交換ができるよう工夫されている。</p>
<p>育鵬社</p>	<p>全編にわたり、時代の特色について、「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」などに着目して、「多面的・多角的な考察」や「公正な判断」、「説明・議論」をすることについて工夫されている。</p> <p>○ 他教科・他分野との関連を含めて、社会的事象や現代的諸課題について、より深く理解し、課題解決的な学習ができるよう工夫されている。例えば、見開きの右下にある「鉛筆マーク」では、現代の日本の課題やその解決に向けてどうすればいいのかについて話し合う学習展開が示されている。</p> <p>○ 「歴史ズームイン」では、多様な資料の提示により、社会的事象をさまざまな角度からとらえ、まとめる技能を身に付けられるようにしている。また、「私の歴史博物館をデザインしてみよう」のコーナーを設け、情報の収集や読み取ったことをまとめるよう促している。</p> <p>○ 「歴史のターニングポイント」では、各時代を代表するできごとについて、様々な資料をもとに詳しく掘り下げて考え、議論するよう工夫されている。</p>
<p>学び舎</p>	<p>全編にわたり、時代の特色について、「時期や年代」「推移」「比較」「相互の関連」「現在とのつながり」などに着目して、「多面的・多角的な考察」や「公正な判断」、「説明・議論」をすることについて工夫されている。</p> <p>○ 他教科・他分野との関連を含めて、社会的事象や現代的諸課題について、より深く理解し、課題解決的な学習ができるよう工夫されている。例えば、「第6部」の本文で、持続可能な開発目標（SDGs）について記述するとともに、「学習のまとめ」では、国際社会の課題をテーマに、日本ができることを考えたり、歴史と現代をつなげて考えたりする学習展開が示されている。</p> <p>○ 「歴史への案内4」では、地域の歴史について調べるにあたり、博物館やフィールドワークでの調べ方及び地図でのまとめ方の例を示している。また、様々な発見や疑問が出るように資料を提示することにより、情報の収集や読み取ったことをまとめるよう促している。</p> <p>○ 「第○章をふりかえる」では、学習したことについて、自分で考えたことをまとめ発表したり、意見交換したりできるよう工夫されている。</p>



項目	観 点
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わったりできるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
東 書	<p>○ 各単元末の「基礎・基本のまとめ」では、その時代の特色を前時代と比較しながらまとめたり、自分ならどのように考えるかについて問いかけるなど、学びをふりかえることができるよう配慮されている。</p> <p>「もっと歴史」では、SDGsの達成につなげて考えられるよう、エネルギーや防災・安全について取りあげ、現代的な諸課題の解決に主体的に取り組むよう取り扱われている。</p> <p>「二次元コード」や「Dマーク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
教 出	<p>○ 各章末の「学習のまとめと表現」では、図や語句を用いて整理する活動、「思考ツール」（新聞づくり・表・関係図）などを用いて考えを表現する活動、章全体を貫く「問い」に回答する活動をとおして、各章の学習をまとめられるよう配慮されている。</p> <p>「歴史学習の終わりに」では、今日的な課題とその解決について、SDGs（持続可能な開発目標）達成の観点から探究・構想し、まとめる活動を取り入れるなど、生徒が主体的に関わることができるよう取り扱われている。</p> <p>「二次元コード（まなびリンク）」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
帝 国	<p>○ 各章末の「章の学習を振り返ろう」では、学習した知識の確認とともに、「章の問い」に対して自分の考えを「ステップ1～3」の段階を追って説明できるよう配慮されている。</p> <p>「未来に向けて」というコラムでは、未来の社会をつくるために参考となる先人たちの取組みを紹介し、多様な立場や異なる見方を学び、現代的な諸課題の解決に主体的に取り組むことができるよう取り扱われている。</p> <p>「二次元コード」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
山 川	<p>○ 各章末の「まとめ」では、学習した単元全体の推移・因果関係などに着目したり、比較したりするための発問があり、各時代の流れ・特徴を確認できるよう配慮されている。</p> <p>「歴史を考えよう⑦」では、身近で大切な憲法や選挙を取りあげて、思考力を養い、これからの社会に主体的に関わることを考えるよう取り扱われている。</p> <p>「二次元コード（くわしく見てみよう）」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>

【資料1 歴史】

<p>日 文</p>	<p>○ 各章末の「学習の整理と活用」では、年表と地図を使って学習のふりかえりができるようにするとともに、「アクティビティ」で、習得した知識を関連させて時代の特色をとらえる課題学習を示すなど配慮されている。</p> <p>「『歴史との対話』を未来に活かす」では、災害、政治参加、世界平和の3つのテーマを示し、課題の解決に向けて主体的に関わる姿勢につながるよう取り扱われている。</p> <p>「デジタルマーク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
<p>育鵬社</p>	<p>○ 各章末の「学習のまとめ」では、学習した時代を他の時代との共通点や相違点に着目しながら、言葉や表で表すことなどによって時代の特色をとらえられるよう配慮されている。</p> <p>「歴史のターニングポイント」では、「もし私がその時代を生きていたらどんなことを考えたのか」について問いかけ、議論することを促すなど、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わる姿勢につながるよう取り扱われている。</p>
<p>学び舎</p>	<p>○ 各部末の「学習のまとめ」では、表や地図の活用により、学習内容を比較させたり関連させたりして、ふりかえられるよう配慮されている。</p> <p>「現代の日本と世界」の内容を多く記載し、歴史を今日の課題と結びつけ、よりよい社会の実現に向けて考えられるよう取り扱われている。</p>

## ○ 教科書ごとの各時代のページ数とその割合 (%)

	東書		教出		帝国		山川		日文		育鵬社		学び舎	
	頁数	割合 (%)	頁数	割合 (%)	頁数	割合 (%)	頁数	割合 (%)	頁数	割合 (%)	頁数	割合 (%)	頁数	割合 (%)
歴史の捉え方	12	3.9%	17	5.3%	14	4.5%	9	3.0%	8	2.4%	11	3.4%	6	1.9%
古代までの日本	44	14.3%	42	13.2%	44	14.2%	48	16.2%	50	14.9%	50	15.6%	44	14.3%
中世の日本	36	11.7%	36	11.3%	36	11.6%	40	13.5%	42	12.5%	34	10.6%	32	10.4%
近世の日本	50	16.2%	50	15.7%	54	17.4%	52	17.6%	52	15.5%	52	16.3%	50	16.2%
近代の日本と世界	102	33.1%	108	34.0%	108	34.8%	100	33.8%	104	31.0%	102	31.9%	110	35.7%
現代の日本と世界	34	11.0%	35	11.0%	30	9.7%	30	10.1%	38	11.3%	33	10.3%	35	11.4%
その他	30	9.7%	30	9.4%	24	7.7%	17	5.7%	42	12.5%	38	11.9%	31	10.1%
合計	308	100%	318	100%	310	100%	296	100%	336	100%	320	100%	308	100%

## ○ 索引に掲載されている人物数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
原始・古代	39	46	36	49	38	53	38
中世	69	62	56	65	52	61	43
近世	79	95	56	106	53	120	55
近代	140	150	137	135	121	167	104
現代	36	39	36	28	16	53	19
合計	363	392	321	383	280	454	259

## ○ 索引に掲載されている歴史的事項数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
原始・古代	236	197	160	184	147	221	203
中世	199	180	162	150	117	168	183
近世	268	201	190	240	117	229	234
近代	414	334	289	331	229	307	392
現代	179	148	119	130	101	126	159
合計	1296	1060	920	1035	711	1051	1171

## ○ 本文中（見開き2ページ）に掲載されている地図数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
原始・古代	19	16	16	16	17	17	24
中世	10	9	12	9	15	10	12
近世	16	10	14	15	16	11	13
近代	30	29	30	28	32	29	31
現代	7	5	8	5	7	3	11
合計	82	69	80	73	87	70	91

## ○ 本文中（見開き2ページ）に掲載されている図・表数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
原始・古代	8	8	6	6	6	7	5
中世	12	8	10	16	9	10	3
近世	5	3	3	6	3	5	0
近代	12	11	13	11	14	8	10
現代	3	1	0	6	2	1	3
合計	40	31	32	45	34	31	21

## ○ 本文中（見開き2ページ）に掲載されているグラフ数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
原始・古代	0	0	1	0	0	1	0
中世	0	0	0	0	1	0	0
近世	5	6	7	4	10	6	4
近代	21	27	30	31	28	23	15
現代	9	8	10	8	15	8	3
合計	35	41	48	43	54	38	22

## 【資料2 歴史】

○ 写真・絵（人物以外）が掲載されている箇所数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
原始・古代	94	82	115	152	138	122	111
中世	71	64	72	121	51	60	73
近世	127	98	134	129	128	101	125
近代	193	176	197	109	148	158	218
現代	72	75	58	57	92	79	70
合計	557	495	576	568	557	520	597

○ 人物画（写真）が掲載されている箇所数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
原始・古代	10	15	20	13	19	14	11
中世	14	18	34	16	22	17	13
近世	21	19	29	26	29	41	17
近代	70	74	93	73	75	107	51
現代	11	10	18	14	18	17	13
合計	126	136	194	142	163	196	105

○ 文書資料が掲載されている箇所数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
原始・古代	10	7	10	12	6	5	5
中世	14	9	11	12	10	8	10
近世	13	6	12	15	9	8	6
近代	41	24	37	19	29	21	32
現代	8	4	4	6	6	2	11
合計	86	50	74	64	60	44	64

○ 年表資料が掲載されている箇所数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
原始・古代	1	0	3	2	11	3	1
中世	2	1	2	3	10	1	0
近世	2	1	1	3	14	2	0
近代	4	4	4	6	37	6	3
現代	4	1	2	2	7	5	6
合計	13	7	12	16	79	17	10

○ 大阪についての記述箇所数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
原始・古代	2	1	2	2	2	4	3
中世	2	2	3	1	2	4	4
近世	12	12	8	8	8	11	11
近代	4	3	5	2	6	0	2
現代	1	3	2	1	4	3	2
合計	21	21	20	14	22	22	22

○ 総合年表・各章のまとめ・特設ページ（発展的学習）等のページ数

	東書	教出	帝国	山川	日文	育鵬社	学び舎
総合年表	18	17	13	12	22	19	12
各章のまとめ	24	12	12	12	12	12	13
特設ページ（発展的学習）	78	68	99	90	98	101	51
教科書書込み課題	24	12	24	14	18	22	21
話し合い活動の課題	35	9	12	6	4	13	18

## 社会（公民的分野）

学習指導要領（社会・公民的分野）・・・・・・・・・・・・・ 1～6  
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7～17  
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18～21

発行者の 番号・略号	書名	著作者	資料中 の表記
2 東書	新しい社会 公民	谷口 将紀 矢ヶ崎 典隆 坂上 康俊 ほか108名	東書
17 教出	中学社会 公民 ともに生きる	成田 喜一郎 ほか27名	教出
46 帝国	社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して	江口 勇治 ほか16名	帝国
116 日文	中学社会 公民的分野	野間 敏克 ほか61名	日文
225 自由社	新しい公民教科書	小山 常実 ほか10名	自由社
227 育鵬社	[最新] 新しいみんなの公民	川上 和久 ほか25名	育鵬社



## 第2章 各教科

### 第2節 社会

#### 第1 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史，現代の政治，経済，国際関係等に関して理解するとともに，調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

#### 第2 各分野の目標及び内容

##### 〔地理的分野〕

※本資料、社会（地理的分野）の「地1～地6」に記載

##### 〔歴史的分野〕

※本資料、社会（歴史的分野）の「歴1～歴8」に記載

##### 〔公民的分野〕

#### 1 目標

現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義，特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し，民主主義，民主政治の意義，国民の生活の向上と経済活動との関わり，現代の社会生活及び国際関係などについて，個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに，諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり，現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 現代の社会的事象について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される，国民主権を担う公民として，自国を愛し，その平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し，各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

#### 2 内容

## A 私たちと現代社会

### (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色

位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解すること。

(イ) 現代社会における文化の意義や影響について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現すること。

### (2) 現代社会を捉える枠組み

対立と合意、効率と公正などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解すること。

(イ) 人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現すること。

## B 私たちと経済

### (1) 市場の働きと経済

対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解すること。

(イ) 市場経済の基本的な考え方について理解すること。その際、市場における価格の決め方や資源の配分について理解すること。

(ウ) 現代の生産や金融などの仕組みや働きを理解すること。

(エ) 勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の本質について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 個人や企業の経済活動における役割と責任について多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善について多面的・多角的に考察し、表現すること。

### (2) 国民の生活と政府の役割

対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 社会資本の整備、公害の防止など環境の保全、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、消費者の保護について、それらの意義を理解すること。

(イ) 財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解すること。

イ 国民の生活と福祉の向上を図ることに向けて、次のような思考力、判断力、表現力等



を身に付けること。

(ア) 市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関して、国や地方公共団体が果たす役割について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

(イ) 財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し，表現すること。

## C 私たちと政治

### (1) 人間の尊重と日本国憲法の基本的原則

対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 人間の尊重についての考え方を，基本的人権を中心に深め，法の意義を理解すること。

(イ) 民主的な社会生活を営むためには，法に基づく政治が大切であることを理解すること。

(ウ) 日本国憲法が基本的人権の尊重，国民主権及び平和主義を基本的原則としていることについて理解すること。

(エ) 日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事に関する行為について理解すること。

イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 我が国の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意義について多面的・多角的に考察し，表現すること。

### (2) 民主政治と政治参加

対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解すること。

(イ) 議会制民主主義の意義，多数決の原理とその運用の在り方について理解すること。

(ウ) 国民の権利を守り，社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解すること。

(エ) 地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際，地方公共団体の政治の仕組み，住民の権利や義務について理解すること。

イ 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて，次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。

(ア) 民主政治の推進と，公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し，表現すること。

## D 私たちと国際社会の諸課題

### (1) 世界平和と人類の福祉の増大

対立と合意，効率と公正，協調，持続可能性などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 世界平和の実現と人類の福祉の増大のためには，国際協調の観点から，国家間の相互の主権の尊重と協力，各国民の相互理解と協力及び国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを理解すること。その際，領土（領海，領空を含む。），国家主権，国際連合の働きなど基本的な事項について理解すること。

(イ) 地球環境，資源・エネルギー，貧困などの課題の解決のために経済的，技術的な協

力などが大切であることを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 日本国憲法の平和主義を基に、我が国の安全と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

(2) よりよい社会を目指して

持続可能な社会を形成することに向けて、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を探究する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を多面的・多角的に考察、構想し、自分の考えを説明、論述すること。

### 3 内容の取扱い

(1) 内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

ア 地理的分野及び歴史的な分野の学習の成果を活用するとともに、これらの分野で育成された資質・能力が、更に高まり発展するようにすること。また、社会的な事象は相互に関連し合っていることに留意し、特定の内容に偏ることなく、分野全体として見通しをもったまとまりのある学習を展開できるようにすること。

イ 生徒が内容の基本的な意味を理解できるように配慮し、現代社会の見方・考え方を働かせ、日常の社会生活と関連付けながら具体的事例を通して、政治や経済などに関わる制度や仕組みの意義や働きについて理解を深め、多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにすること。

ウ 分野全体を通して、課題の解決に向けて習得した知識を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察、構想したことを説明したり、論拠を基に自分の意見を説明、論述させたりすることにより、思考力、判断力、表現力等を養うこと。また、考察、構想させる場合には、資料を読み取らせて解釈させたり、議論などを行って考えを深めさせたりするなどの工夫をすること。

エ 合意形成や社会参画を視野に入れながら、取り上げた課題について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて表現できるよう指導すること。

オ 分野の内容に関係する専門家や関係諸機関などと円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動を充実させること。

(2) 内容のAについては、次のとおり取り扱うものとする。

ア (1)については、次のとおり取り扱うものとする。

(ア) 「情報化」については、人工知能の急速な進化などによる産業や社会の構造的な変化などと関連付けたり、災害時における防災情報の発信・活用などの具体的事例を取り上げたりすること。アの(イ)の「現代社会における文化の意義や影響」については、科学、芸術、宗教などを取り上げ、社会生活との関わりなどについて学習できるように工夫すること。

(イ) イの(イ)の「文化の継承と創造の意義」については、我が国の伝統と文化などを取り扱うこと。

イ (1)及び(2)については公民的分野の導入部として位置付け、(1)、(2)の順で行うものとし、適切かつ十分な授業時数を配当すること。

(3) 内容のBについては、次のとおり取り扱うものとする。

ア (1)については、次のとおり取り扱うものとする。

(ア) アの(イ)の「市場における価格の決め方や資源の配分」については、個人や企業の経済活動が様々な条件の中での選択を通して行われていることや、市場における取引が貨幣を通して行われていることなどを取り上げること。

(イ) イの(ア)の「個人や企業の経済活動における役割と責任」については、起業について触れるとともに、経済活動や起業などを支える金融などの働きについて取り扱うこ

- と。イのイの「社会生活における職業の意義と役割及び雇用と労働条件の改善」については、仕事と生活の調和という観点から労働保護立法についても触れること。
- イ (2)については、次のとおり取り扱うものとする。
- (ア) アの(ア)の「消費者の保護」については、消費者の自立の支援なども含めた消費者行政を取り扱うこと。
- (イ) イの(イ)の「財政及び租税の役割」については、財源の確保と配分という観点から、財政の現状や少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて考察し、表現させること。
- (4) 内容のCについては、次のとおり取り扱うものとする。
- ア (2)のアの(ウ)の「法に基づく公正な裁判の保障」に関連させて、裁判員制度についても触れること。
- (5) 内容のDについては、次のとおり取り扱うものとする。
- ア (1)については、次のとおり取り扱うものとする。
- (ア) アの(ア)の「国家間の相互の主権の尊重と協力」との関連で、国旗及び国歌の意義並びにそれらを相互に尊重することが国際的な儀礼であることの理解を通して、それらを尊重する態度を養うように配慮すること。また、「領土（領海，領空を含む。），国家主権」については関連させて取り扱い，我が国が，固有の領土である竹島や北方領土に関し残されている問題の平和的な手段による解決に向けて努力していることや，尖閣諸島をめぐる解決すべき領有権の問題は存在していないことなどを取り上げること。「国際連合をはじめとする国際機構などの役割」については，国際連合における持続可能な開発のための取組についても触れること。
- (イ) イの(ア)の「国際社会における我が国の役割」に関連させて，核兵器などの脅威に触れ，戦争を防止し，世界平和を確立するための熱意と協力の態度を育成するように配慮すること。また，国際社会における文化や宗教の多様性について取り上げること。
- イ (2)については，身近な地域や我が国の取組との関連性に着目させ，世界的な視野と地域的な視点に立って探究させること。また，社会科のまとめとして位置付け，適切かつ十分な授業時数を配当すること。

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては，次の事項に配慮するものとする。
- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，分野の特質に応じた見方・考え方を働かせ，社会的事象の意味や意義などを考察し，概念などに関する知識を獲得したり，社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動の充実を図ること。また，知識に偏り過ぎた指導にならないようにするため，基本的な事柄を厳選して指導内容を構成するとともに，各分野において，第2の内容の範囲や程度に十分配慮しつつ事柄を再構成するなどの工夫をして，基本的な内容が確実に身に付くよう指導すること。
- (2) 小学校社会科の内容との関連及び各分野相互の有機的な関連を図るとともに，地理的分野及び歴史的分野の基礎の上に公民的分野の学習を展開するこの教科の基本的な構造に留意して，全体として教科の目標が達成できるようにする必要があること。
- (3) 各分野の履修については，第1，第2学年を通じて地理的分野及び歴史的分野を並行して学習させることを原則とし，第3学年において歴史的分野及び公民的分野を学習させること。各分野に配当する授業時数は，地理的分野115 単位時間，歴史的分野135 単位時間，公民的分野100 単位時間とすること。これらの点に留意し，各学校で創意工夫して適切な

指導計画を作成すること。

- (4) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
  - (5) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、社会科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 社会的な見方・考え方を働かせることをより一層重視する観点に立って、社会的事象の意味や意義、事象の特色や事象間の関連、社会に見られる課題などについて、考察したことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなどの言語活動に関わる学習を一層重視すること。
  - (2) 情報の収集、処理や発表などに当たっては、学校図書館や地域の公共施設などを活用するとともに、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用し、指導に生かすことで、生徒が主体的に調べ分かつようとして学習に取り組めるようにすること。その際、課題の追究や解決の見通しをもって生徒が主体的に情報手段を活用できるようにするとともに、情報モラルの指導にも留意すること。
  - (3) 調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける学習活動を重視するとともに、作業的で具体的な体験を伴う学習の充実を図るようにすること。その際、地図や年表を読んだり作成したり、現代社会の諸課題を捉え、多面的・多角的に考察、構想するに当たっては、関連する新聞、読み物、統計その他の資料に平素から親しみ適切に活用したり、観察や調査などの過程と結果を整理し報告書にまとめ、発表したりするなどの活動を取り入れるようにすること。
  - (4) 社会的事象については、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示するよう配慮し、多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、有益適切な教材に基づいて指導するとともに、特定の事柄を強調し過ぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げるものがないよう留意すること。
- 3 第2の内容の指導に当たっては、教育基本法第14条及び第15条の規定に基づき、適切に行うよう特に慎重に配慮して、政治及び宗教に関する教育を行うものとする。

項 目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	公民的分野の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。 <input type="radio"/> 個人と社会との関わりについての理解や社会的事象に関する情報を調べまとめる技能について <input type="radio"/> 社会的事象の意味や特色を、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりすることについて <input type="radio"/> 現代社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わろうとする態度について
2 人権の 取扱い	人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。 <input type="radio"/> 人権への配慮について <input type="radio"/> 国際協調や国際平和について <input type="radio"/> ユニバーサルデザインに関する配慮について
3 内容の程度	生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。 <input type="radio"/> 文章の記述や分量について <input type="radio"/> 写真、挿絵、図、表などの資料について
4 組織・配列	各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。 <input type="radio"/> 単元配列について <input type="radio"/> 単元構成について <input type="radio"/> ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について
5 創意工夫	地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、現代社会の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。 <input type="radio"/> 社会との関わりを意識した課題解決的な学習展開について <input type="radio"/> 関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動について <input type="radio"/> 考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりする活動について
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わったりできるよう配慮されているか。 <input type="radio"/> 資料やコラムなど

【資料1 公民】

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	公民的分野の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。 ○ 個人と社会との関わりについての理解や社会的事象に関する情報を調べまとめる技能について ○ 社会的事象の意味や特色を、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりすることについて ○ 現代社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わろうとする態度について

発行者	事 項
東 書	○ 章ごとに設定されている「探究課題」を解決することを通して、個人と社会との関わりについて理解し、社会的事象に関する情報を調べまとめる技能が身に付くよう適切な内容が取りあげられている。  ○ 「見方・考え方」や「みんなでチャレンジ」などで示された課題を通して、社会的事象の意味や特色を、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりできるよう取り扱われている。  ○ 学習したことを生かして、現代社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わろうとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。
教 出	○ 章ごとに設定されている「学習の見通し」で示された課題を解決することを通して、個人と社会との関わりについて理解し、社会的事象に関する情報を調べまとめる技能が身に付くよう取りあげられている。  ○ 「公民の技」や「言葉で伝えあおう」などで示された課題を通して、社会的事象の意味や特色を、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりできるよう取り扱われている。  ○ 学習したことを生かして、現代社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わろうとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。
帝 国	○ 章ごとに設定されている「章の問い」を課題として解決することを通して、個人と社会との関わりについて理解し、社会的事象に関する情報を調べまとめる技能が身に付くよう適切な内容が取りあげられている。  ○ 「技能を磨く」や「アクティブ公民」などで示された課題を通して、社会的事象の意味や特色を、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりできるよう取り扱われている。  ○ 学習したことを生かして、現代社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わろうとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。

日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 編ごとに設定されている「学習の始めに」から課題を解決することを通して、個人と社会との関わりについて理解し、社会的事象に関する情報を調べまとめる技能が身に付くよう適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「見方・考え方」や「アクティビティ」などで示された課題を通して、社会的事象の意味や特色を、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりできるよう取り扱われている。</li> <li>○ 学習したことを生かして、現代社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わろうとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。</li> </ul>
自由社	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章ごとに記載されている始めの問いについて、課題を解決していくことを通して、個人と社会との関わりについて理解し、社会的事象に関する情報を調べまとめる技能が身に付くよう適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「アクティブに深めよう」や「やってみよう」などで示された課題を通して、社会的事象の意味や特色を、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりできるよう取り扱われている。</li> <li>○ 学習したことを生かして、現代社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わろうとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。</li> </ul>
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章ごとに設定されている「〇〇の入り口」から課題を解決していくことを通して、個人と社会との関わりについて理解し、社会的事象に関する情報を調べまとめる技能が身に付くよう適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「学習を深めよう」や「やってみよう」などで示された課題を通して、社会的事象の意味や特色を、多面的・多角的に考察したり、公正に判断し、説明や議論したりできるよう取り扱われている。</li> <li>○ 学習したことを生かして、現代社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わろうとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。</li> </ul>

【資料1 公民】

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ 国際協調や国際平和について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>文章、写真、挿絵、図、資料などで人権への配慮がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的人権を取り扱う単元では、自由権、平等権、社会権、参政権等について扱われている。また、社会の変化に対応した新たな観点として、環境権、科学技術の発展と人権、自己決定権、知る権利、プライバシーの権利、インターネットと人権が取りあげられている。</li> <li>○ 「地球社会と私たち」の章を中心に、それぞれの単元で国際協調や国際平和について学び考えられるよう取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
教 出	<p>文章、写真、挿絵、図、資料などで人権への配慮がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的人権を取り扱う単元では、自由権、平等権、社会権、参政権等について扱われている。また、社会の変化に対応した新たな観点として、知る権利、プライバシーの権利、自己決定権が取りあげられている。</li> <li>○ 「国際社会に生きる私たち」の章を中心に、それぞれの単元で国際協調や国際平和について学び考えられるよう取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
帝 国	<p>文章、写真、挿絵、図、資料などで人権への配慮がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的人権を取り扱う単元では、自由権、平等権、社会権、参政権等について扱われている。また、社会の変化に対応した新たな観点として、プライバシーの権利、知る権利、自己決定権、環境権、外国人の権利が取りあげられている。</li> <li>○ 「国際社会」の章を中心に、それぞれの単元で国際協調や国際平和について学び考えられるよう取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>



日 文	<p>文章、写真、挿絵、図、資料などで人権への配慮がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的人権を取り扱う単元では、自由権、平等権、社会権、参政権等について扱われている。また、社会の変化に対応した新たな観点として、知る権利、プライバシーの権利、環境権、自己決定権、科学技術の発展と人権が取りあげられている。</li> <li>○ 「私たちと国際社会」の章を中心に、それぞれの単元で国際協調や国際平和について学び考えられるよう取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
自由社	<p>文章、写真、挿絵、図、資料などで人権への配慮がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的人権を取り扱う単元では、自由権、平等権、社会権、参政権等について扱われている。また、社会の変化に対応した新たな観点として、知る権利、プライバシーの権利、環境権が取りあげられている。</li> <li>○ 「国際社会」の章を中心に、それぞれの単元で国際協調や国際平和について学び考えられるよう取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
育鵬社	<p>文章、写真、挿絵、図、資料などで人権への配慮がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本的人権を取り扱う単元では、自由権、平等権、社会権、参政権等について扱われている。また、社会の変化に対応した新たな観点として、プライバシーの権利、知る権利、環境権が取りあげられている。</li> <li>○ 「国際社会」の章を中心に、それぞれの単元で国際協調や国際平和について学び考えられるよう取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>

【資料1 公民】

項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に適した文章の記述や分量となっている。例えば重要語句については太字で示されており、読み方の難しい語句についてはふりがながふられている。また、分かりにくい用語については、本文外側に解説が記されている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、本文の内容に関連付けられた効果的な資料が用いられており、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に適した文章の記述や分量となっている。例えば重要語句については太字で示されており、読み方の難しい語句についてはふりがながふられている。また、分かりにくい用語については、本文外側に解説が記されている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、本文の内容に関連付けられた効果的な資料が用いられており、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に適した文章の記述や分量となっている。例えば重要語句については太字で示されており、読み方の難しい語句についてはふりがながふられている。また、分かりにくい用語については、本文外側に解説が記されている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、本文の内容に関連付けられた効果的な資料が用いられており、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に適した文章の記述や分量となっている。例えば重要語句については太字で示されており、読み方の難しい語句についてはふりがながふられている。また、分かりにくい用語については、本文外側に解説が記されている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、本文の内容に関連付けられた効果的な資料が用いられており、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>
自由社	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に適した文章の記述や分量となっている。例えば重要語句については太字で示されており、読み方の難しい語句についてはふりがながふられている。また、分かりにくい用語については、本文外側に解説が記されている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、本文の内容に関連付けられた効果的な資料が用いられており、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>
育鵬社	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に適した文章の記述や分量となっている。例えば重要語句については太字で示されており、読み方の難しい語句についてはふりがながふられている。また、分かりにくい用語については、本文外側に解説が記されている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、本文の内容に関連付けられた効果的な資料が用いられており、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>

項目	観 点
4 組織・配列	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ 単元構成について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現代社会と生活の関わりを導入に、日本国憲法に基づく人権と政治、くらしと経済、地球規模の課題の順で学習する配列になっている。</li> <li>○ 各章「導入の活動」で立てた単元全体を貫く探究課題に基づいて学習を進められるよう、「探究のステップ」や「まとめの活動」で探究課題を解決するという構成になっている。</li> <li>○ 本文見開き2ページが一つの単位となるようまとめられており、見開きの中央に本文が、その周りに資料となる大きな写真や図表が配置されている。また、各分野や他教科の学習内容との関わりがマークで示されている。</li> </ul>
教 出	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現代社会と生活の関わりを導入に、日本国憲法に基づく人権と政治、くらしと経済、地球規模の課題の順で学習する配列になっている。</li> <li>○ 各章「学習の見通し」で示した学習する際の視点を捉えて、学習を進められるよう、「学習のまとめと表現ページ」で学習を振り返るといった構成になっている。</li> <li>○ 本文見開き2ページが一つの単位となるようまとめられており、見開きの中央に本文が、その周りに資料となる大きな写真や図表が配置されている。また、各分野や他教科の学習内容やSDGsとの関わりが見開き下部に示されている。</li> </ul>
帝 国	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現代社会と生活の関わりを導入に、日本国憲法に基づく人権と政治、くらしと経済、地球規模の課題の順で学習する配列になっている。</li> <li>○ 各単元の導入「学習の前に」や「章の問い」で見通した課題に基づいて学習を進められるよう、「章の学習を振り返ろう」「『学習の前に』を振り返ろう」で学習を振り返るといった構成になっている。</li> <li>○ 本文見開き2ページが一つの単位となるようまとめられており、見開きの中央に本文が、その周りに資料となる大きな写真や図表が配置されている。また、各分野の学習内容との関わりが見開き左下部に示されている。</li> </ul>

【資料1 公民】

<p>日 文</p>	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現代社会と生活の関わりを導入に、日本国憲法に基づく人権と政治、くらしと経済、地球規模の課題の順で学習する配列になっている。</li> <li>○ 各編の導入「学習の始めに」で示された身近な場面にある学習課題に基づいて学習を進められるよう、「学習の整理と活用」で学習内容を整理するという構成になっている。</li> <li>○ 本文見開き2ページが一つの単位となるようまとめられており、見開きの中央に本文が、その周りに資料となる大きな写真や図表が配置されている。また、各分野の学習内容との関わりが見開き左下部に示されている。</li> </ul>
<p>自由社</p>	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現代社会と生活の関わりを導入に、日本国憲法に基づく人権と政治、くらしと経済、地球規模の課題の順で学習する配列になっている。</li> <li>○ 各章のはじめに記された、章を通じた問いから課題をつかんで、学習を進められるよう、「学習のまとめと発展」で自らの考えをまとめるという構成になっている。</li> <li>○ 本文見開き2ページが一つの単位となるようまとめられており、見開きの中央に本文が、その周りに資料となる大きな写真や図表が配置されている。</li> </ul>
<p>育鵬社</p>	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現代社会と生活の関わりを導入に、日本国憲法に基づく人権と政治、くらしと経済、地球規模の課題の順で学習する配列になっている。</li> <li>○ 各章のはじめや「〇〇の入り口」で捉えた章全体の学習内容に基づいて学習を進められるよう、「〇〇のこれから」「学習のまとめ」で学習内容を振り返るといった構成になっている。</li> <li>○ 本文見開き2ページが一つの単位となるようまとめられており、見開きの中央に本文が、その周りに資料となる大きな写真や図表が配置されている。また各分野の学習内容との関わりがマークで示されている。</li> </ul>

項目	観 点
5 創意工夫	<p>地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、現代社会の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会との関わりを意識した課題解決的な学習展開について</li> <li>○ 関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動について</li> <li>○ 考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりする活動について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、現代社会の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章を通して課題解決的な学習ができるよう工夫されている。また、見開きの始めにある「導入資料」や「学習課題」で社会との関わりを意識した課題が設けられ、課題を解決する学習展開ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「スキルアップ」「集める」「読み取る」「まとめる」「チェック」では、関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「みんなでチャレンジ」や見開き最後の「トライ」、章末の「まとめの活動」では、考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりできるよう工夫されている。</li> </ul>
教 出	<p>地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、現代社会の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章を通して課題解決的な学習ができるよう工夫されている。また、見開きの始めにある「LOOK」や「学習課題」で社会との関わりを意識した課題が設けられ、課題を解決する学習展開ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「公民の技」「確認」では、関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「言葉で伝えあおう」や見開き最後の「表現」、章末の「学習のまとめと表現」では、考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりできるよう工夫されている。</li> </ul>
帝 国	<p>地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、現代社会の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 部を通して課題解決的な学習ができるよう工夫されている。また、見開きの始めにある「資料活用」や「学習課題」で社会との関わりを意識した課題が設けられ、課題を解決する学習展開ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「技能をみがく」「確認しよう」では、関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「アクティブ公民」や見開き最後の「説明しよう」、章末の「章の学習を振り返ろう」では、考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりできるよう工夫されている。</li> </ul>

【資料1 公民】

<p>日 文</p>	<p>地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、現代社会の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 編を通して課題解決的な学習ができるよう工夫されている。また、見開きの始めにある資料や「学習課題」で社会との関わりを意識した課題が設けられ、課題を解決する学習展開ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「情報スキルアップ」「確認」では、関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「アクティビティ」や「深めよう」、見開き最後の「確認」や編末の「チャレンジ公民」や「学習の整理と活用」では、考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりできるよう工夫されている。</li> </ul>
<p>自由社</p>	<p>地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、現代社会の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章を通して課題解決的な学習ができるよう工夫されている。また、見開きの始めにある資料や学習課題で社会との関わりを意識した課題が設けられ、課題を解決する学習展開ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「アクティブに深めよう」「やってみよう」では、関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「やってみよう」や章末の「学習のまとめと発展」では、考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりできるよう工夫されている。</li> </ul>
<p>育鵬社</p>	<p>地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、現代社会の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 章を通して課題解決的な学習ができるよう工夫されている。また、見開きの始めにある資料や「課題」で社会との関わりを意識した課題が設けられ、課題を解決する学習展開ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「スキルアップ」や「TRY!」、「学習のまとめ」では、関連する資料を適切に活用したり、調べた過程や結果を整理し、まとめたりする活動ができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「学習を深めよう」や「やってみよう」、見開き最後の学習のまとめや章末の「〇〇のこれから」「学習のまとめ」では、考察・判断したことを論理的に説明したり、立場・根拠を明確にして議論したりできるよう工夫されている。</li> </ul>

項目	観 点
6 補足的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わったりできるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
東 書	<p>○ 章末の「基礎・基本のまとめ」のページでは、学習した用語を自分の言葉で説明しチェックするコーナーが設けられており、学習した内容を確実に習得できるようになっている。また、「公民にアクセス」や「もっと公民」などで、単元の学習と関連する社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わることのできる内容が取り扱われている。</p> <p>なお、「Dマーク」を示し、ウェブサイト上の情報を活用することができる。</p>
教 出	<p>○ 章末の「学習のまとめと表現」のページでは、学習した内容について自分の言葉で説明する問いが設けられており、学習した内容を確実に習得できるようになっている。また、「公民の窓」や「クリップ」、「読んで深く考えてみよう」などで、単元の学習と関連する社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わることのできる内容が取り扱われている。</p> <p>なお、「まなびリンク」を示し、ウェブサイト上の情報を活用することができる。</p>
帝 国	<p>○ 節ごとの最後のページに学習した内容について自分の言葉で説明するコーナーが設けられており、学習した内容を確実に習得できるようになっている。また、「未来に向けて」や「よりよい社会を目指して」「アクティブ公民」などで、単元の学習と関連する社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わることのできる内容が取り扱われている。</p> <p>なお、「二次元コード」を示し、ウェブサイト上の情報を活用することができる。</p>
日 文	<p>○ 章末の「学習の整理と活用」で学習した用語の意味を自分の言葉で説明するコーナーが設けられており、学習した内容を確実に習得できるようになっている。また、「アクティビティ」や「公民+α」、「明日に向かって」などで、単元の学習と関連する社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わることのできる内容が取り扱われている。</p> <p>なお、「二次元コード」を示し、ウェブサイト上の情報を活用することができる。</p>
自由社	<p>○ 章末の「学習のまとめと発展」で、学習した用語の意味を自分の言葉で説明するコーナーが設けられており、学習した内容を確実に習得できるようになっている。また、「ミニ知識」や「もっと知りたい」などで、単元の学習と関連する社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わることのできる内容が取り扱われている。</p>
育鵬社	<p>○ 章末の「学習のまとめ」で重要語句を確認し、自分でチェックするコーナーが設けられており、学習した内容を確実に習得できるようになっている。また、「やってみよう」や「学習を深めよう」などで、単元の学習と関連する社会に見られる課題の解決に向けて主体的に関わることのできる内容が取り扱われている。</p>

【資料2 公民】

○ 総ページ数

	東書	教出	帝国	日文	自由社	育鵬社
ページ数	262	272	246	264	270	254

○ 大項目のページ数と総ページに占める割合

大項目名	東書		教出		帝国		日文		自由社		育鵬社	
	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合
私たちと現代社会	31	11.8%	26	9.6%	26	10.6%	28	10.6%	42	15.6%	28	11.0%
私たちと経済	52	19.8%	64	23.5%	64	26.0%	54	20.5%	44	16.3%	52	20.5%
私たちと政治	90	34.4%	90	33.1%	80	32.5%	88	33.3%	78	28.9%	80	31.5%
私たちと国際社会の諸課題	34	13.0%	36	13.2%	40	16.3%	36	13.6%	60	22.2%	36	14.2%
学習資料(法令集・用語集・牽引・目次等)	55	21.0%	56	20.6%	36	14.6%	58	22.0%	46	17.0%	58	22.8%
計	262	100%	272	100%	246	100%	264	100%	270	100%	254	100%



## ○ 学習指導要領の内容を取りあげているページ数

学習指導要領の項目		東書	教出	帝国	日文	自由社	育鵬社
A (1)	現代日本の特色	12	8	8	10	10	10
	現代社会における文化	7	6	6	6	11	8
A (2)	対立と合意、効率と公正等	9	8	8	6	4	4
	個人の尊厳と両性の本質的平等、契約	10	9	8	9	5	13
B (1)	経済活動の意義	4	6	2	2	2	4
	市場経済の基本的な考え方	9	10	12	6	5	8
	現代の生産や金融	14	21	14	16	10	13
	勤労の権利と義務、労働組合の意義及び労働基準法の精神	4	4	6	6	4	4
B (2)	社会資本の整備、環境の保全、社会保障の充実・安定化・消費者の保護	16	18	11	15	9	10
	財政及び租税の意義、国民の納税の義務	6	7	8	6	4	8
C (1)	人間の尊重・法の意義	25	28	20	28	16	22
	法に基づく政治	44	44	31	28	34	34
	日本国憲法	41	50	38	44	33	45
	天皇の地位と天皇の国事に関する行為	1	1	1	1	4	3
C (2)	民主政治の仕組みのあらましや政党の役割	16	14	18	18	18	12
	議会制民主主義の意義、多数決の原理と運用の在り方	11	12	9	6	9	8
	法に基づく公正な裁判の保障	8	8	6	8	6	8
	地方自治の基本的な考え方	8	10	8	10	6	6
D (1)	領土、国家主権、国際連合の働き	14	14	14	18	36	20
	経済的、技術的協力	20	22	20	20	10	14
D (2)	持続可能な社会の形成	11	10	8	15	3	12

※重複あり

【資料2 公民】

○ 防災情報の発信・活用に関する内容を取り扱っているページ数・写真・図の数及び事例等

	東書	教出	帝国	日文	自由社	育鵬社
ページ数	9	5	9	5	6	8
写真・図の数	13	6	16	13	7	8
題材・事例・資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ふるさと創造学サミット」でまちづくりに関して発表する中学生</li> <li>○被災地でボランティアをする中学生</li> <li>○生徒が作った最初の石碑</li> <li>○九州豪雨の被災者を救助する自衛隊員</li> <li>○たき出しをするボランティア</li> <li>○東日本大震災からの復興と防災</li> <li>○西日本豪雨の被災地に安全な水を供給するろ過メーカーN社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SNSを使った避難所の情報発信をする震災対策訓練</li> <li>○最新の災害情報が届けられ表示されたスマートフォン</li> <li>○災害情報が表示された「防災情報共有システム」の画面</li> <li>○地域の教訓を語り継ぐ「奇跡の集落」</li> <li>○熊本地震の発生直後にSNSに投稿された写真</li> <li>○山火事の消化にあたる防災ヘリコプター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○熊本地震の被災地で物資を運ぶボランティア</li> <li>○北海道胆振東部地震後のスマートフォン等の充電で混雑する市役所</li> <li>○AIを減災に活用</li> <li>○防災備蓄倉庫の新設を考えてみよう</li> <li>○熊本地震発生直後にSNSへ投稿されたフェイクニュースの画像</li> <li>○被災地で牛井の炊き出しを行うY社</li> <li>○大規模災害を想定した避難訓練</li> <li>○防災・減災を通じた社会参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アプリを使った避難訓練</li> <li>○津波の被害</li> <li>○東日本大震災における取り組み</li> <li>○学校における防災の取り組み</li> <li>○災害時における行政の連携</li> <li>○列車で急災害を想定した訓練</li> <li>○災害にそなえるには</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○統合災害情報システムDiMAPS</li> <li>○炊き出しをするボランティア</li> <li>○倒壊した家屋の周囲に集まる住民たち</li> <li>○地方自治と防災</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報と大規模災害</li> <li>○「津波の教え」と刻まれた石碑</li> <li>○東日本大震災発生の日、ボランティアなどを手に給水の列に並ぶ大勢の人たち</li> <li>○2018年に起こった大阪北部地震で水道管が破裂して穴が開いた道路</li> <li>○国民を守る防災・減災</li> </ul>

○ 知識基盤社会化による産業や社会の構造的な変化・起業に関する内容を取り扱っているページ数及び事例等

	東書	教出	帝国	日文	自由社	育鵬社
ページ数	15	12	20	9	6	10
写真・図の数	22	23	21	15	6	10
題材・事例・資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○タブレット端末の活用</li> <li>○ヒト型ロボット</li> <li>○VR技術</li> <li>○電話機の変化</li> <li>○AIスピーカー</li> <li>○地図情報</li> <li>○無人宅配機</li> <li>○「ちばレボ」</li> <li>○経営者になってみよう</li> <li>○自動運転技術</li> <li>○起業とベンチャー企業</li> <li>○スマートフォンを利用した支払い</li> <li>○キャッシュレス化</li> <li>○コンビニのお弁当を企画しよう</li> <li>○最高齢のアプリケーション開発者</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「AI店員」</li> <li>○自動運転の商用車</li> <li>○電子決済ができるQRコード</li> <li>○タクシー配車サービス</li> <li>○ドローン宅配</li> <li>○災害情報が届けられたスマートフォン</li> <li>○介護支援ロボット</li> <li>○「防災情報共有システム」</li> <li>○電子マネーによる支払い</li> <li>○女性のための起業講座</li> <li>○高校生のCEO</li> <li>○起業にチャレンジしてみよう</li> <li>○インターネットバンキング</li> <li>○自動運転で走るバス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地震後のスマートフォン等の充電</li> <li>○AI減災活用</li> <li>○人型ロボット</li> <li>○「見えない」お金</li> <li>○企業の物流センター</li> <li>○POSシステム</li> <li>○電気自動車</li> <li>○起業しよう</li> <li>○ビッグデータを生かした経営戦略</li> <li>○企画書を完成させよう</li> <li>○AI活用した無人コンビニ</li> <li>○建設機械とICT, AIの融合</li> <li>○起業した酪農家</li> <li>○橋を点検するドローン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の授業</li> <li>○スポーツへのタブレット活用</li> <li>○インターネットのしくみ</li> <li>○AIを活用した無人店舗</li> <li>○AIによるビッグデータの活用</li> <li>○高齢者の見守り</li> <li>○データを集めるラケット</li> <li>○手術支援ロボット</li> <li>○電子マネーによる支払い</li> <li>○消費者の記録をもとに表示される広告</li> <li>○鶴岡サイエンスパークの取り組み</li> <li>○人工知能による自動車の運転補助</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロボットスーツ</li> <li>○AIの挑戦</li> <li>○統合災害情報システムDiMAPS</li> <li>○AIロボット</li> <li>○クラウドの仕組み</li> <li>○お店を出店しよう(企画書作り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○AI電動車いす</li> <li>○スマートスピーカーを使った市役所の施設案内</li> <li>○体操の採点支援システム</li> <li>○科学技術の発達</li> <li>○お金の歴史</li> <li>○産業構造の変化</li> <li>○第四次産業革命</li> <li>○技術革新の例</li> <li>○社会から求められる起業</li> <li>○フィンテック</li> <li>○技術革新の例</li> <li>○Society5.0で実現する社会</li> </ul>

## ○ 選挙権年齢引き下げに伴う政治参加等に関する内容を取り扱っているページ数及び事例等

	東書	教出	帝国	日文	自由社	育鵬社
ページ数	15	10	12	11	5	10
写真・図の数	19	13	13	25	3	8
題材・事例・資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○投票の様子</li> <li>○市議会で発言する中学生</li> <li>○中学の署名から条例が可決された新聞記事</li> <li>○現在の投票所の様子</li> <li>○年齢別投票率</li> <li>○選挙権を得る年齢</li> <li>○選挙の流れ</li> <li>○衆議院と参議院の比較</li> <li>○日本とアメリカの立法と行政の関係</li> <li>○住民の選挙権</li> <li>○遊佐町の少年議会</li> <li>○模擬市長選挙</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○憲法改正の手続き</li> <li>○参政権の保障</li> <li>○地域の政治について意見を述べる中学生</li> <li>○地方議会ウォッチングに行こう</li> <li>○初めて投票する10代の人たち</li> <li>○衆議院議員選挙における選挙権の拡大</li> <li>○広がる期日前投票制度</li> <li>○衆議院議員選挙の年齢別投票率の推移</li> <li>○地方議会の議員と首長の選挙権と被選挙権</li> <li>○まちづくりのアイデアを提言しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○18歳選挙権の実現</li> <li>○憲法の改正</li> <li>○インターネットを用いた選挙運動の可否</li> <li>○期日前投票する高校生の写真</li> <li>○衆議院と参議院の比較</li> <li>○法律ができるまで</li> <li>○地方公共団体における選挙権・被選挙権</li> <li>○遊佐町の少年議会</li> <li>○中学生も投票した住民投票</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○請願書を提出する高校生</li> <li>○15歳は「子ども」？それとも「大人」？</li> <li>○若者の投票率向上の取り組み</li> <li>○高校生の参加したデモ</li> <li>○学校で期日前投票する高校生</li> <li>○年代別投票率</li> <li>○まちの課題を考える中学生</li> <li>○地方公共団体の選挙権と被選挙権</li> <li>○まちづくりに参加しよう</li> <li>○自分たちのまちの首長を選ぼう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○政治参加への呼びかけのイラスト</li> <li>○選挙権、被選挙権及び任期の表</li> <li>○衆議院と参議院の比較</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○成人年齢引き下げに伴う年齢要件変更の例</li> <li>○参議院議員選挙で期日前投票をする高校生</li> <li>○日本の選挙権獲得の歴史</li> <li>○衆議院議員総選挙年代別投票率の推移</li> <li>○投票へ行く若者が少ない場合に想定されること</li> <li>○パブリックコメントを募集する地方自治体のホームページ</li> <li>○両院の比較</li> <li>○浜松市市議会での自分の市のPRについて話し合う中学生の写真</li> </ul>



# 地 図

資料 1 . . . . . 1～7  
資料 2 . . . . . 8～9

発行者の 番号・略号	書 名	著 者 者	資料中 の表記
2 東 書	新しい社会 地図	矢ヶ崎 典隆 石丸 哲史 ほか 13 名	東 書
46 帝 国	中学校社会科地図	株式会社 帝国書院 代表者 佐藤 清 ほか 11 名	帝 国



項目	観点
1 目標・内容 の取扱い	<p>社会科の目標を達成するために、適切な内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本となる地図について</li> <li>○ 基本となる地図に関連した資料について</li> </ul>
2 人権の 取扱い	<p>人権尊重の観点から、基本となる地図、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階に応じ、各分野の目標を達成することができるように配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本となる地図について</li> <li>○ 基本となる地図に関連した資料について</li> </ul>
4 組織・配列	<p>学習を効果的に進めることができるように配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 構成について</li> <li>○ 内容における系統、配列、関連について</li> <li>○ 図版等について</li> </ul>
5 創意工夫	<p>様々な社会的事象の特色や意味について、生徒の考える力や考えたことを表現する力を育てるよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の関心・興味を高める工夫について</li> <li>○ 主体的に学習に取り組めるようにするための工夫について</li> <li>○ 効果的に地図を活用するための工夫について</li> </ul>
6 補充的な 学習・ 発展的な 学習	<p>社会科の学習内容と関連づけながら、活用できるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的・基本的な知識および技能の習得について</li> <li>○ 多面的・多角的な考察を広げ、課題を探究する際の活用について</li> </ul>

【資料1 地図】

項 目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	社会科の目標を達成するために、適切な内容になっているか。 <input type="radio"/> 基本となる地図について <input type="radio"/> 基本となる地図に関連した資料について

発行者	事 項
東 書	<input type="radio"/> 日本全図、日本地域図、世界全図、世界大陸全図、世界地域図が取り扱われている。  <input type="radio"/> 地図の見方、地図帳や索引の引き方、統計資料等の活用の仕方、緯度と経度、大陸と海洋の分布、地形や気候、自然及び社会的条件と人々の生活や生活と宗教の関わり、地球的課題、交通と通信や地域間の結びつき、地域の人々の経済活動、日本の位置と領土、自然災害、歴史の概要、47都道府県の名称と位置及び都道府県庁所在地の名称、世界文化遺産、世界の主な国の名称と位置、日本と関係の深い国、地球儀等について理解するために、必要な資料が取りあげられている。
帝 国	<input type="radio"/> 日本全図、日本地域図、世界全図、世界大陸全図、世界地域図が取り扱われている。  <input type="radio"/> 地図の見方、地図帳や索引の引き方、統計資料等の活用の仕方、緯度と経度、大陸と海洋の分布、地形や気候、自然及び社会的条件と人々の生活や生活と宗教の関わり、地球的課題、交通と通信や地域間の結びつき、地域の人々の経済活動、日本の位置と領土、自然災害、歴史の概要、47都道府県の名称と位置及び都道府県庁所在地の名称、世界文化遺産、世界の主な国の名称と位置、日本と関係の深い国、地球儀等について理解するために、必要な資料が取りあげられている。



項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、基本となる地図、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、基本となる地図、文章、写真、挿絵、図、資料等が適切に取り上げられている。例えば、SDGsや貧困、難民問題等について取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、基本となる地図、文章、写真、挿絵、図、資料等が適切に取り上げられている。例えば、世界の生活や文化、各国語のあいさつ等について取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>

【資料1 地図】

項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階に応じ、各分野の目標を達成することができるように配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基本となる地図について</li> <li>○ 基本となる地図に関連した資料について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本地図において、すべての地方が 100 万分の 1 の縮尺で表されており、全ての都道府県の地図上に、産業、交通、環境、文化・歴史等、各分野の学習内容の情報が豊富に取りあげられている。また、おもな産業の記号の種類が豊富に表されている。</li> <li>○ 基本となる地図に関連した資料については、各分野の目標を達成することができるように配慮されている。例えば、学習内容に応じて活用できるよう、地図やグラフなどの資料を、「基本資料」と「テーマ資料」のページに分けて取りあげている。</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本地図において、すべての地方が 100 万分の 1 の縮尺で表されており、全ての都道府県の地図上に、産業、交通、環境、文化・歴史等、各分野の学習内容の情報が豊富に取りあげられている。また、基本となる地図の各ページに凡例がつけられている。</li> <li>○ 基本となる地図に関連した資料については、各分野の目標を達成することができるように配慮されている。例えば、世界の各州のページでは、一般図や各種資料とともに、各州の特色を読み取ることができる鳥瞰図を取りあげている。</li> </ul>

項目	観 点
4 組織・配列	<p>学習を効果的に進めることができるように配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 構成について</li> <li>○ 内容における系統、配列、関連について</li> <li>○ 図版等について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界全図、地図帳に関すること、世界全体の資料、世界の各州、日本列島広域図、地方別・都道府県地図（拡大図含む）、統計、索引、日本の地方区分・旧国名の順に構成されている。</li> <li>○ 各分野の学習に活用できるよう、さまざまな資料を取りあげている。例えば、世界と日本の古代・中世の陸上・海上交通など、歴史的なつながりについて学ぶことができる資料がある。</li> <li>○ 図版等について、学習を効果的に進めることができるように配慮されている。例えば、各大陸の地図を、縦の図取りの4500万分の1の縮尺で統一して掲載し、地球儀の代わりとして、地球全体の陸地を概観できるようにしている。</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 世界全図、世界の資料、世界の各州、日本列島広域図、地方別・都道府県別地図及び主要都市とその周辺、日本の資料、統計、索引、日本の地方区分・旧国名の順に構成されている。</li> <li>○ 各分野の学習に活用できるよう、さまざまな資料を取りあげている。例えば、江戸時代のおもなできごとの位置を図に示したり、東京～大阪間の所要時間について江戸時代と現在を比べたりして学ぶ資料がある。</li> <li>○ 図版等について、学習を効果的に進めることができるように配慮されている。例えば、自然災害を扱うページでは、日本近辺のプレートの境界を示すなど、理科の学習内容と関連づけることができるようにしている。</li> </ul>

【資料1 地図】

項目	観 点
5 創意工夫	<p>様々な社会的事象の特色や意味について、生徒の考える力や考えたことを表現する力を育てよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の関心・興味を高める工夫について</li> <li>○ 主体的に学習に取り組めるようにするための工夫について</li> <li>○ 効果的に地図を活用するための工夫について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 関連する資料の参照ページを示す「ジャンプ」が設けられ、複数の資料を関連させて見ることを促し、関心・興味に広がりを持たせるように工夫している。</li> <li>○ キャラクターのコメントを通して、資料のポイントを整理し、生徒が資料を読み取り、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</li> <li>○ 歴史的分野、公民的分野と関連した資料が取り扱われており、効果的に地図を活用できるよう工夫されている。 また、「Dマーク」があるページでは、インターネットを活用して学習することができる。</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料を扱うページでは、同じ縮尺の資料図を複数並べ、比較を通して変化や関係性などを考えることを促し、関心・興味に広がりを持たせるように工夫している。</li> <li>○ 「地図活用」コーナーの問いを通して、生徒が資料を読み取り、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</li> <li>○ 歴史的分野、公民的分野と関連した資料が取り扱われており、効果的に地図を活用できるよう工夫されている。 また、「二次元コード」があるページでは、インターネットを活用して学習することができる。</li> </ul>

項目	観 点
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>社会科の学習内容と関連づけながら、活用できるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的・基本的な知識および技能の習得について</li> <li>○ 多面的・多角的な考察を広げ、課題を探究する際の活用について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会科の学習内容と関連付けながら、活用できるよう配慮されている。例えば、日本の人口問題のページでは、資料の整理と資料の読み取りの力をつけることができるように「スキルアップ」のコーナーが用意されている。</li> <li>○ 「テーマ資料」が世界各州、日本の各地方に用意されており、地理的な見方・考え方を働かせながら地図や資料を読み取ることを通して、多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</li> </ul>
帝 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会科の学習内容と関連付けながら、活用できるよう配慮されている。例えば、基本となる地図に配置された「地図活用」コーナーでは、地理の基礎的・基本的な知識および技能を身に付けることができるような問いが用意されている。</li> <li>○ 資料ページに配置された「地図活用」コーナーでは、地理的な見方・考え方を働かせながら資料を見るための問いを示し、多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。</li> </ul>

【資料2 地図】

○ 地図と地図に関連した資料のページ数と総ページ数に占める割合 (%)

	東 書		帝 国	
	頁数	割合 (%)	頁数	割合 (%)
世界地図	25	13.0	21	11.2
世界の図表・写真・グラフ等	57	29.7	54	28.7
日本地図	25	13.0	28	14.9
日本の図表・写真・グラフ等	49	25.5	63	33.5
使い方、索引	14	7.3	16	8.5
計	192	100	188	100

○ 世界の地域構成・生活と環境・地域調査を扱っている箇所数

	東 書		帝 国	
世界の地域構成	5		5	
世界の生活と環境	23		34	
世界の諸地域	27	アジア 10 ヨーロッパ 6 アフリカ 2 北米・南米 5 オセアニア 4	30	アジア 14 ヨーロッパ 5 アフリカ 2 北米・南米 6 オセアニア 4
地球的課題の取扱いについて	10		12	

○ 日本の地域構成を扱っているページ数

	東 書	帝 国
日本の地域構成	3	3

○ 身近な地域を扱っているページ数

	東 書	帝 国
身近な地域の調査	4	3

## ○ 世界と比べた日本の地域的特色を扱っているページ数

	東 書	帝 国
自然環境	5	4
人口	2	3
資源エネルギー産業	18	15
地域間の結びつき	19	15

## ○ 日本の諸地域に関連した考察を扱っているページ数

	東 書		帝 国	
	頁数	内訳	頁数	内訳
・自然環境を中核とした考察	14	九州2 関東1 中・四国1 東北2 近畿1 北海道2 中部1 日本全体4	14	九州1 関東1 中・四国1 東北2 近畿2 北海道1 中部2 日本全体4
・人口や都市・村落を中核とした考察	6	中・四国1 近畿1 関東2 日本全体2	14	九州1 関東2 中・四国2 東北1 近畿2 北海道1 中部3 日本全体2
・産業を中核とした考察	13	近畿2 東北1 中部2 北海道1 関東1 日本全体6	26	九州2 関東3 中・四国2 東北2 近畿2 北海道4 中部5 日本全体6
・交通や通信を中核とした考察	5	中・四国1 関東2 日本全体2	16	九州2 関東4 中・四国2 東北1 近畿2 北海道1 中部2 日本全体1
・その他の考察				
防災・安全を中核とした考察	4	九州1 東北1 日本全体2	11	九州1 関東1 中・四国1 東北1 近畿1 北海道1 中部3 日本全体2
歴史的背景を中核とした考察	7	九州3 北海道1 中・四国1 日本全体1 近畿1	10	世界1 中部1 九州1 関東1 中・四国1 北海道2 近畿1 日本全体2
環境問題や環境保全を中核とした考察	1	九州1	7	九州1 東北1 中・四国1 北海道1 近畿1 日本全体1 関東1
生活・文化を中核とした考察	10	近畿3 東北1 中部1 北海道1 関東2 日本全体2	5	中部1 東北1 日本全体3
他地域との結びつきを中核とした考察	4	中国・四国1 関東1 日本全体2	8	九州1 中部4 日本全体3





# 数 学

学習指導要領（数学）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～9  
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10～22  
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

発行者の 番号・略号	書 名	著 者 者	資料中 の表記
2 東 書	新しい数学	藤井 齊亮 真島 秀行 ほか 94 名	東 書
4 大日本	数学の世界	相馬 一彦 ほか 25 名	大日本
11 学 図	中学校数学	池田 敏和 一松 信 岡田 禎雄 植村 哲郎 町田 彰一郎 ほか 43 名	学 図
17 教 出	中学数学	坂井 裕 小谷 元子 ほか 30 名	教 出
61 啓林館	未来へひろがる数学	岡本 和夫 森杉 馨 根本 博 永田 潤一郎 ほか 129 名	啓林館
104 数 研	これからの数学 ／探究ノート	岡部 恒治 ほか 57 名	数 研
116 日 文	中学数学	重松 敬一 小山 正孝 飯田 慎司 ほか 38 名	日 文



## 第2章 各教科

### 第3節 数 学

#### 第1 目 標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数  
学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるよう  
にする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発  
展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそう  
とする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

#### 第2 各学年の目標及び内容

##### 〔第1学年〕

##### 1 目 標

- (1) 正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式、平面図形と空間図形、比例と反比  
例、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するととも  
に、事象を数理的に捉えたり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能  
を身に付けるようにする。
- (2) 数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則  
などを考察したりする力、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直  
観的に捉え論理的に考察する力、数量の変化や対応に着目して関数関係を見いだし、その  
特徴を表、式、グラフなどで考察する力、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批  
判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養  
う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそう  
とする態度、問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度、多面的に捉え考えよう  
とする態度を養う。

##### 2 内 容

##### A 数と式

- (1) 正の数と負の数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう  
指導する。
  - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
    - (ア) 正の数と負の数の必要性と意味を理解すること。
    - (イ) 正の数と負の数の四則計算をすること。
    - (ウ) 具体的な場面で正の数と負の数を用いて表したり処理したりすること。
  - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
    - (ア) 算数で学習した数の四則計算と関連付けて、正の数と負の数の四則計算の方法を考  
察し表現すること。
    - (イ) 正の数と負の数を具体的な場面で活用すること。
- (2) 文字を用いた式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう

指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 文字を用いることの必要性和意味を理解すること。

(イ) 文字を用いた式における乗法と除法の表し方を知ること。

(ウ) 簡単な一次式の加法と減法の計算をすること。

(エ) 数量の関係や法則などを文字を用いた式に表すことができることを理解し、式を用いて表したり読み取ったりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 具体的な場面と関連付けて、一次式の加法と減法の計算の方法を考察し表現すること。

(3) 一元一次方程式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 方程式の必要性和意味及び方程式の中の文字や解の意味を理解すること。

(イ) 簡単な一元一次方程式を解くこと。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 等式の性質を基にして、一元一次方程式を解く方法を考察し表現すること。

(イ) 一元一次方程式を具体的な場面で活用すること。

[用語・記号]

自然数 素数 符号 絶対値 項 係数 移項  $\leq$   $\geq$

## B 図形

(1) 平面図形について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解すること。

(イ) 平行移動、対称移動及び回転移動について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 図形の性質に着目し、基本的な作図の方法を考察し表現すること。

(イ) 図形の移動に着目し、二つの図形の関係について考察し表現すること。

(ウ) 基本的な作図や図形の移動を具体的な場面で活用すること。

(2) 空間図形について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 空間における直線や平面の位置関係を知ること。

(イ) 扇形の弧の長さや面積、基本的な柱体や錐体、球の表面積と体積を求めること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されるものと捉えたり、空間図形を平面上に表現して平面上の表現から空間図形の性質を見いだしたりすること。

(イ) 立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現すること。

[用語・記号]

弧 弦 回転体 ねじれの位置  $\pi$  //  $\perp$   $\angle$   $\Delta$

## C 関数

(1) 比例、反比例について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 関数関係の意味を理解すること。
- (イ) 比例，反比例について理解すること。
- (ウ) 座標の意味を理解すること。
- (エ) 比例，反比例を表，式，グラフなどに表すこと。
- イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
  - (ア) 比例，反比例として捉えられる二つの数量について，表，式，グラフなどを用いて調べ，それらの変化や対応の特徴を見いだすこと。
  - (イ) 比例，反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

[用語・記号]

関数 変数 変域

#### D データの活用

- (1) データの分布について，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
    - (ア) ヒストグラムや相対度数などの必要性和意味を理解すること。
    - (イ) コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理すること。
  - イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
    - (ア) 目的に応じてデータを収集して分析し，そのデータの分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断すること。
- (2) 不確定な事象の起こりやすさについて，数学的活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
    - (ア) 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解すること。
  - イ 次のような思考力，判断力，表現力等を身に付けること。
    - (ア) 多数の観察や多数回の試行の結果を基にして，不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現すること。

[用語・記号]

範囲 累積度数

[数学的活動]

- (1) 「A数と式」，「B図形」，「C関数」及び「Dデータの活用」の学習やそれらを相互に関連付けた学習において，次のような数学的活動に取り組むものとする。
  - ア 日常の事象を数理的に捉え，数学的に表現・処理し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動
  - イ 数学の事象から問題を見いだし解決したり，解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする活動
  - ウ 数学的な表現を用いて筋道立てて説明し伝え合う活動

#### 3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A数と式」の(1)に関連して，自然数を素数の積として表すことを取り扱うものとする。
- (2) 内容の「A数と式」の(1)のアとイのアに関連して，数の集合と四則計算の可能性を取り扱うものとする。
- (3) 内容の「A数と式」の(2)のアのエに関連して，大小関係を不等式を用いて表すことを取り扱うものとする。
- (4) 内容の「A数と式」の(3)のアのイとイのイに関連して，簡単な比例式を解くことを取り扱うものとする。

- (5) 内容の「B図形」の(1)のイのウに関連して、円の接線はその接点を通る半径に垂直であることを取り扱うものとする。
- (6) 内容の「B図形」の(2)のイのアについては、見取図や展開図、投影図を取り扱うものとする。

〔第2学年〕

## 1 目標

- (1) 文字を用いた式と連立二元一次方程式、平面図形と数学的な推論、一次関数、データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、数学的な推論の過程に着目し、図形の性質や関係を論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。

## 2 内容

### A 数と式

- (1) 文字を用いた式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 簡単な整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算をすること。
- (イ) 具体的な事象の中の数量の関係を文字を用いた式で表したり、式の意味を読み取ったりすること。
- (ウ) 文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解すること。
- (エ) 目的に応じて、簡単な式を変形すること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 具体的な数の計算や既に学習した計算の方法と関連付けて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し表現すること。
- (イ) 文字を用いた式を具体的な場面で活用すること。
- (2) 連立二元一次方程式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 二元一次方程式とその解の意味を理解すること。
- (イ) 連立二元一次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解すること。
- (ウ) 簡単な連立二元一次方程式を解くこと。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (ア) 一元一次方程式と関連付けて、連立二元一次方程式を解く方法を考察し表現すること。
- (イ) 連立二元一次方程式を具体的な場面で活用すること。

〔用語・記号〕

同類項

### B 図形

- (1) 基本的な平面図形の性質について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることがで

きるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 平行線や角の性質を理解すること。

(イ) 多角形の角についての性質が見いだせることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれら確かめ説明すること。

(2) 図形の合同について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解すること。

(イ) 証明の必要性和意味及びその方法について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、証明を読んで新たな性質を見いだしたりすること。

(イ) 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用すること。

[用語・記号]

対頂角 内角 外角 定義 証明 逆 反例 ≡

## C 関数

(1) 一次関数について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 一次関数について理解すること。

(イ) 事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知ること。

(ウ) 二元一次方程式を関数を表す式とみること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること。

(イ) 一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

[用語・記号]

変化の割合 傾き

## D データの活用

(1) データの分布について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解すること。

(イ) コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを整理し箱ひげ図で表すこと。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を比較して読み取り、批判的に考察し判断すること。

(2) 不確定な事象の起こりやすさについて、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 多数回の試行によって得られる確率と関連付けて、場合の数を基にして得られる確率の必要性和意味を理解すること。

- (イ) 簡単な場合について確率を求めること。
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
  - (ア) 同様に確からしいことに着目し、場合の数を基にして得られる確率の求め方を考察し表現すること。
  - (イ) 確率を用いて不確定な事象を捉え考察し表現すること。

[数学的活動]

- (1) 「A数と式」, 「B図形」, 「C関数」及び「Dデータの活用」の学習やそれらを相互に関連付けた学習において、次のような数学的活動に取り組むものとする。
  - ア 日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動
  - イ 数学の事象から見通しをもって問題を見だし解決したり、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする活動
  - ウ 数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動

3 内容の取扱い

- (1) 内容の「B図形」の(2)のイのアに関連して、正方形、ひし形及び長方形が平行四辺形の特別な形であることを取り扱うものとする。

[第3学年]

1 目 標

- (1) 数の平方根、多項式と二次方程式、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理、関数 $y = ax^2$ 、標本調査などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとする態度を養う。

2 内 容

A 数と式

- (1) 正の数の平方根について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
    - (ア) 数の平方根の必要性和意味を理解すること。
    - (イ) 数の平方根を含む簡単な式の計算をすること。
    - (ウ) 具体的な場面で数の平方根を用いて表したり処理したりすること。
  - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
    - (ア) 既に学習した計算の方法と関連付けて、数の平方根を含む式の計算の方法を考察し表現すること。
    - (イ) 数の平方根を具体的な場面で活用すること。
- (2) 簡単な多項式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
    - (ア) 単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすること。



(イ) 簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすること。

$$(a + b)^2 = a^2 + 2ab + b^2$$

$$(a - b)^2 = a^2 - 2ab + b^2$$

$$(a + b)(a - b) = a^2 - b^2$$

$$(x + a)(x + b) = x^2 + (a + b)x + ab$$

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解をする方法を考察し表現すること。

(イ) 文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明すること。

(3) 二次方程式について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 二次方程式の必要性と意味及びその解の意味を理解すること。

(イ) 因数分解したり平方の形に変形したりして二次方程式を解くこと。

(ウ) 解の公式を知り、それを用いて二次方程式を解くこと。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 因数分解や平方根の考えを基にして、二次方程式を解く方法を考察し表現すること。

(イ) 二次方程式を具体的な場面で活用すること。

[用語・記号]

根号 有理数 無理数 因数  $\sqrt{\quad}$

## B 図形

(1) 図形の相似について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 平面図形の相似の意味及び三角形の相似条件について理解すること。

(イ) 基本的な立体の相似の意味及び相似な図形の相似比と面積比や体積比との関係について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 三角形の相似条件などを基にして図形の基本的な性質を論理的に確かめること。

(イ) 平行線と線分の比についての性質を見だし、それらを確かめること。

(ウ) 相似な図形の性質を具体的な場面で活用すること。

(2) 円周角と中心角の関係について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 円周角と中心角の関係の意味を理解し、それが証明できることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 円周角と中心角の関係を見いだすこと。

(イ) 円周角と中心角の関係を具体的な場面で活用すること。

(3) 三平方の定理について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 三平方の定理の意味を理解し、それが証明できることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 三平方の定理を見いだすこと。

(イ) 三平方の定理を具体的な場面で活用すること。

[用語・記号]

∞

### C 関数

(1) 関数 $y = ax^2$  について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 関数 $y = ax^2$  について理解すること。

(イ) 事象の中には関数 $y = ax^2$  として捉えられるものがあることを知ること。

(ウ) いろいろな事象の中に、関数関係があることを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 関数 $y = ax^2$  として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現すること。

(イ) 関数 $y = ax^2$  を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること。

### D データの活用

(1) 標本調査について、数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 標本調査の必要性和意味を理解すること。

(イ) コンピュータなどの情報手段を用いるなどして無作為に標本を取り出し、整理すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 標本調査の方法や結果を批判的に考察し表現すること。

(イ) 簡単な場合について標本調査を行い、母集団の傾向を推定し判断すること。

[用語・記号]

全数調査

[数学的活動]

(1) 「A数と式」, 「B図形」, 「C関数」及び「Dデータの活用」の学習やそれらを相互に関連付けた学習において、次のような数学的活動に取り組むものとする。

ア 日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする活動

イ 数学の事象から見通しをもって問題を見だし解決したり、解決の過程や結果を振り返って統一的・発展的に考察したりする活動

ウ 数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動

### 3 内容の取扱い

(1) 内容の「A数と式」の(1)などに関連して、誤差や近似値、 $a \times 10^n$  の形の表現を取り扱うものとする。

(2) 内容の「A数と式」の(3)については、実数の解をもつ二次方程式を取り扱うものとする。

(3) 内容の「A数と式」の(3)のアの(イ)とイの(ア)については、 $ax^2 = b$  ( $a, b$  は有理数)の二次方程式及び $x^2 + px + q = 0$  ( $p, q$  は整数)の二次方程式を取り扱うものとする。因数分解して解くことの指導においては、内容の「A数と式」の(2)のアのイに示した公式を用いることができるものを中心に扱うものとする。また、平方の形に変形して解くことの指導においては、 $x$  の係数が偶数であるものを中心に扱うものとする。

(4) 内容の「B図形」の(2)に関連して、円周角の定理の逆を取り扱うものとする。

## 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、数学的活動を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、数学的な見方・考え方を働かせながら、日常の事象や社会の事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ること。
  - (2) 第2の各学年の目標の達成に支障のない範囲内で、当該学年の内容の一部を軽く取り扱い、それを後の学年で指導することができるものとする。また、学年の目標を逸脱しない範囲内で、後の学年の内容の一部を加えて指導することもできるものとする。
  - (3) 生徒の学習を確実なものにするために、新たな内容を指導する際には、既に指導した関連する内容を意図的に再度取り上げ、学び直しの機会を設定することに配慮すること。
  - (4) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
  - (5) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、数学科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 思考力、判断力、表現力等を育成するため、各学年の内容の指導に当たっては、数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの機会を設けること。
  - (2) 各領域の指導に当たっては、必要に応じ、そろばんや電卓、コンピュータ、情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、学習の効果を高めること。
  - (3) 各領域の指導に当たっては、具体物を操作して考えたり、データを収集して整理したりするなどの具体的な体験を伴う学習を充実すること。
  - (4) 第2の各学年の内容に示す〔用語・記号〕は、当該学年で取り扱う内容の程度や範囲を明確にするために示したものであり、その指導に当たっては、各学年の内容と密接に関連させて取り上げること。
- 3 数学的活動の取組においては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 数学的活動を楽しめるようにするとともに、数学を学習することの意義や数学の必要性などを実感する機会を設けること。
  - (2) 数学を活用して問題解決する方法を理解するとともに、自ら問題を見だし、解決するための構想を立て、実践し、その過程や結果を評価・改善する機会を設けること。
  - (3) 各領域の指導に当たっては、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだしたり、発展させたりする機会を設けること。
  - (4) 数学的活動の過程を振り返り、レポートにまとめ発表することなどを通して、その成果を共有する機会を設けること。
- 4 生徒の数学的活動への取組を促し思考力、判断力、表現力等の育成を図るため、各領域の内容を総合したり日常の事象や他教科等での学習に関連付けたりするなどして見いだした問題を解決する学習を課題学習と言い、この実施に当たっては各学年で指導計画に適切に位置付けるものとする。

【資料1 数学：観点一覧】

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>数学科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数量や図形等の基礎的な概念や原理・法則等の理解や事象を数学化し、数学的に解釈、表現・処理する技能について</li> <li>○ 事象を論理的に考察したり、数量や図形等の性質を見だし統合的・発展的に考察したり、数学的に事象を表現することについて</li> <li>○ 数学を生活や学習に生かし、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度について</li> </ul>
2 人権の 取扱い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容となっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> <li>○ 数学的な活動について</li> </ul>
4 組織・配列	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ 単元構成について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>
5 創意工夫	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各単元の導入について</li> <li>○ 数学的な表現力を養うことや、問題解決の過程を振り返り、概念を形成する学習活動について</li> </ul>
6 補充的な 学習・ 発展的な 学習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、数学的に事象を処理することの良さを社会生活に生かしたりできるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料やコラムなど</li> </ul>

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>数学科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 数量や図形等の基礎的な概念や原理・法則等の理解や事象を数学化し、数学的に解釈、表現・処理する技能について</li> <li>○ 事象を論理的に考察したり、数量や図形等の性質を見だし統合的・発展的に考察したり、数学的に事象を表現することについて</li> <li>○ 数学を生活や学習に生かし、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>数学科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的な概念や原理・法則等を理解し、数学的に解釈したり表現・処理する技能が身に付くよう、適切な課題が設定されている。</li> <li>○ 数学的な見方・考え方を示すことで、事象を論理的に考察し、数量や図形等の性質を見だし統合的・発展的に思考・判断・表現することができる内容となっている。</li> <li>○ 「章の問題A・B」の「活用の問題」や巻末の「学びをひろげよう」「数学の自由研究」等で、数学を生活や学習に生かすことができるよう取り扱われている。また、「深い学び」のページでは、問題解決の過程を振り返り評価・改善できるよう取り扱われている。</li> </ul>
大日本	<p>数学科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的な概念や原理・法則等を理解し、数学的に解釈したり表現・処理する技能が身に付くよう、適切な課題が設定されている。</li> <li>○ 数学的な見方・考え方を示すことで、事象を論理的に考察し、数量や図形等の性質を見だし統合的・発展的に思考・判断・表現することができる内容となっている。</li> <li>○ 「社会にリンク」「活用・探究」「課題学習」「MATHFUL」等で、数学を生活や学習に生かすことができるよう取り扱われている。また、「Q伝えよう」や学習した内容を利用して考えるページでは、問題解決の過程を振り返り評価・改善できるよう取り扱われている。</li> </ul>
学 図	<p>数学科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的な概念や原理・法則等を理解し、数学的に解釈したり表現・処理する技能が身に付くよう、適切な課題が設定されている。</li> <li>○ 数学的な見方・考え方を示すことで、事象を論理的に考察し、数量や図形等の性質を見だし統合的・発展的に思考・判断・表現することができる内容となっている。</li> <li>○ 「役立つ数学」や単元末の「深めよう!」、 「○章のまとめの問題」の「活用」等で、数学を生活や学習に生かすことができるよう取り扱われている。また、「数学的活動」のページでは、問題解決の過程を振り返り評価・改善できるよう取り扱われている。</li> </ul>

【資料1 数学】

<p>教 出</p>	<p>数学科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的な概念や原理・法則等を理解し、数学的に解釈したり表現・処理する技能が身に付くよう、適切な課題が設定されている。</li> <li>○ 数学的な見方・考え方を示すことで、事象を論理的に考察し、数量や図形等の性質を見だし統合的・発展的に思考・判断・表現することができる内容となっている。</li> <li>○ 「学んだことを活用しよう」「数学の広場」等で、数学を生活や学習に生かすことができるよう取り扱われている。また、問題解決のプロセスを示したページでは、問題解決の過程を振り返り評価・改善できるよう取り扱われている。</li> </ul>
<p>啓林館</p>	<p>数学科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的な概念や原理・法則等を理解し、数学的に解釈したり表現・処理する技能が身に付くよう、適切な課題が設定されている。</li> <li>○ 数学的な見方・考え方を示すことで、事象を論理的に考察し、数量や図形等の性質を見だし統合的・発展的に思考・判断・表現することができる内容となっている。</li> <li>○ 「数学ライブラリー」や「自分から学ぼう編」の「学びをいかそう」等で、数学を生活や学習に生かすことができるよう取り扱われている。また、「話しあおう」「説明しよう」「まとめよう」では、問題解決の過程を振り返り評価・改善できるよう取り扱われている。</li> </ul>
<p>数 研</p>	<p>数学科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的な概念や原理・法則等を理解し、数学的に解釈したり表現・処理する技能が身に付くよう、適切な課題が設定されている。</li> <li>○ 数学的な見方・考え方を示すことで、事象を論理的に考察し、数量や図形等の性質を見だし統合的・発展的に思考・判断・表現することができる内容となっている。</li> <li>○ 巻末の「数学旅行」、別冊探究ノート「課題学習」等で、数学を生活や学習に生かすことができるよう取り扱われている。また、キャラクターの対話から、問題解決の過程を振り返り評価・改善できるよう取り扱われている。</li> </ul>
<p>日 文</p>	<p>数学科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎的な概念や原理・法則等を理解し、数学的に解釈したり表現・処理する技能が身に付くよう、適切な課題が設定されている。</li> <li>○ 数学的な見方・考え方を示すことで、事象を論理的に考察し、数量や図形等の性質を見だし統合的・発展的に思考・判断・表現することができる内容となっている。</li> <li>○ 「身近なことがら」「数学のたんけん」、巻末の「暮らしと数学」等で、数学を生活や学習に生かすことができるよう取り扱われている。また、「学び合おう」のページでは、巻末の「対話シート」を使って、問題解決の過程を振り返り評価・改善できるよう取り扱われている。</li> </ul>

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や服装の色などが偏りのないよう配慮されている。</li> <li>○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての生徒にとって扱いやすいよう配慮されている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や服装の色などに偏りがないように配慮されている。</li> <li>○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての生徒にとって扱いやすいよう配慮されている。</li> </ul>
学 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や服装の色などが偏りのないよう配慮されている。</li> <li>○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての生徒にとって扱いやすいよう配慮されている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や服装の色などが偏りのないよう配慮されている。</li> <li>○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての生徒にとって扱いやすいよう配慮されている。</li> </ul>
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や服装の色などが偏りのないよう配慮されている。</li> <li>○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての生徒にとって扱いやすいよう配慮されている。</li> </ul>
数 研	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や服装の色などが偏りのないよう配慮されている。</li> <li>○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての生徒にとって扱いやすいよう配慮されている。</li> </ul>
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、登場する男女の数や服装の色などが偏りのないよう配慮されている。</li> <li>○ ユニバーサルデザインの観点から、フォントや配置、色、図などが工夫され、すべての生徒にとって扱いやすいよう配慮されている。</li> </ul>

【資料1 数学】

項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容となっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> <li>○ 数学的な活動について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる正の数・負の数を捉えさせるため、数直線を用い具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。</li> <li>○ 発達段階を考慮した数学的な活動が取り扱われている。例えば、3年「相似な図形」の導入では、タブレット上の地図を題材とし、事象を数理的に捉え、自立的・協働的に解決する活動が取り扱われている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる正の数・負の数を捉えさせるため、数直線を用い具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。</li> <li>○ 発達段階を考慮した数学的な活動が取り扱われている。例えば、3年「相似と比」の導入では、コンピュータ上の写真を題材とし、事象を数理的に捉え、自立的・協働的に解決する活動が取り扱われている。</li> </ul>
学 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる正の数・負の数を捉えさせるため、数直線を用い具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。</li> <li>○ 発達段階を考慮した数学的な活動が取り扱われている。例えば、3年「相似な図形」の導入では、タブレット上の写真を題材とし、事象を数理的に捉え、自立的・協働的に解決する活動が取り扱われている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる正の数・負の数を捉えさせるため、数直線を用い具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。</li> <li>○ 発達段階を考慮した数学的な活動が取り扱われている。例えば、3年「相似な図形」の導入では、コピー機やタブレット上の地図を題材とし、事象を数理的に捉え、自立的・協働的に解決する活動が取り扱われている。</li> </ul>



啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる正の数・負の数を捉えさせるため、数直線を用い具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。</li> <li>○ 発達段階を考慮した数学的な活動が取り扱われている。例えば、3年「図形と相似」の導入では、縮小や拡大した写真を題材とし、事象を数理的に捉え、自立的・協働的に解決する活動が取り扱われている。</li> </ul>
数 研	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる正の数・負の数を捉えさせるため、数直線を用い具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。</li> <li>○ 発達段階を考慮した数学的な活動が取り扱われている。例えば、3年「相似」の導入では、雪の結晶の顕微鏡写真等を題材とし、事象を数理的に捉え、自立的・協働的に解決する活動が取り扱われている。</li> </ul>
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料が発達段階を考慮したものになっている。例えば、1年では、基本となる正の数・負の数を捉えさせるため、数直線を用い具体的な活動から抽象的な思考へと、段階的に適切な資料が取り扱われている。</li> <li>○ 発達段階を考慮した数学的な活動が取り扱われている。例えば、3年「相似な図形」の導入では、コンピュータ上の写真を題材とし、事象を数理的に捉え、自立的・協働的に解決する活動が取り扱われている。</li> </ul>

【資料1 数学】

項目	観 点
4 組織・配列	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ 単元構成について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間を通して、各学年で学ぶべき各領域を学習できるように配列されている。1年の「図形」領域では、作図の方法が、「垂線」「垂直二等分線」「角の二等分線」の順に配列されている。また、2年の「数と式」領域では、連立方程式の解き方が、「加減法」「代入法」の順に配列されている。</li> <li>○ 単元の導入では身近な生活の中で出てくる疑問を扱い、数量や図形の性質を見だし、課題解決的に問題に取り組んでいく構成になっている。単元末には学習内容を振り返るための「深い学び」や「章の問題A」「章の問題B」が配置されている。</li> <li>○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表など適切に配置されている。また、他教科と関連している箇所をマークで示している。</li> </ul>
大日本	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間を通して、各学年で学ぶべき各領域を学習できるように配列されている。1年の「図形」領域では、作図の方法が、「垂直二等分線」「角の二等分線」「垂線」の順に配列されている。また、2年の「数と式」領域では、連立方程式の解き方が、「加減法」「代入法」の順に配列されているが、どちらからでも学習できるよう配慮されている。</li> <li>○ 単元の導入では身近な生活の中で出てくる疑問を扱い、数量や図形の性質を見だし、課題解決的に問題に取り組んでいく構成になっている。単元末には学習内容を振り返るための「活用・探究」や「○章をふり返ろう」「力をのばそう」が配置されている。</li> <li>○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表など適切に配置されている。また、他教科と関連している箇所をマークで示している。</li> </ul>

学 図	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間を通して、各学年で学ぶべき各領域を学習できるように配列されている。1年の「図形」領域では、作図の方法が、「垂直二等分線」「垂線」「角の二等分線」の順に配列されている。また、2年の「数と式」領域では、連立方程式の解き方が、「加減法」「代入法」の順に配列されている。</li> <li>○ 各領域前の「ふりかえり」で既習事項を確認し、単元の導入では身近な生活の中で出てくる疑問を扱い、数量や図形の性質を見だし、課題解決的に問題に取り組んでいく構成になっている。単元末には学習内容を振り返るための「○章のまとめの問題」「深めよう！」や、できるようになったことなどを振り返る「○を学んで」が配置されている。</li> <li>○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表など適切に配置されている。</li> </ul>
教 出	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間を通して、各学年で学ぶべき各領域を学習できるように配列されている。1年の「図形」領域では、作図の方法が、「垂直二等分線」「角の二等分線」「垂線」の順に配列されている。また、2年の「数と式」領域では、連立方程式の解き方が、「加減法」「代入法」の順に配列されている。</li> <li>○ 各単元前の「○○を学習する前に」で既習事項を確認し、単元の導入では身近な生活の中で出てくる疑問を扱い、数量や図形の性質を見だし、課題解決的に問題に取り組んでいく構成になっている。単元末には学習内容を振り返る「学習のまとめ」や「章の問題」が配置されている。</li> <li>○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表など適切に配置されている。</li> </ul>
啓林館	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間を通して、各学年で学ぶべき各領域を学習できるように配列されている。1年の「図形」領域では、作図の方法が、「垂直二等分線」「角の二等分線」「垂線」の順に配列されている。また、2年の「数と式」領域では、連立方程式の解き方が、「加減法」「代入法」の順に配列されている。</li> <li>○ 「みんなで学ぼう編」では、単元の導入で身近な生活の中で出てくる疑問を扱い、数量や図形の性質を見だし、課題解決的に問題に取り組んでいく構成になっている。単元末には学習内容を振り返る「学びをたしかめよう」「学びを身につけよう」が配置されている。また、生徒が主体的に学習することができるよう、裏表紙を先頭にして上開きの「自分から学ぼう編」が配置されている。</li> <li>○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表など適切に配置されている。</li> </ul>

【資料1 数学】

<p>数 研</p>	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間を通して、各学年で学ぶべき各領域を学習できるように配列されている。1年の「図形」領域では、作図の方法が、「垂直二等分線」「角の二等分線」「垂線」の順に配列されている。また、2年の「数と式」領域では、連立方程式の解き方が、「加減法」「代入法」の順に配列されている。</li> <li>○ 各単元前の「○○の学習の前に」で既習事項を確認し、単元の導入では身近な生活の中で出てくる疑問を扱い、数量や図形の性質を見だし、課題解決的に問題に取り組んでいく構成になっている。単元末には学習内容を振り返る「確認問題」「問題A」「問題B」が配置されている。また、問題発見・解決する力を高めるための別冊「探究ノート」が配置されている。</li> <li>○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表など適切に配置されている。</li> </ul>
<p>日 文</p>	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 年間を通して、各学年で学ぶべき各領域を学習できるように配列されている。1年の「図形」領域では、作図の方法が、「垂直二等分線」「垂線」「角の二等分線」の順に配列されている。また、2年の「数と式」領域では、連立方程式の解き方が、「加減法」「代入法」の順に配列されている。</li> <li>○ 各単元前の「次の章を学ぶ前に」で既習事項を確認し、単元の導入では身近な生活の中で出てくる疑問を扱い、数量や図形の性質を見だし、課題解決的に問題に取り組んでいく構成になっている。単元末には学習内容を振り返る「○章の問題」、巻末には単元内の主体的・対話的な学習を手助けする「対話シート」が配置されている。</li> <li>○ 効果的な指導が行われるよう、本文・写真・挿絵・図・表など適切に配置されている。</li> </ul>

項目	観 点
5 創意工夫	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各単元の導入について</li> <li>○ 数学的な表現力を養うことや、問題解決の過程を振り返り、概念を形成する学習活動について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の導入では、日常生活や社会の事象を基にした題材が扱われている。例えば、2年「データの比較」の単元では、コンビニエンスストアがオープンする場面を扱い、5年分の販売数のデータについての分析が扱われている。</li> <li>○ 生徒が数学的な表現力を養い、問題解決の過程を振り返ることができるように吹き出しでの問いかけやアドバイスがされている。「深い学び」のページでは、問題発見・問題解決の流れが提示されており、課題提示から自分や周りの考えをまとめ問題解決できるように工夫されている。</li> </ul>
大日本	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の導入では、日常生活や社会の事象を基にした題材が扱われている。例えば、2年「データの比較と箱ひげ図」の単元では、写真を見て会話している場面を扱い、複数年の1月の平均気温のデータについての分析が扱われている。</li> <li>○ 生徒が数学的な表現力を養い、問題解決の過程を振り返ることができるように吹き出しでの問いかけやアドバイスがされている。学習した内容を利用して考えるページでは、問題発見・問題解決の流れが提示されており、課題提示から自分や周りの考えをまとめ問題解決できるように工夫されている。</li> </ul>
学 図	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の導入では、日常生活や社会の事象を基にした題材が扱われている。例えば、2年「データの分布」の単元では、調べ学習の場面を扱い、日本各地の年間降水量のデータについての分析が扱われている。</li> <li>○ 生徒が数学的な表現力を養い、問題解決の過程を振り返ることができるように吹き出しでの問いかけやアドバイスがされている。「数学的活動」のページでは、問題発見・問題解決の流れが提示されており、課題提示から自分や周りの考えをまとめ問題解決できるように工夫されている。</li> </ul>

【資料1 数学】

<p>教 出</p>	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の導入では、日常生活や社会の事象を基にした題材が扱われている。例えば、2年「データの分析」の単元では、北海道旅行の場面を扱い、札幌の7、8月の最高気温のデータについての分析が扱われている。</li> <li>○ 生徒が数学的な表現力を養い、問題解決の過程を振り返ることができるように吹き出しでの問いかけやアドバイスがされている。問題解決のプロセスを示しているページでは、問題発見・問題解決の流れが提示されており、課題提示から自分や周りの考えをまとめ問題解決できるように工夫されている。</li> </ul>
<p>啓林館</p>	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の導入では、日常生活や社会の事象を基にした題材が扱われている。例えば、2年「箱ひげ図とデータの活用」の単元では、親戚との会話の場面を扱い、インターネットの通信速度のデータについての分析が扱われている。</li> <li>○ 生徒が数学的な表現力を養い、問題解決の過程を振り返ることができるように吹き出しでの問いかけやアドバイスがされている。「自分から学ぼう編」の「学びをいかそう」では、課題提示から自分や周りの考えをまとめ問題解決できるように工夫されている。</li> </ul>
<p>数 研</p>	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の導入では、日常生活や社会の事象を基にした題材が扱われている。例えば、2年「データの活用」の単元では、新聞記事を見ている場面を扱い、中学生の体力テストのデータについての分析が扱われている。</li> <li>○ 生徒が数学的な表現力を養い、問題解決の過程を振り返ることができるように吹き出しでの問いかけやアドバイスがされている。別冊の「探究ノート」では、課題提示から自分や周りの考えをまとめ問題解決できるように工夫されている。</li> </ul>
<p>日 文</p>	<p>数学的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元の導入では、日常生活や社会の事象を基にした題材が扱われている。例えば、2年「データの分布と確率」の単元では、調べ学習の場面を扱い、20年間の大都市の猛暑日のデータについての分析が扱われている。</li> <li>○ 生徒が数学的な表現力を養い、問題解決の過程を振り返ることができるように吹き出しでの問いかけやアドバイスがされている。「学び合おう」のページでは、問題発見・問題解決の流れが提示されており、「対話シート」を使い、課題提示から自分や周りの考えをまとめ問題解決できるように工夫されている。</li> </ul>

項目	観 点
6 補足的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、数学的に事象を処理することの良さを社会生活に生かしたりできるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
東 書	<p>○ 単元末や巻末に「基本の問題」「章の問題A・B」「大切にしたい見方・考え方」「数学の自由研究」などが設けられ、学習した内容を確実に習得できるよう配慮されている。また、「学びをひろげよう」等では、数学的に事象を処理することの良さを社会生活に生かしたりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「Dマーク」のあるページでは、学習の役に立つ情報をデジタルコンテンツや資料などで見ることができる。</p>
大日本	<p>○ 単元末や巻末に「○章をふり返ろう」「力をのばそう」「補充問題」「総合問題」などが設けられ、学習した内容を確実に習得できるよう配慮されている。また、「社会にリンク」「MATHFUL」等では、数学的に事象を処理することの良さを社会生活に生かしたりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「WEBマーク」のあるページでは、学習の役に立つ情報をデジタルコンテンツや資料などで見ることができる。</p>
学 図	<p>○ 単元末や巻末に「○章のまとめの問題」「深めよう!」「学年の復習」などが設けられ、学習した内容を確実に習得できるよう配慮されている。また、「さらなる数学へ」等では、数学的に事象を処理することの良さを社会生活に生かしたりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「二次元コード」のあるページでは、学習の役に立つ情報をデジタルコンテンツや資料などで見ることができる。</p>
教 出	<p>○ 単元末や巻末に「学習のまとめ」「章の問題」「学びのマップ」「補充問題」などが設けられ、学習した内容を確実に習得できるよう配慮されている。また、「数学の広場」等では、数学的に事象を処理することの良さを社会生活に生かしたりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「学びリンク」のあるページでは、学習の役に立つ情報をデジタルコンテンツや資料などで見ることができる。</p>
啓林館	<p>○ 「みんなで学ぼう編」では、単元末や巻末に「学びをたしかめよう」「学びを身につけよう」「力をつけよう」などが設けられ、学習した内容を確実に習得できるよう配慮されている。また、「数学ライブラリー」や「自分から学ぼう編」の「学びをいかそう」等では、数学的に事象を処理することの良さを社会生活に生かしたりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「二次元コード」のあるページでは、学習の役に立つ情報をデジタルコンテンツや資料などで見ることができる。</p>

【資料1 数学】

数 研	<p>○ 単元末や巻末に「確認問題」「問題A・B」「ぐんぐんのぼそう」、別冊「探究ノート」などが設けられ、学習した内容を確実に習得できるよう配慮されている。また、「数学旅行」等では、数学的に事象を処理することの良さを社会生活に生かしたりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「インターネットへのリンクマーク」のあるページでは、学習の役に立つ情報をデジタルコンテンツや資料などで見ることができる。</p>
日 文	<p>○ 単元末や巻末に「基本の問題」「○章の問題」「学年の復習」「補充問題」などが設けられ、学習した内容を確実に習得できるよう配慮されている。また、「数学を仕事に生かす」等では、数学的に事象を処理することの良さを社会生活に生かしたりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「WEBマーク」のあるページでは、学習の役に立つ情報をデジタルコンテンツや資料などで見ることができる。</p>



○ 各領域を取り扱っているページ数と総ページ数に占める割合

	東 書		大日本		学 図		教 出		啓林館		数 研		日 文	
	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合
A 数と式	236	28%	256	29%	263	29%	262	29%	230	25%	276	27%	238	27%
B 図形	214	25%	226	26%	227	25%	238	26%	214	23%	300	29%	202	23%
C 関数	112	13%	106	12%	112	13%	102	11%	100	11%	121	12%	110	13%
D データの活用	67	8%	74	8%	81	9%	83	9%	68	7%	84	8%	80	9%
その他	217	26%	214	25%	213	24%	233	25%	308	34%	255	24%	244	28%
計	846	100%	876	100%	896	100%	918	100%	920	100%	1036	100%	874	100%

○ 各観点について取りあげている箇所数

	東 書	大日本	学 図	教 出	啓林館	数 研	日 文
学習したことを日常生活に活用する場面について取り上げている箇所数	64	75	69	55	55	40	41
他教科に関連した内容について取り上げている箇所数	17	35	27	12	21	17	16
対話的な学びにつながる箇所数	132	138	155	150	148	109	130
論理的、統合的・発展的に考察することができる吹き出しや補足説明の箇所数	54	38	157	134	27	53	46
例題数	209	170	246	216	240	282	295
デジタルコンテンツの箇所数	53	49	42	29	149	164	75



# 理 科

学習指導要領（理科）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～14  
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15～25  
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26～28

発行者の 番号・略号	書 名	著 者 者	資料中 の表記
2 東 書	新しい科学	梶田 隆章 真行寺 千佳子 永原 裕子 西原 寛 ほか 132 名	東 書
4 大日本	理科の世界	有馬 朗人 ほか 68 名	大日本
11 学 図	中学校科学	霜田 光一 森本 信也 ほか 29 名	学 図
17 教 出	自然の探求 中学理科	室伏 きみ子 養老 孟司 ほか 31 名	教 出
61 啓林館	未来へひろがるサイエンス	大矢 禎一 鎌田 正裕 ほか 146 名	啓林館



## 第2章 各教科

### 第4節 理 科

#### 第1 目 標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

#### 第2 各分野の目標及び内容

##### 〔第1分野〕

##### 1 目 標

物質やエネルギーに関する事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 物質やエネルギーに関する事物・現象についての観察、実験などを行い、身近な物理現象、電流とその利用、運動とエネルギー、身の回りの物質、化学変化と原子・分子、化学変化とイオンなどについて理解するとともに、科学技術の発展と人間生活との関わりについて認識を深めるようにする。また、それらを科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 物質やエネルギーに関する事物・現象に関わり、それらの中に問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し表現するなど、科学的に探究する活動を通して、規則性を見いだしたり課題を解決したりする力を養う。
- (3) 物質やエネルギーに関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようになる。

##### 2 内 容

##### A 世界と日本の地域構成

##### (1) 身近な物理現象

身近な物理現象についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身近な物理現象を日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

##### (ア) 光と音

##### ⑦ 光の反射・屈折

光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだして理解すること。

##### ⑧ 凸レンズの働き

凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像のでき方との関係を見い

だして理解すること。

㉞ 音の性質

音についての実験を行い、音はものが振動することによって生じ空気中などを伝わること及び音の高さや大きさは発音体の振動の仕方に関係することを見いだして理解すること。

(イ) 力の働き

㉞ 力の働き

物体に力を働かせる実験を行い、物体に力が働くとその物体が変形したり動き始めたり、運動の様子が変わったりすることを見いだして理解するとともに、力は大きさと向きによって表されることを知ること。また、物体に働く2力についての実験を行い、力が釣り合うときの条件を見いだして理解すること。

イ 身近な物理現象について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、光の反射や屈折、凸レンズの働き、音の性質、力の働きの規則性や関係性を見いだして表現すること。

(2) 身の回りの物質

身の回りの物質についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身の回りの物質の性質や変化に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 物質のすがた

㉞ 身の回りの物質とその性質

身の回りの物質の性質を様々な方法で調べる実験を行い、物質には密度や加熱したときの变化など固有の性質と共通の性質があることを見いだして理解するとともに、実験器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付けること。

㉞ 気体の発生と性質

気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を理解するとともに、気体を発生させる方法や捕集法などの技能を身に付けること。

(イ) 水溶液

㉞ 水溶液

水溶液から溶質を取り出す実験を行い、その結果を溶解度と関連付けて理解すること。

(ウ) 状態変化

㉞ 状態変化と熱

物質の状態変化についての観察、実験を行い、状態変化によって物質の体積は変化するが質量は変化しないことを見いだして理解すること。

㉞ 物質の融点と沸点

物質は融点や沸点を境に状態が変化することを知るとともに、混合物を加熱する実験を行い、沸点の違いによって物質の分離ができることを見いだして理解すること。

イ 身の回りの物質について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、物質の性質や状態変化における規則性を見いだして表現すること。

(3) 電流とその利用

電流とその利用についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 電流、磁界に関する事物・現象を日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 電流

㉞ 回路と電流・電圧

回路をつくり、回路の電流や電圧を測定する実験を行い、回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧についての規則性を見いだして理解すること。

㉟ 電流・電圧と抵抗

金属線に加わる電圧と電流を測定する実験を行い、電圧と電流の関係を見いだして理解するとともに、金属線には電気抵抗があることを理解すること。

㊱ 電気とそのエネルギー

電流によって熱や光などを発生させる実験を行い、熱や光などが取り出せること及び電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見いだして理解すること。

㊲ 静電気と電流

異なる物質同士をこすり合わせると静電気が起こり、帯電した物体間では空間を隔てて力が働くこと及び静電気と電流には関係があることを見いだして理解すること。

(イ) 電流と磁界

㉞ 電流がつくる磁界

磁石や電流による磁界の観察を行い、磁界を磁力線で表すことを理解するとともに、コイルの回りに磁界ができることを知ること。

㉟ 磁界中の電流が受ける力

磁石とコイルを用いた実験を行い、磁界中のコイルに電流を流すと力が働くことを見いだして理解すること。

㊱ 電磁誘導と発電

磁石とコイルを用いた実験を行い、コイルや磁石を動かすことにより電流が得られることを見いだして理解するとともに、直流と交流の違いを理解すること。

イ 電流、磁界に関する現象について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、電流と電圧、電流の働き、静電気、電流と磁界の規則性や関係性を見いだして表現すること。

(4) 化学変化と原子・分子

化学変化についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 化学変化を原子や分子のモデルと関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 物質の成り立ち

㉞ 物質の分解

物質を分解する実験を行い、分解して生成した物質は元の物質とは異なることを見いだして理解すること。

㉟ 原子・分子

物質は原子や分子からできていることを理解するとともに、物質を構成する原子の種類は記号で表されることを知ること。

(イ) 化学変化

㉞ 化学変化

2種類の物質を反応させる実験を行い、反応前とは異なる物質が生成することを見いだして理解するとともに、化学変化は原子や分子のモデルで説明できること、化合物の組成は化学式で表されること及び化学変化は化学反応式で表されることを理解すること。

- ④ 化学変化における酸化と還元  
酸化や還元の実験を行い、酸化や還元は酸素が関係する反応であることを見いだして理解すること。
- ⑤ 化学変化と熱  
化学変化によって熱を取り出す実験を行い、化学変化には熱の出入りが伴うことを見いだして理解すること。
- (ウ) 化学変化と物質の質量
  - ⑥ 化学変化と質量の保存  
化学変化の前後における物質の質量を測定する実験を行い、反応物の質量の総和と生成物の質量の総和が等しいことを見いだして理解すること。
  - ④ 質量変化の規則性  
化学変化に関する物質の質量を測定する実験を行い、反応する物質の質量の間には一定の関係があることを見いだして理解すること。
- イ 化学変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、原子や分子と関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における物質の変化やその量的な関係を見いだして表現すること。
- (5) 運動とエネルギー  
物体の運動とエネルギーについての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。
    - (ア) 力のつり合いと合成・分解
      - ⑦ 水中の物体に働く力  
水圧についての実験を行い、その結果を水の重さと関連付けて理解すること。また、水中にある物体には浮力が働くことを知ること。
      - ④ 力の合成・分解  
力の合成と分解についての実験を行い、合力や分力の規則性を理解すること。
    - (イ) 運動の規則性
      - ⑦ 運動の速さと向き  
物体の運動についての観察、実験を行い、運動には速さと向きがあることを知ること。
      - ④ 力と運動  
物体に力が働く運動及び力が働かない運動についての観察、実験を行い、力が働く運動では運動の向きや時間の経過に伴って物体の速さが変わること及び力が働かない運動では物体は等速直線運動することを見いだして理解すること。
    - (ウ) 力学的エネルギー
      - ⑦ 仕事とエネルギー  
仕事に関する実験を行い、仕事と仕事率について理解すること。また、衝突の実験を行い、物体のもつ力学的エネルギーは物体が他の物体になしうる仕事で測れることを理解すること。
      - ④ 力学的エネルギーの保存  
力学的エネルギーに関する実験を行い、運動エネルギーと位置エネルギーが相互に移り変わることを見いだして理解するとともに、力学的エネルギーの総量が保存されることを理解すること。
  - イ 運動とエネルギーについて、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力のつり合い、合成や分解、物体の運動、力学的エネルギーの規則性や関



係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。

#### (6) 化学変化とイオン

化学変化についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 化学変化をイオンのモデルと関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

##### (ア) 水溶液とイオン

###### ㉞ 原子の成り立ちとイオン

水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を行い、水溶液には電流が流れるものと流れないものがあることを見いだして理解すること。また、電解質水溶液に電圧をかけ電流を流す実験を行い、電極に物質が生成することからイオンの存在を知るとともに、イオンの生成が原子の成り立ちに関係することを知ること。

###### ㉟ 酸・アルカリ

酸とアルカリの性質を調べる実験を行い、酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知ること。

###### ㊱ 中和と塩

中和反応の実験を行い、酸とアルカリを混ぜると水と塩が生成することを理解すること。

##### (イ) 化学変化と電池

###### ㉞ 金属イオン

金属を電解質水溶液に入れる実験を行い、金属によってイオンへのなりやすさが異なることを見いだして理解すること。

###### ㉟ 化学変化と電池

電解質水溶液と2種類の金属などを用いた実験を行い、電池の基本的な仕組みを理解するとともに、化学エネルギーが電気エネルギーに変換されていることを知ること。

イ 化学変化について、見通しをもって観察、実験などを行い、イオンと関連付けてその結果を分析して解釈し、化学変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。

#### (7) 科学技術と人間

科学技術と人間との関わりについての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

##### (ア) エネルギーと物質

###### ㉞ エネルギーとエネルギー資源

様々なエネルギーとその変換に関する観察、実験などを通して、日常生活や社会では様々なエネルギーの変換を利用していることを見いだして理解すること。また、人間は、水力、火力、原子力、太陽光などからエネルギーを得ていることを知るとともに、エネルギー資源の有効な利用が大切であることを認識すること。

###### ㉟ 様々な物質とその利用

物質に関する観察、実験などを通して、日常生活や社会では、様々な物質が幅広く利用されていることを理解するとともに、物質の有効な利用が大切であることを認識すること。

###### ㊱ 科学技術の発展

科学技術の発展の過程を知るとともに、科学技術が人間の生活を豊かで便利にし

ていることを認識すること。

(イ) 自然環境の保全と科学技術の利用

⑦ 自然環境の保全と科学技術の利用

自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察することを通して、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。

イ 日常生活や社会で使われているエネルギーや物質について、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈するとともに、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。

### 3 内容の取扱い

(1) 内容の(1)から(7)までについては、それぞれのアに示す知識及び技能とイに示す思考力、判断力、表現力等を相互に関連させながら、3年間を通じて科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指すものとする。

(2) 内容の(1)から(7)までのうち、(1)及び(2)は第1学年、(3)及び(4)は第2学年、(5)から(7)までは第3学年で取り扱うものとする。

(3) 内容の(1)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)の⑦については、全反射も扱い、光の屈折では入射角と屈折角の定性的な関係にも触れること。また、白色光はプリズムなどによっていろいろな色の光に分かれることにも触れること。

イ アの(ア)の④については、物体の位置に対する像の位置や像の大きさの定性的な関係を調べること。その際、実像と虚像を扱うこと。

ウ アの(ア)の⑤については、音の伝わる速さについて、空気中を伝わるおよその速さにも触れること。

エ アの(イ)の⑦については、ばねに加える力の大きさとばねの伸びとの関係も扱うこと。また、重さと質量との違いにも触れること。力の単位としては「ニュートン」を用いること。

(4) 内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)の⑦については、有機物と無機物との違いや金属と非金属との違いを扱うこと。

イ アの(ア)の④については、異なる方法を用いても同一の気体が得られることにも触れること。

ウ アの(イ)の⑦については、粒子のモデルと関連付けて扱い、質量パーセント濃度にも触れること。また、「溶解度」については、溶解度曲線にも触れること。

エ アの(ウ)の⑦については、粒子のモデルと関連付けて扱うこと。その際、粒子の運動にも触れること。

(5) 内容の(3)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)の⑦の「回路」については、直列及び並列の回路を取り上げ、それぞれについて二つの抵抗のつなぎ方を中心に扱うこと。

イ アの(ア)の④の「電気抵抗」については、物質の種類によって抵抗の値が異なることを扱うこと。また、二つの抵抗をつなぐ場合の合成抵抗にも触れること。

ウ アの(ア)の⑤については、電力量も扱うこと。その際、熱量にも触れること。

エ アの(ア)の⑥については、電流が電子の流れに関係していることを扱うこと。また、真空放電と関連付けながら放射線の性質と利用にも触れること。

オ アの(イ)の④については、電流の向きや磁界の向きを変えたときに力の向きが変わることを扱うこと。

カ アの(イ)の⑤については、コイルや磁石を動かす向きを変えたときに電流の向きが変わることを扱うこと。

(6) 内容の(4)については、次のとおり取り扱うものとする。

- ア アの(ア)の④の「物質を構成する原子の種類」を元素ということにも触れること。また、「記号」については、元素記号で表されることにも触れ、基礎的なものを取り上げること。その際、周期表を用いて多くの種類が存在することにも触れること。
- イ アの(イ)の⑦の「化学式」及び「化学反応式」については、簡単なものを扱うこと。
- ウ アの(イ)の④の「酸化や還元」については、簡単なものを扱うこと。
- (7) 内容の(5)については、次のとおり取り扱うものとする。
- ア アの(ア)の⑦については、水中にある物体には、あらゆる向きから圧力が働くことにも触れること。また、物体に働く水圧と浮力との定性的な関係にも触れること。
- イ アの(イ)の⑦については、物体に力が働くとき反対向きにも力が働くことにも触れること。
- ウ アの(イ)の④の「力が働く運動」のうち、落下運動については斜面に沿った運動を中心に扱うこと。その際、斜面の角度が90度になったときに自由落下になることにも触れること。「物体の速さが変わること」については、定性的に扱うこと。
- エ アの(ウ)の⑦については、仕事の原理にも触れること。
- オ アの(ウ)の④については、摩擦にも触れること。
- (8) 内容の(6)については、次のとおり取り扱うものとする。
- ア アの(ア)の⑦の「原子の成り立ち」については、原子が電子と原子核からできていることを扱うこと。その際、原子核が陽子と中性子できていることや、同じ元素でも中性子の数が異なる原子があることにも触れること。また、「イオン」については、化学式で表されることにも触れること。
- イ アの(ア)の④については、pHにも触れること。
- ウ アの(ア)の⑦については、水に溶ける塩と水に溶けない塩があることにも触れること。
- エ アの(イ)の⑦の「金属イオン」については、基礎的なものを扱うこと。
- オ アの(イ)の④の「電池」については、電極で起こる反応をイオンのモデルと関連付けて扱うこと。その際、「電池の基本的な仕組み」については、ダニエル電池を取り上げること。また、日常生活や社会で利用されている代表的な電池にも触れること。
- (9) 内容の(7)については、次のとおり取り扱うものとする。
- ア アの(ア)の⑦については、熱の伝わり方、放射線にも触れること。また、「エネルギーの変換」については、その総量が保存されること及びエネルギーを利用する際の効率も扱うこと。
- イ アの(ア)の④の「様々な物質」については、天然の物質や人工的につくられた物質のうち代表的なものを扱うこと。その際、プラスチックの性質にも触れること。
- ウ アの(イ)の⑦については、これまでの第1分野と第2分野の学習を生かし、第2分野の内容の(7)のアのイの⑦及びイと関連付けて総合的に扱うこと。

## 〔第2分野〕

### 1 目標

生命や地球に関する事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 生命や地球に関する事物・現象についての観察、実験などを行い、生物の体のつくりと働き、生命の連続性、大地の成り立ちと変化、気象とその変化、地球と宇宙などについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 生命や地球に関する事物・現象に関わり、それらの中に問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し表現するなど、科学的に探究する活動を通して、多様性に気付くとともに規則性を見いだしたり課題を解決したりする力を養う。
- (3) 生命や地球に関する事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命

を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うとともに、自然を総合的に見ることができるようにする。

## 2 内容

### (1) いろいろな生物とその共通点

身近な生物についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア いろいろな生物の共通点と相違点に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

#### (ア) 生物の観察と分類の仕方

##### ㊦ 生物の観察

校庭や学校周辺の生物の観察を行い、いろいろな生物が様々な場所で生活していることを見いだして理解するとともに、観察器具の操作、観察記録の仕方などの技能を身に付けること。

##### ㊧ 生物の特徴と分類の仕方

いろいろな生物を比較して見いだした共通点や相違点を基にして分類できることを理解するとともに、分類の仕方の基礎を身に付けること。

#### (イ) 生物の体の共通点と相違点

##### ㊦ 植物の体の共通点と相違点

身近な植物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解すること。また、その共通点や相違点に基づいて植物が分類できることを見いだして理解すること。

##### ㊧ 動物の体の共通点と相違点

身近な動物の外部形態の観察を行い、その観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、動物の体の基本的なつくりを理解すること。また、その共通点や相違点に基づいて動物が分類できることを見いだして理解すること。

イ 身近な生物についての観察、実験などを通して、いろいろな生物の共通点や相違点を見いだすとともに、生物を分類するための観点や基準を見いだして表現すること。

### (2) 大地の成り立ちと変化

大地の成り立ちと変化についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 大地の成り立ちと変化を地表に見られる様々な事物・現象と関連付けながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

#### (ア) 身近な地形や地層、岩石の観察

##### ㊦ 身近な地形や地層、岩石の観察

身近な地形や地層、岩石などの観察を通して、土地の成り立ちや広がり、構成物などについて理解するとともに、観察器具の操作、記録の仕方などの技能を身に付けること。

#### (イ) 地層の重なりと過去の様子

##### ㊦ 地層の重なりと過去の様子

地層の様子やその構成物などから地層のでき方を考察し、重なり方や広がり方についての規則性を見いだして理解するとともに、地層とその中の化石を手掛かりとして過去の環境と地質年代を推定できることを理解すること。

#### (ウ) 火山と地震

##### ㊦ 火山活動と火成岩

火山の形、活動の様子及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けて理解するとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因

と関連付けて理解すること。

① 地震の伝わり方と地球内部の働き

地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連付けて理解し、地震に伴う土地の変化の様子を理解すること。

(エ) 自然の恵みと火山災害・地震災害

⑦ 自然の恵みと火山災害・地震災害

自然がもたらす恵み及び火山災害と地震災害について調べ、これらを火山活動や地震発生の仕組みと関連付けて理解すること。

イ 大地の成り立ちと変化について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、地層の重なり方や広がり方の規則性、地下のマグマの性質と火山の形との関係性などを見いだして表現すること。

(3) 生物の体のつくりと働き

生物の体のつくりと働きについての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生物の体のつくりと働きとの関係に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 生物と細胞

⑦ 生物と細胞

生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること及び植物と動物の細胞のつくりの特徴を見いだして理解するとともに、観察器具の操作、観察記録の仕方などの技能を身に付けること。

(イ) 植物の体のつくりと働き

⑦ 葉・茎・根のつくりと働き

植物の葉、茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散の働きに関する実験の結果とを関連付けて理解すること。

(ウ) 動物の体のつくりと働き

⑦ 生命を維持する働き

消化や呼吸についての観察、実験などを行い、動物の体が必要な物質を取り入れ運搬している仕組みを観察、実験の結果などと関連付けて理解すること。また、不要となった物質を排出する仕組みがあることについて理解すること。

① 刺激と反応

動物が外界の刺激に適切に反応している様子の観察を行い、その仕組みを感覚器官、神経系及び運動器官のつくりと関連付けて理解すること。

イ 身近な植物や動物の体のつくりと働きについて、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、生物の体のつくりと働きについての規則性や関係性を見いだして表現すること。

(4) 気象とその変化

身近な気象の観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 気象観測

⑦ 気象要素

気象要素として、気温、湿度、気圧、風向などを理解すること。また、気圧を取り上げ、圧力についての実験を行い、圧力は力の大きさと面積に関係があることを見いだして理解するとともに、大気圧の実験を行い、その結果を空気の重さと関連付けて

理解すること。

① 気象観測

校庭などで気象観測を継続的に行い、その観測記録などに基づいて、気温、湿度、気圧、風向などの変化と天気との関係を見いだして理解するとともに、観測方法や記録の仕方を身に付けること。

(イ) 天気の変化

⑦ 霧や雲の発生

霧や雲の発生についての観察、実験を行い、そのでき方を気圧、気温及び湿度の変化と関連付けて理解すること。

① 前線の通過と天気の変化

前線の通過に伴う天気の変化の観測結果などに基づいて、その変化を暖気、寒気と関連付けて理解すること。

(ウ) 日本の気象

⑦ 日本の天気の特徴

天気図や気象衛星画像などから、日本の天気の特徴を気団と関連付けて理解すること。

① 大気の動きと海洋の影響

気象衛星画像や調査記録などから、日本の気象を日本付近の大気の動きや海洋の影響に関連付けて理解すること。

(エ) 自然の恵みと気象災害

⑦ 自然の恵みと気象災害

気象現象がもたらす恵みと気象災害について調べ、これらを天気の変化や日本の気象と関連付けて理解すること。

イ 気象とその変化について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現すること。

(5) 生命の連続性

生命の連続性についての観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生命の連続性に関する事物・現象の特徴に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 生物の成長と殖え方

⑦ 細胞分裂と生物の成長

体細胞分裂の観察を行い、その順序性を見いだして理解するとともに、細胞の分裂と生物の成長とを関連付けて理解すること。

① 生物の殖え方

生物の殖え方を観察し、有性生殖と無性生殖の特徴を見いだして理解するとともに、生物が殖えていくときに親の形質が子に伝わることを見いだして理解すること。

(イ) 遺伝の規則性と遺伝子

⑦ 遺伝の規則性と遺伝子

交配実験の結果などに基づいて、親の形質が子に伝わる時の規則性を見いだして理解すること。

(ウ) 生物の種類の多様性と進化

⑦ 生物の種類の多様性と進化

現存の生物及び化石の比較などを通して、現存の多様な生物は過去の生物が長い時間の経過の中で変化して生じてきたものであることを体のつくりと関連付けて理解

すること。

イ 生命の連続性について、観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、生物の成長と殖え方、遺伝現象、生物の種類の多様性と進化についての特徴や規則性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。

(6) 地球と宇宙

身近な天体の観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 身近な天体とその運動に関する特徴に着目しながら、次のことを理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 天体の動きと地球の自転・公転

㉞ 日周運動と自転

天体の日周運動の観察を行い、その観察記録を地球の自転と関連付けて理解すること。

㉟ 年周運動と公転

星座の年周運動や太陽の南中高度の変化などの観察を行い、その観察記録を地球の公転や地軸の傾きと関連付けて理解すること。

(イ) 太陽系と恒星

㉞ 太陽の様子

太陽の観察を行い、その観察記録や資料に基づいて、太陽の特徴を見いだして理解すること。

㉟ 惑星と恒星

観測資料などを基に、惑星と恒星などの特徴を見いだして理解するとともに、太陽系の構造について理解すること。

㊱ 月や金星の運動と見え方

月の観察を行い、その観察記録や資料に基づいて、月の公転と見え方を関連付けて理解すること。また、金星の観測資料などを基に、金星の公転と見え方を関連付けて理解すること。

イ 地球と宇宙について、天体の観察、実験などを行い、その結果や資料を分析して解釈し、天体の運動と見え方についての特徴や規則性を見いだして表現すること。また、探究の過程を振り返ること。

(7) 自然と人間

自然環境を調べる観察、実験などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 日常生活や社会と関連付けながら、次のことを理解するとともに、自然環境を調べる観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 生物と環境

㉞ 自然界のつり合い

微生物の働きを調べ、植物、動物及び微生物を栄養の面から相互に関連付けて理解するとともに、自然界では、これらの生物がつり合いを保って生活していることを見いだして理解すること。

㉟ 自然環境の調査と環境保全

身近な自然環境について調べ、様々な要因が自然界のつり合いに影響していることを理解するとともに、自然環境を保全することの重要性を認識すること。

㊱ 地域の自然災害

地域の自然災害について、総合的に調べ、自然と人間との関わり方について認識すること。

(イ) 自然環境の保全と科学技術の利用

⑦ 自然環境の保全と科学技術の利用

自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察することを通して、持続可能な社会をつくることが重要であることを認識すること。

イ 身近な自然環境や地域の自然災害などを調べる観察、実験などを行い、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について、科学的に考察して判断すること。

3 内容の取扱い

(1) 内容の(1)から(7)までについては、それぞれのアに示す知識及び技能とイに示す思考力、判断力、表現力等とを相互に関連させながら、3年間を通じて科学的に探究するために必要な資質・能力の育成を目指すものとする。

(2) 内容の(1)から(7)までのうち、(1)及び(2)は第1学年、(3)及び(4)は第2学年、(5)から(7)までは第3学年で取り扱うものとする。

(3) 内容の(1)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)の⑦については、身近な生物の観察を扱うが、ルーペや双眼実体顕微鏡などを用いて、外見から観察できる体のつくりを中心に扱うこと。

イ アの(イ)の⑦については、花のつくりを中心に扱い、種子植物が被子植物と裸子植物に分類できることを扱うこと。その際、胚珠が種子になることにも触れること。また、被子植物が単子葉類と双子葉類に分類できることについては、葉のつくりを中心に扱うこと。なお、種子をつくらない植物が胞子をつくることにも触れること。

ウ アの(ウ)の⑦については、脊椎動物と無脊椎動物の違いを中心に扱うこと。脊椎動物については、ヒトや魚を例に、体のつくりの共通点としての背骨の存在について扱うこと。また、体の表面の様子や呼吸の仕方などの特徴を基準として分類できることを扱うこと。無脊椎動物については、節足動物や軟体動物の観察を行い、それらの動物と脊椎動物の体のつくりの特徴を比較し、その共通点と相違点を扱うこと。

(4) 内容の(2)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)の⑦の「身近な地形や地層、岩石などの観察」については、学校内外の地形や地層、岩石などを観察する活動とすること。

イ アの(イ)の⑦については、地層を形成している代表的な堆積岩も取り上げること。「地層」については、断層、褶曲にも触れること。「化石」については、示相化石及び示準化石を取り上げること。「地質年代」の区分は、古生代、中生代、新生代を取り上げること。

ウ アの(ウ)の⑦の「火山」については、粘性と関係付けながら代表的な火山を扱うこと。「マグマの性質」については、粘性を扱うこと。「火山岩」及び「深成岩」については、代表的な岩石を扱うこと。また、代表的な造岩鉱物も扱うこと。

エ アの(エ)の⑦については、地震の現象面を中心に扱い、初期微動継続時間と震源までの距離との定性的な関係にも触れること。また、「地球内部の働き」については、日本付近のプレートの動きを中心に扱い、地球規模でのプレートの動きにも触れること。その際、津波発生の仕組みについても触れること。

オ アの(オ)の⑦の「火山災害と地震災害」については、記録や資料などを用いて調べること。

(5) 内容の(3)については、次のとおり取り扱うものとする。

ア アの(ア)の⑦については、植物と動物の細胞のつくりの共通点と相違点について触れること。また、細胞の呼吸及び単細胞生物の存在にも触れること。

イ アの(イ)の⑦については、光合成における葉緑体の働きにも触れること。また、葉、茎、根の働きを相互に関連付けて扱うこと。

ウ アの(ウ)の⑦については、各器官の働きを中心に扱うこと。「消化」については、代表的な消化酵素の働きを扱うこと。また、摂取された食物が消化によって小腸の壁から吸収される物質になることにも触れること。血液の循環に関連して、血液成分の働き、腎臓や



- 肝臓の働きにも触れること。
- エ アの(ウ)の㉑については、各器官の働きを中心に扱うこと。
- (6) 内容の(4)については、次のとおり取り扱うものとする。
- ア アの(ア)の㉑の「大気圧」については、空気中にある物体にはあらゆる向きから圧力が働くことにも触れること。
- イ アの(イ)の㉑については、気温による飽和水蒸気量の変化が湿度の変化や凝結に関わりがあることを扱うこと。また、水の循環にも触れること。
- ウ アの(イ)の㉑については、風の吹き方にも触れること。
- エ アの(ウ)の㉑については、地球を取り巻く大気の動きにも触れること。また、地球の大きさや大気の厚さにも触れること。
- オ アの(エ)の㉑の「気象災害」については、記録や資料などを用いて調べること。
- (7) 内容の(5)については、次のとおり取り扱うものとする。
- ア アの(ア)の㉑については、染色体が複製されることにも触れること。
- イ アの(ア)の㉑については、有性生殖の仕組みを減数分裂と関連付けて扱うこと。「無性生殖」については、単細胞生物の分裂や栄養生殖にも触れること。
- ウ アの(イ)の㉑については、分離の法則を扱うこと。また、遺伝子の本体がDNAであることにも触れること。
- エ アの(ウ)の㉑については、進化の証拠とされる事柄や進化の具体例について扱うこと。その際、生物にはその生息環境での生活に都合のよい特徴が見られることにも触れること。また、遺伝子に変化が起きて形質が変化することがあることにも触れること。
- (8) 内容の(6)については、次のとおり取り扱うものとする。
- ア アの(ア)の㉑の「太陽の南中高度の変化」については、季節による昼夜の長さや気温の変化にも触れること。
- イ アの(イ)の㉑の「太陽の特徴」については、形、大きさ、表面の様子などを扱うこと。その際、太陽から放出された多量の光などのエネルギーによる地表への影響にも触れること。
- ウ アの(イ)の㉑の「惑星」については、大きさ、大気組成、表面温度、衛星の存在などを取り上げること。その際、地球には生命を支える条件が備わっていることにも触れること。「恒星」については、自ら光を放つことや太陽もその一つであることも扱うこと。その際、恒星の集団としての銀河系の存在にも触れること。「太陽系の構造」については、惑星以外の天体が存在することにも触れること。
- エ アの(イ)の㉑の「月の公転と見え方」については、月の運動と満ち欠けを扱うこと。その際、日食や月食にも触れること。また、「金星の公転と見え方」については、金星の運動と満ち欠けや見かけの大きさを扱うこと。
- (9) 内容の(7)については、次のとおり取り扱うものとする。
- ア アの(ア)の㉑については、生態系における生産者と消費者との関係を扱うこと。また、分解者の働きについても扱うこと。その際、土壌動物にも触れること。
- イ アの(ア)の㉑については、生物や大気、水などの自然環境を直接調べたり、記録や資料を基に調べたりするなどの活動を行うこと。また、気候変動や外来生物にも触れること。
- ウ アの(ア)の㉑については、地域の自然災害を調べたり、記録や資料を基に調べたりするなどの活動を行うこと。
- エ アの(イ)の㉑については、これまでの第1分野と第2分野の学習を生かし、第1分野の内容の(7)のアのイの㉑及びイと関連付けて総合的に扱うこと。

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、理科の学習過程の特質を踏まえ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実を図ること。
  - (2) 各学年においては、年間を通じて、各分野におよそ同程度の授業時数を配当すること。その際、各分野間及び各項目間の関連を十分考慮して、各分野の特徴的な見方・考え方を総合的に働かせ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を養うことができるようにすること。
  - (3) 学校や生徒の実態に応じ、十分な観察や実験の時間、課題解決のために探究する時間などを設けるようにすること。その際、問題を見いだし観察、実験を計画する学習活動、観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動、科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動などが充実するようにすること。
  - (4) 日常生活や他教科等との関連を図ること。
  - (5) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
  - (6) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、理科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 観察、実験、野外観察を重視するとともに、地域の環境や学校の実態を生かし、自然の事物・現象についての基本的な概念の形成及び科学的に探究する力と態度の育成が段階的に無理なく行えるようにすること。
  - (2) 生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養うようにすること。
  - (3) 1の(3)の学習活動を通して、言語活動が充実するようにすること。
  - (4) 各分野の指導に当たっては、観察、実験の過程での情報の検索、実験、データの処理、実験の計測などにおいて、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的かつ適切に活用するようにすること。
  - (5) 指導に当たっては、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること。
  - (6) 原理や法則の理解を深めるためのものづくりを、各内容の特質に応じて適宜行うようにすること。
  - (7) 継続的な観察や季節を変えての定点観測を、各内容の特質に応じて適宜行うようにすること。
  - (8) 観察、実験、野外観察などの体験的な学習活動の充実に配慮すること。また、環境整備に十分配慮すること。
  - (9) 博物館や科学学習センターなどと積極的に連携、協力を図るようにすること。
  - (10) 科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていることに触れること。また、理科で学習することが様々な職業など関係していることにも触れること。
- 3 観察、実験、野外観察の指導に当たっては、特に事故防止に十分留意するとともに、使用薬品の管理及び廃棄についても適切な措置をとるよう配慮するものとする。

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>理科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然の事物・現象についての理解や科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能について</li> <li>○ 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うことについて</li> <li>○ 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度について</li> </ul>
2 人権の 取扱い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> <li>○ 自然環境への配慮や防災について</li> </ul> <p>生徒の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全の確保や事故防止について</li> </ul>
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> </ul>
4 組織・配列	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ 単元構成について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>
5 創意工夫	<p>理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 観察・実験を通した科学的に探究する活動について</li> <li>○ 科学的な概念を使用して、自然の事物・現象を日常生活や社会と関連付けることについて</li> </ul>
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、自然や身の回りの事物・現象を科学的に探究したりできるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料やコラムなど</li> </ul>

【資料1 理科】

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>理科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然の事物・現象についての理解や科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能について</li> <li>○ 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うことについて</li> <li>○ 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然の事物・現象から問題を発見し、仮説を立て、構想し、実験・観察をすることを通して、自然についての理解や科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けられる内容が取りあげられている。</li> <li>○ 観察、実験などを行い、「結果の見方」「考察のポイント」で結果を分析・解釈する際の視点を示すなど、科学的に探究する力を養うための適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「学びを広げよう自由研究」などで、自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然の事物・現象から問題を見出し、予想し、計画を立案し、実験・観察をすることを通して、自然についての理解や科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けられる内容が取りあげられている。</li> <li>○ 観察、実験などを行い、「結果の整理」「結果から考えよう」で結果を分析・解釈する際の視点を示すなど、科学的に探究する力を養うための適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「自由研究にチャレンジしよう」などで、自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。</li> </ul>
学 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然の事物・現象から問題に気づき、仮説を話し合い、計画を立案し、実験・観察をすることを通して、自然についての理解や科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けられる内容が取りあげられている。</li> <li>○ 観察、実験などを行い、「結果」「考察」で結果を分析・解釈する際の視点を示すなど、科学的に探究する力を養うための適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「発表！この自由研究がスゴイ！」などで、自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。</li> </ul>

教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然の事物・現象から疑問を見つけ、課題を決めて仮説や計画を立て、実験・観察をすることを通して、自然についての理解や科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けられる内容が取りあげられている。</li> <li>○ 観察、実験などを行い、「結果」「考察」で結果を分析・解釈する際の視点を示すなど、科学的に探究する力を養うための適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「自由研究」などで、自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。</li> </ul>
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自然の事物・現象から疑問を見つけ、課題を決めて仮説や計画を立て、実験・観察をすることを通して、自然についての理解や科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けられる内容が取りあげられている。</li> <li>○ 観察、実験などを行い、「結果」「考察」で結果を分析・解釈する際の視点を示すなど、科学的に探究する力を養うための適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「自由研究テーマ例」などで、自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を育むための適切な内容が取りあげられている。</li> </ul>

【資料1 理科】

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> <li>○ 自然環境への配慮や防災について</li> </ul> <p>生徒の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全の確保や事故防止について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> <li>○ 自然環境への配慮や防災について適切に取り扱われている。例えば、3年の「自然災害と地域のかかわりを学ぶ」やコラムで、自然環境への配慮や防災について取り扱われている。</li> <li>○ 生徒の安全の確保や事故防止について、注意事項をマークで示すとともに、文字を赤字で示し、危険が回避できるよう配慮されている。また、1年は巻頭、2・3年は巻末の「理科室の決まり」のほか、薬品の性質や扱い方の注意、器具の基本操作が示されている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> <li>○ 自然環境への配慮や防災について適切に取り扱われている。例えば、3年の「地域の自然災害」やコラムで、自然環境への配慮や防災について取り扱われている。</li> <li>○ 生徒の安全の確保や事故防止について、「注意マーク」で示し、危険が回避できるよう配慮されている。また、1年は巻頭、2・3年は巻末の「理科室の決まり」のほか、薬品の特徴や取り扱うときの注意、器具の基本操作が示されている。</li> </ul>

学 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> <li>○ 自然環境への配慮や防災について適切に取り扱われている。例えば、3年の巻頭資料「ミッションX自然災害から身を守れ！」やコラムで、自然環境への配慮や防災について取り扱われている。</li> <li>○ 生徒の安全の確保や事故防止について、「ストップ」「注意」「危険」マークで示すとともに、文字を赤字で示し、危険が回避できるよう配慮されている。また、1年の巻頭の「実験室を使うコツ」で実験室での注意事項が、巻末の「資料」で薬品の扱い方、実験に使う主な器具や実験器具の操作が示されている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> <li>○ 自然環境への配慮や防災について適切に取り扱われている。例えば、3年「自然災害と私たち」やコラムで、自然環境への配慮や防災について取り扱われている。</li> <li>○ 生徒の安全の確保や事故防止について、「禁止」「注意」マークで示すとともに、文字を赤字で示し、危険が回避できるよう配慮されている。また、1年は巻頭、2・3年は巻末の「理科室のきまりと応急処置」のほか、教科書に記載されている主な物質・試薬の一覧、基礎技能として、実験器具の使い方が示されている。</li> </ul>
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> <li>○ 自然環境への配慮や防災について適切に取り扱われている。例えば、3年「自然が人間の生活におよぼす影響」やコラムで、自然環境への配慮や防災について取り扱われている。</li> <li>○ 生徒の安全の確保や事故防止について、「観察・実験の注意・安全」マークで示すとともに、文字を赤字で示し、危険が回避できるよう配慮されている。また、すべての学年の教科書中ほどの「実験を正しく安全に進めるために」で、実験のチェックリストや実験器具の使い方が、巻末に教科書に出ている主な物質や薬品の性質が示されている。</li> </ul>

【資料1 理科】

項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に応じた文章の分量と分かりやすい表現で記述されている。また、重要語句については、本文上で太字にし、単元末の「学習内容の整理」でも取りあげられている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に応じた文章の分量と分かりやすい表現で記述されている。また、重要語句については、本文上で太字にし、単元末の「まとめ」でも取りあげられている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>
学 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に応じた文章の分量と分かりやすい表現で記述されている。また、重要語句については、本文上で太字にして取りあげられている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に応じた文章の分量と分かりやすい表現で記述されている。また、重要語句については、本文上で太赤字にし、単元末の「要点と重要用語の整理」でも取りあげられている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>
啓林館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に応じた文章の分量と分かりやすい表現で記述されている。また、重要語句については、本文上で太字にし、単元末の「学習のまとめ」でも取りあげられている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>



項目	観 点
4 組織・配列	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ 単元構成について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年間を通して、学習指導要領に示された各内容を学習できるよう配列されている。もくじでは、領域ごとに単元が明示されるとともに、領域に応じて単元番号が色分けされ、単元の系統性が確認できるよう示されている。</li> <li>○ 発見→課題→仮説→構想→実験・観察→分析・解釈→検討・改善→結論→活用を進め方の基本とした単元構成となっている。また、単元末の「学習内容の整理」「確かめと応用」で、振り返ることができるよう取り扱われている。さらに、他教科との関連について「○○で学ぶこと」で示されている。</li> <li>○ 本文はページ左側に寄せられており、右側に写真や図が多く配置されている。</li> </ul>
大日本	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年間を通して、学習指導要領に示された各内容を学習できるよう配列されている。もくじでは、領域ごとに単元が明示されるとともに、領域に応じて単元番号が色分けされ、単元の系統性が確認できるよう示されている。</li> <li>○ 問題発見→課題→予想・計画→実験・観察→結果→考察→解説を進め方の基本とした単元構成となっている。また、単元末の「まとめ」「単元末問題」で、振り返ることができるよう取り扱われている。さらに、他教科との関連について「つながる」マークで示されている。</li> <li>○ 本文は見開きページ中央に寄せられており、両端に写真や図が多く配置されている。</li> </ul>

【資料1 理科】

<p>学 図</p>	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年間を通して、学習指導要領に示された各内容を学習できるよう配列されている。もくじでは、領域ごとに単元が明示され、単元の系統性が確認できるよう示されている。</li> <li>○ 気づき→課題設定→仮説→計画→観察・実験→結果→考察→ふり返りを進め方の基本とした単元構成となっている。また、単元末の「学びを日常にいかしたら」で、振り返ることができるよう取り扱われている。さらに、他教科との関連について「つながり」マークで示されている。</li> <li>○ 本文はページ左側に寄せられており、右側に写真や図が多く配置されている。</li> </ul>
<p>教 出</p>	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年間を通して、学習指導要領に示された各内容を学習できるよう配列されている。もくじでは、領域ごとに単元が明示されるとともに、領域に応じて単元番号が色分けされ、単元の系統性が確認できるよう示されている。</li> <li>○ 疑問を見つける→課題を決める→仮説を立てる→計画を立てる→観察・実験→考察→結論を進め方の基本とした単元構成となっている。また、単元末の「要点と重要用語の整理」「基本問題」で、振り返ることができるよう取り扱われている。さらに、算数・数学との連携について「ブリッジ算数・数学」で示されている。</li> <li>○ 本文はページ左側に寄せられており、右側に写真や図が多く配置されている。</li> </ul>
<p>啓林館</p>	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年間を通して、学習指導要領に示された各内容を学習できるよう配列されている。もくじでは、領域ごとに単元が明示されるとともに、領域に応じて単元番号が色分けされ、単元の系統性が確認できるよう示されている。</li> <li>○ 疑問を見出す→課題の設定→仮説の設定→計画の立案→観察・実験→結果の整理→考察→表現を進め方の基本とした単元構成となっている。また、単元末の「学習のまとめ」「力だめし」で、振り返ることができるよう取り扱われている。さらに、他教科との関連について「○○と関連」で示されている。</li> <li>○ 本文は見開きページ中央に寄せられており、両端に写真や図が多く配置されている。</li> </ul>

項目	観 点
5 創意工夫	理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。 ○ 観察・実験を通じた科学的に探究する活動について ○ 科学的な概念を使用して、自然の事物・現象を日常生活や社会と関連付けることについて

発行者	事 項
東 書	理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。  ○ 巻頭の「探究の流れと教科書の使い方『科学で調べていこう』」で探究の過程や進め方を、また単元中の見開きページ左下に、そのページでの探究の流れの過程を示している。また、科学的に探究する活動の中で、働かせたい学び方や見方・考え方について、先生のキャラクターによる「科学のミカタ」や生徒のキャラクターの発言でヒントを示すなど工夫されている。  ○ 「つながる科学」「未来への科学」などで、学習と関連する身の回りの内容を扱い、日常生活や社会と関連付けて考えることができるよう工夫されている。
大日本	理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。  ○ 巻頭の「理科の学習の進め方」、1年巻末の「探究の進め方」で探究の過程や進め方を示している。また、科学的に探究する活動の中で、働かせたい学び方や見方・考え方について、生徒のキャラクターの発言でヒントを示すなど工夫されている。  ○ 「くらしの中の理科」「科学のあしあと」などで、学習と関連する身の回りの内容を扱い、日常生活や社会と関連付けて考えることができるよう工夫されている。
学 図	理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。  ○ 巻頭の「理科のトリセツ」で探究の過程や進め方を示している。また、科学的に探究する活動の中で、働かせたい学び方や見方・考え方について、先生や生徒のキャラクターの発言や授業1時間ごとの「見方」「考え方」でヒントを示すなど工夫されている。  ○ 「サイエンスカフェ」「学び続ける理科マスター」などで、学習と関連する身の回りの内容を扱い、日常生活や社会と関連付けて考えることができるよう工夫されている。

【資料1 理科】

<p>教 出</p>	<p>理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭折込みページ「探究の進め方」で探究の過程や進め方を示し、折込みページを開くと学習時の探究の過程が確認できる。また、科学的に探究する活動の中で、働かせたい学び方や見方・考え方について、生徒のキャラクターの発言でヒントを示すなど工夫されている。</li> <li>○ 「ハローサイエンス」などで、学習と関連する身の回りの内容を扱い、日常生活や社会と関連付けて考えることができるよう工夫されている。</li> </ul>
<p>啓林館</p>	<p>理科の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭の「探究の過程」「この教科書の使い方」や巻末の「探究の流れと探究のふり返し」で探究の過程や進め方を示している。また、科学的に探究する活動の中で、働かせたい学び方や見方・考え方について、生徒のキャラクターの発言でヒントを示すなど工夫されている。</li> <li>○ 「お料理ラボ」「お仕事ラボ」等の科学コラムなどで、学習と関連する身の回りの内容を扱い、日常生活や社会と関連付けて考えることができるよう工夫されている。</li> </ul>

項目	観 点
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、自然や身の回りの事物・現象を科学的に探究したりできるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
東 書	<p>○ 章末の「各節の課題に対する結論の例」「学んだことをチェックしよう」「学んだことをつなげよう」や単元末の「学習内容の整理」「確かめと応用」では、学習した内容を振り返ることができるよう配慮されている。また、「学びをいかして考えよう」などでは、学んだことを生かして自然や身の回りの事物・現象などについて科学的に探究することができるよう配慮されている。</p> <p>なお、「Dマーク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
大日本	<p>○ 章末の「章末問題」や単元末の「まとめ」「単元末問題」「読解力問題」では、学習した内容を振り返ることができるよう配慮されている。また、「探究活動」などでは、学んだことを生かして自然や身の回りの事物・現象などについて科学的に探究することができるよう配慮されている。</p> <p>なお、「ウェブサイトのマーク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
学 図	<p>○ 単元末の「学びを日常にいかしたら」では、学習した内容を振り返ることができるよう配慮されている。また、「学びのあしあと」「学び続ける理科マスター」などでは、学んだことを生かして自然や身の回りの事物・現象などについて科学的に探究することができるよう配慮されている。</p> <p>なお、「二次元コード」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
教 出	<p>○ 章末の「要点をチェック」や単元末の「要点と重要用語の整理」「基本問題」では、学習した内容を振り返ることができるよう配慮されている。また、「学習後の私」などでは、学んだことを生かして自然や身の回りの事物・現象などについて科学的に探究することができるよう配慮されている。</p> <p>なお、「まなびリンク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
啓林館	<p>○ 章末の「基本のチェック」や単元末の「学習のまとめ」「力だめし」では、学習した内容を振り返ることができるよう配慮されている。また、「みんなで探Qクラブ」などでは、学んだことを生かして自然や身の回りの事物・現象などについて科学的に探究することができるよう配慮されている。</p> <p>なお、「二次元コード」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>

【資料2 理科】

○ 各教科書の判型・柱とする領域別のページ数と総ページ数に占める割合

判型	東書		大日本		学図		教出		啓林館	
	A4スリム		B5		AB		AB変形		AB	
	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合	頁数	割合
粒子領域	212	23%	198	20%	178	21%	212	20%	206	20%
エネルギー領域	178	19%	210	21%	198	23%	214	21%	216	21%
生命領域	200	21%	220	23%	172	20%	202	19%	174	17%
地球領域	180	19%	200	20%	182	22%	206	20%	188	19%
3年最終単元 (4領域複合)	63	7%	50	5%	24	3%	68	7%	66	7%
その他(資料等)	99	11%	108	11%	92	11%	132	13%	162	16%
計	932	100%	986	100%	846	100%	1034	100%	1012	100%

○ 観察・実験などを取りあげている箇所数

	東書	大日本	学図	教出	啓林館
観察・実験などについて取りあげている箇所数	86	76	83	68	76
補足的な観察・実験などについて取りあげている箇所数	50	99	25	73	59
探究活動・自由研究について取りあげている箇所数	18	16	25	22	33

○ 環境保全・防災を取り扱っている箇所数

	東書	大日本	学図	教出	啓林館
環境保全	14	16	6	19	27
防災	8	7	5	4	13

- 理科の見方・考え方を働かせ、観察・実験を通じた科学的に探究する学習活動などについて取り扱っている箇所数

	東書	大日本	学図	教出	啓林館
問題を見だし観察、実験を計画する学習活動について取り扱っている箇所数	58	41	23	67	80
観察・実験の結果を分析し解釈する学習活動を取り扱っている箇所数	62	78	80	67	68
科学的な概念を使用して考えたり説明したりする学習活動を取り扱っている箇所数	166	54	48	70	51

- 科学技術と日常生活や社会との関連等を取り扱っている箇所数

	東書	大日本	学図	教出	啓林館
日常生活や社会との関連	246	169	82	145	115
ものづくり	7	6	2	2	7
博物館や科学学習センターなどとの連携	5	9	4	4	6

- 補充的な学習や復習・発展的な学習を取り扱っている箇所数・ページ数

	東書	大日本	学図	教出	啓林館
既習事項の確認・振り返り	66	98	19	81	63
発展的な内容	69	86	34	78	70
学習のまとめ・練習問題 (ページ数)	169	153	34	133	143

【資料2 理科】

○ 単元中の記載順

学年／単元（領域）	東 書	大日本	学 図	教 出	啓林館	
1年	身の回りの物質 (粒子領域)	いろいろな物質 ↓ 気体 ↓ 水溶液 ↓ 状態変化	いろいろな物質 ↓ 気体 ↓ 状態変化 ↓ 水溶液	いろいろな物質 ↓ 水溶液 ↓ 気体 ↓ 状態変化	いろいろな物質 ↓ 気体 ↓ 水溶液 ↓ 状態変化	いろいろな物質 ↓ 気体 ↓ 水溶液 ↓ 状態変化
	大地の成り立ち と変化 (地球領域)	火山 ↓ 地震 ↓ 地層	火山 ↓ 地震 ↓ 地層	火山 ↓ 地層 ↓ 地震	地層 ↓ 火山 ↓ 地震	地震 ↓ 火山 ↓ 地層
2年	電流とその利用 (エネルギー領域)	電流の正体 (静電気・電子) ↓ 電流と回路 ↓ 電流と磁界	電流と回路 ↓ 電流と磁界 ↓ 電流の正体 (静電気・電子)	電流と回路 ↓ 電流と磁界 ↓ 電流の正体 (静電気・電子)	電流と回路 ↓ 電流と磁界 ↓ 電流の正体 (静電気・電子)	電流と回路 ↓ 電流の正体 (静電気・電子) ↓ 電流と磁界
	化学変化と 原子・分子 (粒子領域)	分解 ↓ 原子・分子 (化学式) ↓ 化合 ↓ 化学反応式 ↓ 酸化・還元 ↓ 質量保存の法則	分解 ↓ 原子・分子 (化学式) ↓ 化学反応式 ↓ 化合・酸化・還元 ↓ 質量保存の法則	酸化 ↓ 原子・分子 (化学式) ↓ 化合・分解 ↓ 化学反応式 ↓ 質量保存の法則 ↓ 酸化・還元	分解 ↓ 原子・分子 (化学式) ↓ 化学反応式 ↓ 化合・酸化・還元 ↓ 質量保存の法則	分解 ↓ 原子・分子 (化学式) ↓ 化学反応式 ↓ 化合・酸化・還元 ↓ 質量保存の法則
3年	運動と エネルギー (エネルギー領域)	運動 ↓ 力 ↓ エネルギー	力 ↓ 運動 ↓ エネルギー	力 ↓ 運動 ↓ エネルギー	力 ↓ 運動 ↓ エネルギー	力 ↓ 運動 ↓ エネルギー ↓ エネルギー資源
	化学変化と イオン (粒子領域)	水溶液とイオン ↓ 酸・アルカリ ↓ 電池	水溶液とイオン ↓ 電池 ↓ 酸・アルカリ	水溶液とイオン ↓ 酸・アルカリ ↓ 電池	水溶液とイオン ↓ 酸・アルカリ ↓ 電池	水溶液とイオン ↓ 電池 ↓ 酸・アルカリ
	地球と宇宙 (地球領域)	日周運動 ↓ 年周運動 ↓ 月と金星 ↓ 宇宙の広がり	日周運動 ↓ 年周運動 ↓ 月と金星 ↓ 宇宙の広がり	宇宙の広がり ↓ 太陽の日周・年 周運動 ↓ 星の日周・年周 運動 ↓ 月と金星	日周運動 ↓ 年周運動 ↓ 月と金星 ↓ 宇宙の広がり	宇宙の広がり ↓ 太陽の日周・年 周運動 ↓ 星の日周・年周 運動 ↓ 月と金星

\*全発行者で記載順が同じ内容は省略



## 音楽（一般）

学習指導要領（音楽）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～6  
資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7～13  
資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14～15

発行者の 番号・略号	書名	著作者	資料中 の表記
17 教出	中学音楽 音楽のおくりもの	新実 徳英 ほか18名	教出
27 教芸	中学生の音楽	小原 光一 ほか18名	教芸



## 第2章 各教科

### 第5節 音 楽

#### 第1 目 標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

#### 第2 各学年の目標及び内容

##### 〔第1学年〕

##### 1 目 標

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

##### 2 内 容

##### A 表 現

- (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。
  - イ 次のア及びイについて理解すること。
    - (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり
    - (イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり
  - ウ 次のア及びイの技能を身に付けること。
    - (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
    - (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能
- (2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。
  - イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
    - (ア) 曲想と音楽の構造との関わり
    - (イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり
  - ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

- (ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能
  - (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能
- (3) 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、創作表現を創意工夫すること。
  - イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
    - (ア) 音のつながり方の特徴
    - (イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴
  - ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

## B 鑑賞

- (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。
    - (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠
    - (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割
    - (ウ) 音楽表現の共通性や固有性
  - イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
    - (ア) 曲想と音楽の構造との関わり
    - (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり
    - (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性

### [共通事項]

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。
  - イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

### [第2学年及び第3学年]

#### 1 目標

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

#### 2 内容

##### A 表現

- (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。
  - イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

- (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり
- (イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり
- ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
  - (ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
  - (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

(2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい器楽表現を創意工夫すること。
- イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。
  - (ア) 曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり
  - (イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わり
- ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
  - (ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能
  - (イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の音などを聴きながら他者と合わせて演奏する技能

(3) 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。
- イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。
  - (ア) 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴
  - (イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴
- ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

## B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(ウ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。
  - (ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠
  - (イ) 生活や社会における音楽の意味や役割
  - (ウ) 音楽表現の共通性や固有性
- イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。
  - (ア) 曲想と音楽の構造との関わり
  - (イ) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わり
  - (ウ) 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性

### [共通事項]

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。
  - イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。

## 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図ること。
  - (2) 第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)の指導については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」の(1)の指導については、ア及びイの各事項を適切に関連させて指導すること。
  - (3) 第2の各学年の内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫すること。
  - (4) 第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)並びに「B鑑賞」の(1)の指導については、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにするとともに、必要に応じて、〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るようにすること。
  - (5) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
  - (6) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、音楽科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。
    - ア 音楽活動を通して、それぞれの教材等に応じ、音や音楽が生活に果たす役割を考えさせるなどして、生徒が音や音楽と生活や社会との関わりを実感できるよう指導を工夫すること。なお、適宜、自然音や環境音などについても取り扱い、音環境への関心を高めることができるよう指導を工夫すること。
    - イ 音楽によって喚起された自己のイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図、音楽に対する評価などを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫すること。
    - ウ 知覚したことと感受したこととの関わりを基に音楽の特徴を捉えたり、思考、判断の過程や結果を表したり、それらについて他者と共有、共感したりする際には、適宜、体を動かす活動も取り入れるようにすること。
    - エ 生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、主体的に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。
    - オ 生徒が学校内及び公共施設などの学校外における音楽活動とのつながりを意識できるようにするなど、生徒や学校、地域の実態に応じ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と主体的に関わっていくことができるよう配慮すること。
    - カ 自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、音楽に関する知的財産権について触れるようにすること。また、こうした態度の形成が、音楽文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮すること。
  - (2) 各学年の「A表現」の(1)の歌唱の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。
    - ア 歌唱教材は、次に示すものを取り扱うこと。
      - (ア) 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切で、生徒にとって親しみがもてたり意欲が高められたり、生活や社会において音楽が果たしている役割が感じ取れたりできるもの。

(イ) 民謡、長唄などの我が国の伝統的な歌唱のうち、生徒や学校、地域の実態を考慮して、伝統的な声や歌い方の特徴を感じ取れるもの。なお、これらを取り扱う際は、その表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること。

(ウ) 我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のうち、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの又は我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるもの。なお、各学年において、以下の共通教材の中から1曲以上を含めること。

「赤とんぼ」	三木露風作詞	山田耕筰作曲
「荒城の月」	土井晩翠作詞	滝廉太郎作曲
「早春賦」	吉丸一昌作詞	中田 章作曲
「夏の思い出」	江間章子作詞	中田喜直作曲
「花」	武島羽衣作詞	滝廉太郎作曲
「花の街」	江間章子作詞	團伊玖磨作曲
「浜辺の歌」	林 古 溪作詞	成田為三作曲

イ 変声期及び変声前後の声の変化について気付かせ、変声期の生徒を含む全ての生徒の心理的な面についても配慮するとともに、変声期の生徒については適切な声域と音量によって歌わせるようにすること。

ウ 相対的な音程感覚などを育てるために、適宜、移動ド唱法を用いること。

(3) 各学年の「A表現」の(2)の器楽の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

ア 器楽教材は、次に示すものを取り扱うこと。

(ア) 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切で、生徒にとって親しみがもてたり意欲が高められたり、生活や社会において音楽が果たしている役割を感じ取れたりできるもの。

イ 生徒や学校、地域の実態などを考慮した上で、指導上の必要に応じて和楽器、弦楽器、管楽器、打楽器、鍵盤楽器、電子楽器及び世界の諸民族の楽器を適宜用いること。なお、3学年間を通じて1種類以上の和楽器を取り扱い、その表現活動を通して、生徒が我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、愛着をもつことができるよう工夫すること。

(4) 歌唱及び器楽の指導における合わせて歌ったり演奏したりする表現形態では、他者と共に一つの音楽表現をつくる過程を大切にするとともに、生徒一人一人が、担当する声部の役割と全体の響きについて考え、主体的に創意工夫できるよう指導を工夫すること。

(5) 読譜の指導に当たっては、小学校における学習を踏まえ、 $\sharp$ や $\flat$ の調号としての意味を理解させるとともに、3学年間を通じて、1 $\sharp$ 、1 $\flat$ 程度をもった調号の楽譜の視唱や視奏に慣れさせるようにすること。

(6) 我が国の伝統的な歌唱や和楽器の指導に当たっては、言葉と音楽との関係、姿勢や身体の使い方についても配慮するとともに、適宜、口唱歌を用いること。

(7) 各学年の「A表現」の(3)の創作の指導に当たっては、即興的に音を出しながら音のつながり方を試すなど、音を音楽へと構成していく体験を重視すること。その際、理論に偏らないようにするとともに、必要に応じて作品を記録する方法を工夫させること。

(8) 各学年の「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

ア 鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切なものを取り扱うこと。

イ 第1学年では言葉で説明したり、第2学年及び第3学年では批評したりする活動を取り入れ、曲や演奏に対する評価やその根拠を明らかにできるように指導を工夫すること。

(9) 各学年の〔共通事項〕に示す「音楽を形づくっている要素」については、指導のねらいに応じて、音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成などから、適切に選択したり関連付けたりして指導すること。

(10) 各学年の〔共通事項〕の(1)のイに示す「用語や記号など」については、小学校学習指導要領第2章第6節音楽の第3の2の(9)に示すものに加え、生徒の学習状況を考慮して、次に示すものを音楽における働きと関わらせて理解し、活用できるよう取り扱うこと。

拍 拍子 間 序破急 フレーズ 音階 調 和音

動機 Andante Moderato Allegro rit. a tempo

accel. legato *pp* *ff* dim. D.C. D.S.

					
(フェルマータ)	(テヌート)	(三連符)	(二分休符)	(全休符)	(十六分休符)



項目	観点
1 目標・内容 の取扱い	<p>音楽科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性についての理解や、創意工夫を生かした音楽表現に必要な技能について</li> <li>○ 音楽表現を工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことについて</li> <li>○ 音楽を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことについて</li> </ul>
2 人権の 取扱い	<p>人権尊重の観点から、選曲、歌詞、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現の活動について</li> <li>○ 鑑賞の活動について</li> <li>○ 〔共通事項〕の扱いについて</li> </ul>
4 組織・配列	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、各領域や分野の関連を図りながら、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>
5 創意工夫	<p>音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現および鑑賞領域での思考、判断し、表現する一連の過程について</li> <li>○ 言語活動の扱いについて</li> </ul>
6 補充的な 学習・ 発展的な 学習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わったりして、豊かな生活を創造することができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料やコラムなど</li> </ul>

【資料1 音楽（一般）】

項 目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>音楽科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性についての理解や、創意工夫を生かした音楽表現に必要な技能について</li> <li>○ 音楽表現を工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことについて</li> <li>○ 音楽を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことについて</li> </ul>

発行者	事 項
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習のねらい、学習する教材や曲を通して、身に付ける音楽の力や多様性について理解を図ることができる内容が取りあげられている。また、創意工夫をしながら見直しをもって音楽表現に必要な技能を習得できるよう配慮されている。</li> <li>○ 「ACTIVE！」で、感じ取ったことをまとめたり話し合ったりしながら、音楽表現を工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる内容が取りあげられている。</li> <li>○ 音楽や芸術の多様性を伝える各界の著名な人物、楽器や舞台芸術を取りあげるなど、音楽を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う内容になっている。</li> </ul>
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習のねらい、学習する教材や曲を通して、身に付ける音楽の力や多様性について理解を図ることができる内容が取りあげられている。また、創意工夫をしながら見直しをもって音楽表現に必要な技能を習得できるよう配慮されている。</li> <li>○ 「深めよう！音楽」で、感じ取ったことをまとめたり話し合ったりしながら、音楽表現を工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる内容が取りあげられている。</li> <li>○ 音楽や芸術の多様性を伝える各界の著名な人物、楽器や舞台芸術を取りあげるなど、音楽を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う内容になっている。</li> </ul>

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、選曲、歌詞、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <p>○人権への配慮について</p> <p>○ユニバーサルデザインに関する配慮について</p>

発行者	事 項
教 出	<p>○ 人権尊重の観点から、選曲、歌詞、文章、写真、挿絵、図、資料、SDGsとの関連などが適切に取り扱われており、多様な他者を尊重し、協働していくことができるよう配慮されている。</p> <p>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</p>
教 芸	<p>○ 人権尊重の観点から、選曲、歌詞、文章、写真、挿絵、図、資料、SDGsとの関連などが適切に取り扱われており、多様な他者を尊重し、協働していくことができるよう配慮されている。</p> <p>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</p>

【資料1 音楽（一般）】

項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現の活動について</li> <li>○ 鑑賞の活動について</li> <li>○ 〔共通事項〕の扱いについて</li> </ul>

発行者	事 項
教 出	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌唱では、旋律の違いを感じたり交流したりしながら表現できるような内容を取り扱っている。また、変声や声部の役割についても取り扱っている。創作では、活動の手順が示されたり、五線を用いず旋律をつくったりするなど、発達段階が考慮されている。</li> <li>○ 鑑賞では、楽器の写真や配置、楽曲の構成などが、より視覚的に音と結び付けられるよう考慮されている。</li> <li>○ 〔共通事項〕は、音楽における働きと関わらせながら理解し活用できるよう、各題材と関連付けて適切に取り扱われている。</li> </ul>
教 芸	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌唱では、旋律の違いを感じたり交流したりしながら表現できるような内容を取り扱っている。また、変声期についても取り扱っている。創作では、活動の手順が示されたり、五線を用いず旋律をつくったりするなど、発達段階が考慮されている。</li> <li>○ 鑑賞では、楽器の写真や配置、楽曲の構成などが、より視覚的に音と結び付けられるよう考慮されている。</li> <li>○ 〔共通事項〕は、音楽における働きと関わらせながら理解し活用できるよう、各題材と関連付けて適切に取り扱われている。</li> </ul>

項 目	観 点
4 組織・配列	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、各領域や分野の関連を図りながら、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>

発行者	事 項
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合唱曲、共通教材、創作、鑑賞と、表現と鑑賞が段階的に取りあげられ、学びが深まるよう配慮して配列されている。また、「学びのユニット」では、各教材のねらいとともに、各領域・分野の関連が示されている。</li> <li>○ 領域・分野ごとに同色でまとめ、各題材のはじめのページに色帯で学習目標が示されている。また、見開きページの両端に、共通事項に示されている用語や記号、関連する教材が示され、効果的な指導が行われるよう構成されている。</li> </ul>
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合唱曲、共通教材、創作、鑑賞と、表現と鑑賞が段階的に取りあげられ、学びが深まるよう配慮して配列されている。また、巻頭の「学習内容」では、各教材と「知識」「技能」「思考力・判断力・表現力」との関連が示されている。</li> <li>○ 領域・分野ごとに同色でまとめ、各題材のはじめのページに色帯で学習目標が示されている。また、見開きページの両端に、共通事項に示されている用語や記号、題材名の下部には具体的な学習活動が示されるなど、効果的な指導が行われるよう構成されている。</li> </ul>

【資料1 音楽（一般）】

項目	観 点
5 創意工夫	<p>音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現および鑑賞領域での思考、判断し、表現する一連の過程について</li> <li>○ 言語活動の扱いについて</li> </ul>

発行者	事 項
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ACTIVE！」で示された手順に沿って学習を進めることで、音楽的な見方・考え方を働かせながら思考、判断し、表現できるよう工夫されている。また、キャラクターの発言で、学習のポイントやヒントを示している。</li> <li>○ 聴き取ったことや感じ取ったこと等を記録し、発表したり交流したりすることで協働的な活動が展開できるように工夫されている。例えば、「話し合おう」に考えをまとめ、交流を促すよう扱われている。</li> </ul>
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「深めよう！音楽」で示された手順に沿って学習を進めることで、音楽的な見方・考え方を働かせながら思考、判断し、表現できるよう工夫されている。また、キャラクターの発言や演奏者からのアドバイスで学習のポイントやヒントを示している。</li> <li>○ 聴き取ったことや感じ取ったこと等を記録し、発表したり交流したりすることで協働的な活動が展開できるように工夫されている。例えば「ワークシート」に考えをまとめ、交流を促すよう扱われている。</li> </ul>

項目	観 点
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わったりして、豊かな生活を創造することができるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
教 出	<p>○ 巻末の「楽典」で、用語や記号が示され、学習した内容を振り返ることができるよう配慮されている。また、音楽家・芸術家からのメッセージや世界の多様な音楽・芸術の資料が掲載されており、幅広い音楽文化について豊かに関わるよう配慮されているとともに、「発展」として特設ページが設定され、生活や社会と音とのつながり等について取りあげられている。</p> <p>なお、「まなびリンク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
教 芸	<p>○ 巻末の「音楽の約束」で、用語や記号が示され、学習した内容を振り返ることができるよう配慮されている。また、音楽家・芸術家からのメッセージや世界の多様な音楽・芸術の資料が掲載されており、幅広い音楽文化について豊かに関わるよう配慮されているとともに、「生活や社会の中の音楽」として特設ページが設定され、生活や社会と音楽とのつながり等について取りあげられている。</p> <p>なお、二次元コードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>

【資料2 音楽（一般）】

○ 表現で取り扱われている楽曲のページ数

	教出				教芸			
	1年	2・3年上	2・3年下	合計	1年	2・3年上	2・3年下	合計
歌唱	46	37	36	119	51	50	44	145
器楽	6	7	2	15	1	4	1	6
創作	6	4	4	14	7	6	4	17

○ 鑑賞で取り扱われている楽曲のページ数

	教出				教芸			
	1年	2・3年上	2・3年下	合計	1年	2・3年上	2・3年下	合計
歌唱	8	4	10	22	10	4	6	20
器楽	16	23	7	46	15	11	10	38
その他	0	10	9	19	0	14	11	23

○ その他の構成内容のページ数

	教出				教芸			
	1年	2・3年上	2・3年下	合計	1年	2・3年上	2・3年下	合計
音楽史	0	6	10	16	0	7	6	13
楽典	4	2	4	10	5	4	2	11
音楽文化との豊かな関わり	0	4	2	6	4	6	10	20
生活や社会の中の音や音楽	0	2	4	6	1	1	4	6
その他	5	2	0	7	6	1	3	10

○ 歌唱曲で扱われている教材のページ数

	教出				教芸			
	1年	2・3年上	2・3年下	合計	1年	2・3年上	2・3年下	合計
共通教材	7	10	10	27	6	8	12	26
斉唱	8	9	8	25	11	6	13	30
合唱曲（混声2部）	12	1	6	19	17	7	6	30
合唱曲（混声3部）	16	19	7	42	17	23	15	55
合唱曲（混声4部）	0	0	9	9	0	2	5	7
諸外国の歌唱曲	0	1	4	5	1	4	5	10
その他	2	0	0	2	0	2	0	2



○ 我が国や地域の伝統音楽、諸外国の音楽に関するページ数

	教出				教芸			
	1年	2・3年 上	2・3年 下	合計	1年	2・3年 上	2・3年 下	合計
我が国や地域の伝統音楽	13	18	8	39	12	14	16	42
諸外国の音楽	3	4	6	13	2	2	6	10
その他	3	3	5	11	2	2	2	6



## 音楽（器楽合奏）

資料 1 ..... 1～7  
資料 2 ..... 8

発行者の 番号・略号	書名	著作者	資料中 の表記
17 教出	中学器楽 音楽のおくりもの	新実 徳英 ほか7名	教出
27 教芸	中学生の器楽	小原 光一 ほか18名	教芸



項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>音楽科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性についての理解や、創意工夫を生かした音楽表現に必要な技能について</li> <li>○ 音楽表現を工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことについて</li> <li>○ 音楽を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことについて</li> </ul>
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、選曲、歌詞、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現の活動について</li> <li>○ 鑑賞の活動について</li> <li>○ 〔共通事項〕の扱いについて</li> </ul>
4 組織・配列	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、各領域や分野の関連を図りながら、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>
5 創意工夫	<p>音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現および鑑賞領域での思考、判断し、表現する一連の過程について</li> <li>○ 言語活動の扱いについて</li> </ul>
6 補充的な 学 習 ・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わったりして、豊かな生活を創造することができるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料やコラムなど</li> </ul>

【資料1 音楽（器楽）】

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>音楽科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性についての理解や、創意工夫を生かした音楽表現に必要な技能について</li> <li>○ 音楽表現を工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことについて</li> <li>○ 音楽を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことについて</li> </ul>

発行者	事 項
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習する教材や楽器についての基礎的な知識や奏法を身に付け、創意工夫を生かした音楽表現ができるよう内容が取りあげられている。</li> <li>○ 気づいたことや話し合ったことを表現したり、楽器や演奏の特徴について味わって聴いたりできる内容になっている。</li> <li>○ 生活や社会の中の音や音楽について考える教材を幅広く取り入れるなど、音楽を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う内容になっている。</li> </ul>
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習する教材や楽器についての基礎的な知識や奏法を身に付け、創意工夫を生かした音楽表現ができるよう内容が取りあげられている。</li> <li>○ 気づいたことや話し合ったことを表現したり、楽器や演奏の特徴について味わって聴いたりできる内容になっている。</li> <li>○ 生活や社会の中の音や音楽について考える教材を幅広く取り入れるなど、音楽を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う内容になっている。</li> </ul>

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、選曲、歌詞、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>

発行者	事 項
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、選曲、歌詞、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われており、多様な他者を尊重し、協働していくことができるよう配慮されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、選曲、歌詞、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われており、多様な他者を尊重し、協働していくことができるよう配慮されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>

【資料1 音楽（器楽）】

項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現の活動について</li> <li>○ 鑑賞の活動について</li> <li>○ 〔共通事項〕の扱いについて</li> </ul>

発行者	事 項
教 出	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれの楽器の知識・技能を身に付けながら、表現を工夫できるように展開されている。また、「Let' s Play」では初級から中級向けの合奏、「Let' s Try」ではより発展的な合奏を中心に構成されている。</li> <li>○ 「聴いてみよう」のコーナーで鑑賞教材が紹介されており、学習する楽器や音楽（一般）と関連付けて学習できるよう考慮されている。</li> <li>○ 〔共通事項〕は、音楽における働きと関わらせながら理解し活用できるよう、各題材と関連付けて適切に取り扱われている。</li> </ul>
教 芸	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれの楽器の知識・技能を身に付けながら、表現を工夫できるように展開されている。また、「アンサンブル」では、楽器の種類やリズム伴奏が工夫できるよう構成されている。</li> <li>○ 学習する楽器のはじめに、「～の演奏を聴こう」として鑑賞教材が紹介されており、学習する楽器や音楽（一般）と関連付けて学習できるよう考慮されている。</li> <li>○ 〔共通事項〕は、音楽における働きと関わらせながら理解し活用できるよう、各題材と関連付けて適切に取り扱われている。</li> </ul>



項目	観 点
4 組織・配列	<p>各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、各領域や分野の関連を図りながら、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>

発行者	事 項
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「演奏の仕方を身につけよう」では、まず、小学校でも扱っているリコーダーを扱い、管楽器、弦楽器、打楽器の順に楽器の基礎的な知識や奏法が身に付けられるようまとめられ、「合わせて演奏しよう」へと系統的に配列されている。また、「～の世界」や「～の魅力」では、楽器の背景にある文化や伝統などを知ることによって、より学びが深められるよう配慮されている。</li> <li>○ 楽器ごとに同色でまとめられ、演奏写真と演奏者からのメッセージ、解説、練習曲の順に配置されている。ページ上部に学びのねらいが示され、「まとめの曲」をゴールと設定し、教材ごとの演奏のポイントに留意しながら、見開きごとに学習を見通せる構成になっている。</li> </ul>
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冒頭に「アンサンブルセミナー」を配置し、続いて、小学校でも扱っているリコーダーを扱い、弦楽器、打楽器、管楽器の順に楽器の基礎的な知識や奏法が身に付けられるようまとめられ、「アンサンブル」「楽器でMelody」へと系統的に配列されている。また、「楽器を知ろう」や「こぼれ話」では、楽器の背景にある文化や伝統などを知ることによって、より学びが深められるよう配慮されている。</li> <li>○ 楽器ごとに同色でまとめられ、演奏写真と演奏者からのメッセージ、解説、練習曲の順に配置されている。ページ上部に具体の学習活動が示され、教材ごとの演奏のポイントに留意しながら、見開きごとに学習を見通せる構成になっている。</li> </ul>

【資料1 音楽（器楽）】

項目	観 点
5 創意工夫	<p>音楽的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現および鑑賞領域での思考、判断し、表現する一連の過程について</li> <li>○ 言語活動の扱いについて</li> </ul>

発行者	事 項
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各教材に学習のポイントが示され、音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動が促されるよう工夫されている。また、「音のスケッチ」では個人やグループで創意工夫をしながら表現できるよう配慮されている。</li> <li>○ 楽器の特徴を踏まえて、考えたことを書く欄や、創作した音やリズム等を記載する欄が設けられており、自分の考えや作品を紹介し合うことで、互いの見方・考え方を知り、さらに言語活動を進めていけるよう工夫されている。</li> </ul>
教 芸	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各楽器のコラムで、聴き比べる要素や工夫するポイントが示され、音楽的な見方・考え方を働かせた学習活動が促されるよう工夫されている。また、「深めよう！音楽」では個人やグループで創意工夫をしながら表現できるよう配慮されている。</li> <li>○ 楽器の特徴を踏まえて、考えたことを書く欄や、創作した音やリズム等を記載する欄が設けられており、自分の考えや作品を紹介し合うことで、互いの見方・考え方を知り、さらに言語活動を進めていけるよう工夫されている。</li> </ul>

項目	観 点
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わったりして、豊かな生活を創造することができるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
教 出	<p>○ 巻末の「リコーダーの運指表」や「ギター&amp;キーボード コード表」「音楽のいろいろな用語、記号」などの資料で学びを振り返ることができるよう取り扱われている。また、音楽家・芸術家からのメッセージや世界の多様な音楽・芸術の資料が掲載されており、幅広い音楽文化について豊かに関わるることができるよう配慮されている。</p> <p>「発展」のコーナーでは、吹く楽器や弾く楽器の背景を調べるなどして、生徒が音楽文化に豊かに関わるような内容が扱われている。</p> <p>なお、「まなびリンク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
教 芸	<p>○ 巻末の「リコーダーの運指表」や「ギター/キーボード コード表」「音楽の約束」などの資料で学びを振り返ることができるよう取り扱われている。また、音楽家・芸術家からのメッセージや世界の多様な音楽・芸術の資料が掲載されており、幅広い音楽文化について豊かに関わるることができるよう配慮されている。</p> <p>「Challenge!!」では、奏法を選択したり演奏パートを交代したりして、生徒が音楽文化に豊かに関わるような内容が扱われている。</p> <p>なお、「二次元コード」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>

【資料2 音楽（器楽）】

○ 扱われている楽器とページ数

		教出	教芸
日本の 伝統 楽器	箏	20	12
	三味線	9	9
	太鼓	11	12
	篠笛	11	7
	尺八	3	3
西洋 楽器	弦楽器	16	14
	管楽器	39	33
	打楽器	9	8
その他		14	18

○ 扱われている合奏曲の種類

	教出	教芸
日本の伝統楽器のみでの合奏	15	10
西洋楽器のみでの合奏	15	25
日本の伝統楽器および西洋楽器での合奏	2	2
ボディパーカッション	2	5

○ 扱われている楽曲数

	教出	教芸
日本の楽曲	39	30
他国の楽曲	31	28

○ 扱われている合奏曲の編成

	教出	教芸
2部合奏	24	16
3部合奏	9	13
4部合奏	3	2
その他	4	4

○ 楽器を使った創作の楽曲

	教出	教芸
日本の伝統楽器のみでの創作	5	4
西洋楽器のみでの創作	2	2
日本の伝統楽器および西洋楽器での創作	1	0

# 美 術

学習指導要領（美術）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～5  
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6～14  
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15～16

発行者の 番号・略号	書 名	著 者 者	資料中 の表記
9 開隆堂	美術	大坪 圭輔 藤澤 英昭 柴田 和重 ほか44名	開隆堂
38 光 村	美術	酒井 忠康 ほか32名	光 村
116 日 文	美術	村上 尚徳 大橋 功 佐藤 賢司 川合 克彦 長澤 博昭 小泉 薫 鷹野 晃 ほか30名	日 文



## 第2章 各教科

### 第6節 美術

#### 第1 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

#### 第2 各学年の目標及び内容

##### 〔第1学年〕

##### 1 目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、機能性と美しさとの調和、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。
- (3) 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

##### 2 内容

##### A 表現

- (1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。
  - ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
    - (ア) 対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
    - イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
      - (ア) 構成や装飾の目的や条件などを基に、対象の特徴や用いる場面などから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた美しさなどを考え、表現の構想を練ること。
      - (イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容などから主題を生み出し、分かりやすさと美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ること。
      - (ウ) 使う目的や条件などを基に、使用する者の気持ち、材料などから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を考え、表現の構想を練ること。
- (2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。
  - ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を

身に付けることができるよう指導する。

(ア) 材料や用具の生かし方などを身に付け、意図に応じて工夫して表すこと。

(イ) 材料や用具の特性などから制作の順序などを考えながら、見通しをもって表すこと。

## B 鑑賞

(1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。

ア 美術作品などの見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

(イ) 目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

イ 生活の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を広げる活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(ア) 身の回りにある自然物や人工物の形や色彩、材料などの造形的な美しさなどを感じ取り、生活を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

(イ) 身近な地域や日本及び諸外国の文化遺産などのよさや美しさなどを感じ取り、美術文化について考えるなどして、見方や感じ方を広げること。

### [共通事項]

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。

イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

## 3 内容の取扱い

(1) 第1学年では、内容に示す各事項の定着を図ることを基本とし、一年間で全ての内容が学習できるように一題材に充てる時間数などについて十分検討すること。

(2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、〔共通事項〕に示す事項を視点に、アイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で考えを整理したりすることや、作品などについて説明し合うなどして対象の見方や感じ方を広げるなどの言語活動の充実を図ること。

### [第2学年及び第3学年]

## 1 目標

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。

(2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

## 2 内容

### A 表現

(1) 表現の活動を通して、次のとおり発想や構想に関する資質・能力を育成する。

ア 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。



- (ア) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ること。
- イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - (ア) 構成や装飾の目的や条件などを基に、用いる場面や環境、社会との関わりなどから主題を生み出し、美的感覚を働かせて調和のとれた洗練された美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。
  - (イ) 伝える目的や条件などを基に、伝える相手や内容、社会との関わりなどから主題を生み出し、伝達の効果と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。
  - (ウ) 使う目的や条件などを基に、使用する者の立場、社会との関わり、機知やユーモアなどから主題を生み出し、使いやすさや機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練ること。
- (2) 表現の活動を通して、次のとおり技能に関する資質・能力を育成する。
  - ア 発想や構想をしたことなどを基に、表現する活動を通して、技能に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
    - (ア) 材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すこと。
    - (イ) 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって表すこと。

## B 鑑賞

- (1) 鑑賞の活動を通して、次のとおり鑑賞に関する資質・能力を育成する。
  - ア 美術作品などの見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
    - (ア) 造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。
    - (イ) 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めること。
  - イ 生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動を通して、鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
    - (ア) 身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎや自然との共生などの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めること。
    - (イ) 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通じた国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。

### [共通事項]

- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。
  - イ 造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。

## 3 内容の取扱い

- (1) 第2学年及び第3学年では、第1学年において身に付けた資質・能力を柔軟に活用して、

表現及び鑑賞に関する資質・能力をより豊かに高めることを基本とし、第2学年と第3学年の発達の特性を考慮して内容の選択や一題材に充てる時間数などについて十分検討すること。

- (2) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、発想や構想に関する資質・能力や鑑賞に関する資質・能力を育成する観点から、〔共通事項〕に示す事項を視点に、アイデアスケッチで構想を練ったり、言葉で考えを整理したりすることや、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして対象の見方や感じ方を深めるなどの言語活動の充実を図ること。
- (3) 「B鑑賞」のイの(イ)の指導に当たっては、日本の美術の概括的な変遷などを捉えることを通して、各時代における作品の特質、人々の感じ方や考え方、願いなどを感じ取ることができるよう配慮すること。

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

#### 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、造形的な見方・考え方を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習の充実を図ること。
- (2) 第2の各学年の内容の「A表現」及び「B鑑賞」の指導については相互に関連を図り、特に発想や構想に関する資質・能力と鑑賞に関する資質・能力とを総合的に働かせて学習が深められるようにすること。
- (3) 第2の各学年の内容の〔共通事項〕は、表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり、「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて、十分な指導が行われるよう工夫すること。
- (4) 第2の各学年の内容の「A表現」については、(1)のア及びイと、(2)は原則として関連付けて行い、(1)のア及びイそれぞれにおいて描く活動とつくる活動のいずれも経験させるようにすること。その際、第2学年及び第3学年の各学年においては、(1)のア及びイそれぞれにおいて、描く活動とつくる活動のいずれかを選択して扱うことができるとし、2学年間を通して描く活動とつくる活動が調和的に行えるようにすること。
- (5) 第2の内容の「B鑑賞」の指導については、各学年とも、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、適切かつ十分な授業時数を確保すること。
- (6) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (7) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、美術科の特質に応じて適切な指導をすること。

#### 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 〔共通事項〕の指導に当たっては、生徒が造形を豊かに捉える多様な視点をもてるように、以下の内容について配慮すること。
  - ア 〔共通事項〕のアの指導に当たっては、造形の要素などに着目して、次の事項を実感的に理解できるようにすること。
    - (ア) 色彩の色味や明るさ、鮮やかさを捉えること。
    - (イ) 材料の性質や質感を捉えること。
    - (ウ) 形や色彩、材料、光などから感じる優しさや楽しさ、寂しさなどを捉えること。
    - (エ) 形や色彩などの組合せによる構成の美しさを捉えること。
    - (オ) 余白や空間の効果、立体感や遠近感、量感や動勢などを捉えること。
  - イ 〔共通事項〕のイの指導に当たっては、全体のイメージや作風などに着目して、次の事

項を実感的に理解できるようにすること。

(ア) 造形的な特徴などを基に、見立てたり、心情などと関連付けたりして全体のイメージで捉えること。

(イ) 造形的な特徴などを基に、作風や様式などの文化的な視点で捉えること。

(2) 各学年の「A表現」の指導に当たっては、主題を生み出すことから表現の確認及び完成に至る全過程を通して、生徒が夢と目標をもち、自分のよさを発見し喜びをもって自己実現を果たしていく態度の形成を図るようにすること。

(3) 各学年の「A表現」の指導に当たっては、生徒の学習経験や資質・能力、発達の特性等の実態を踏まえ、生徒が自分の表現意図に合う表現形式や技法、材料などを選択し創意工夫して表現できるように、次の事項に配慮すること。

ア 見る力や感じ取る力、考える力、描く力などを育成するために、スケッチの学習を効果的に取り入れるようにすること。

イ 美術の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図るようにすること。

ウ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式、漫画やイラストレーション、図などの多様な表現方法を活用できるようにすること。

エ 表現の材料や題材などについては、地域の身近なものや伝統的なものも取り上げるようにすること。

(4) 各活動において、互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにすること。

(5) 互いの個性を生かし合い協力して創造する喜びを味わわせるため、適切な機会を選び共同で行う創造活動を経験させること。

(6) 各学年の「B鑑賞」の題材については、国内外の児童生徒の作品、我が国を含むアジアの文化遺産についても取り上げるとともに、美術館や博物館等と連携を図ったり、それらの施設や文化財などを積極的に活用したりするようにすること。

(7) 創造することの価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成を図るとともに、必要に応じて、美術に関する知的財産権や肖像権などについて触れるようにすること。また、こうした態度の形成が、美術文化の継承、発展、創造を支えていることへの理解につながるよう配慮すること。

3 事故防止のため、特に、刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などを徹底するものとする。

4 学校における鑑賞のための環境づくりをするに当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 生徒が造形的な視点を豊かにもつことができるよう、生徒や学校の実態に応じて、学校図書館等における鑑賞用図書、映像資料等の活用を図ること。

(2) 生徒が鑑賞に親しむことができるよう、校内の適切な場所に鑑賞作品などを展示するとともに、学校や地域の実態に応じて、校外においても生徒作品などの展示の機会を設けるなどすること。

【資料1 美術：観点一覧】

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	美術科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。 <input type="checkbox"/> 造形的な視点についての理解や表現方法を創意工夫して創造的に表すことについて <input type="checkbox"/> 主題を生み出し豊かに発想や構想したり、美術に対する見方や感じ方を深めたりすることについて <input type="checkbox"/> 美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うことについて
2 人権の 取扱い	人権尊重の観点から、作品例、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。 <input type="checkbox"/> 人権への配慮について <input type="checkbox"/> ユニバーサルデザインに関する配慮について  生徒の安全について適切に取り扱われているか。 <input type="checkbox"/> 安全の確保や事故防止について
3 内容の程度	生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。 <input type="checkbox"/> 表現の活動について <input type="checkbox"/> 鑑賞の活動について <input type="checkbox"/> 〔共通事項〕の扱いについて
4 組織・配列	各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。 <input type="checkbox"/> 単元配列について <input type="checkbox"/> ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について
5 創意工夫	造形的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。 <input type="checkbox"/> 表現および鑑賞の相互の関連について <input type="checkbox"/> 言語活動の扱いについて
6 補充的な 学習・ 発展的な 学習	学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、自分のよさを発見し喜びをもって自己表現を果たしたりして、豊かな生活を創造することができるよう配慮されているか。 <input type="checkbox"/> 資料やコラムなど

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>美術科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 造形的な視点についての理解や表現方法を創意工夫して創造的に表すことについて</li> <li>○ 主題を生み出し豊かに発想や構想したり、美術に対する見方や感じ方を深めたりすることについて</li> <li>○ 美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培うことについて</li> </ul>

発行者	事 項
開隆堂	<p>単元ごとに題材を通して育成すべき資質・能力の三つの柱に基づいた目標が示されており、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材ごとに「学習のポイント」を提示し、生徒が造形的な視点を意識して表現や鑑賞の活動に取り組める内容が取りあげられている。</li> <li>○ 各題材において、双葉マークのコラムで発想や構想の方法などを示し、美術に対する見方や感じ方を深められるよう扱われている。また、「あったらいいなを形に」のページでは様々な発想の方法を示し、表現や鑑賞の活動で役立つようにしている。</li> <li>○ 表現や鑑賞の様々な活動を通して、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、美術での学びを生活や社会に生かそうとすることができる内容が取りあげられている。</li> </ul>
光 村	<p>単元ごとに表現や鑑賞の活動を通して育成すべき資質・能力に基づいた目標が示されており、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材ごとに「表現」「鑑賞」マークとともに学習のねらいを提示し、生徒が造形的な視点を意識して表現や鑑賞の活動に取り組める内容が取りあげられている。</li> <li>○ 各題材において、「表現（発想 構想）」マークで、発想を広げ、構想を練る手立てを示し、美術に対する見方や感じ方を深められるよう扱われている。また、「発想を広げる」のページでは様々な発想の方法を示し、表現や鑑賞の活動で役立つようにしている。</li> <li>○ 表現や鑑賞の様々な活動を通して、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、美術での学びを生活や社会に生かそうとすることができる内容が取りあげられている。</li> </ul>

【資料1 美術】

日 文	<p>単元ごとに題材を通して育成すべき資質・能力の三つの柱に基づいた目標が示されており、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 題材ごとに「造形的な視点」マークを提示し、生徒が造形的な視点を意識して表現や鑑賞の活動に取り組める内容が取りあげられている。</li><li>○ 各題材において、「作者の言葉」で主題を生み出すための発想や構想の方法などを示し、美術に対する見方や感じ方を深められるよう扱われている。また、巻末資料ではアーティストの活動を通して様々な発想の方法を示し、表現や鑑賞の活動で役立つようにしている。</li><li>○ 表現や鑑賞の様々な活動を通して、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、美術での学びを生活や社会に生かそうとすることができる内容が取りあげられている。</li></ul>
-----	--

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、作品例、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul> <p>生徒の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全の確保や事故防止について</li> </ul>

発行者	事 項
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、作品例、文章、挿絵、図、資料などが適切に取りあげられている。例えば、2・3年のデザインや工芸の扉ページで、SDGsのロゴが取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などに配慮されている。例えば、色相環の図では彩度を黄色系統で示すことで、色覚に特性のある生徒にも配慮されている。</li> <li>○ 生徒の安全の確保や事故防止などについて適切に取りあげている。例えば、「安全」マークにより、安全に活動するための注意事項が示されている。また、巻末の「学びの資料」には、学年に応じた用具の使用法や注意事項が示されている。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、作品例、文章、挿絵、図、資料などが適切に取りあげられている。例えば、2・3年でLGBTQ、いじめ防止についての生徒作品が取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などに配慮されている。例えば、色相環の図では色名を文字で表記し、色覚に特性のある生徒でも覚えられるように配慮されている。</li> <li>○ 生徒の安全の確保や事故防止などについて適切に取りあげている。例えば、「注意」マークにより、安全に活動するための注意事項が示されている。また、巻末の「学習を支える資料」には、学年に応じた用具の使用法や注意事項が示されている。</li> </ul>
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、作品例、文章、挿絵、図、資料などが適切に取りあげられている。例えば、2・3年上でSDGsのポスターが取り扱われている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色などに配慮されている。例えば、色相環の図では色名を文字で表記し、色覚に特性のある生徒でも覚えられるように配慮されている。</li> <li>○ 生徒の安全の確保や事故防止などについて適切に取りあげている。例えば、「注意しよう」マークにより、安全に活動するための注意事項が示されている。また、巻末の「学習を支える資料」には、学年に応じた用具の使用法や注意事項が示されている。</li> </ul>

【資料1 美術】

項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現の活動について</li> <li>○ 鑑賞の活動について</li> <li>○ 〔共通事項〕の扱いについて</li> </ul>

発行者	事 項
開隆堂	<p>学年別に「発見と創造」「探求と継承」をコンセプトにして、生徒の発達段階に応じて学べる内容となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に応じて表現の活動の内容がバランスよく取りあげられている。例えば、1年「心ひかれる風景」で学んだ内容を生かして、2・3年「風景が語るもの」の題材で構図や表現方法を工夫するなど、発達段階に応じて育成すべき資質・能力を明確にして発展的に学習が進められるよう配慮されている。</li> <li>○ 生徒の発達段階に応じて鑑賞の活動の内容がバランスよく取りあげられている。例えば、2・3年では「日本らしさ」を鑑賞の中心的な課題に据えた題材を14ページにわたり掲載し、日本の文化を系統的に学習したり、現代の事例などから世界に広がる日本の文化について学習したりできるよう配慮されている。</li> <li>○ 全体を通して、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果、及び造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることについて配慮されている。</li> </ul>
光 村	<p>3年間を通して「うつくしい！」をコンセプトにして、生徒の発達段階に応じて学べる内容となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に応じて表現の活動の内容がバランスよく取りあげられている。例えば、1年「文字で楽しく伝える」で学んだ内容を生かして、2・3年「地域の魅力を伝える」の題材で地域のよさを伝える工夫をするなど、発達段階に応じて育成すべき資質・能力を明確にして発展的に学習が進められるよう配慮されている。</li> <li>○ 生徒の発達段階に応じて鑑賞の活動の内容がバランスよく取りあげられている。例えば、2・3年「北斎からゴッホへ」や「絵巻物と漫画の表現」などの題材を通して、日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質、日本と諸外国との美術や文化の相違点や共通点に気付くことができるよう配慮されている。</li> <li>○ 全体を通して、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果、及び造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることについて配慮されている。</li> </ul>



日 文	<p>学年別に「美術との出会い」「学びの実感と広がり」「学びの探求と未来」をコンセプトにして、生徒の発達段階に応じて学べる内容となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 生徒の発達段階に応じて表現の活動の内容がバランスよく取りあげられている。例えば、1年「墨と水の出会い」で学んだ内容を生かして、2・3年上「水と筆を操る」の題材で表したい主題に合わせて用具や技法を工夫するなど、発達段階に応じて育成すべき資質・能力を明確にして発展的に学習が進められるよう配慮されている。</li><li>○ 生徒の発達段階に応じて鑑賞の活動の内容がバランスよく取りあげられている。例えば、1年「屏風、美のしかけ」では、実際にページを折り曲げて鑑賞できるようになっており、奥行きなどの見え方の違いを確認することで、屏風ならではの美しさや工夫について考えられるよう配慮されている。</li><li>○ 全体を通して、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果、及び造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることについて配慮されている。</li></ul>
-----	--

【資料1 美術】

項目	観 点
4 組織・配列	各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。 ○ 単元配列について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について

発行者	事 項
開隆堂	○ 1年、2・3年の2冊で構成されており、それぞれの学年の目標を踏まえたテーマ設定がされている。また、ページ下部に、題材と関連付けて学習できる他教科の内容が示され、教科横断的な視点で効果的な指導が行われるよう配慮されている。 ○ 全体を通して、効果的な指導が行われるよう構成されている。例えば、表現や鑑賞の扉ページでそれぞれの領域で学ぶことの意味を示している。また、ページ下部に関連するページを示している。
光 村	○ 1年、2・3年の2冊で構成されており、それぞれの学年の目標を踏まえたテーマ設定がされている。また、ページ下部に道徳とのつながりが示されたり、他教科とのつながりを示すコラムが設けられたりして、教科横断的な視点で効果的な指導が行われるよう配慮されている。 ○ 全体を通して、効果的な指導が行われるよう構成されている。例えば、題材の一部では、授業の流れを意識した4ページの構成になっている。また、ページ下部に関連するページを示している。
日 文	○ 1年、2・3年上、2・3年下の3冊で構成されており、それぞれの学年の目標を踏まえたテーマ設定がされている。また、ページ下部に、題材と関連付けて学習できる道徳の内容が示され、効果的な指導が行われるよう配慮されている。 ○ 全体を通して、効果的な指導が行われるよう構成されている。例えば、表現と鑑賞が相互に関連していることを表すインデックスマークを配置している。また、作品の近くに矢印の参照マークで関連するページを示している。

項目	観 点
5 創意工夫	<p>造形的な見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 表現および鑑賞の相互の関連について</li> <li>○ 言語活動の扱いについて</li> </ul>

発行者	事 項
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材のはじめに表現につながる鑑賞作品を示したり、作品とともに「作者の言葉」を掲載したりすることで、作品から感じた思いや考えを伝え合い、見方・考え方を広げ、その後の表現や鑑賞の活動に関連付けて学びが深められるよう工夫されている。</li> <li>○ 共同制作や友達と関わりながら取り組む活動を通して、発想や構想の際に感じたことや考えたことを言語化したり、他者との対話を通して見方・考え方を広げたりできるよう工夫されている。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材のはじめに表現につながる鑑賞作品を示したり、作品とともに「作者の言葉」を掲載したりすることで、作品から感じた思いや考えを伝え合い、見方・考え方を広げ、その後の表現や鑑賞の活動に関連付けて学びが深められるよう工夫されている。</li> <li>○ 表現を中心とした題材のページにある「みんなの工夫」で、生徒の制作過程を詳しく示すことで、発想や構想の際に感じたことや考えたことを言語化したり、他者との対話を通して見方・考え方を広げたりできるよう工夫されている。</li> </ul>
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 題材のはじめに表現につながる鑑賞作品を示したり、作品とともに「作者の言葉」を掲載したりすることで、作品から感じた思いや考えを伝え合い、見方・考え方を広げ、その後の表現や鑑賞の活動に関連付けて学びが深められるよう工夫されている。</li> <li>○ 題材ごとに、「造形的な視点」マークで具体的な問いを示すことで、発想や構想の際に感じたことや考えたことを言語化したり、他者との対話を通して見方・考え方を広げたりできるよう工夫されている。</li> </ul>

【資料1 美術】

項目	観 点
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、自分のよさを発見し喜びをもって自己表現を果たしたりして、豊かな生活を創造することができるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
開隆堂	<p>○ 巻末資料で、材料や用具、表現方法の特性などを取りあげ、学習した内容を確実に習得できるよう補充している。</p> <p>2・3年の「暮らしに生きる美術」などで、美術が社会で実際に活用されている事例を紹介している。また、2・3年の「まとめ」では、鑑賞中心の題材を通して、3年間の学びを振り返り、社会や世界との関連性を考え、豊かな生活を創造することができるよう配慮されている。</p> <p>なお、「二次元コード」があるところでは、学習の参考となる資料をウェブサイトで見ることができる。</p>
光 村	<p>○ 巻末資料で、材料や用具、表現方法の特性などを取りあげ、学習した内容を確実に習得できるよう補充している。</p> <p>1年の「デザインって何だろう？」などで、1日の生活のなかで身の回りにあるものや空間などのデザインについて時系列で紹介している。また、2・3年の「美術の力」では、3年間の学びを振り返り、社会や世界との関連性を考え、豊かな生活を創造することができるよう配慮されている。</p> <p>なお、「二次元コード」があるところでは、学習の参考となる資料をウェブサイトで見ることができる。</p>
日 文	<p>○ 巻末資料で、材料や用具、表現方法の特性などを取りあげ、学習した内容を確実に習得できるよう補充している。</p> <p>すべての学年の「学びの言葉」や、2・3年下の「社会に生きる美術の力」などで、多方面で活躍している人々が、それぞれの人生の中で美術の学びが活かされていることを紹介するなどして、3年間の学びを振り返り、社会や世界との関連性を考え、豊かな生活を創造することができるよう配慮されている。</p> <p>なお、「二次元コード」があるところでは、学習の参考となる資料をウェブサイトで見ることができる。</p>

○ 総ページ数のうち「各学年の内容」に係るページ数と割合（％）

	開隆堂		光 村		日 文	
	ページ数	割合(%)	ページ数	割合(%)	ページ数	割合(%)
「A表現」領域 (1)発想や構想に関する資質・能力	72	38.3%	70	38.0%	78	39.4%
ア 感じ取ったことや感じたことを基に、絵や彫刻などに表現する活動を取り扱っているページ	36	19.1%	40	21.7%	40	20.2%
イ 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を取り扱っているページ	36	19.1%	30	16.3%	38	19.2%
「B鑑賞」領域 (1)鑑賞に関する資質・能力に特化した内容	58	30.9%	46	25.0%	44	22.2%
イ 生活の中の美術の働きに対する系統的な学習を図っているページ	10	5.3%	6	3.3%	10	5.1%
イ 美術文化に対する系統的な学習を図っているページ	48	25.5%	40	21.7%	34	17.2%
(巻末資料)	33	17.6%	48	26.1%	42	21.2%
(巻末資料) 「A表現」(2)技能に関する資質・能力に関する内容	19	10.1%	23	12.5%	13	6.6%
「B鑑賞」に関する資質・能力に関する内容	9	4.8%	15	8.2%	22	11.1%
[共通事項]に関する内容	5	2.7%	10	5.4%	7	3.5%
(その他) 目次、オリエンテーション等	25	13.3%	20	10.9%	34	17.2%
総ページ数	188		184		198	

○ 「主体的・対話的で深い学び」の実現等に関わる項目数

	開隆堂		光 村		日 文	
	箇所数		箇所数		箇所数	
生徒自身が思いや考えを基に創造したり鑑賞したりする活動の充実を図っている箇所	25		63		35	
他の生徒との意見交換等の言語活動の充実を図っている箇所	34		25		36	
教科横断的な内容について記載された箇所	101	うち、道徳 37	30	うち、道徳 22	25	うち、道徳 25

○ 美術館や博物館等との連携

美術館や博物館等との連携について取りあげている箇所	5	6	6
---------------------------	---	---	---

【資料2 美術】

○ 取りあげられている材料や用具等

	開隆堂	光 村	日 文
美術1	画用紙、水彩、鉛筆、スケッチブック、ボール紙、葉、緩衝材、麻紐、クリップ、金属片、コイン、蚊取り線香、接着剤、ニス、ローラー、インク、プレス機、木版画、刷毛、墨、半紙、布、新聞紙、針金、角材、空き缶、板材、コンパクトカメラ、マスキングテープ、廃材、ハンガー、ペットボトル、ネット、トンガ、木の枝、CD、紙粘土、和紙、コンピュータ加工、手ぬぐい、栗など自然物、Tシャツ、ステンシル、カラーペン、缶バッジ、お菓子のパッケージ、色画用紙、色紙、包装紙、ケント紙、色セロハン、焼き物用粘土、木、ブナ、電動糸鋸、彫刻刀、構図枠、紐、ストロー、色鉛筆、ブラシ、ぼかし網、パット、マーブリング専用絵具、割りばし、カッターナイフ、カッターマット、小刀、万能のこぎり、両刃のこぎり、紙やすり、木工やすり、ろくろ、切り弓、切り糸、たたら板、のし棒、かきべら、竹べら、切り針、なめし皮、白土、赤土、どべ、展示台	写真、ブロンズ、キャンバス、油絵具、アクリル、クスノキ、ノート、スケッチブック、紙、色紙、鉛筆、色鉛筆、パステル、水彩、身近なもの、木片、タップシューズ、花、果物、コンテ、時計、コンテ、樹脂粘土、紙粘土、自然物、石、ホオ、モンタナ、木炭、人物、シルクスクリーン、木版、リトグラフ、風景、パネル、テンペラ、チョーク、抽象物、ペン、筆ペン、音、流木、動物、ちりとり、やかん、フライパン、木、銅板、アルミ、サーカス、空き缶、モール、洗濯ばさみ、どんぐり、鳥、枝、ナイロン、ヒノキ、玉眼、布地、タイル、和紙、衣服、インク、星空、ろうそく、ポスターカラー、缶バッジ、磁器、プラスチック、陶器、ガラス、ほうろろ、銅、ステンレス、シリコン、スギ、ケヤキ、漆、カエデ、トチ、クルミ、ブラックウォルナット、ヒノキ、エンジン、コクタン、綿布、ビーズ、染料、顔料、針金、羽根、植物繊維、鉄、皮、獣毛、ブリキ、筆（丸筆・平筆）、パレット、筆洗、スチレンボード、ニードル、彫刻刀（丸刀・平刀・切り出し刀・三角刀）、ばれん、トレーシングペーパー、カーボン紙、画用紙、新聞紙、段ボール、紙管、色画用紙、リボン、毛糸、粘土（土・石粉・軽量）、のこぎり（両刃・電動）、木工やすり（平・半丸）、紙やすり	アクリル絵の具、水彩絵の具、新聞紙、鉛筆、色鉛筆、ペン、画用紙、加工粘土、和紙、竹ひご、カラーコピー、ラミネート、金網、スケッチブック、デジタルカメラ、スパッタリング、針金、石、金属、流木、葉、枝、コラーージュ、クレヨン、木版、スチレンボード、ドライポイント、ステンシル、パステル、ゴム版、インク、園芸用パイプ、ストロー、糸、段ボール、陶土、木材（けやき、ナラ、ひのき、松、桂、桜、竹）、ハッチング、ぼかし、ドライブラシ、にじみ、洗い出し、点描、ドリッピング、デカルコマニー、ストリング、マーブリング、コピー、版木、彫刻刀、刷毛、ブラシ、油性インク、でんぷんのり、水溶性インク、インク練台、ローラー、ばれん、電動のこぎり、のこぎり、木工やすり、紙やすり、小刀、たたき板、切り糸、かきべら、つけべら、のし板、つけこて、手回しろくろ、木ぐし、切り針、なめし皮、切り弓、タオル、霧吹き、かんな、電動ろくろ、釉薬
美術2・3（上）	クレヨン、鏡、イラストボード、箱、時計、楽譜、歯ブラシ、スポンジ、障子紙、画仙紙、段ボール、竹ひご、金属部分、アクリル、透明プラスチック板、ニードル、スチレン版画、パーティクルボード、スチレンボード、石粉粘土、発泡ウレタン、石、丸棒、ハト目、ボール紙、木工用紙、写真、厚紙、画鋸、紙バンド、食品トレー、石膏、釉薬、毛糸、金具、紙コップ、ペンチ、ラジオープンチ、直刃、柳刃、えぐり刃、糸のこぎり、弓のこぎり、金工やすり、いもづち、からかみづち、おたふくづち、たがね、木づち、脂台、砂袋、金床、木台と当て金、アルミニウム、銅、ケレンハンマー、耐水ペーパー、保護メガネ、防塵マスク、バイス、染料、洗濯ばさみ、ビデオカメラ、一眼レフカメラ、撮影機能付きタブレットコンピュータ、三脚、プロジェクター、付箋紙	厚紙、テンペラ、板、黒チョーク、大理石、オイルパステル、綿、銅板、金板、道路、スチレンボード、マスキングテープ、アルミホイル、水彩色鉛筆、薄紙、プラスチックの破片、水糸、モデリングペースト、スチール、ブリキ、トートバッグ、プラスチック、ナイロン、アルミ、鼈甲、磁器、不織布、籐、ブナ、ファスナー、牛乳パック、ステンドグラス、カメラ、デジタルビデオ、タブレット、プロジェクター、アルミニウム、すず、花こう岩、黒御影石、石（滑・遼凍・青田・寿山）、印刀、留め具、パソコンのキーボード、基盤、食器、エボキシ接着剤、絹、紫檀、夜光貝樹皮	ビー玉、墨、ボール紙、写真、PCグラフィック、ワイヤーネット、生糸、発砲スチロール、扇材、ニス、ワックス、漆、革、アルミニウム、銅、真鍮、藍、木綿布、錫、カッターナイフ、木槌、印刀、印泥、粘土台、シュロ縄、接着剤、クランプ、万力、釘、木製いもづち、おたふくづち、金属いもづち、たがね、金切ばさみ
美術2・3下			キャンバス、ペットボトル、レジン、石膏、錫合金、紙ひも、スポンジローラー、プラスチック、トレーシングペーパー、ニス、ラメシール、ステンレス板、LEDライト、花紙、松ぼっくり、布、染料（紅花、ビワ、桜）、水性ニス、アクリル板、合成樹脂、デジタルビデオカメラ、スキャナー、ケレンハンマー、防じんマスク、保護メガネ、平たがね、マイナスドライバー、木工やすり、耐水ペーパー、たこ糸
計	153	167	152

※前学年での技法や形式が出ている場合は、割愛している。

# 保 健 体 育

学習指導要領（保健体育）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～11  
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12～19  
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

発行者の 番号・略号	書 名	著 者 者	資料中 の表記
2 東 書	新しい保健体育	戸田 芳雄 ほかに36名	東 書
4 大日本	中学校保健体育	池田 延行 大津 一義 ほかに30名	大日本
50 大修館	最新 中学校保健体育	友添 秀則 衛藤 隆 ほかに24名	大修館
224 学 研	中学保健体育	森 昭三 佐伯 年詩雄 ほかに32名	学 研





## 第2章 各教科

### 第7節 保健体育

#### 第1 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

#### 第2 各学年の目標及び内容

〔体育分野 第1学年及び第2学年〕

##### 1 目標

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。

##### 2 内容

###### A 体づくり運動

体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせること。  
ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うこと。  
イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせること。
- (2) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする事、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする事、話合いに参加しようとする事などや、健康・安全に気を配ること。

###### B 器械運動

器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行う

こと。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。

イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。

ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。

エ 跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。

(2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

(3) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

### C 陸上競技

陸上競技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な動きや効率のよい動きを身に付けること。

ア 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ることやバトンの受渡しでタイミングを合わせる、長距離走では、ペースを守って走ること、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すこと。

イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶこと。

(2) 動きなどの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

(3) 陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

### D 水 泳

水泳について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、泳法を身に付けること。

ア クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり速く泳ぐこと。

イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり長く泳ぐこと。

ウ 背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。

エ バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。

(2) 泳法などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

(3) 水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全に気を配ること。

### E 球 技

球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名

称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。

ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。

イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。

ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすること。

(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

## F 武道

武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開すること。

ア 柔道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をすること。

イ 剣道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすること。

ウ 相撲では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、押ししたり寄ったりするなどの簡易な攻防をすること。

(2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

(3) 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ること。

## G ダンス

ダンスについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの特性や由来、表現の仕方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、イメージを捉えた表現や踊りを通じた交流をすること。

ア 創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるひとまとまりの表現にしたりして踊ること。

イ フォークダンスでは、日本の民踊や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ること。

ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ること。

(2) 表現などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) ダンスに積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、交流などの話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとするなどや、健康・安全に気を配ること。

## H 体育理論

- (1) 運動やスポーツが多様であることについて、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 運動やスポーツが多様であることについて理解すること。
- (ア) 運動やスポーツは、体を動かしたり健康を維持したりするなどの必要性及び競い合うことや課題を達成することなどの楽しさから生みだされ発展してきたこと。
- (イ) 運動やスポーツには、行うこと、見ること、支えること及び知ることなどの多様な関わり方があること。
- (ウ) 世代や機会に応じて、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己に適した多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であること。
- イ 運動やスポーツが多様であることについて、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。
- ウ 運動やスポーツが多様であることについての学習に積極的に取り組むこと。
- (2) 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について理解すること。
- (ア) 運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果及びルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。
- (イ) 運動やスポーツには、特有の技術があり、その学び方には、運動の課題を合理的に解決するための一定の方法があること。
- (ウ) 運動やスポーツを行う際は、その特性や目的、発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど、健康・安全に留意する必要があること。
- イ 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。
- ウ 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての学習に積極的に取り組むこと。

[体育分野 第3学年]

1 目標

- (1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動についての自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。

2 内容

A 体づくり運動

体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むこと。
- ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、仲間と自主的に関わり合うこと。
- イ 実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。

- (2) 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする事、話し合いに貢献しようとする事などや、健康・安全を確保すること。

## B 器械運動

器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、技の名称や行い方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技すること。
  - ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。
  - イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。
  - ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。
  - エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。
- (2) 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする事、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、健康・安全を確保すること。

## C 陸上競技

陸上競技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けること。
  - ア 短距離走・リレーでは、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ることやバトンの受渡しで次走者のスピードを十分高めること、長距離走では、自己に適したペースを維持して走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。
  - イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から力強く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな空間動作で跳ぶこと。
- (2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、健康・安全を確保すること。

## D 水泳

水泳について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐこと。
  - ア クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。
  - イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。
  - ウ 背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐこと。
  - エ バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐこと。

オ 複数の泳法で泳ぐこと、又はリレーをすること。

- (2) 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保すること。

#### E 球 技

球技について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。
  - ア ゴール型では、安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすること。
  - イ ネット型では、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。
  - ウ ベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすること。
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする事、作戦などについての話し合いに貢献しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事、互いに助け合い教え合おうとする事などや、健康・安全を確保すること。

#### F 武 道

武道について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開すること。
  - ア 柔道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技、連絡技を用いて、相手を崩して投げたり、抑えたりするなどの攻防をすること。
  - イ 剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防をすること。
  - ウ 相撲では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手を崩し、投げたりいなしたりするなどの攻防をすること。
- (2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。
- (3) 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、健康・安全を確保すること。

#### G ダンス

ダンスについて、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

- (1) 次の運動について、感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすること。
  - ア 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、緩急強弱の

ある動きや空間の使い方で変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ること。

イ フォークダンスでは、日本の民踊や外国の踊りから、それらの踊り方の特徴を捉え、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ること。

ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。

(2) 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

(3) ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。

## H 体育理論

(1) 文化としてのスポーツの意義について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 文化としてのスポーツの意義について理解すること。

(ア) スポーツは、文化的な生活を営みよりよく生きていくために重要であること。

(イ) オリンピックやパラリンピック及び国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること。

(ウ) スポーツは、民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けていること。

イ 文化としてのスポーツの意義について、自己の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えること。

ウ 文化としてのスポーツの意義についての学習に自主的に取り組むこと。

### [内容の取扱い]

(1) 内容の各領域については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 第1学年及び第2学年においては、「A体づくり運動」から「H体育理論」までについては、全ての生徒に履修させること。その際、「A体づくり運動」及び「H体育理論」については、2学年間にわたって履修させること。

イ 第3学年においては、「A体づくり運動」及び「H体育理論」については、全ての生徒に履修させること。「B器械運動」、「C陸上競技」、「D水泳」及び「Gダンス」についてはいずれかから一以上を、「E球技」及び「F武道」についてはいずれか一以上をそれぞれ選択して履修できるようにすること。

(2) 内容の「A体づくり運動」から「H体育理論」までに示す事項については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 「A体づくり運動」の(1)のアの運動については、「B器械運動」から「Gダンス」までにおいても関連を図って指導することができるとともに、心の健康など保健分野との関連を図って指導すること。また、「A体づくり運動」の(1)のイの運動については、第1学年及び第2学年においては、動きを持続する能力を高めるための運動に重点を置いて指導することができるが、調和のとれた体力を高めることに留意すること。その際、音楽に合わせて運動をするなどの工夫を図ること。第3学年においては、日常的に取り組める運動例を取り上げるなど指導方法の工夫を図ること。

イ 「B器械運動」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからエまでの中からアを含む二を選択して履修できるようにすること。第3学年においては、アからエまでの中から選択して履修できるようにすること。

ウ 「C陸上競技」の(1)の運動については、ア及びイに示すそれぞれの運動の中から選択して履修できるようにすること。

エ 「D水泳」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからエまでの中からア又はイのいずれかを含む二を選択して履修できるようにすること。第3学年においては、アからオまでの中から選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、安全を確保するための泳ぎを加えて履修させることができること。また、泳法との関連において水中からのスタート及びターンを取り上げること。なお、水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること。また、保健分野の応急手当との関連を図ること。

オ 「E球技」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからウまでを全ての生徒に履修させること。第3学年においては、アからウまでの中から二を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、学校や地域の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。なお、ウの実施に当たり、十分な広さの運動場の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うこと。

カ 「F武道」については、柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などを通して、我が国固有の伝統と文化により一層触れることができるようにすること。また、(1)の運動については、アからウまでの中から一を選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道などについても履修させることができること。また、武道場などの確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに、学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行うなど安全を十分に確保すること。

キ 「Gダンス」の(1)の運動については、アからウまでの中から選択して履修できるようにすること。なお、学校や地域の実態に応じて、その他のダンスについても履修させることができること。

ク 第1学年及び第2学年の内容の「H体育理論」については、(1)は第1学年、(2)は第2学年で取り上げること。

(3) 内容の「A体づくり運動」から「Gダンス」までの領域及び運動の選択並びにその指導に当たっては、学校や地域の実態及び生徒の特性等を考慮するものとする。また、第3学年の領域の選択に当たっては、安全を十分に確保した上で、生徒が自由に選択して履修することができるよう配慮すること。その際、指導に当たっては、内容の「B器械運動」から「Gダンス」までの領域については、それぞれの運動の特性に触れるために必要な体力を生徒自ら高めるように留意するものとする。

(4) 自然との関わりの深いスキー、スケートや水辺活動などの指導については、学校や地域の実態に応じて積極的に行うことに留意するものとする。

(5) 集合、整頓、列の増減、方向変換などの行動の仕方を身に付け、能率的で安全な集団としての行動ができるようにするための指導については、内容の「A体づくり運動」から「Gダンス」までの領域において適切に行うものとする。

#### 〔保健分野〕

##### 1 目 標

- (1) 個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯を通じて心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

##### 2 内 容



- (1) 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 健康な生活と疾病の予防について理解を深めること。
- (ア) 健康は、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。また、疾病は、主体の要因と環境の要因が関わり合って発生すること。
- (イ) 健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること。
- (ウ) 生活習慣病などは、運動不足、食事の量や質の偏り、休養や睡眠の不足などの生活習慣の乱れが主な要因となって起こること。また、生活習慣病などの多くは、適切な運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践することによって予防できること。
- (エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。また、これらの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境が影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。
- (オ) 感染症は、病原体が主な要因となって発生すること。また、感染症の多くは、発生源をなくすこと、感染経路を遮断すること、主体の抵抗力を高めることによって予防できること。
- (カ) 健康の保持増進や疾病の予防のためには、個人や社会の取組が重要であり、保健・医療機関を有効に利用することが必要であること。また、医薬品は、正しく使用すること。
- イ 健康な生活と疾病の予防について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。
- (2) 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 心身の機能の発達と心の健康について理解を深めるとともに、ストレスへの対処をすること。
- (ア) 身体には、多くの器官が発育し、それに伴い、様々な機能が発達する時期があること。また、発育・発達の時期やその程度には、個人差があること。
- (イ) 思春期には、内分泌の働きによって生殖に関わる機能が成熟すること。また、成熟に伴う変化に対応した適切な行動が必要となること。
- (ウ) 知的機能、情意機能、社会性などの精神機能は、生活経験などの影響を受けて発達すること。また、思春期においては、自己の認識が深まり、自己形成がなされること。
- (エ) 精神と身体は、相互に影響を与え、関わっていること。欲求やストレスは、心身に影響を与えることがあること。また、心の健康を保つには、欲求やストレスに適切に対処する必要があること。
- イ 心身の機能の発達と心の健康について、課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。
- (3) 傷害の防止について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。
- (ア) 交通事故や自然災害などによる傷害は、人的要因や環境要因などが関わって発生すること。
- (イ) 交通事故などによる傷害の多くは、安全な行動、環境の改善によって防止できること。
- (ウ) 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること。

(エ) 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができること。また、心肺蘇生法などを行うこと。

イ 傷害の防止について、危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現すること。

(4) 健康と環境について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 健康と環境について理解を深めること。

(ア) 身体には、環境に対してある程度まで適応能力があること。身体の適応能力を超えた環境は、健康に影響を及ぼすことがあること。また、快適で能率のよい生活を送るための温度、湿度や明るさには一定の範囲があること。

(イ) 飲料水や空気は、健康と密接な関わりがあること。また、飲料水や空気を衛生的に保つには、基準に適合するよう管理する必要があること。

(ウ) 人間の生活によって生じた廃棄物は、環境の保全に十分配慮し、環境を汚染しないように衛生的に処理する必要があること。

イ 健康と環境に関する情報から課題を発見し、その解決に向けて思考し判断するとともに、それらを表現すること。

### 3 内容の取扱い

(1) 内容の(1)のアの(ア)及び(イ)は第1学年、(1)のアの(ウ)及び(エ)は第2学年、(1)のアの(オ)及び(カ)は第3学年で取り扱うものとし、(1)のイは全ての学年で取り扱うものとする。内容の(2)は第1学年、(3)は第2学年、(4)は第3学年で取り扱うものとする。

(2) 内容の(1)のアについては、健康の保持増進と疾病の予防に加えて、疾病の回復についても取り扱うものとする。

(3) 内容の(1)のアのイ及びウについては、食育の観点も踏まえつつ健康的な生活習慣の形成に結び付くように配慮するとともに、必要に応じて、コンピュータなどの情報機器の使用と健康との関わりについて取り扱うことにも配慮するものとする。また、がんについても取り扱うものとする。

(4) 内容の(1)のアのエについては、心身への急性影響及び依存性について取り扱うこと。また、薬物は、覚醒剤や大麻等を取り扱うものとする。

(5) 内容の(1)のアのオについては、後天性免疫不全症候群（エイズ）及び性感染症についても取り扱うものとする。

(6) 内容の(2)のアのアについては、呼吸器、循環器を中心に取り扱うものとする。

(7) 内容の(2)のアのイについては、妊娠や出産が可能となるような成熟が始まるという観点から、受精・妊娠を取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わないものとする。また、身体の機能の成熟とともに、性衝動が生じたり、異性への関心が高まったりすることなどから、異性の尊重、情報への適切な対処や行動の選択が必要となることについて取り扱うものとする。

(8) 内容の(2)のアのエについては、体育分野の内容の「A体づくり運動」の(1)のアの指導との関連を図って指導するものとする。

(9) 内容の(3)のアの(エ)については、包帯法、止血法など傷害時の応急手当も取り扱い、実習を行うものとする。また、効果的な指導を行うため、水泳など体育分野の内容との関連を図るものとする。

(10) 内容の(4)については、地域の実態に即して公害と健康との関係を取り扱うことにも配慮するものとする。また、生態系については、取り扱わないものとする。

(11) 保健分野の指導に際しては、自他の健康に関心をもてるようにし、健康に関する課題を解決する学習活動を取り入れるなどの指導方法の工夫を行うものとする。

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生

徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、体育や保健の見方・考え方を働かせながら、運動や健康についての自他の課題を発見し、その合理的な解決のための活動の充実を図ること。また、運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるよう留意すること。

(2) 授業時数の配当については、次のとおり扱うこと。

ア 保健分野の授業時数は、3学年間で48単位時間程度配当すること。

イ 保健分野の授業時数は、3学年間を通じて適切に配当し、各学年において効果的な学習が行われるよう考慮して配当すること。

ウ 体育分野の授業時数は、各学年にわたって適切に配当すること。その際、体育分野の内容の「A体づくり運動」については、各学年で7単位時間以上を、「H体育理論」については、各学年で3単位時間以上を配当すること。

エ 体育分野の内容の「B器械運動」から「Gダンス」までの領域の授業時数は、それらの内容の習熟を図ることができるよう考慮して配当すること。

(3) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

(4) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、保健体育科の特質に応じて適切な指導をすること。

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 体力や技能の程度、性別や障害の有無等に関わらず、運動の多様な楽しみ方を共有することができるよう留意すること。

(2) 言語能力を育成する言語活動を重視し、筋道を立てて練習や作戦について話し合う活動や、個人生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、自主的な学習活動の充実を図ること。

(3) 第2の内容の指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用して、各分野の特質に応じた学習活動を行うよう工夫すること。

(4) 体育分野におけるスポーツとの多様な関わり方や保健分野の指導については、具体的な体験を伴う学習の工夫を行うよう留意すること。

(5) 生徒が学習内容を確実に身に付けることができるよう、学校や生徒の実態に応じ、学習内容の習熟の程度に応じた指導、個別指導との連携を踏まえた教師間の協力的な指導などを工夫改善し、個に応じた指導の充実が図られるよう留意すること。

(6) 第1章総則の第1の2の(3)に示す学校における体育・健康に関する指導の趣旨を生かし、特別活動、運動部の活動などとの関連を図り、日常生活における体育・健康に関する活動が適切かつ継続的に実践できるよう留意すること。なお、体力の測定については、計画的に実施し、運動の指導及び体力の向上に活用するようにすること。

(7) 体育分野と保健分野で示された内容については、相互の関連が図られるよう留意すること。

【資料1 保健体育：観点一覧】

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	保健体育科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。 <input type="radio"/> 運動の特性に応じた技能や個人生活における健康・安全の知識・技能について <input type="radio"/> 運動や健康についての自他の課題を見付け、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝えることについて <input type="radio"/> 生涯にわたって運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上をめざし、明るく豊かな生活を営む態度について
2 人 権 の 取扱い	人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。 <input type="radio"/> 人権への配慮について <input type="radio"/> ユニバーサルデザインに関する配慮について
3 内容の程度	生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。 <input type="radio"/> 文章の記述や分量について <input type="radio"/> 写真、挿絵、図、表などの資料について
4 組織・配列	各分野・各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。 <input type="radio"/> 単元配列について <input type="radio"/> ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について
5 創意工夫	体育や保健の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。 <input type="radio"/> 運動や健康についての課題を発見し、合理的に解決するための活動について <input type="radio"/> 言語活動の扱いについて
6 補充的な 学 習 ・ 発展的な 学 習	学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、日常生活における体育・健康に関する活動を実践したりできるよう配慮されているか。 <input type="radio"/> 資料やコラムなど

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>保健体育科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動の特性に応じた技能や個人生活における健康・安全の知識・技能について</li> <li>○ 運動や健康についての自他の課題を見付け、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝えることについて</li> <li>○ 生涯にわたって運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上をめざし、明るく豊かな生活を営む態度について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習課題を整理し、課題解決に取り組むことで、運動の特性に応じた技能や個人生活における健康・安全の知識・技能を身に付けられる内容が取りあげられている。</li> <li>○ 習得した知識・技能を活用し、生活の振り返りを行うことを通して、運動や健康についての自他の課題を見付け、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を養うための適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 単元末に「広げる」が設けられており、学習したことを活用して、生活の中でどのように実践していくかを考えることで、生涯にわたって運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上をめざし、明るく豊かな生活を営む態度を養うよう取り扱われている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習課題を整理し、課題解決に取り組むことで、運動の特性に応じた技能や個人生活における健康・安全の知識・技能を身に付けられる内容が取りあげられている。</li> <li>○ 習得した知識・技能を活用し、生活の振り返りを行うことを通して、運動や健康についての自他の課題を見付け、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を養うための適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 単元末に「活用して深めよう」、章末に「学びを活かそう」が設けられており、学習したことを活用して、生活の中でどのように実践していくかを考えることで、生涯にわたって運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上をめざし、明るく豊かな生活を営む態度を養うよう取り扱われている。</li> </ul>
大修館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習課題を整理し、課題解決に取り組むことで、運動の特性に応じた技能や個人生活における健康・安全の知識・技能を身に付けられる内容が取りあげられている。</li> <li>○ 習得した知識・技能を活用し、生活の振り返りを行うことを通して、運動や健康についての自他の課題を見付け、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を養うための適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 章末に「課題に向かって」「学びに向かって」が設けられており、学習したことを活用して、生活の中でどのように実践していくかを考えることで、生涯にわたって運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上をめざし、明るく豊かな生活を営む態度を養うよう取り扱われている。</li> </ul>

【資料1 保健体育】

学 研	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 学習課題を整理し、課題解決に取り組むことで、運動の特性に応じた技能や個人生活における健康・安全の知識・技能を身に付けられる内容が取りあげられている。</li><li>○ 習得した知識・技能を活用し、生活の振り返りを行うことを通して、運動や健康についての自他の課題を見付け、その解決に向けて思考・判断し、他者に伝える力を養うための適切な内容が取りあげられている。</li><li>○ 単元末に「まとめる・深める」が設けられており、学習したことを活用して、生活の中でどのように実践していくかを考えることで、生涯にわたって運動に親しみ、健康の保持増進と体力の向上をめざし、明るく豊かな生活を営む態度を養うよう取り扱われている。</li></ul>
-----	--

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、いじめや人間関係などの悩みに対処する方法や性の多様性などについて取り上げられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、いじめや人間関係などの悩みに対処する方法や障がい者や高齢者なども参加できるようにルールや用具などを適合させたアダプテッドスポーツなどについて取り上げられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
大修館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、いじめや人間関係などの悩みに対処する方法や視覚障害のある選手をゴールまで誘導するガイドランナーなどについて取り上げられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>
学 研	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。例えば、いじめや人間関係などの悩みに対処する方法や性的マイノリティなどについて取り上げられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすくわかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや図の配色など配慮されている。</li> </ul>

【資料1 保健体育】

項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章はわかりやすく、簡潔な記述であり、分量とともに生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章はわかりやすく、簡潔な記述であり、分量とともに生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>
大修館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章はわかりやすく、簡潔な記述であり、分量とともに生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>
学 研	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章はわかりやすく、簡潔な記述であり、分量とともに生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。</li> </ul>



項目	観 点
4 組織・配列	各分野・各学年の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。 ○ 単元配列について ○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について

発行者	事 項
東 書	すべての学年で、目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。  ○ 学年ごとに前に保健編、後ろに体育編が配列されている。また、関連した内容を学習するページや他の教科とのつながりをマークで示している。  ○ 見開き2ページを1単位時間で学習することを基本とし、本文や写真、挿絵、図、表などが効果的に配置されている。本文は見開きページ中央に寄せられており、両端に資料として、写真や図が多く配置されている。
大日本	すべての学年で、目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。  ○ 学年ごとに前に体育編、後ろに保健編が配列されている。また、「リンク」マーク、「他教科」マークで、関連した内容を学習するページや他の教科とのつながりを示している。  ○ 見開き2ページを1単位時間で学習することを基本とし、本文や写真、挿絵、図、表などが効果的に配置されている。見開き左ページに本文があり、右ページに資料として、写真や図が多く配置されている。
大修館	すべての学年で、目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。  ○ 学年ごとに前に体育編、後ろに保健編が配列されている。また、「関連」マーク、「他教科」マークで、関連した内容を学習するページや他の教科とのつながりを示している。  ○ 見開き2ページを1単位時間で学習することを基本とし、本文や写真、挿絵、図、表などが効果的に配置されている。本文は見開きページ中央に寄せられており、両端に資料として、写真や図が多く配置されている。
学 研	すべての学年で、目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点を含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。  ○ 学年ごとに前に体育編、後ろに保健編が配列されている。また、「関連」マークで、関連した内容を学習するページや他の教科とのつながりを示している。  ○ 見開き2ページを1単位時間で学習することを基本とし、本文や写真、挿絵、図、表などが効果的に配置されている。本文はページ左側に寄せられており、右側に資料として、写真や図が多く配置されている。

【資料1 保健体育】

項目	観 点
5 創意工夫	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動や健康についての課題を発見し、合理的に解決するための活動について</li> <li>○ 言語活動の扱いについて</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学習課題」として単元の課題を示し、「見つける」「?マーク」「活用する」「広げる」という学習過程の中で、生徒自身が、自分のこととして、課題を合理的に解決する学習活動が行えるよう工夫されている。</li> <li>○ 「活用する」では、学習した内容を活用して、グループで意見を交流する活動が設定されており、言語活動を充実させるよう工夫されている。</li> </ul>
大日本	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学習のねらい」として単元の課題を示し、「つかもう」「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」「活用して深めよう」という学習過程の中で、生徒自身が、自分のこととして、課題を合理的に解決する学習活動が行えるよう工夫されている。</li> <li>○ 「話し合ってみよう」では、学習した内容を活用して、グループで意見を交流する活動が設定されており、言語活動を充実させるよう工夫されている。</li> </ul>
大修館	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「きょうの学習」として単元の課題を示し、「課題をつかむ」「身に付ける・考える」「まとめる・振り返る」という学習過程の中で、生徒自身が、自分のこととして、課題を合理的に解決する学習活動が行えるよう工夫されている。</li> <li>○ 「学習のまとめ」では、学習した内容を活用して、グループで意見を交流する活動が設定されており、言語活動を充実させるよう工夫されている。</li> </ul>
学 研	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「学習の目標」として単元の課題を示し、「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」という学習過程の中で、生徒自身が、自分のこととして、課題を合理的に解決する学習活動が行えるよう工夫されている。</li> <li>○ 「まとめる・深める」では、学習した内容を活用して、グループで意見を交流する活動が設定されており、言語活動を充実させるよう工夫されている。</li> </ul>

項目	観 点
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、日常生活における体育・健康に関する活動を実践したりできるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
東 書	<p>○ 単元ごとに「キーワード」としてポイントとなる重要な言葉が示され、巻末には「キーワードの解説」として重要な言葉の解説が設けられている。章末には「学習のまとめ」として章末問題が設けられ、学習を振り返ることができるよう配慮されている。</p> <p>また、「発展」「読み物」「技能」「章末資料」などには、生活に応用できる内容が取り扱われている。</p> <p>なお、「Dマーク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
大日本	<p>○ 単元ごとに「キーワード」としてポイントとなる重要な言葉が示され、章末には「学習のまとめ」として重要な言葉の解説が設けられ、学習を振り返ることができるよう配慮されている。</p> <p>また、「発展」「トピックス」「ミニ知識」「章末資料」などには、生活に応用できる内容が取り扱われている。</p> <p>なお、「WEBマーク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
大修館	<p>○ 単元ごとに「キーワード」としてポイントとなる重要な言葉が示され、巻末には「用語解説」として重要な言葉の解説が設けられている。章末には「章のまとめ」として章末問題が設けられ、学習を振り返ることができるよう配慮されている。</p> <p>また、「発展」「ほり下げる」「コラム」「特集資料」などには、生活に応用できる内容が取り扱われている。</p> <p>なお、「web 保体情報館」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
学 研	<p>○ 単元ごとに「キーワード」としてポイントとなる重要な言葉が示され、章末には「章のまとめ」として章末問題が設けられ、学習を振り返ることができるよう配慮されている。</p> <p>また、「発展」「情報サプリ」「コラム」「探究しようよ」などには、生活に応用できる内容が取り扱われている。</p> <p>なお、「教科書サイトマーク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>

【資料2 保健体育】

○ 各領域のページ数

		東 書	大日本	大修館	学 研
保 健	健康な生活と疾病の予防①	14	14	12	16
	心身の機能の発達と心の健康	30	25	30	28
	健康な生活と疾病の予防②	20	18	22	22
	傷害の防止	30	29	24	28
	健康な生活と疾病の予防③	22	18	22	18
	健康と環境	20	18	22	20
体 育	運動やスポーツの多様性	11	12	12	12
	運動やスポーツの意義や効果と 学び方や安全な行い方	15	16	16	12
	文化としてのスポーツの意義	11	11	12	14

○ 各内容を取りあげている箇所数

	東 書	大日本	大修館	学 研
発展的な学習について	22	15	18	18
言語活動を促すもの	44	57	39	63
他教科との関連	30	9	3	6

○ 各項目を扱ったページ数

	東 書	大日本	大修館	学 研
喫煙・飲酒・薬物乱用	11	8	8	11
熱中症	3	6	5	3
がん教育	2	5	6	4
放射線	2	3	2	1
自然災害	10	7	6	9

## 技術・家庭（技術分野）

学習指導要領（技術・家庭 [技術分野]）・・・・・・・・・・ 1～5  
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6～12  
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13～15

発行者の 番号・略号	書 名	著 者 者	資料中 の表記
2 東 書	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology	田口 浩継 佐藤 文子 志村 結美 ほか 78名	東 書
6 教 図	New 技術・家庭 技術分野 明日を創造する/技術ハンドブック	中村 祐治 太田 達郎 長南 裕志 古川 稔 ほか 45名	教 図
9 開隆堂	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて	竹野 英敏 塩入 睦夫 ほか 117名	開隆堂



## 第2章 各教科

### 第8節 技術・家庭

#### 第1 目標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

#### 第2 各分野の目標及び内容

##### 〔技術分野〕

##### 1 目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

##### 2 内容

##### A 材料と加工の技術

- (1) 生活や社会を支える材料と加工の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 材料や加工の特性等の原理・法則と、材料の製造・加工方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。
  - イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。
- (2) 生活や社会における問題を、材料と加工の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 製作に必要な図をかき、安全・適切な製作や検査・点検等ができること。
  - イ 問題を見いだして課題を設定し、材料の選択や成形の方法等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。
- (3) これからの社会の発展と材料と加工の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
  - ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。

イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。

#### B 生物育成の技術

(1) 生活や社会を支える生物育成の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 育成する生物の成長、生態の特性等の原理・法則と、育成環境の調節方法等の基礎的な技術の仕組みについて理解すること。

イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。

(2) 生活や社会における問題を、生物育成の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 安全・適切な栽培又は飼育、検査等ができること。

イ 問題を見いだして課題を設定し、育成環境の調節方法を構想して育成計画を立てるとともに、栽培又は飼育の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。

(3) これからの社会の発展と生物育成の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。

イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。

#### C エネルギー変換の技術

(1) 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 電気、運動、熱の特性等の原理・法則と、エネルギーの変換や伝達等に関わる基礎的な技術の仕組み及び保守点検の必要性について理解すること。

イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。

(2) 生活や社会における問題を、エネルギー変換の技術によって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 安全・適切な製作、実装、点検及び調整等ができること。

イ 問題を見いだして課題を設定し、電気回路又は力学的な機構等を構想して設計を具体化するとともに、製作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。

(3) これからの社会の発展とエネルギー変換の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。

イ 技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。

#### D 情報の技術

(1) 生活や社会を支える情報の技術について調べる活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と、情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティ等に関わる基礎的な技術の仕組み及び情報モラルの必要性について理解すること。

イ 技術に込められた問題解決の工夫について考えること。

(2) 生活や社会における問題を、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができること。

イ 問題を見いだして課題を設定し、使用するメディアを複合する方法とその効果的な利用



方法等を構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。

- (3) 生活や社会における問題を、計測・制御のプログラミングによって解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 計測・制御システムの仕組みを理解し、安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等ができること。
  - イ 問題を見いだして課題を設定し、入出力されるデータの流れを元に計測・制御システムを構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えること。
- (4) これからの社会の発展と情報の技術の在り方を考える活動などを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解すること。
  - イ 技術の評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考えること。

### 3 内容の取扱い

- (1) 内容の「A材料と加工の技術」については、次のとおり取り扱うものとする。
- ア (1)については、我が国の伝統的な技術についても扱い、緻密なものづくりの技などが我が国の伝統や文化を支えてきたことに気付かせること。
  - イ (2)の製作に必要な図については、主として等角図及び第三角法による図法を扱うこと。
- (2) 内容の「B生物育成の技術」については、次のとおり取り扱うものとする。
- ア (1)については、作物の栽培、動物の飼育及び水産生物の栽培のいずれも扱うこと。
  - イ (2)については、地域固有の生態系に影響を及ぼすことのないよう留意するとともに、薬品を使用する場合には、使用上の基準及び注意事項を遵守させること。
- (3) 内容の「Cエネルギー変換の技術」の(1)については、電気機器や屋内配線等の生活の中で使用する製品やシステムの安全な使用についても扱うものとする。
- (4) 内容の「D情報の技術」については、次のとおり取り扱うものとする。
- ア (1)については、情報のデジタル化の方法と情報の量、著作権を含めた知的財産権、発信した情報に対する責任、及び社会におけるサイバーセキュリティが重要であることについても扱うこと。
  - イ (2)については、コンテンツに用いる各種メディアの基本的な特徴や、個人情報の保護の必要性についても扱うこと。
- (5) 各内容における(1)については、次のとおり取り扱うものとする。
- ア アで取り上げる原理や法則に関しては、関係する教科との連携を図ること。
  - イ イでは、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目し、技術が最適化されてきたことに気付かせること。
  - ウ 第1学年の最初に扱う内容では、3年間の技術分野の学習の見通しを立てさせるために、内容の「A材料と加工の技術」から「D情報の技術」までに示す技術について触れること。
- (6) 各内容における(2)及び内容の「D情報の技術」の(3)については、次のとおり取り扱うものとする。
- ア イでは、各内容の(1)のイで気付かせた見方・考え方により問題を見いだして課題を設定し、自分なりの解決策を構想させること。
  - イ 知的財産を創造、保護及び活用しようとする態度、技術に関わる倫理観、並びに他者と協働して粘り強く物事を前に進める態度を養うことを目指すこと。
  - ウ 第3学年で取り上げる内容では、これまでの学習を踏まえた統合的な問題について扱うこと。
  - エ 製作・制作・育成場面で使用する工具・機器や材料等については、図画工作科等の学習

経験を踏まえるとともに、安全や健康に十分に配慮して選択すること。

- (7) 内容の「A材料と加工の技術」、「B生物育成の技術」、「Cエネルギー変換の技術」の(3)及び内容の「D情報の技術」の(4)については、技術が生活の向上や産業の継承と発展、資源やエネルギーの有効利用、自然環境の保全等に貢献していることについても扱うものとする。

[家庭分野]

※本資料、技術・家庭（家庭分野）の「家1～家5」に記載

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

#### 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

- (2) 技術分野及び家庭分野の授業時数については、3学年間を見通した全体的な指導計画に基づき、いずれかの分野に偏ることなく配当して履修させること。その際、各学年において、技術分野及び家庭分野のいずれも履修させること。

家庭分野の内容の「A家族・家庭生活」の(4)、「B衣食住の生活」の(7)及び「C消費生活・環境」の(3)については、これら三項目のうち、一以上を選択し履修させること。その際、他の内容と関連を図り、実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮すること。

- (3) 技術分野の内容の「A材料と加工の技術」から「D情報の技術」まで、及び家庭分野の内容の「A家族・家庭生活」から「C消費生活・環境」までの各項目に配当する授業時数及び各項目の履修学年については、生徒や学校、地域の実態等に応じて、各学校において適切に定めること。その際、家庭分野の内容の「A家族・家庭生活」の(1)については、小学校家庭科の学習を踏まえ、中学校における学習の見通しを立てさせるために、第1学年の最初に履修させること。

- (4) 各項目及び各項目に示す事項については、相互に有機的な関連を図り、総合的に展開されるよう適切な題材を設定して計画を作成すること。その際、生徒や学校、地域の実態を的確に捉え、指導の効果を高めるようにすること。また、小学校における学習を踏まえるとともに、高等学校における学習を見据え、他教科等との関連を明確にして系統的・発展的に指導ができるようにすること。さらに、持続可能な開発のための教育を推進する視点から他教科等との連携も図ること。

- (5) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

- (6) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、技術・家庭科の特質に応じて適切な指導をすること。

#### 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 指導に当たっては、衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活や社会における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実を図ること。

- (2) 指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して、実習等における情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるように工夫すること。

- (3) 基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、実践的・体験的な活動を充実すること。また、

生徒のキャリア発達を踏まえて学習内容と将来の職業の選択や生き方との関わりについても扱うこと。

- (4) 資質・能力の育成を図り、一人一人の個性を生かし伸ばすよう、生徒の興味・関心を踏まえた学習課題の設定、技能の習得状況に応じた少人数指導や教材・教具の工夫など個に応じた指導の充実に努めること。
  - (5) 生徒が、学習した知識及び技能を生活に活用したり、生活や社会の変化に対応したりすることができるよう、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する学習活動を充実するとともに、家庭や地域社会、企業などとの連携を図るよう配慮すること。
- 3 実習の指導に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意するものとする。

その際、技術分野においては、正しい機器の操作や作業環境の整備等について指導するとともに、適切な服装や防護眼鏡・防塵マスクの着用、作業後の手洗いの実施等による安全の確保に努めることとする。

家庭分野においては、幼児や高齢者と関わるなど校外での学習について、事故の防止策及び事故発生時の対応策等を綿密に計画するとともに、相手に対する配慮にも十分留意するものとする。また、調理実習については、食物アレルギーにも配慮するものとする。

【資料1 技術：観点一覧】

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>技術分野の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術に係る知識・技能について</li> <li>○ 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を解決する力について</li> <li>○ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、技術を工夫し創造しようとする態度について</li> </ul>
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ 情報モラルについて</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul> <p>生徒の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全の確保や事故防止について</li> </ul>
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容となっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> </ul>
4 組織・配列	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>
5 創意工夫	<p>技術の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する学習活動について</li> <li>○ 言語活動の扱いについて</li> </ul>
6 補充的な 学 習 ・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、キャリア発達を踏まえて学習内容と将来の生き方との関わりを考えたりできるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料やコラムなど</li> </ul>

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>技術分野の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術に係る知識・技能について</li> <li>○ 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を解決する力について</li> <li>○ よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、技術を工夫し創造しようとする態度について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 技術に関する原理や法則、基礎的な技術の仕組みを学べるよう、適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 技術分野の学習過程が、巻頭の「技術の最適化」「問題解決のプロセス」に示されている。また、各題材とも、生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、技術によって問題を解決する力を養う内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」各内容の最後の「学習のまとめ」や、巻末の「技術分野の学習を終えて」では、学習を振り返り、生活に生かしたいことや新たな課題を見いだすことで、よりよい生活や持続可能な社会の構築について考え、技術を適切に評価し活用しようとする力を身に付けることができるよう取り扱われている。</li> </ul>
教 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 技術に関する原理や法則、基礎的な技術の仕組みを学べるよう、適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 技術分野の学習過程が、巻末の「技術による問題解決の流れ」に示されている。また、各題材とも、生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、技術によって問題を解決する力を養う内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」各内容の最後の「まとめ」や、巻末の「未来の社会を創造しよう！」では、技術の役割や活用についてまとめることで、よりよい生活や持続可能な社会の構築について考え、技術を適切に評価し活用しようとする力を身に付けることができるよう取り扱われている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 技術に関する原理や法則、基礎的な技術の仕組みを学べるよう、適切な内容が取りあげられている。</li> <li>○ 技術分野の学習過程が、巻頭の「技術分野の学習の流れ」に示されている。また、各題材とも、生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、技術によって問題を解決する力を養う内容が取りあげられている。</li> <li>○ 「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」各内容の最後の「学習のまとめ」や、巻末の「技術分野の学習を振り返り、私たちの未来へつなげよう」では、技術によって解決した過程を振り返ることで、よりよい生活や持続可能な社会の構築について考え、技術を適切に評価し活用しようとする力を身に付けることができるよう取り扱われている。</li> </ul>

【資料1 技術】

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ 情報モラルについて</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul> <p>生徒の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全の確保や事故防止について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。</li> <li>○ 情報の特性を理解して、情報を安全に利用できるよう、SNSの利用事例を用いて便利な点と注意すべき点を示して比較できるようにし、情報の取り扱いについて考えさせ、情報モラルの必要性が理解できるよう配慮されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすく、わかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや配色など配慮されている。</li> <li>○ 巻頭に特設ページが設定され、作業を安全に進めるため、環境・行動・作業における安全のための3つの視点が示されている。また、実習や実験における安全や衛生のポイントには、マークをつけて事故防止に留意するよう配慮されている。</li> </ul>
教 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。</li> <li>○ 情報の特性を理解して、情報を安全に利用できるよう、SNSの利用事例を示して想定できるリスクを書き込むことができるようにし、情報の取り扱いについて考えさせ、情報モラルの必要性が理解できるよう配慮されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすく、わかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや配色など配慮されている。</li> <li>○ 巻頭に特設ページが設定され、作業を安全に進めるための留意点が示されている。また、各編に安全を確認するページが設定されるとともに、実習や実験における安全のポイントには、マークをつけて事故防止に留意するよう配慮されている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われている。</li> <li>○ 情報の特性を理解して、情報を安全に利用できるよう、SNSの利用事例を「個人情報の保護」「人権・プライバシーの保護」「肖像権の保護」の観点で示し、情報の取り扱いについて考えさせ、情報モラルの必要性が理解できるよう配慮されている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすく、わかりやすいように、フォントや文字の大きさ、レイアウトや配色など配慮されている。</li> <li>○ 巻頭に特設ページが設定され、作業を安全に進めるため、作業に入る前に確認するチェックリストが示されている。また、実習や実験における安全のポイントには、マークをつけて事故防止に留意するよう配慮されている。</li> </ul>

項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容となっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されており、重要語句については、本文上に太字で示されている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。また、実習例は写真とイラストが豊富に使われており、わかりやすく示されている。</li> </ul>
教 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されており、重要語句については、本文上に色を変えて、太字で示されている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。また、実習例は写真とイラストが豊富に使われており、わかりやすく示されている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に応じた文の量とわかりやすい表現で記述されており、重要語句については、本文上に太字で示されている。</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について、生徒の発達段階を考慮した内容となっている。また、実習例は写真とイラストが豊富に使われており、わかりやすく示されている。</li> </ul>

【資料1 技術】

項目	観 点
4 組織・配列	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年間を通して、「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」の各内容を学習できるよう組織・配列されている。また、それぞれの内容は、「技術の原理・法則と仕組み」「技術による問題解決」「社会の発展と技術」の3つの構成に統一されていて、学習の流れを捉えやすくなっている。</li> <li>○ 効果的な指導が行われるよう、見開きで実習の流れが確認できるように示されるなど、本文・写真・挿絵・図・表などが適切に配置されている。また、他教科や小学校での学習と関連している箇所を随所にマークで示している。ページ下部の「技術の工夫」では、用語解説や技術の工夫が紹介されている。</li> </ul>
教 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年間を通して、「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」の各内容を学習できるよう組織・配列されている。また、それぞれの内容は、「つくって・育てて学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」の3つの構成に統一されていて、学習の流れを捉えやすくなっている。</li> <li>○ 本冊とハンドブックの2冊で構成されている。本冊は、効果的な指導が行われるよう、見開きで実習の流れが確認できるように示されるなど、本文・写真・挿絵・図・表などが適切に配置されている。また、他教科や小学校での学習と関連している箇所を、学習項目の冒頭にマークで示している。 ハンドブックは、本冊の題材にあわせて基礎的な技能を参照できるようになっている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年間を通して、「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」の各内容を学習できるよう組織・配列されている。また、それぞれの内容は、「知識や技能を身に付ける」「問題から課題を考え、ものを作ることで課題を解決する」「学習したことを社会に生かす」の3つの構成に統一されていて、学習の流れを捉えやすくなっている。</li> <li>○ 効果的な指導が行われるよう、見開きで実習の流れが確認できるように示されるなど、本文・写真・挿絵・図・表などが適切に配置されている。また、各内容の扉ページで、他教科や小学校での学習との関連を示すとともに、関連している箇所を随所にマークで示している。ページ下部の「豆知識」では、用語解説や技術の工夫が紹介されている。</li> </ul>



項目	観 点
5 創意工夫	<p>技術の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する学習活動について</li> <li>○ 言語活動の扱いについて</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」の内容ごとに、「1技術の原理・法則と仕組み」、「2技術による問題解決」、「3社会の発展と技術」という順で構成されおり、基本的な学習過程の中で、技術によって生活や社会の問題を解決する力を身に付けることができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「話し合ってみよう」や「活動」マークの部分に、グループで意見を交流する活動が設定されており、言語活動を充実させるよう工夫されている。また、キャラクターの発言により、生徒が主体的に学習を進められるよう工夫されている。</li> </ul>
教 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」の内容ごとに、「つくって・育てて学ぼう」、「じっくり学ぼう」、「学びを深め生かそう」という順で構成されており、基本的な学習過程の中で、技術によって生活や社会の問題を解決する力を身に付けることができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「やってみよう」で、グループで意見を交流する活動が設定されており、言語活動を充実させるよう工夫されている。また、キャラクターの発言により、生徒が主体的に学習を進められるよう工夫されている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」の内容ごとに、「1知識や技術を身につける」、「2問題から課題を考え、ものを作ることで課題を解決する」、「3学習したことを社会に生かす」という順で構成されており、基本的な学習過程の中で、技術によって生活や社会の問題を解決する力を身に付けることができるよう工夫されている。</li> <li>○ 「話し合ってみよう」や「課題」で、グループで意見を交流する活動が設定されており、言語活動を充実させるよう工夫されている。また、キャラクターの発言により、生徒が主体的に学習を進められるよう工夫されている。</li> </ul>

【資料1 技術】

項目	観 点
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、キャリア発達を踏まえて学習内容と将来の生き方との関わりを考えたりできるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
東 書	<p>○ 「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」各内容の最後に、「学習のまとめ」として、単元の内容を振り返るページを設けている。また、コンピュータの基本操作が巻末にまとめて記載されている。「技術の匠」では、技術者のメッセージを紹介するなど、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう配慮されている。</p> <p>なお、「Dマーク」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
教 図	<p>○ 「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」各内容の最後に、「学びを深め生かそう」として、単元の内容を振り返るページを設けている。また、コンピュータの基本操作が別冊にまとめて記載されている。「技ビト」「将来のあなたへ 先輩からのメッセージ」では、技術者のメッセージを紹介するなど、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう配慮されている。</p> <p>なお、「二次元コード」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
開隆堂	<p>○ 「A材料と加工の技術」「B生物育成の技術」「Cエネルギー変換の技術」「D情報の技術」各内容の最後に、「学習のまとめ」として、単元の内容を振り返るページを設けている。また、コンピュータの基本操作が巻末にまとめて記載されている。「参考」では、技術者のメッセージを紹介するなど、生徒の勤労観・職業観を育むことができるよう配慮されている。</p> <p>なお、「二次元コード」があるところでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>

## ○ 各内容のページ数とその割合

	東 書		教 図		開隆堂	
	頁数	割合(%)	頁数	割合(%)	頁数	割合(%)
ガイダンス	12	3.9%	12	4.0%	10	3.3%
A 材料と加工	70	22.9%	68	22.5%	74	24.5%
B 生物育成	50	16.3%	42	13.9%	46	15.2%
C エネルギー変換	60	19.6%	64	21.2%	54	17.9%
D 情報	66	21.6%	84	27.8%	72	23.8%
その他	48	15.7%	32	10.6%	46	15.2%
合計	306	100.0%	302	100.0%	302	100.0%

## ○ 考えたり、調べたり、話し合ったりする学習活動を促している箇所数

	東 書	教 図	開隆堂
巻頭/ガイダンス	12	2	9
A 材料と加工	26	16	28
B 生物育成	28	12	18
C エネルギー変換	27	20	26
D 情報	37	41	33
巻末	2	2	2
計	132	93	116

## ○ 学習した内容に関して、知識を深めるための内容や情報を追記している箇所数

	東 書	教 図	開隆堂
巻頭/ガイダンス	0	0	1
A 材料と加工	10	1	3
B 生物育成	12	8	2
C エネルギー変換	16	2	2
D 情報	11	13	4
計	49	24	12

## ○ 言語活動を促している箇所数

	東 書	教 図	開隆堂
A 材料と加工	6	12	3
B 生物育成	9	10	2
C エネルギー変換	7	11	6
D 情報	6	27	8
計	28	60	19

## ○ 安全指導・事故防止を取り扱っている箇所数

	東 書	教 図	開隆堂
巻頭/ガイダンス	2	2	3
A 材料と加工	12	10	11
B 生物育成	4	5	1
C エネルギー変換	7	9	9
D 情報	1	4	1
計	26	30	25

【資料2 技術】

○ 環境との関わりを取り扱っている箇所数

	東 書	教 図	開隆堂
巻頭/ガイダンス	0	1	1
A 材料と加工	2	3	7
B 生物育成	3	2	5
C エネルギー変換	4	2	5
D 情報	0	0	2
巻末	1	0	1
計	10	8	21

○ 情報モラル・知的財産権を取り扱っているページ数

	東 書	教 図	開隆堂
巻頭/ガイダンス	0	0	1
A 材料と加工	0	3	0
B 生物育成	0	1	0
C エネルギー変換	1	0	0
D 情報	6	3	6
巻末	2	1	2
計	9	8	9

○ プログラミングについて取りあげているページ数

	東 書	教 図	開隆堂
A 材料と加工	0	0	0
B 生物育成	0	0	0
C エネルギー変換	0	0	0
D 情報	42	56	29
巻末	8	2	8
計	50	58	37

○ 実習例が記載されている箇所数

	東 書	教 図	開隆堂
A 材料と加工	8	9	7
B 生物育成	8	6	8
C エネルギー変換	5	6	5
D 情報	12	9	9
計	33	30	29

## ○ 記載されている具体的実習例

	東 書	教 団	開隆堂
A 材料と加工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リモコンラック</li> <li>・トラッシュボックス</li> <li>・飾り棚</li> <li>・プリント整理箱</li> <li>・ロッカー整理棚</li> <li>・プランターカバー</li> <li>・タブレットスタンド</li> <li>・絵本ラック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不思議な本立て</li> <li>・パンチングメタルスタンド</li> <li>・調味料ホルダー</li> <li>・便利なプランターラック</li> <li>・パーフェクトスマホスタンド</li> <li>・リモコンスタンドつき本立て</li> <li>・小物ボックス</li> <li>・2列小物スタンド</li> <li>・2段小物ラック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一枚の板で製作する机の上を整理・整頓できるマルチラック</li> <li>・規格材で製作する机の上を整理・整頓できるマルチラック</li> <li>・安全性を重視したふみ台</li> <li>・調理スペースが広がる調味料ラック</li> <li>・見ばえよく植物を収納する鉢入れ</li> <li>・機能性を重視したカレンダーつきメモホルダ</li> <li>・分類して収納できる文房具の整理箱</li> </ul>
B 生物育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナス</li> <li>・ジャガイモ</li> <li>・ダイコン</li> <li>・イネ</li> <li>・ラッカセイ</li> <li>・リーフレタス</li> <li>・パンジー</li> <li>・イチゴ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベビーリーフ</li> <li>・ミニダイコン</li> <li>・ミニトマト</li> <li>・コマツナの鉢栽培</li> <li>・キュウリのプランター栽培</li> <li>・低温処理によるチューリップとパンジーの寄せ植え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甘みのあるミニトマトの栽培</li> <li>・リーフレタスの養液栽培</li> <li>・ラディッシュの容器栽培</li> <li>・チューリップの促成栽培</li> <li>・イネの容器栽培</li> <li>・乳牛の飼育</li> <li>・ドジョウの養殖</li> <li>・スギ人工林の育成</li> </ul>
C エネルギー変換	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯型扇風機</li> <li>・冷蔵庫開けっ放し報知器</li> <li>・自動点灯LEDライト</li> <li>・自動車の乗降装置</li> <li>・さくらんぼ収穫ロボット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンタンライト</li> <li>・ぱくぱくカム</li> <li>・ショベルカーのモデル</li> <li>・災害時に役立つライト</li> <li>・コロコロコースター</li> <li>・ライトつきメガネスタンド</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常時に光る防災用ライト</li> <li>・介助用ロボット</li> <li>・持ち運べるLEDライトスタンド</li> <li>・お手軽クリーナー</li> <li>・音声増幅器</li> </ul>
D 情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域紹介翻訳システム</li> <li>・防災マップ</li> <li>・クラス伝言板システム</li> <li>・学校内チャットシステム</li> <li>・施設確認システム</li> <li>・中学校物知り博士</li> <li>・熱中症予防システム</li> <li>・育苗システム</li> <li>・ロボット掃除機のモデル</li> <li>・冷蔵庫開閉チェッカー</li> <li>・福祉車両のモデル</li> <li>・さくらんぼ自動収穫ロボット</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・追いかけてこゲーム</li> <li>・数当てゲーム</li> <li>・PTAバザーの案内マップ</li> <li>・簡単チャット</li> <li>・自動点灯・消灯ライト</li> <li>・自動かん水機</li> <li>・簡単チャットのプログラミング</li> <li>・双方向性の蓄積クイズ</li> <li>・いろいろ問題解決</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して使えるメッセージ交換アプリ</li> <li>・ネット対戦型タイピング練習</li> <li>・防災地図アプリ</li> <li>・ルート検索アプリ</li> <li>・英単語の発音チェックアプリ</li> <li>・立入禁止エリアを判断する金属回収ロボット</li> <li>・自宅のセキュリティ対策</li> <li>・自分の動きを計測するトレーニング補助装置</li> <li>・ミニ植物工場(生物育成との統合)</li> </ul>



## 技術・家庭（家庭分野）

学習指導要領（技術・家庭 [家庭分野]）・・・・・・・・・・ 1～5  
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6～12  
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13～14

発行者の 番号・略号	書 名	著 者	資料中 の表記
2 東 書	新しい技術・家庭 家庭分野	佐藤 文子 志村 結美 田口 浩継 ほか 55 名	東 書
6 教 図	New 技術・家庭 家庭分野	伊藤 葉子 河村 美穂 ほか 34 名	教 図
9 開隆堂	技術・家庭 家庭分野	大竹 美登利 鈴木 真由子 綿引 伴子 ほか 114 名	開隆堂





## 第2章 各教科

### 第8節 技術・家庭

#### 第1 目 標

生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

#### 第2 各分野の目標及び内容

##### 〔技術分野〕

※本資料、技術・家庭（技術分野）の「技1～技5」に記載

##### 〔家庭分野〕

#### 1 目 標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

#### 2 内 容

##### A 家族・家庭生活

次の(1)から(4)までの項目について、課題をもって、家族や地域の人々と協力・協働し、よりよい家庭生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

##### (1) 自分の成長と家族・家庭生活

ア 自分の成長と家族や家庭生活との関わりが分かり、家族・家庭の基本的な機能について理解するとともに、家族や地域の人々と協力・協働して家庭生活を営む必要があることに気付くこと。

##### (2) 幼児の生活と家族

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解すること。

- (イ) 幼児にとっての遊びの意義や幼児との関わり方について理解すること。
- イ 幼児とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。
- (3) 家族・家庭や地域との関わり
- ア 次のような知識を身に付けること。
- (ア) 家族の互いの立場や役割が分かり、協力することによって家族関係をよりよくできることについて理解すること。
- (イ) 家庭生活は地域との相互の関わりで成り立っていることが分かり、高齢者など地域の人々と協働する必要があることや介護など高齢者との関わり方について理解すること。
- イ 家族関係をよりよくする方法及び高齢者など地域の人々と関わり、協働する方法について考え、工夫すること。
- (4) 家族・家庭生活についての課題と実践
- ア 家族、幼児の生活又は地域の生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。
- B 衣食住の生活
- 次の(1)から(7)までの項目について、課題をもって、健康・快適・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- (1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴
- ア 次のような知識を身に付けること。
- (ア) 生活の中で食事が果たす役割について理解すること。
- (イ) 中学生に必要な栄養の特徴が分かり、健康によい食習慣について理解すること。
- イ 健康によい食習慣について考え、工夫すること。
- (2) 中学生に必要な栄養を満たす食事
- ア 次のような知識を身に付けること。
- (ア) 栄養素の種類と働きが分かり、食品の栄養的特質について理解すること。
- (イ) 中学生の1日に必要な食品の種類と概量が分かり、1日分の献立作成の方法について理解すること。
- イ 中学生の1日分の献立について考え、工夫すること。
- (3) 日常食の調理と地域の食文化
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択について理解し、適切にできること。
- (イ) 食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理について理解し、適切にできること。
- (ウ) 材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。
- (エ) 地域の食文化について理解し、地域の食材を用いた和食の調理が適切にできること。
- イ 日常の1食分の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。
- (4) 衣服の選択と手入れ
- ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
- (ア) 衣服と社会生活との関わりが分かり、目的に応じた着用、個性を生かす着用及び衣服の適切な選択について理解すること。
- (イ) 衣服の計画的な活用の必要性、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて理解し、適切にできること。
- イ 衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を考え、工夫すること。
- (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作
- ア 製作する物に適した材料や縫い方について理解し、用具を安全に取り扱い、製作が適切

にできること。

イ 資源や環境に配慮し、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。

(6) 住居の機能と安全な住まい方

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。

(イ) 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。

イ 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。

(7) 衣食住の生活についての課題と実践

ア 食生活、衣生活、住生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けてよりよい生活を考え、計画を立てて実践できること。

C 消費生活・環境

次の(1)から(3)までの項目について、課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて考え、工夫する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 金銭の管理と購入

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。

(イ) 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。

イ 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。

(2) 消費者の権利と責任

ア 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。

イ 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫すること。

(3) 消費生活・環境についての課題と実践

ア 自分や家族の消費生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて環境に配慮した消費生活を考え、計画を立てて実践できること。

3 内容の取扱い

(1) 各内容については、生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な活動を充実すること。

(2) 内容の「A家族・家庭生活」については、次のとおり取り扱うものとする。

ア (1)のアについては、家族・家庭の基本的な機能がAからCまでの各内容に関わっていることや、家族・家庭や地域における様々な問題について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承、持続可能な社会の構築等を視点として考え、解決に向けて工夫することが大切であることに気付かせるようにすること。

イ (1)、(2)及び(3)については、相互に関連を図り、実習や観察、ロールプレイングなどの学習活動を中心とするよう留意すること。

ウ (2)については、幼稚園、保育所、認定こども園などの幼児の観察や幼児との触れ合いができるよう留意すること。アの(ア)については、幼児期における周囲との基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性についても扱うこと。

エ (3)のアの(イ)については、高齢者の身体の特徴についても触れること。また、高齢者の介護の基礎に関する体験的な活動ができるよう留意すること。イについては、地域の活動

や行事などを取り上げたり、他教科等における学習との関連を図ったりするよう配慮すること。

(3) 内容の「B衣食住の生活」については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 日本の伝統的な生活についても扱い、生活文化を継承する大切さに気付くことができるよう配慮すること。

イ (1)のアの(ア)については、食事を共にする意義や食文化を継承することについても扱うこと。

ウ (2)のアの(ア)については、水の働きや食物繊維についても触れること。

エ (3)のアの(ア)については、主として調理実習で用いる生鮮食品と加工食品の表示を扱うこと。ウについては、煮る、焼く、蒸す等を扱うこと。また、魚、肉、野菜を中心として扱い、基礎的な題材を取り上げること。エについては、だしを用いた煮物又は汁物を取り上げること。また、地域の伝統的な行事食や郷土料理を扱うこともできること。

オ 食に関する指導については、技術・家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮すること。

カ (4)のアの(ア)については、日本の伝統的な衣服である和服について触れること。また、和服の基本的な着装を扱うこともできること。さらに、既製服の表示と選択に当たっての留意事項を扱うこと。イについては、日常着の手入れは主として洗濯と補修を扱うこと。

キ (5)のアについては、衣服等の再利用の方法についても触れること。

ク (6)のアについては、簡単な図などによる住空間の構想を扱うこと。また、ア及びイについては、内容の「A家族・家庭生活」の(2)及び(3)との関連を図ること。さらに、アの(イ)及びイについては、自然災害に備えた住空間の整え方についても扱うこと。

(4) 内容の「C消費生活・環境」については、次のとおり取り扱うものとする。

ア (1)及び(2)については、内容の「A家族・家庭生活」又は「B衣食住の生活」の学習との関連を図り、実践的に学習できるようにすること。

イ (1)については、中学生の身近な消費行動と関連を図った物資・サービスや消費者被害を扱うこと。アのアについては、クレジットなどの三者間契約についても扱うこと。

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、知識を相互に関連付けてより深く理解するとともに、生活や社会の中から問題を見いだして解決策を構想し、実践を評価・改善して、新たな課題の解決に向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

(2) 技術分野及び家庭分野の授業時数については、3学年間を見通した全体的な指導計画に基づき、いずれかの分野に偏ることなく配当して履修させること。その際、各学年において、技術分野及び家庭分野のいずれも履修させること。

家庭分野の内容の「A家族・家庭生活」の(4)、「B衣食住の生活」の(7)及び「C消費生活・環境」の(3)については、これら三項目のうち、一以上を選択し履修させること。その際、他の内容と関連を図り、実践的な活動を家庭や地域などで行うことができるよう配慮すること。

(3) 技術分野の内容の「A材料と加工の技術」から「D情報の技術」まで、及び家庭分野の内容の「A家族・家庭生活」から「C消費生活・環境」までの各項目に配当する授業時数及び各項目の履修学年については、生徒や学校、地域の実態等に応じて、各学校において適切に定めること。その際、家庭分野の内容の「A家族・家庭生活」の(1)については、小学校家庭科の学習を踏まえ、中学校における学習の見通しを立てさせるために、第1学年の最初に履修させること。

- (4) 各項目及び各項目に示す事項については、相互に有機的な関連を図り、総合的に展開されるよう適切な題材を設定して計画を作成すること。その際、生徒や学校、地域の実態を的確に捉え、指導の効果を高めるようにすること。また、小学校における学習を踏まえるとともに、高等学校における学習を見据え、他教科等との関連を明確にして系統的・発展的に指導ができるようにすること。さらに、持続可能な開発のための教育を推進する視点から他教科等との連携も図ること。
- (5) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
- (6) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、道德科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道德の第2に示す内容について、技術・家庭科の特質に応じて適切な指導をすること。
- 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。
- (1) 指導に当たっては、衣食住やものづくりなどに関する実習等の結果を整理し考察する学習活動や、生活や社会における課題を解決するために言葉や図表、概念などを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動の充実を図ること。
- (2) 指導に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用して、実習等における情報の収集・整理や、実践結果の発表などを行うことができるように工夫すること。
- (3) 基礎的・基本的な知識及び技能を習得し、基本的な概念などの理解を深めるとともに、仕事の楽しさや完成の喜びを体得させるよう、実践的・体験的な活動を充実すること。また、生徒のキャリア発達を踏まえて学習内容と将来の職業の選択や生き方との関わりについても扱うこと。
- (4) 資質・能力の育成を図り、一人一人の個性を生かし伸ばすよう、生徒の興味・関心を踏まえた学習課題の設定、技能の習得状況に応じた少人数指導や教材・教具の工夫など個に応じた指導の充実に努めること。
- (5) 生徒が、学習した知識及び技能を生活に活用したり、生活や社会の変化に対応したりすることができるよう、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する学習活動を充実するとともに、家庭や地域社会、企業などとの連携を図るよう配慮すること。
- 3 実習の指導に当たっては、施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、火気、用具、材料などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意するものとする。
- その際、技術分野においては、正しい機器の操作や作業環境の整備等について指導するとともに、適切な服装や防護眼鏡・防塵マスクの着用、作業後の手洗いの実施等による安全の確保に努めることとする。
- 家庭分野においては、幼児や高齢者と関わるなど校外での学習について、事故の防止策及び事故発生時の対応策等を綿密に計画するとともに、相手に対する配慮にも十分留意するものとする。また、調理実習については、食物アレルギーにも配慮するものとする。

【資料1 家庭：観点一覧】

項 目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>家庭分野の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活の自立に必要な基礎的な知識・技能について</li> <li>○ 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を解決する力について</li> <li>○ よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し創造しようとする態度について</li> </ul>
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul> <p>生徒の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全の確保や事故防止について</li> </ul>
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> </ul>
4 組織・配列	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>
5 創意工夫	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する学習活動について</li> <li>○ 言語活動の扱いについて</li> </ul>
6 補充的な 学 習 ・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、キャリア発達を踏まえて学習内容と将来の生き方との関わりを考えたりできるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料やコラムなど</li> </ul>

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>家庭分野の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活の自立に必要な基礎的な知識・技能について</li> <li>○ 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を解決する力について</li> <li>○ よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し創造しようとする態度について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活の自立に必要な基礎・基本を本文ページで的確に押さえており、生活で生きる知識及び技能を育む内容が取りあげられている。</li> <li>○ 各題材とも、一連の学習過程の中で、生活の中から問題を見だし、生活の営みに係る見方・考え方を働かせて課題を設定し、知識・技能を活用して多様な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、問題を解決する力を養う内容が取りあげられている。</li> <li>○ 巻末資料「学んだことを社会に生かす」「みんなが暮らしやすい社会を目指して」のページがあり、学習で身に付けたことを元に生活の中から課題を設定し、新しい課題に取り組むことができるよう取り扱われている。</li> </ul>
教 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活の自立に必要な基礎・基本を本文ページで的確に押さえており、生活で生きる知識及び技能を育む内容が取りあげられている。</li> <li>○ 各題材とも、一連の学習過程の中で、生活の中から問題を見だし、生活の営みに係る見方・考え方を働かせて課題を設定し、知識・技能を活用して多様な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、問題を解決する力を養う内容が取りあげられている。</li> <li>○ 各章の最後に「学びを生かそう」のページがあり、6つのステップで流れに沿って生徒が自分の課題設定をできるよう「課題設定のヒント」「私の課題例」が取りあげられ、学習で身に付けたことを元に生活の中から課題を設定し、新しい課題に取り組むことができるよう取り扱われている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活の自立に必要な基礎・基本を本文ページで的確に押さえており、生活で生きる知識及び技能を育む内容が取りあげられている。</li> <li>○ 各題材とも、一連の学習過程の中で、生活の中から問題を見だし、生活の営みに係る見方・考え方を働かせて課題を設定し、知識・技能を活用して多様な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、問題を解決する力を養う内容が取りあげられている。</li> <li>○ 各章の最後に「生活にいかそう」のページがあり、学習で身に付けたことを元に生活の中から課題を設定し、新しい課題に取り組むことができるよう取り扱われている。</li> </ul>

【資料1 家庭】

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul> <p>生徒の安全について適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 安全の確保や事故防止について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、性別による役割等に偏りがないよう取り扱われている。</li> <li>○ 手順図は視点の動きを考慮して、横や縦に流れる図に統一され、生徒が学習しやすいよう工夫されている。また、左利き生徒の用具の使い方が写真で示され、フォントや配色、デザイン等の配慮もなされている。</li> <li>○ 安全に調理や製作などの実習をすすめるため、特設ページが設定されるとともに、実習時や実習時以外において、安全に気をつける場面では「安全」マークで注意点が示されるなど、事故防止に留意するよう配慮されている。</li> </ul>
教 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、性別による役割等に偏りがないよう取り扱われている。</li> <li>○ 手順図は視点の動きを考慮して、横や縦に流れる図に統一され、生徒が学習しやすいよう工夫されている。また、左利き生徒の用具の使い方が写真や絵で示され、フォントや配色、デザイン等の配慮もなされている。</li> <li>○ 安全に調理や製作などの実習をすすめるため、特設ページが設定されるとともに、実習時や実習時以外において、安全に気をつける場面では「安全」マークで注意点が示されるなど、事故防止に留意するよう配慮されている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。例えば、性別による役割等に偏りがないよう取り扱われている。</li> <li>○ 手順図は視点の動きを考慮して、横や縦に流れる図に統一され、生徒が学習しやすいよう工夫されている。また、左利き生徒の用具の使い方が絵で示され、フォントや配色、デザイン等の配慮もなされている。</li> <li>○ 安全に調理や製作などの実習をすすめるため、特設ページが設定されるとともに、実習時や実習時以外において、安全に気をつける場面では「安全」マークで注意点が示されるなど、事故防止に留意するよう配慮されている。</li> </ul>



項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量について</li> <li>○ 写真、挿絵、図、表などの資料について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量が生徒の発達段階を考慮した内容になっている。また、専門的な用語には注釈をつけて、簡潔な表現で解説が補足されている。</li> <li>○ 実習は作業がよく分かる大きな写真が多く、作品例、挿絵、図表などが豊富で生徒の発達段階が考慮されている。</li> </ul>
教 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量が生徒の発達段階を考慮した内容になっている。また、専門的な用語には注釈をつけて、簡潔な表現で解説が補足されている。</li> <li>○ 実習は作業がよく分かる大きな写真が多く、作品例、挿絵、図表などが豊富で生徒の発達段階が考慮されている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 文章の記述や分量が生徒の発達段階を考慮した内容になっている。また、専門的な用語には注釈をつけて、簡潔な表現で解説が補足されている。</li> <li>○ 実習は作業がよく分かる大きな写真が多く、作品例、挿絵、図表などが豊富で生徒の発達段階が考慮されている。</li> </ul>

【資料1 家庭】

項目	観 点
4 組織・配列	<p>各分野の目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元配列について</li> <li>○ ページの構成（本文・写真・挿絵・図・表などの配置）について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ガイダンス」「衣食住の生活」「消費生活・環境」「家族・家庭生活」「生活の課題と実践」の順に配列され、各分野の目標や内容を踏まえて教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、技術分野や他教科、小学校家庭科の学習内容と関連させて学習できるよう、「リンク」「他教科」「小学校」マークで関連を図れるよう配慮されている。</li> <li>○ 学習の流れに沿って「学習の目標」「導入」「展開」「まとめ」で構成されている。また、実習例が見開きで確認できるようになっており、写真や図で作業の全体が把握しやすいようにしている。</li> </ul>
教 図	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ガイダンス」「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」「生活の課題と実践」の順に配列され、各分野の目標や内容を踏まえて教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、技術分野や他教科、小学校家庭科の学習内容と関連させて学習できるよう、「リンク」マークで関連を図れるよう配慮されている。</li> <li>○ 学習の流れに沿って「学習の目標」「導入」「展開」「まとめ」で構成されている。また、実習例が見開きで確認できるようになっており、写真や図で作業の全体が把握しやすいようにしている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ガイダンス」「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」「生活の課題と実践」の順に配列され、各分野の目標や内容を踏まえて教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。また、技術分野や他教科、小学校家庭科の学習内容と関連させて学習できるよう、「リンク」「他教科・他分野」マークで関連を図れるよう配慮されている。</li> <li>○ 学習の流れに沿って「学習の目標」「導入」「展開」「まとめ」で構成されている。また、実習例が見開きで確認できるようになっており、写真や図で作業の全体が把握しやすいようにしている。</li> </ul>

項目	観 点
5 創意工夫	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決する学習活動について</li> <li>○ 言語活動の扱いについて</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的で深い学びが実現されるよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭で課題解決学習の進め方を丁寧に説明するとともに、「生活の課題と実践」でより具体的に生活の中で自ら問題解決に取り組むことができるように工夫されている。</li> <li>○ 「話し合ってみよう」「考えてみよう」「やってみよう」など、実践的・体験的な活動を通して言語活動を行えるよう工夫されている。</li> </ul>
教 図	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的で深い学びが実現されるよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭で課題解決学習の進め方を丁寧に説明するとともに、「生活の課題と実践」でより具体的に生活の中で自ら問題解決に取り組むことができるように工夫されている。</li> <li>○ 「話し合ってみよう」「考えてみよう」「やってみよう」など、実践的・体験的な活動を通して言語活動を行えるよう工夫されている。</li> </ul>
開隆堂	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、主体的で深い学びが実現されるよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「生活の課題と実践」の中で課題解決学習の進め方を丁寧に説明するとともに、より具体的に生活の中で自ら問題解決に取り組むことができるように工夫されている。</li> <li>○ 「話し合ってみよう」「考えてみよう」「やってみよう」など、実践的・体験的な活動を通して言語活動を行えるよう工夫されている。</li> </ul>

【資料1 家庭】

項目	観 点
6 補足的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、キャリア発達を踏まえて学習内容と将来の生き方との関わりを考えたりできるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
東 書	<p>○ 領域ごとの「学習のまとめ」において、基礎的な知識・技能の習得を補充するように配慮されている。また、コラム「プロに聞く！」では、関係の深い仕事に就いている人たちからのメッセージを掲載することで、勤労観・職業観を育むことができるように工夫されている。</p> <p>なお、Dマークのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
教 図	<p>○ 領域ごとの、章末のまとめ「学習のふり返し」において、基礎的な知識・技能の習得を補充するように配慮されている。また、コラム「センパイに聞こう！」では、地域や社会で活躍している方や、専門学校へ進学した先輩などからのメッセージを掲載することで、勤労観・職業観を育むことができるように工夫されている。</p> <p>なお、二次元コードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
開隆堂	<p>○ 領域ごとの「学習のまとめ」において、基礎的な知識・技能の習得を補充するように配慮されている。また、コラム「先輩からのエール」では、多種多様な職種で働いている人へのインタビューを掲載することで、勤労観・職業観を育むことができるように工夫されている。</p> <p>なお、二次元コードのあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>

## ○ 各内容項目の取り扱いページ数

		東 書	教 図	開隆堂
		頁数	頁数	頁数
A 家族・家庭生活	(1) 自分の成長と家族・家庭生活	21	10	16
	(2) 幼児の児の生活と家族	36	30	32
	(3) 家族・家庭や地域との関わり	13	14	16
	(4) 家族・家庭生活についての課題と実践	6	8	7
B 衣食住の生活	(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴	8	10	10
	(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事	18	20	30
	(3) 日常食の調理と地域の食文化	56	56	52
	(4) 衣服の選択と手入れ	24	26	26
	(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作	24	19	18
	(6) 住居の機能と安全な住まい方	20	20	24
	(7) 衣食住の生活についての課題と実践	5	17	8
C 消費生活・環境	(1) 金銭の管理と購入	51	60	54
	(2) 消費者の権利と責任	104	120	115
	(3) 消費生活・環境についての課題と実践	5	8	6
総ページ数		306	308	302

【資料2 家庭】

○ 各種マークで明示している箇所数

	東 書	教 図	開隆堂
「安全」マーク	9	18	17
「衛生」マーク	3	17	16
「環境」マーク	52	12	9
「防災」マーク	15	5	1
「伝統文化」マーク	39	10	9
「発展」マーク	9	7	9
合計	127	69	61

○ ガイダンス及び生活の課題と実践の取り扱いページ数

	東 書	教 図	開隆堂
ガイダンス	14	4	12
家族・家庭生活の課題と実践	2	4	2
衣食住の課題と実践	3	6	4
消費生活の課題と実践	1	4	2
合計	20	18	20

○ 調理実習例及び裁縫実習例の数

	東 書	教 図	開隆堂
調理実習	50	46	43
裁縫実習	25	7	9
合計	75	53	52

# 英 語

学習指導要領（外国語）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～7  
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8～20  
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21～22

発行者の 番号・略号	書 名	著 者 者	資料中 の表記
2 東 書	NEW HORIZON English Course	笠島 準一 関 典明 小串 雅則 阿野 幸一 ほか 128 名	東 書
9 開隆堂	SUNSHINE ENGLISH COURSE	卯城 祐司 ほか 53 名	開隆堂
15 三省堂	NEW CROWN English Series	根岸 雅史 ほか 39 名	三省堂
17 教 出	ONE WORLD English Course	本多 敏幸 金森 強 ほか 22 名	教 出
38 光 村	Here We GO! ENGLISH COURSE	太田 洋 ほか 41 名	光 村
61 啓林館	BLUE SKY English Course	狩野 晶子 田尻 悟郎 ほか 68 名	啓林館





## 第2章 各教科

### 第9節 外国語

#### 第1 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

#### 第2 各言語の目標及び内容等

##### 英語

#### 1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。

#### (1) 聞くこと

- ア はっきりと話されれば、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ることができるようにする。
- イ はっきりと話されれば、日常的な話題について、話の概要を捉えることができるようにする。
- ウ はっきりと話されれば、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるようにする。

#### (2) 読むこと

- ア 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。
- イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。
- ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。

#### (3) 話すこと〔やり取り〕

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。
- イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、

その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。

(4) 話すこと [発表]

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。
- イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。

(5) 書くこと

- ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。
- イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。
- ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

2 内容

[知識及び技能]

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2の2の(1)及び次に示す言語材料のうち、1に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

ア 音声

次に示す事項について取り扱うこと。

- (ア) 現代の標準的な発音
- (イ) 語と語の連結による音の変化
- (ウ) 語や句、文における基本的な強勢
- (エ) 文における基本的なイントネーション
- (オ) 文における基本的な区切り

イ 符号

感嘆符、引用符などの符号

ウ 語、連語及び慣用表現

- (ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、小学校で学習した語に1600～1800語程度の新語を加えた語
- (イ) 連語のうち、活用頻度の高いもの
- (ウ) 慣用表現のうち、活用頻度の高いもの

エ 文、文構造及び文法事項

小学校学習指導要領第2章第10節外国語第2の2の(1)のエ及び次に示す事項について、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。

(ア) 文

- a 重文、複文
- b 疑問文のうち、助動詞(may、will など)で始まるものやorを含むもの、疑問詞(which、whose)で始まるもの
- c 感嘆文のうち基本的なもの

(イ) 文構造

- a [主語＋動詞＋補語]のうち、

主語 + be 動詞以外の動詞 +  $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$

b [主語 + 動詞 + 目的語] のうち、

(a) 主語 + 動詞 +  $\left\{ \begin{array}{l} \text{動名詞} \\ \text{to 不定詞} \\ \text{how (など) to 不定詞} \end{array} \right\}$

(b) 主語 + 動詞 +  $\left\{ \begin{array}{l} \text{that で始まる節} \\ \text{what などで始まる節} \end{array} \right\}$

c [主語 + 動詞 + 間接目的語 + 直接目的語] のうち、

(a) 主語 + 動詞 + 間接目的語 +  $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{代名詞} \end{array} \right\}$

(b) 主語 + 動詞 + 間接目的語 + how (など) to 不定詞

(c) 主語 + 動詞 + 間接目的語 +  $\left\{ \begin{array}{l} \text{that で始まる節} \\ \text{what などで始まる節} \end{array} \right\}$

d [主語 + 動詞 + 目的語 + 補語] のうち、

(a) 主語 + 動詞 + 目的語 +  $\left\{ \begin{array}{l} \text{名詞} \\ \text{形容詞} \end{array} \right\}$

(b) 主語 + 動詞 + 目的語 + 原形不定詞

e その他

(a) There + be 動詞 + ~

(b) It + be 動詞 + ~ (+ for ~) + to 不定詞

(c) 主語 + tell、want など + 目的語 + to 不定詞

(d) 主語 + be 動詞 + 形容詞 + that で始まる節

(ウ) 文法事項

a 代名詞

(a) 人称や指示、疑問、数量を表すもの

(b) 関係代名詞のうち、主格のthat、which、who、目的格のthat、whichの制限的用法

b 接続詞

c 助動詞

d 前置詞

e 動詞の時制及び相など

現在形や過去形、現在進行形、過去進行形、現在完了形、現在完了進行形、助動詞などを用いた未来表現

f 形容詞や副詞を用いた比較表現

g to 不定詞

h 動名詞

i 現在分詞や過去分詞の形容詞としての用法

j 受け身

k 仮定法のうち基本的なもの

[思考力、判断力、表現力等]

(2) 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項

具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えること。

イ 日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を、選択したり抽出したりするなどして活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現すること。

ウ 日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと。

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。

ア 小学校学習指導要領第2章第10節外国語の第2の2の(3)に示す言語活動のうち、小学校における学習内容の定着を図るために必要なもの。

イ 聞くこと

(ア) 日常的な話題について、自然な口調で話される英語を聞いて、話し手の意向を正確に把握する活動。

(イ) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから、自分が必要とする情報を聞き取る活動。

(ウ) 友達からの招待など、身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて、その内容を把握し、適切に応答する活動。

(エ) 友達や家族、学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて、概要や要点を把握する活動。また、その内容を英語で説明する活動。

ウ 読むこと

(ア) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり、その内容を表現するよう音読したりする活動。

(イ) 日常的な話題について、簡単な表現が用いられている広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから、自分が必要とする情報を読み取る活動。

(ウ) 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。

(エ) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。また、その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。

エ 話すこと [やり取り]

(ア) 関心のある事柄について、相手からの質問に対し、その場で適切に応答したり、関連する質問をしたりして、互いに会話を継続する活動。

(イ) 日常的な話題について、伝えようとする内容を整理し、自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。

(ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、読み取ったことや感じたこと、考えたことなどを伝えた上で、相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。

オ 話すこと [発表]

- (ア) 関心のある事柄について、その場で考えを整理して口頭で説明する活動。
- (イ) 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどをまとめ、簡単なスピーチをする活動。
- (ウ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり、自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。

#### カ 書くこと

- (ア) 趣味や好き嫌いなど、自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。
- (イ) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。
- (ウ) 日常的な話題について、簡単な語句や文を用いて、出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。
- (エ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき、自分の考えや気持ち、その理由などを書く活動。

### ② 言語の働きに関する事項

言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。

#### ア 言語の使用場面の例

- (ア) 生徒の身近な暮らしに関わる場面
  - ・ 家庭での生活 ・ 学校での学習や活動
  - ・ 地域の行事 など
- (イ) 特有の表現がよく使われる場面
  - ・ 自己紹介 ・ 買物 ・ 食事
  - ・ 道案内 ・ 旅行 ・ 電話での対応
  - ・ 手紙や電子メールのやり取り など

#### イ 言語の働きの例

- (ア) コミュニケーションを円滑にする
  - ・ 話し掛ける ・ 相づちを打つ ・ 聞き直す
  - ・ 繰り返す など
- (イ) 気持ちを伝える
  - ・ 礼を言う ・ 苦情を言う ・ 褒める
  - ・ 謝る ・ 歓迎する など
- (ウ) 事実・情報を伝える
  - ・ 説明する ・ 報告する ・ 発表する
  - ・ 描写する など
- (エ) 考えや意図を伝える
  - ・ 申し出る ・ 約束する ・ 意見を言う
  - ・ 賛成する ・ 反対する ・ 承諾する
  - ・ 断る ・ 仮定する など
- (オ) 相手の行動を促す
  - ・ 質問する ・ 依頼する ・ 招待する
  - ・ 命令する など

### 3 指導計画の作成と内容の取扱い

(1) 指導計画の作成に当たっては、小学校や高等学校における指導との接続に留意しながら、次の事項に配慮するものとする。

ア 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、具体的な課題等

を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

- イ 学年ごとの目標を適切に定め、3 学年間を通じて外国語科の目標の実現を図るようにすること。
  - ウ 実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの言語活動を行う際は、2の(1)に示す言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うこと。また、小学校第3 学年から第6 学年までに扱った簡単な語句や基本的な表現などの学習内容を繰り返し指導し定着を図ること。
  - エ 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。
  - オ 言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や理科、音楽科など、他の教科等で学習したことを活用したり、学校行事で扱う内容と関連付けたりするなどの工夫をすること。
  - カ 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
  - キ 指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫を行うこと。
- (2) 2の内容に示す事項については、次の事項に配慮するものとする。
- ア 2の(1)に示す言語材料については、平易なものから難しいものへと段階的に指導すること。また、生徒の発達の段階に応じて、聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項と、話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項とがあることに留意すること。
  - イ 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して2の(1)のアに示す言語材料を継続して指導するとともに、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。また、発音と綴りとを関連付けて指導すること。
  - ウ 文字指導に当たっては、生徒の学習負担にも配慮しながら筆記体を指導することもできることに留意すること。
  - エ 文法事項の指導に当たっては、次の事項に留意すること。
    - (ア) 英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとめて整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫すること。
    - (イ) 文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、コミュニケーションの目的を達成する上での必要性や有用性を実感させた上でその知識を活用させたり、繰り返し使用することで当該文法事項の規則性や構造などについて気付きを促したりするなど、言語活動と効果的に関連付けて指導すること。
    - (ウ) 用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し、実際に活用できるようにするとともに、語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること。
  - オ 辞書の使い方に慣れ、活用できるようにすること。
  - カ 身近な事柄について、友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫すること。その際、他者とコミュニケーションを行うことに課題がある生徒については、個々の生徒の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫すること。

キ 生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

ク 各単元や各時間の指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより、生徒が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

(3) 教材については、次の事項に留意するものとする。

ア 教材は、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を総合的に育成するため、1に示す五つの領域別の目標と2に示す内容との関係について、単元など内容や時間のまとまりごとに各教材の中で明確に示すとともに、実際の言語の使用場面や言語の働きに十分配慮した題材を取り上げること。

イ 英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるものとし、次の観点に配慮すること。

(ア) 多様な考え方に対する理解を深めさせ、公正な判断力を養い豊かな心情を育てるのに役立つこと。

(イ) 我が国の文化や、英語の背景にある文化に対する関心を高め、理解を深めようとする態度を養うのに役立つこと。

(ウ) 広い視野から国際理解を深め、国際社会と向き合うことが求められている我が国の一員としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

その他の外国語

その他の外国語については、英語の1に示す五つの領域別の目標、2に示す内容及び3に示す指導計画の作成と内容の取扱いに準じて指導を行うものとする。

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 外国語科においては、英語を履修させることを原則とすること。

2 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、外国語科の特質に応じて適切な指導をすること。

【資料1 英語：観点一覧】

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	外国語科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。 <input type="radio"/> 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識や、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能について <input type="radio"/> 目的や場面、状況などに応じて、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したりすることについて <input type="radio"/> 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ることについて
2 人権の 取扱い	人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。 <input type="radio"/> 人権への配慮について <input type="radio"/> 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことについて <input type="radio"/> ユニバーサルデザインに関する配慮について
3 内容の程度	生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。 <input type="radio"/> 興味・関心のある題材について <input type="radio"/> 新出言語材料（語・連語や文法事項等）の分量や提示の仕方について
4 組織・配列	目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。 <input type="radio"/> 単元構成について <input type="radio"/> 言語の使用場面や言語の働きについて
5 創意工夫	英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的、対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。 <input type="radio"/> ペア・ワーク、グループ・ワークなどの効果的なとり入れ方について <input type="radio"/> 小学校との接続を意識した内容について
6 補充的な 学習・ 発展的な 学習	学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、学んだことを実際のコミュニケーションに活用したりできるよう配慮されているか。 <input type="radio"/> 資料やコラム、活動例など



項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>外国語科の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識や、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能について</li> <li>○ 目的や場面、状況などに応じて、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したりすることについて</li> <li>○ 主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ることについて</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音声や語彙、表現、文法等についての知識が身に付く活動や、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付く内容となっている。例えば、「Unit Activity」は、コミュニケーションを図るための5領域の力をバランスよく身に付ける内容となっている。</li> <li>○ 目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について理解し、表現したり伝え合ったりする内容が取りあげられている。例えば、「Let's Talk」では、学習した表現を使って、日常的な会話のやりとりをする内容となっている。</li> <li>○ 外国の文化を理解し、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。例えば、ニュージーランドの学校生活やアメリカへのホームステイなどの題材が取りあげられている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音声や語彙、表現、文法等についての知識が身に付く活動や、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付く内容となっている。例えば、「Our Project」は、コミュニケーションを図るための5領域の力をバランスよく身に付ける内容となっている。</li> <li>○ 目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について理解し、表現したり伝え合ったりする内容が取りあげられている。例えば、「Interact」では、学習した表現を使って、日常的な会話のやりとりをする内容となっている。</li> <li>○ 外国の文化を理解し、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。例えば、カナダの自然保護やアメリカの手話などの題材が取りあげられている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音声や語彙、表現、文法等についての知識が身に付く活動や、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付く内容となっている。例えば、「Project」は、コミュニケーションを図るための5領域の力をバランスよく身に付ける内容となっている。</li> <li>○ 目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について理解し、表現したり伝え合ったりする内容が取りあげられている。例えば、「Take Action! Talk」では、学習した表現を使って、日常的な会話のやりとりをする内容となっている。</li> <li>○ 外国の文化を理解し、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。例えば、アメリカの学校生活や多言語・多文化国家のインドについてなどの題材が取りあげられている。</li> </ul>

【資料1 英語】

<p>教 出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音声や語彙、表現、文法等についての知識が身に付く知識と、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付く内容となっている。例えば、「Tips」は、コミュニケーションを図るための5領域の力をバランスよく身に付ける内容となっている。</li> <li>○ 目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について理解し、表現したり伝え合ったりする内容が取りあげられている。例えば、「Useful Expressions」では、学習した表現を使って、日常的な会話のやりとりをする内容となっている。</li> <li>○ 外国の文化を理解し、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。例えば、オーストラリアの学校生活やカナダへのホームステイなどの題材が取りあげられている。</li> </ul>
<p>光 村</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音声や語彙、表現、文法等についての知識が身に付く活動や、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付く内容となっている。例えば、「Daily Life」は、コミュニケーションを図るための5領域の力をバランスよく身に付ける内容となっている。</li> <li>○ 目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について理解し、表現したり伝え合ったりする内容が取りあげられている。例えば、「Speak」では、学習した表現を使って、日常的な会話のやりとりをする内容となっている。</li> <li>○ 外国の文化を理解し、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。例えば、オーストラリアの名所や特色、ニューヨークへの観光などの題材が取りあげられている。</li> </ul>
<p>啓林館</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 音声や語彙、表現、文法等についての知識が身に付く活動や、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付く内容となっている。例えば、「Project」は、コミュニケーションを図るための5領域の力をバランスよく身に付ける内容となっている。</li> <li>○ 目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会問題について理解し、表現したり伝え合ったりする内容が取りあげられている。例えば、「Let's Talk」では、学習した表現を使って、日常的な会話のやりとりをする内容となっている。</li> <li>○ 外国の文化を理解し、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図る内容が取りあげられている。例えば、アメリカの学校生活や、世界のさまざまな食文化などの題材を通して、その国の文化を理解し、コミュニケーションを図る内容が取りあげられている。</li> </ul>

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことについて</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。</li> <li>○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるように配慮されている。例えば、世界の食文化や災害時における外国の人々への支援の題材等が取り扱われている。</li> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての生徒に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、1年生では4線ノートの幅や線種、基線の色使いなどが工夫されており、英字のフォントや文字の大きさにおいても学年に合わせ、配慮されている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。</li> <li>○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるように配慮されている。例えば、世界の通学路やフェアトレードの題材等が取り扱われている。</li> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての生徒に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、1年生では4線ノートの幅や線種、基線の色使いなどが工夫されており、英字のフォントや文字の大きさにおいても学年に合わせ、配慮されている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。</li> <li>○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるように配慮されている。例えば、アメリカの学校生活や外国人が日本で体験したいことの題材等が取り扱われている。</li> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての生徒に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、1年生では4線ノートの幅や線種、基線の色使いなどが工夫されており、英字のフォントや文字の大きさにおいても学年に合わせ、配慮されている。</li> </ul>

【資料1 英語】

<p>教 出</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。</li> <li>○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるように配慮されている。例えば、オーストラリアの学校生活や標識、ピクトグラムの題材等が取り扱われている。</li> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての生徒に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、1年生では4線ノートの幅や線種、基線の色使いなどが工夫されており、英字のフォントや文字の大きさにおいても学年に合わせ、配慮されている。</li> </ul>
<p>光 村</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。</li> <li>○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるように配慮されている。例えば、世界の様々な国の学校生活やプラスチックごみを減らす取組みの題材等が取り扱われている。</li> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての生徒に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、1年生では4線ノートの幅や線種、基線の色使いなどが工夫されており、英字のフォントや文字の大きさにおいても学年に合わせ、配慮されている。</li> </ul>
<p>啓林館</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材内容や文章、写真、挿絵、図、資料などが、人権尊重の観点から配慮されている。</li> <li>○ 国際理解を深め、国際協調の精神を養うことができるように配慮されている。例えば、海外旅行での体験や海外で働く日本人の題材等が取り扱われている。</li> <li>○ 文章、写真、挿絵、図、資料などが、すべての生徒に見やすく、使いやすいよう取り扱われている。例えば、1年生では4線ノートの幅や線種、基線の色使いなどが工夫されており、英字のフォントや文字の大きさにおいても学年に合わせ、配慮されている。</li> </ul>

項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 興味・関心のある題材について</li> <li>○ 新出言語材料（語・連語や文法事項等）の分量や提示の仕方について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に即して、各学年において身近な場面から社会的な場面へと興味・関心をもって学習を進められるよう配慮されている。例えば、1年では、自己紹介、部活動、日本に暮らす外国人アーティスト、国際支援についての題材が、2年では、食文化、ホームステイ、ユニバーサルデザイン、世界遺産についての題材が、3年では、障がい者スポーツ、絶滅危惧動物、原爆、災害時における外国の人々への支援についての題材等が取り扱われている。</li> <li>○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、生徒の発達段階を考慮している。例えば、新出の文法事項は、「Preview」のイラスト等から気づきを促すようになっており、「Key Sentence」や「Grammar for Communication」でまとめられている。また、自己表現に役立つ語句等は「Tool Box」としてまとめられている。</li> </ul>
開隆堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に即して、各学年において身近な場面から社会的な場面へと興味・関心をもって学習を進められるよう配慮されている。例えば、1年生では、自己紹介、日本文化、子ども安全パトロール、フィンランドについての題材が、2年生では、カナダの自然保護、屋台料理、海外で人気の日本文化、原爆についての題材が、3年生では、手話、チョコレートの歴史やフェアトレード、プラスチックゴミの問題、AIについての題材等が取り扱われている。</li> <li>○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、生徒の発達段階を考慮している。例えば、新出の文法事項は、「Scenes」のマンガ等から気づきを促すようになっており、「英語のしくみ」でまとめられている。また、自己表現に役立つ語句等は「Word Box」「Expression Box」としてまとめられている。</li> </ul>
三省堂	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の発達段階に即して、各学年において身近な場面から社会的な場面へと興味・関心をもって学習を進められるよう配慮されている。例えば、1年では、自己紹介、日本の伝統文化、車いすバスケットボール、環境保護についての題材を、2年では、イギリス文学、オーストラリアの文化、異文化体験、中国の文化についての題材を、3年生では、インドの言語と文化、原爆、日本の漫画とアニメ、アメリカの公民権運動についての題材等が取り扱われている。</li> <li>○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、生徒の発達段階を考慮している。例えば、新出の文法事項は、「とびら」の写真等から気づきを促すようになっており、「Point」や「文法のまとめ」でまとめられている。また、自己表現に役立つ語句等は「Word Bank」としてまとめられている。</li> </ul>

【資料1 英語】

<p>教 出</p>	<p>○ 生徒の発達段階に即して、各学年において身近な場面から社会的な場面へと興味・関心をもって学習を進められるよう配慮されている。例えば、1年では、自己紹介、オーストラリアの学校生活、標識やピクトグラム、プラスチックゴミの問題についての題材、2年では、介助犬、エネルギー問題、デザインの役割、ジェスチャーと手話についての題材を、3年生では、カナダの文化、自然保護、原爆、食品ロスについての題材等が取り扱われている。</p> <p>○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、生徒の発達段階を考慮している。新出の文法事項は、単元の最初の写真のページから気づきを促すようになっており、「Key Sentence」や「Grammar」でまとめられている。また、自己表現に役立つ語句等は「Tool Kit」としてまとめられている。</p>
<p>光 村</p>	<p>○ 生徒の発達段階に即して、各学年において身近な場面から社会的な場面へと興味・関心をもって学習を進められるよう配慮されている。例えば、1年生では、自己紹介、部活動、学校紹介、日本のお正月についての題材を、2年生では、日記、好きなスポーツ、防災訓練、オーストラリアの名所や特色についての題材を、3年生では、世界の学校生活、修学旅行、原爆、A Iと言語についての題材等が取り扱われている。</p> <p>○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、生徒の発達段階を考慮している。新出の文法事項は、「扉」の写真等から気づきを促すようになっており、「基本文」や「Active Grammar」でまとめられている。また、自己表現に役立つ語句等は「Word Board」としてまとめられている。</p>
<p>啓林館</p>	<p>○ 生徒の発達段階に即して、各学年において身近な場面から社会的な場面へと興味・関心をもって学習を進められるよう配慮されている。例えば、1年生では、自己紹介、アメリカの学校、冬休みの思い出、日本のマンガ文化についての題材を、2年生では、災害への備え、将来の夢、動物の生態、海外で働く日本人についての題材を、3年生では、食文化、動物と共に生きる、原爆、地域の活性化についての題材等が取り扱われている。</p> <p>○ 新出言語材料の分量や提示の仕方について、生徒の発達段階を考慮している。新出の文法事項は、「扉」の写真等から気づきを促すようになっており、「Target」や「Target のまとめ」でまとめられている。また、自己表現に使える語句等は「Tool Box」としてまとめられている。</p>

項目	観 点
4 組織・配列	<p>目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 単元構成について</li> <li>○ 言語の使用場面や言語の働きについて</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が見通しをもって学習が進められるよう構成されている。1年は、「扉」「Preview」「Story」「Mini Activity」「Unit Activity」、2、3年は、「扉」「Preview」「Scene」「Read &amp; Think」「Unit Activity」の順に構成されており、各単元で学ぶ表現はどんな目的や場面で使用するのか見通しを持たせた上で、知識を習得し、学んだことを活用しながら言語活動に取り組む内容となっている。</li> <li>○ 言語の使用場面は、生徒の身近な暮らしに関わる場面が多く設定されている。例えば、自己紹介、道案内、友達紹介、電話、天気予報、食事の注文、メールを送る、ラジオの災害情報を聞く、選挙権について考えるなどが設定されている。言語の働きは、説明する、発表する、意見を言う、質問するなどが取り扱われている。</li> </ul>
開隆堂	<p>目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が見通しをもって学習が進められるよう構成されている。「とびら」「Scenes」「Think」「Retell」「Interact」の順に構成されており、各単元で学ぶ表現はどんな目的や場面で使用するのか見通しを持たせた上で、知識を習得し、学んだことを活用しながら言語活動に取り組む内容となっている。</li> <li>○ 言語の使用場面は、生徒の身近な暮らしに関わる場面が多く設定されている。例えば、自己紹介、道案内、他人紹介、電話、天気予報、食事の注文、メールを送る、ホームページの作成、海のプラスチックごみについてなどが設定されている。言語の働きは、説明する、発表する、意見を言う、質問するなどが取り扱われている。</li> </ul>
三省堂	<p>目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒が見通しをもって学習が進められるよう構成されている。「とびら」「GET」「USE」「Take Action!」の順に構成されており、各単元で学ぶ表現はどんな目的や場面で使用するのか見通しを持たせた上で、知識を習得し、学んだことを活用しながら言語活動に取り組む内容となっている。</li> <li>○ 言語の使用場面は、生徒の身近な暮らしに関わる場面が多く設定されている。例えば、自己紹介、道案内、他人紹介、電話、天気予報、食事の注文、卒業スピーチ、レシピを読む、インドの多言語・多文化社会についてなどが設定されている。言語の働きは、説明する、発表する、意見を言う、質問するなどが取り扱われている。</li> </ul>

【資料1 英語】

<p>教 出</p>	<p>目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <p>○ 生徒が見通しをもって学習が進められるよう構成されている。単元のはじめの写真のページ、「Part」「Review」「Task」「Grammar」の順に構成されており、各単元で学ぶ表現はどんな目的や場面で使用するのか見通しを持たせた上で、知識を習得し、学んだことを活用しながら言語活動に取り組む内容となっている。</p> <p>○ 言語の使用場面は、生徒の身近な暮らしに関わる場面が多く設定されている。例えば、自己紹介、道案内、他人紹介、食事の注文、電話、ハロウィーン、卒業後の進路、働くこと、盲導犬や聴導犬についてなどが設定されている。言語の働きは、説明する、発表する、意見を言う、質問するなどが取り扱われている。</p>
<p>光 村</p>	<p>目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <p>○ 生徒が見通しをもって学習が進められるよう構成されている。「扉」「Part」「Goal」の順に構成されており、各単元で学ぶ表現はどんな目的や場面で使用するのか見通しを持たせた上で、知識を習得し、学んだことを活用しながら言語活動に取り組む内容となっている。</p> <p>○ 言語の使用場面は、生徒の身近な暮らしに関わる場面が多く設定されている。例えば、自己紹介、道案内、他人紹介、電話、食事の注文、メールを送る、手紙の作成、観光案内、海のプラスチックごみについてなどが設定されている。言語の働きは、説明する、発表する、意見を言う、質問するなどが取り扱われている。</p>
<p>啓林館</p>	<p>目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されている。</p> <p>○ 生徒が見通しをもって学習が進められるよう構成されている。「とびら」「Part」「Read &amp; Think」「Express Yourself」の順に構成されており、各単元で学ぶ表現はどんな目的や場面で使用するのか見通しを持たせた上で、知識を習得し、学んだことを活用しながら言語活動に取り組む内容となっている。</p> <p>○ 言語の使用場面は、生徒の身近な暮らしに関わる場面が多く設定されている。例えば、自己紹介、道案内、他人紹介、電話、天気予報、食事の注文、メール、ホームページの作成、災害への備えについてなどが設定されている。言語の働きは、説明する、発表する、意見を言う、質問するなどが取り扱われている。</p>



項目	観 点
5 創意工夫	<p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的、対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ペア・ワーク、グループ・ワークなどの効果的なたり入れ方について</li> <li>○ 小学校との接続を意識した内容について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的、対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「Speak&amp;Write」「Unit Activity」などにおいて、ペアやグループでの会話や発表活動が設定されており、各学年3つの「Stage Activity」においても、5領域を統合的に扱いながら、生徒どうしの学び合いを促すように工夫されている。</li> <li>○ 1年冒頭の「Unit 0」などで、小学校で学んだ英語表現を復習できるようになっている。1年の複数単元では、小学校で学んだ表現を文法として学んだり、活用したりする場面が設定されている。また、小学校でふれた単語が使用されている場合は、当該ページの下にその旨が記載されている。巻末では、小学校でふれた単語が区別されて提示されている。</li> </ul>
開隆堂	<p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的、対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「Interact」などで、ペアやグループでの会話や発表活動が設定されており、各学年3つの「Our Project」においても、5領域を統合的に扱いながら、生徒どうしの学び合いを促すように工夫されている。</li> <li>○ 1年冒頭の「Get Ready」などで、小学校で学んだ英語表現を復習できるようになっている。1年の複数単元では、小学校で学んだ表現を文法として学んだり、活用したりする場面が設定されている。巻末では、小学校でふれた単語が区別されて提示されている。</li> </ul>
三省堂	<p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的、対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「Talk」「Talk Action」などで、ペアやグループでの会話や発表活動が設定されており、各学年3つの「Project」においても、5領域を統合的に扱いながら、生徒どうしの学び合いを促すように工夫されている。</li> <li>○ 1年冒頭の「Starter」などで、小学校で学んだ英語表現を復習できるようになっている。1年の複数単元では、小学校で学んだ表現を文法として学んだり、活用したりする場面が設定されている。また、小学校でふれた単語が使用されている場合は、当該ページの下にその旨が記載されている。巻末では、小学校でふれた単語が区別されて提示されている。</li> </ul>

【資料1 英語】

<p>教 出</p>	<p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的、対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「Think &amp; Try!」などで、ペアやグループでの会話や発表活動が設定されており、各学年2～3つの「Project」においても、5領域を統合的に扱いながら、生徒どうしの学び合いを促すように工夫されている。</li> <li>○ 1年冒頭の「Springboard」などで、小学校で学んだ英語表現を復習できるようになっている。1年の複数単元では、小学校で学んだ表現を文法として学んだり、活用したりする場面が設定されている。巻末では、小学校でふれた単語が区別されて提示されている。</li> </ul>
<p>光 村</p>	<p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的、対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「Speak」「Goal」などで、ペアやグループでの会話や発表活動が設定されており、各学年3つの「You Can Do It!」においても、5領域を統合的に扱いながら、生徒どうしの学び合いを促すように工夫されている。</li> <li>○ 1年冒頭の「Let's Be Friends!」などで、小学校で学んだ英語表現を復習できるようになっている。1年の複数単元では、小学校で学んだ表現を文法として学んだり、活用したりする場面が設定されている。巻末では、小学校でふれた単語が区別されて提示されている。</li> </ul>
<p>啓林館</p>	<p>英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、主体的、対話的で深い学びが実現するよう工夫されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「Use」「Let's Talk」などで、ペアやグループでの会話や発表活動が設定されており、各学年2～3つの「Project」においても、5領域を統合的に扱いながら、生徒どうしの学び合いを促すように工夫されている。</li> <li>○ 1年冒頭の「Let's Start」などで、小学校で学んだ英語表現を復習できるようになっている。1年の複数単元では、小学校で学んだ表現を文法として学んだり、活用したりする場面が設定されている。</li> </ul>

項目	観 点
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>学習した内容を確実に習得できるよう補充したり、学んだことを実際のコミュニケーションに活用したりできるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラム、活動例など</p>

発行者	事 項
東 書	<p>○ 「Tool Box」が設けられ、生徒の表現活動に使える語彙や表現が豊富に示されている。また、巻末の「Word Room」には、さらに多くの語彙や表現が示され、生徒が必要に応じて使えるよう配慮されている。</p> <p>「学び方コーナー」「Grammar For Communication」が設けられ、語彙や表現、文法について解説されている。</p> <p>「Optional Reading」「名作鑑賞」においてある程度まとまった文章の読解ができ、学習したことを活用してさらに発展的に読解に取り組むことができるようになっている。</p> <p>なお、「二次元コード」のあるページでは、本文や単語の音声などを確認することができ、自学自習などに役立てられるよう配慮されている。</p>
開隆堂	<p>○ 「Word Box」「Expression Box」「Word Web」が設けられ、生徒の表現活動に使える語彙や表現が豊富に示されている。また、巻末の「アクションカード」には、さらに多くの語彙や表現が示され、生徒が必要に応じて使えるよう配慮されている。</p> <p>「Steps」「英語のしくみ」が設けられ、語彙や表現、文法について解説されている。</p> <p>2、3年では、「Reading」においてある程度まとまった文章の読解ができ、学習したことを活用してさらに発展的に読解に取り組むことができるようになっている。</p> <p>なお、「二次元コード」のあるページでは、本文や単語の音声などを確認することができ、自学自習などに役立てられるよう配慮されている。</p>
三省堂	<p>○ 「Word Bank」「Idea Box」が設けられ、生徒の表現活動に使える語彙や表現が豊富に示されている。また、付録の「いろいろな単語」には、さらに多くの語彙や表現が示され、生徒が必要に応じて使えるよう配慮されている。</p> <p>「文法のまとめ」「For Self-study」が設けられ、語彙や表現、文法について解説されている。</p> <p>付録の「Further Reading」「Reading for Fun」においてある程度まとまった文章の読解や様々な形式の文章を読むことができ、学習したことを活用してさらに発展的に読解に取り組むことができるようになっている。</p> <p>なお、「二次元コード」のあるページでは、本文や単語の音声などを確認することができ、自学自習などに役立てられるよう配慮されている。</p>

【資料1 英語】

<p>教 出</p>	<p>○ 「Tool Kit」「And More Words」が設けられ、生徒の表現活動に使える語彙や表現が豊富に示されている。また、巻末の「Activities Plus」には、さらに多くの語彙や表現が示され、生徒が必要に応じて使えるよう配慮されている。</p> <p>「Grammar」「Tips」が設けられ、語彙や表現、文法について解説されている。</p> <p>「Further Reading」においてある程度まとまった文章の読解ができ、学習したことを活用してさらに発展的に読解に取り組むことができるようになっている。</p> <p>なお、「二次元コード」のあるページでは、本文や単語の音声などを確認することができ、自学自習などに役立てられるよう配慮されている。</p>
<p>光 村</p>	<p>○ 「Word Board」が設けられ、生徒の表現活動に使える語彙や表現が豊富に示されている。また、巻末の「Active Words」には、さらに多くの語彙や表現が示され、生徒が必要に応じて使えるよう配慮されている</p> <p>「Active Grammar」や「Your Coach」が設けられ、語彙や表現、文法、学習方法について解説されている。</p> <p>「Let's Read more」においてある程度まとまった文章の読解ができ、学習したことを活用してさらに発展的に読解に取り組むことができるようになっている。</p> <p>なお、「二次元コード」のあるページでは、本文や単語の音声などを確認することができ、自学自習などに役立てられるよう配慮されている。</p>
<p>啓林館</p>	<p>○ 「Tool Box」が設けられ、生徒の表現活動に使える語彙や表現が豊富に示されている。また、巻末の「Word Box」には、さらに多くの語彙や表現が示され、生徒が必要に応じて使えるよう配慮されている。</p> <p>「Target のまとめ」「付録」が設けられ、語彙や表現、文法、学習方法について解説されている。</p> <p>「Let's Read」においてある程度まとまった文章の読解ができ、学習したことを活用してさらに発展的に読解に取り組むことができるようになっている。</p> <p>なお、「二次元コード」のあるページでは、本文や単語の音声などを確認することができ、自学自習などに役立てられるよう配慮されている。</p>

## ○ 教科書の総ページ数

	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1年	174	172	186	176	190	158
2年	166	172	178	178	190	166
3年	162	164	186	178	190	150
合計	502	508	550	532	570	474

## ○ 4技能5領域を扱っている箇所数

		東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1年	聞くこと	30	48	58	39	53	34
	読むこと	40	33	32	37	38	39
	話すこと (やりとり)	49	49	38	24	39	50
	話すこと (発表)	22	14	32	29	13	24
	書くこと	49	37	33	13	36	35
	合計	190	181	193	142	179	182
2年	聞くこと	23	38	44	39	44	37
	読むこと	55	30	37	48	43	34
	話すこと (やりとり)	30	46	25	19	35	35
	話すこと (発表)	36	16	30	38	15	46
	書くこと	56	39	31	17	30	35
	合計	200	169	167	161	167	187
3年	聞くこと	24	34	39	22	37	27
	読むこと	44	30	41	38	38	30
	話すこと (やりとり)	22	29	24	11	31	30
	話すこと (発表)	38	25	26	28	15	33
	書くこと	49	34	26	13	25	29
	合計	177	152	156	112	146	149

【資料2 英語】

○ 各学年の課（大単元）数

	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1年	11	10	8	9	8	10
2年	7	8	7	9	8	8
3年	6	7	7	7	8	6
合計	24	25	22	25	24	24

○ 各学年で取り扱っている語彙数

	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1年	879	1140	1068	1178	1034	994
2年	602	691	765	518	607	637
3年	687	657	726	712	675	615
合計	2168	2488	2559	2408	2316	2246

○ 会話表現を取り扱っているページ数

	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1年	50	37	23	28	27	33
2年	11	26	32	24	23	33
3年	10	18	21	16	13	18
合計	71	81	76	68	63	84

○ 自分の考えを表現する活動を取り扱っているページ数

	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1年	12	25	16	10	19	9
2年	16	23	21	15	22	14
3年	15	20	23	11	20	14
合計	43	68	60	36	61	37

# 道 徳

学習指導要領（特別の教科 道徳）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～3  
 資料 1・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4～13  
 資料 2・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14～15

発行者の 番号・略号	書 名	著 者 者	資料中 の表記
2 東 書	新しい道徳	渡邊 満 押谷 由夫 ほか62名	東 書
17 教 出	中学道徳	林 泰成 柳沼 良太 ほか23名	教 出
38 光 村	中学道徳	杉中 康平 田沼 茂紀 ほか24名	光 村
116 日 文	中学道徳／道徳ノート	越智 貢 島 恒生 吉澤 良保 ほか35名	日 文
224 学 研	新・中学生の道徳	永田 繁雄 ほか33名	学 研
232 廣あかつき	中学生の道徳／中学生の道徳ノート	横山 利弘 七條 正典 柴原 弘志 ほか18名	廣あかつき
233 日 科	道徳 中学	白木 みどり ほか21名	日 科





## 第3章 特別の教科 道徳

### 第1 目 標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

### 第2 内 容

学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要である道徳科においては、以下に示す項目について扱う。

#### A 主として自分自身に関すること

[自主、自律、自由と責任]

自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。

[節度、節制]

望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。

[向上心、個性の伸長]

自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求すること。

[希望と勇気、克己と強い意志]

より高い目標を設定し、その達成を目指し、希望と勇気を持ち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること。

[真理の探究、創造]

真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。

#### B 主として人との関わりに関すること

[思いやり、感謝]

思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。

[礼儀]

礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること。

[友情、信頼]

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。

[相互理解、寛容]

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。

#### C 主として集団や社会との関わりに関すること

[遵法精神、公德心]

法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

[公正、公平、社会正義]

正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める

こと。

[社会参画、公共の精神]

社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。

[勤労]

勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献すること。

[家族愛、家庭生活の充実]

父母、祖父母を敬愛し、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築くこと。

[よりよい学校生活、集団生活の充実]

教師や学校の人々を敬愛し、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努めること。

[郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度]

郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。

[我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度]

優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するとともに、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家及び社会の形成者として、その発展に努めること。

[国際理解、国際貢献]

世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。

#### D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

[生命の尊さ]

生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。

[自然愛護]

自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。

[感動、畏敬の念]

美しいものや気高いものに感動する心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深めること。

[よりよく生きる喜び]

人間には自らの弱さや醜さを克服する強さや気高く生きようとする心があることを理解し、人間として生きることの喜びを見いだすこと。

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 1 各学校においては、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、道徳科の年間指導計画を作成するものとする。なお、作成に当たっては、第2に示す内容項目について、各学年において全て取り上げることとする。その際、生徒や学校の実態に応じ、3学年間を見通した重点的な指導や内容項目間の関連を密にした指導、一つの内容項目を複数の時間で扱う指導を取り入れるなどの工夫を行うものとする。
- 2 第2の内容の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
  - (1) 学級担任の教師が行うことを原則とするが、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実すること。
  - (2) 道徳科が学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の要としての役割を果たすことができ

るよう、計画的・発展的な指導を行うこと。特に、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育としては取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うことや、生徒や学校の実態等を踏まえて指導をより一層深めること、内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意すること。

- (3) 生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫すること。その際、道徳性を養うことの意義について、生徒自らが考え、理解し、主体的に学習に取り組むことができるようにすること。また、発達の段階を考慮し、人間としての弱さを認めながら、それを乗り越えてよりよく生きようとする事のよさについて、教師が生徒と共に考える姿勢を大切にすること。
- (4) 生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実すること。その際、様々な価値観について多面的・多角的な視点から振り返って考える機会を設けるとともに、生徒が多様な見方や考え方に接しながら、更に新しい見方や考え方を生み出していくことができるよう留意すること。
- (5) 生徒の発達の段階や特性等を考慮し、指導のねらいに即して、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなど、指導方法を工夫すること。その際、それらの活動を通じて学んだ内容の意義などについて考えることができるようにすること。また、特別活動等における多様な実践活動や体験活動も道徳科の授業に生かすようにすること。
- (6) 生徒の発達の段階や特性等を考慮し、第2に示す内容との関連を踏まえつつ、情報モラルに関する指導を充実すること。また、例えば、科学技術の発展と生命倫理との関係や社会の持続可能な発展などの現代的な課題の取扱いにも留意し、身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育てるよう努めること。なお、多様な見方や考え方のできる事柄について、特定の見方や考え方に偏った指導を行うことのないようにすること。
- (7) 道徳科の授業を公開したり、授業の実施や地域教材の開発や活用などに家庭や地域の人々、各分野の専門家等の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。

### 3 教材については、次の事項に留意するものとする。

- (1) 生徒の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用を努めること。特に、生命の尊厳、社会参画、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、生徒が問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うこと。
- (2) 教材については、教育基本法や学校教育法その他の法令に従い、次の観点に照らし適切と判断されるものであること。
  - ア 生徒の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること。
  - イ 人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、生徒が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること。
  - ウ 多様な見方や考え方のできる事柄を取り扱う場合には、特定の見方や考え方に偏った取扱いがなされていないものであること。

### 4 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

【資料1 道徳：観点一覧】

項目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>道徳教育の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めることについて</li> <li>○ 悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、生徒が深く考えることについて</li> </ul>
2 人権の 取扱い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ 情報モラルについて</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導のねらいとの関連について</li> <li>○ 身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育むことについて</li> </ul>
4 組織・配列	<p>目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。</p>
5 創意工夫	<p>多面的・多角的に考え、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることについて</li> <li>○ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等について</li> </ul>
6 補充的な 学習・ 発展的な 学習	<p>様々な価値観について、多面的・多角的な視点から振り返って考えたり、多様な見方や考え方に接しながら、更に新しい見方や考え方を生み出したりして、よりよく生きる喜びを見いだせるよう配慮されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 資料やコラムなど</li> </ul>

項 目	観 点
1 目標・内容 の取扱い	<p>道徳教育の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めることについて</li> <li>○ 悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、生徒が深く考えられることについて</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>道徳教育の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の冒頭に主題となるテーマが示されており、生徒が見通しを持ちながら考えることができるよう取り扱われている。また、教材の後の「考えよう」「自分を見つめよう」では、生徒が考え、話し合うための視点が参考として示され、考えを深めることができるよう取り扱われている。</li> <li>○ 学校生活における具体的な事柄や、悩みや葛藤を描いた教材、様々な分野で活躍する著名人やスポーツ選手等を取りあげた教材を通して、生徒が深く考えることができるよう取り扱われている。</li> </ul>
教 出	<p>道徳教育の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の冒頭に導入の問いかけが示されており、生徒が見通しを持ちながら考えることができるよう取り扱われている。また、教材の後の「学びの道しるべ」では、生徒が考え、話し合うための視点が参考として示され、考えを深めることができるよう取り扱われている。</li> <li>○ 学校生活における具体的な事柄や、悩みや葛藤を描いた教材、様々な分野で活躍する著名人やスポーツ選手等を取りあげた教材を通して、生徒が深く考えることができるよう取り扱われている。</li> </ul>
光 村	<p>道徳教育の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の冒頭に内容項目が示されており、生徒が見通しを持ちながら考えることができるよう取り扱われている。また、教材の後の「考えよう」「見方を変えて」「つなげよう」では、生徒が考え、話し合うための視点が参考として示され、考えを深めることができるよう取り扱われている。</li> <li>○ 学校生活における具体的な事柄や、悩みや葛藤を描いた教材や、様々な分野で活躍する著名人やスポーツ選手等を取りあげた教材を通して、生徒が深く考えることができるよう取り扱われている。</li> </ul>

【資料1 道徳】

<p>日 文</p>	<p>道徳教育の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の冒頭に内容項目と主題を想起されるキーワードがあり、生徒が見通しを持ちながら考えることができるよう取り扱われている。また、教材の後の「考えてみよう」「自分にプラス1」では、生徒が考え、話し合うための視点が参考として示され、考えを深めることができるよう取り扱われている。</li> <li>○ 学校生活における具体的な事柄や、悩みや葛藤を描いた教材、様々な分野で活躍する著名人やスポーツ選手等を取りあげた教材を通して、生徒が深く考えることができるよう取り扱われている。</li> </ul>
<p>学 研</p>	<p>道徳教育の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の冒頭に導入のキーフレーズが示されており、生徒が見通しを持ちながら考えることができるよう取り扱われている。また、教材の後の「考えよう」では、生徒が考え、話し合うための視点が参考として示され、考えを深めることができるよう取り扱われている。</li> <li>○ 学校生活における具体的な事柄や、悩みや葛藤を描いた教材、様々な分野で活躍する著名人やスポーツ選手等を取りあげた教材を通して、生徒が深く考えることができるよう取り扱われている。</li> </ul>
<p>廣あかつき</p>	<p>道徳教育の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の冒頭に主題や発問を示さないことで、生徒自らの気づきや考えを促そうとすることができるよう取り扱われている。また、教材の後の「考える・話し合う」では、生徒が考え、話し合うための視点が参考として示され、考えを深めることができるよう取り扱われている。</li> <li>○ 学校生活における具体的な事柄や、悩みや葛藤を描いた教材や、様々な分野で活躍する著名人やスポーツ選手等を取りあげた教材を通して、生徒が深く考えることができるよう取り扱われている。</li> </ul>
<p>日 科</p>	<p>道徳教育の目標を達成するために、適切な内容が取りあげられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材の冒頭に主題や発問を示さないことで、生徒自らの気づきや考えを促そうとすることができるよう取り扱われている。また、教材の後の「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」では、生徒が考え、話し合うための視点が参考として示され、考えを深めることができるよう取り扱われている。</li> <li>○ 学校生活における具体的な事柄や、悩みや葛藤を描いた教材、様々な分野で活躍する著名人やスポーツ選手等を取りあげた教材を通して、生徒が深く考えることができるよう取り扱われている。</li> </ul>

項目	観 点
2 人 権 の 取 扱 い	<p>人権尊重の観点から、文章、写真、挿絵、図、資料などが適切に取り扱われているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人権への配慮について</li> <li>○ 情報モラルについて</li> <li>○ ユニバーサルデザインに関する配慮について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<p>文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点に基づき、適切に取り扱われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際協力、障がいのある人の生き方、平和、子どもの権利条約など、様々な教材を通して、人権尊重について認識を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>○ 情報モラルについて、全学年で適切に取り扱われている。例えば、1年の「短文投稿サイトに友達の悪口を書くこと」では、SNSを使う際のルールや人間関係への影響などが取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすいように、フォントや図の配置、配色などについても配慮されている。</li> </ul>
教 出	<p>文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点に基づき、適切に取り扱われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際協力、障がいのある人の生き方、平和、アイヌの人々など、様々な教材を通して、人権尊重について認識を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>○ 情報モラルについて、全学年で適切に取り扱われている。例えば、1年の「自分で決める」では、SNSを使う際のルールや人間関係への影響などが取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすいように、フォントや図の配置、配色などについても配慮されている。</li> </ul>
光 村	<p>文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点に基づき、適切に取り扱われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際協力、障がいのある人の生き方、平和、アイヌの人々など、様々な教材を通して、人権尊重について認識を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>○ 情報モラルについて、全学年で適切に取り扱われている。例えば、1年の「言葉の向こうに」では、SNSを使う際のルールや人間関係への影響などが取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすいように、フォントや図の配置、配色などについても配慮されている。</li> </ul>

【資料1 道徳】

<p>日 文</p>	<p>文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点に基づき、適切に取り扱われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際協力、障がいのある人の生き方、平和、子どもの権利条約など、様々な教材を通して、人権尊重について認識を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>○ 情報モラルについて、全学年で適切に取り扱われている。例えば、1年の「使っても大丈夫？」では、SNSを使う際のルールや人間関係への影響などが取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすいように、フォントや図の配置、配色などについても配慮されている。</li> </ul>
<p>学 研</p>	<p>文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点に基づき、適切に取り扱われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際協力、障がいのある人の生き方、平和、男女平等など、様々な教材を通して、人権尊重について認識を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>○ 情報モラルについて、全学年で適切に取り扱われている。例えば、1年の「うわさで決めるの？」では、SNSを使う際のルールや人間関係への影響などが取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすいように、フォントや図の配置、配色などについても配慮されている。</li> </ul>
<p>廣あかつき</p>	<p>文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点に基づき、適切に取り扱われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際協力、障がいのある人の生き方、平和、人種差別など、様々な教材を通して、人権尊重について認識を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>○ 情報モラルについて、全学年で適切に取り扱われている。例えば、1年の「言葉の向こうに」では、SNSを使う際のルールや人間関係への影響などが取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすいように、フォントや図の配置、配色などについても配慮されている。</li> </ul>
<p>日 科</p>	<p>文章、写真、挿絵、図、資料など、人権尊重の観点に基づき、適切に取り扱われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際協力、障がいのある人の生き方、平和、性的マイノリティなど、様々な教材を通して、人権尊重について認識を深めることができるよう配慮されている。</li> <li>○ 情報モラルについて、全学年で適切に取り扱われている。例えば、1年の「グループ」では、SNSを使う際のルールや人間関係への影響などが取りあげられている。</li> <li>○ すべての生徒にとって使いやすいように、フォントや図の配置、配色などについても配慮されている。</li> </ul>



項目	観 点
3 内容の程度	<p>生徒の発達段階を考慮した内容になっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 指導のねらいとの関連について</li> <li>○ 身近な社会的課題を自分との関係において考え、その解決に向けて取り組もうとする意欲や態度を育むことについて</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達の段階を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。</li> <li>○ 全学年でいじめについて取り扱われており、いじめを未然に防ぎ、いじめをしない、させない心を育むよう配慮されている。また、全学年で直接いじめを扱った教材や、関連する教材が取りあげられており、3年は、資料も取りあげられている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達の段階を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。</li> <li>○ 全学年でいじめについて取り扱われており、いじめを未然に防ぎ、いじめをしない、させない心を育むよう配慮されている。また、全学年で直接いじめを扱った教材や、関連する教材、資料が取りあげられている。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達の段階を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。</li> <li>○ 全学年でいじめについて取り扱われており、いじめを未然に防ぎ、いじめをしない、させない心を育むよう配慮されている。また、全学年で直接いじめを扱った教材や、関連する教材、資料が取りあげられている。</li> </ul>
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達の段階を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。</li> <li>○ 全学年でいじめについて取り扱われており、いじめを未然に防ぎ、いじめをしない、させない心を育むよう配慮されている。また、全学年で直接いじめを扱った教材や、関連する教材、資料が取りあげられている。</li> </ul>
学 研	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達の段階を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。</li> <li>○ 全学年でいじめについて、取り扱われており、いじめを未然に防ぎ、いじめをしない、させない心を育むよう配慮されている。また、全学年で直接いじめを扱った教材や、関連する教材、資料が取りあげられている。</li> </ul>
廣あかつき	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達の段階を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。</li> <li>○ 全学年でいじめについて取り扱われており、いじめを未然に防ぎ、いじめをしない、させない心を育むよう配慮されている。また、全学年で直接いじめを扱った教材や、関連する教材、資料が取りあげられている。</li> </ul>
日 科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 発達の段階を考慮し、指導のねらいに即した内容となっている。</li> <li>○ 全学年でいじめについて取り扱われており、いじめを未然に防ぎ、いじめをしない、させない心を育むよう配慮されている。また、1、3年では直接いじめを扱った教材や関連する教材、資料、2年では関連する教材、資料が取りあげられている。</li> </ul>

【資料1 道徳】

項目	観 点
4 組織・配列	目標や内容を踏まえて、教科等横断的な視点も含め、効果的な指導が行われるよう組織・配列されているか。

発行者	事 項
東 書	各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されており、複数の教材で設定されている内容項目がある。 また、教材に関連する教科等が教材名の下部に示されている。
教 出	各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されており、複数の教材で設定されている内容項目がある。
光 村	各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されており、複数の教材で設定されている内容項目がある。 また、教材に関連する教科等が巻末の表に示されている。
日 文	各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されており、複数の教材で設定されている内容項目がある。 また、教材に関連する教科等が巻末の表に示されている。 各学年とも、『本冊』と『道徳ノート』の2冊で、構成されている。
学 研	各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されており、複数の教材で設定されている内容項目がある。
廣あかつき	各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されており、複数の教材で設定されている内容項目がある。 また、教材に関連する教科等が巻末の表に示されている。 各学年とも、『本冊』と『中学生の道徳ノート』の2冊で、構成されている。
日 科	各学年とも、教材が4つの視点でバランスよく組織・配列されており、複数の教材で設定されている内容項目がある。

項目	観 点
5 創意工夫	<p>多面的・多角的に考え、主体的・対話的で深い学びが実現するよう工夫されているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることについて</li> <li>○ 問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等について</li> </ul>

発行者	事 項
東 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材ごとに「考えよう」「自分を見つめよう」や、学期末に振り返りを記録する「自分の学びをふり返ろう」などが設けられ、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。</li> <li>○ 巻頭の「道徳の授業はこんな時間に」で問題解決的な学習の流れを示すとともに、教材の後に「ACTION!」を設け、体験的な学習ができるよう工夫されている。</li> </ul>
教 出	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材ごとに「学びの道しるべ」や、学期末、学年末に振り返りを記録する「道徳の学びを振り返ろう」「1年間の道徳の学びを振り返ろう」などが設けられ、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。</li> <li>○ 巻頭の「道徳科で学びを深めるために」で「問題に気づく→考え、話し合う→深める→つなぐ」といった問題解決的な学習の流れを示すとともに、教材の後に「やってみよう」を設け、体験的な学習ができるよう工夫されている。</li> </ul>
光 村	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材ごとに「考えよう」「見方を変えて」「つなげよう」や、学期末に振り返りを記録する「学びの記録」などが設けられ、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。</li> <li>○ 巻頭の「どうやって学ぶの？」で「①教材を通して道徳的な問題を見つけ、②その問題について考え深め、③深めた考えを、自分の生活で生かしていけるようにする」といった問題解決的な学習の流れを示すとともに、教材の後にてびきを設け、体験的な学習ができるよう工夫されている。</li> </ul>
日 文	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教材ごとに「考えてみよう」「自分にプラス1」や、学期末に振り返りを記録する「道徳科で学んだことを振り返ってみよう」などが設けられ、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。</li> <li>○ 巻頭の「道徳科での学び方」で「気づく→考え、議論する、深める→見つめる、生かす」といった問題解決的な学習の流れを示すとともに、教材の後に「学習の進め方」を設け、体験的な学習ができるよう工夫されている。</li> </ul>

【資料1 道徳】

<p>学 研</p>	<p>○ 教材ごとに「考えよう」や、学期末、学年末に振り返りを記録する「学びの記録」「心の四季」などが設けられ、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。</p> <p>○ 巻頭の「扉を開く」で「見つけよう→考えよう→話し合おう→生き方につなげよう」といった問題解決的な学習の流れを示すとともに、教材の後に「深めよう」を設け、体験的な学習ができるよう工夫されている。</p>
<p>廣あかつき</p>	<p>○ 教材ごとに「考える・話し合う」や、学期末、学年末に振り返りを記録する「心に残っている授業の記録」などが設けられ、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。</p> <p>○ 巻頭の「道徳の時間とは」では、問題解決的な学習の視点を示すとともに、教材の後に「考える・話し合う」を設け、体験的な学習を促すよう工夫されている。</p>
<p>日 科</p>	<p>○ 教材ごとに「考え、話し合ってみよう、そして、深めよう」や、学年末に振り返りを記録する「心の成長を振り返りましょう」「私の道徳記録」などが設けられ、自らの成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう工夫されている。</p> <p>○ 巻頭の「道徳科って何を学ぶの？」で「興味・関心をもつ→教材の内容を理解し、問題意識を持つ→みんなで考え、話し合う→自分を見つめる→自分の考えを広げ、深め、発展させる」といった問題解決的な学習の流れを示すとともに、教材の後に「考え、話し合ってみよう　そして、深めよう」を設け、体験的な学習を促すよう工夫されている。</p>

項目	観 点
6 補充的な 学 習・ 発展的な 学 習	<p>様々な価値観について、多面的・多角的な視点から振り返って考えたり、多様な見方や考え方に接しながら、更に新しい見方や考え方を生み出したりして、よりよく生きる喜びを見いだせるよう配慮されているか。</p> <p>○ 資料やコラムなど</p>

発行者	事 項
東 書	<p>○ 教材を補充する「PLUS」や、巻末の「テーマでふり返ろう」では、多面的・多角的な視点から振り返って考えたり、更に新しい見方や考え方を生み出したりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「Dマーク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
教 出	<p>○ 教材を補充する特設ページや、巻末の「これからを生きる皆さんへ」では、多面的・多角的な視点から振り返って考えたり、更に新しい見方や考え方を生み出したりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「まなびリンク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
光 村	<p>○ 教材を補充する「広げよう」や、教材の後の「見方を変えて」では、多面的・多角的な視点から振り返って考えたり、更に新しい見方や考え方を生み出したりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「二次元コード」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
日 文	<p>○ 教材を補充する「プラットフォーム」や、巻末の詩では、多面的・多角的な視点から振り返って考えたり、更に新しい見方や考え方を生み出したりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「マーク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
学 研	<p>○ 教材を補充する「クローズアップ」「クローズアッププラス」や巻頭の言葉では、多面的・多角的な視点から振り返って考えたり、更に新しい見方や考え方を生み出したりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「マーク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
廣あかつき	<p>○ 教材を補充する「thinking」や巻末資料、『中学生の道徳ノート』では、多面的・多角的な視点から振り返って考えたり、更に新しい見方や考え方を生み出したりできるよう配慮されている。</p> <p>なお、「マーク」のあるページでは、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。</p>
日 科	<p>○ 教材を補充する「もっと知りたい」や、「込められた想い」では、多面的・多角的な視点から振り返って考えたり、更に新しい見方や考え方を生み出したりできるよう配慮されている。</p>

【資料2 道徳】

○ 学年別総ページ数及び題材数

	東書		教出		光村		日文		学研		廣あかつき		日科	
	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数
第1学年	196	38	218	35	197	35	198	35	186	35	186	35	194	37
第2学年	204	38	202	35	205	35	198	35	198	35	170	35	194	37
第3学年	204	38	202	35	205	35	198	35	198	35	166	35	194	37

○ 内容項目別題材数及びページ数

【第1学年】

	東書		教出		光村		日文		学研		廣あかつき		日科	
	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数
<b>主として自分自身に関すること</b>	<b>7</b>	<b>28</b>	<b>8</b>	<b>41</b>	<b>6</b>	<b>27</b>	<b>6</b>	<b>29</b>	<b>8</b>	<b>27</b>	<b>8</b>	<b>43</b>	<b>6</b>	<b>28</b>
[自主、自律、自由と責任]	2	8	2	10	2	8	2	10	2	7	3	13	1	5
[節度、節制]	2	8	2	10	1	5	1	4	2	5	1	5	1	3
[向上心、個性の伸長]	1	4	1	4	1	4	1	4	1	3	1	5	2	10
[希望と勇気、克己と強い意志]	1	4	2	11	1	6	1	5	2	8	2	13	1	4
[真理の探究、創造]	1	4	1	6	1	4	1	6	1	4	1	7	1	6
<b>主として人との関わりに関すること</b>	<b>8</b>	<b>27</b>	<b>8</b>	<b>38</b>	<b>8</b>	<b>33</b>	<b>7</b>	<b>28</b>	<b>7</b>	<b>29</b>	<b>7</b>	<b>38</b>	<b>8</b>	<b>35</b>
[思いやり、感謝]	3	9	3	12	3	11	2	6	2	8	3	16	2	6
[礼儀]	1	3	1	6	1	4	1	4	1	3	1	4	1	3
[友情、信頼]	2	8	2	8	2	9	3	14	3	15	2	12	3	19
[相互理解、寛容]	2	7	2	12	2	9	1	4	1	3	1	6	2	7
<b>主として集団や社会との関わりに関すること</b>	<b>14</b>	<b>58</b>	<b>12</b>	<b>63</b>	<b>12</b>	<b>51</b>	<b>15</b>	<b>59</b>	<b>13</b>	<b>48</b>	<b>12</b>	<b>64</b>	<b>17</b>	<b>85</b>
[遵法精神、公德心]	2	6	1	4	2	8	2	8	2	7	2	9	3	10
[公正、公平、社会正義]	2	7	1	4	2	8	2	6	2	6	2	10	3	17
[社会参画、公共の精神]	2	8	1	4	1	4	2	8	1	5	1	7	3	17
[勤労]	2	9	1	6	1	5	2	8	1	5	1	5	1	5
[家族愛、家庭生活の充実]	1	6	1	8	1	4	1	3	1	3	2	10	2	11
[よりよい学校生活、集団生活の充実]	1	6	1	6	2	9	1	4	2	6	1	6	1	5
[郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度]	2	7	4	19	1	4	2	8	1	3	1	7	2	7
[我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度]	1	5	1	6	1	5	1	4	1	3	1	4	1	5
[国際理解、国際貢献]	1	4	1	6	1	4	2	10	2	10	1	6	1	8
<b>主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b>	<b>8</b>	<b>36</b>	<b>7</b>	<b>41</b>	<b>7</b>	<b>31</b>	<b>7</b>	<b>34</b>	<b>7</b>	<b>26</b>	<b>8</b>	<b>44</b>	<b>6</b>	<b>28</b>
[生命の尊さ]	4	15	3	14	3	13	3	16	3	12	3	12	2	8
[自然愛護]	1	4	1	6	1	4	1	6	1	4	1	7	1	8
[感動、畏敬の念]	1	6	1	7	1	5	1	4	1	3	1	6	1	3
[よりよく生きる喜び]	2	11	2	14	2	9	2	8	2	7	3	19	2	9

※内容項目を限定しない題材

※1 ※5

※2 ※7

【第2学年】

	東書		教出		光村		日文		学研		廣あかつき		日科	
	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数
<b>主として自分自身に関すること</b>	<b>7</b>	<b>27</b>	<b>7</b>	<b>31</b>	<b>9</b>	<b>38</b>	<b>6</b>	<b>24</b>	<b>8</b>	<b>36</b>	<b>8</b>	<b>39</b>	<b>7</b>	<b>30</b>
[自主、自律、自由と責任]	2	7	1	4	2	7	2	8	2	11	3	10	2	8
[節度、節制]	2	8	2	8	2	9	1	4	2	7	1	3	1	5
[向上心、個性の伸長]	1	4	1	6	2	8	1	4	1	4	1	7	2	7
[希望と勇気、克己と強い意志]	1	4	2	9	2	9	1	4	1	5	2	13	1	4
[真理の探究、創造]	1	4	1	4	1	5	1	4	2	9	1	6	1	6
<b>主として人との関わりに関すること</b>	<b>7</b>	<b>31</b>	<b>7</b>	<b>31</b>	<b>6</b>	<b>27</b>	<b>7</b>	<b>31</b>	<b>7</b>	<b>27</b>	<b>7</b>	<b>34</b>	<b>8</b>	<b>39</b>
[思いやり、感謝]	2	8	3	13	1	5	2	9	2	11	3	12	1	3
[礼儀]	1	4	1	4	1	4	1	4	1	3	1	4	1	5
[友情、信頼]	2	9	2	10	2	11	3	13	2	7	2	12	3	16
[相互理解、寛容]	2	10	1	4	2	7	1	5	2	6	1	6	3	15
<b>主として集団や社会との関わりに関すること</b>	<b>14</b>	<b>63</b>	<b>16</b>	<b>83</b>	<b>11</b>	<b>52</b>	<b>15</b>	<b>60</b>	<b>12</b>	<b>47</b>	<b>12</b>	<b>61</b>	<b>15</b>	<b>72</b>
[遵法精神、公德心]	2	6	2	6	1	4	2	6	2	6	2	10	2	12
[公正、公平、社会正義]	2	10	2	10	2	10	2	8	1	3	2	6	2	6
[社会参画、公共の精神]	2	8	3	16	1	5	2	8	2	8	1	5	2	10
[勤労]	2	11	1	6	1	4	2	8	1	4	1	6	2	11
[家族愛、家庭生活の充実]	1	4	1	4	1	5	1	6	1	4	2	11	1	5
[よりよい学校生活、集団生活の充実]	1	4	1	6	1	4	1	4	2	8	1	6	1	4
[郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度]	1	5	2	8	1	4	1	3	1	5	1	6	2	10
[我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度]	2	9	1	6	1	5	2	8	1	5	1	5	2	10
[国際理解、国際貢献]	1	6	3	21	2	11	2	9	1	4	1	6	1	4
<b>主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b>	<b>9</b>	<b>39</b>	<b>5</b>	<b>21</b>	<b>7</b>	<b>31</b>	<b>7</b>	<b>34</b>	<b>8</b>	<b>33</b>	<b>8</b>	<b>38</b>	<b>7</b>	<b>36</b>
[生命の尊さ]	4	19	2	10	3	13	3	14	3	16	3	17	2	12
[自然愛護]	1	5	1	4	1	6	1	6	2	6	1	5	1	6
[感動、畏敬の念]	1	5	1	3	1	5	1	6	1	4	1	3	1	5
[よりよく生きる喜び]	3	10	1	4	2	7	2	8	2	7	3	13	3	13

※内容項目を限定しない題材

※1 ※3

※2 ※7

【第3学年】

	東書		教出		光村		日文		学研		廣あかつき		日科	
	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数	題材数	頁数
<b>主として自分自身に関すること</b>	<b>7</b>	<b>33</b>	<b>6</b>	<b>23</b>	<b>8</b>	<b>33</b>	<b>6</b>	<b>25</b>	<b>8</b>	<b>32</b>	<b>8</b>	<b>38</b>	<b>7</b>	<b>34</b>
[自主、自律、自由と責任]	2	9	2	9	2	8	2	7	2	9	3	14	2	10
[節度、節制]	2	8	1	2	1	3	1	4	2	6	1	4	1	4
[向上心、個性の伸長]	1	5	1	2	2	7	1	6	1	3	1	6	1	4
[希望と勇気、克己と強い意志]	1	6	1	6	2	10	1	4	1	5	2	10	2	12
[真理の探究、創造]	1	5	1	4	1	5	1	4	2	9	1	4	1	4
<b>主として人との関わりに関すること</b>	<b>7</b>	<b>29</b>	<b>5</b>	<b>28</b>	<b>7</b>	<b>37</b>	<b>6</b>	<b>26</b>	<b>8</b>	<b>34</b>	<b>7</b>	<b>30</b>	<b>7</b>	<b>32</b>
[思いやり、感謝]	2	9	1	4	2	8	2	8	3	11	3	11	2	10
[礼儀]	1	4	1	4	1	4	1	4	1	3	1	3	1	2
[友情、信頼]	2	8	2	14	1	3	2	10	2	9	2	10	3	16
[相互理解、寛容]	2	8	1	6	*3	*16	1	4	2	11	1	6	1	4
<b>主として集団や社会との関わりに関すること</b>	<b>15</b>	<b>63</b>	<b>15</b>	<b>83</b>	<b>12</b>	<b>57</b>	<b>16</b>	<b>72</b>	<b>12</b>	<b>51</b>	<b>12</b>	<b>66</b>	<b>15</b>	<b>68</b>
[遵法精神、公德心]	2	9	1	6	2	12	2	10	2	9	2	10	2	8
[公正、公平、社会正義]	2	9	1	6	2	10	2	10	1	4	2	12	2	8
[社会参画、公共の精神]	2	8	4	21	1	5	3	10	1	3	1	7	2	9
[勤労]	2	8	1	4	2	8	2	10	1	3	1	3	1	5
[家族愛、家庭生活の充実]	1	6	1	6	1	4	1	6	1	7	2	11	2	11
[よりよい学校生活、集団生活の充実]	1	4	1	6	1	5	1	4	1	3	1	5	1	5
[郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度]	1	4	2	12	1	4	1	6	1	5	1	5	1	4
[我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度]	1	4	2	10	1	4	2	8	1	3	1	7	2	8
[国際理解、国際貢献]	3	11	2	12	1	5	2	8	3	14	1	6	2	10
<b>主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること</b>	<b>8</b>	<b>34</b>	<b>9</b>	<b>37</b>	<b>7</b>	<b>32</b>	<b>7</b>	<b>31</b>	<b>7</b>	<b>32</b>	<b>8</b>	<b>34</b>	<b>8</b>	<b>38</b>
[生命の尊さ]	4	15	3	10	3	14	3	14	3	13	3	9	3	14
[自然愛護]	1	5	2	8	1	4	1	4	1	3	1	5	1	4
[感動、畏敬の念]	1	5	2	9	1	4	1	6	1	5	1	4	1	6
[よりよく生きる喜び]	2	9	2	10	*2	*10	2	7	2	11	3	16	3	14

\*には、同一教材が1含まれています。 ※1 ※3 ※2 ※7

※内容項目を限定しない題材





発行者の 番号・略号	発 行 者
2 東 書	東 京 書 籍 株 式 会 社
4 大日本	大 日 本 図 書 株 式 会 社
6 教 図	教 育 図 書 株 式 会 社
9 開隆堂	開 隆 堂 出 版 株 式 会 社
11 学 図	学 校 図 書 株 式 会 社
15 三省堂	株 式 会 社 三 省 堂
17 教 出	教 育 出 版 株 式 会 社
27 教 芸	株 式 会 社 教 育 芸 術 社
38 光 村	光 村 図 書 出 版 株 式 会 社
46 帝 国	株 式 会 社 帝 国 書 院
50 大修館	株 式 会 社 大 修 館 書 店
61 啓林館	株 式 会 社 新 興 出 版 社 啓 林 館
81 山 川	株 式 会 社 山 川 出 版
104 数 研	数 研 出 版 株 式 会 社
116 日 文	日 本 文 教 出 版 株 式 会 社
207 文教社	株 式 会 社 文 教 社
208 光 文	株 式 会 社 光 文 書 院
224 学 研	株 式 会 社 学 研 教 育 み ら い
225 自由社	株 式 会 社 自 由 社
227 育鵬社	株 式 会 社 育 鵬 社
229 学び舎	株 式 会 社 学 び 舎
232 廣あかつき	廣 濟 堂 あ か つ き 株 式 会 社
233 日 科	日 本 教 科 書 株 式 会 社

